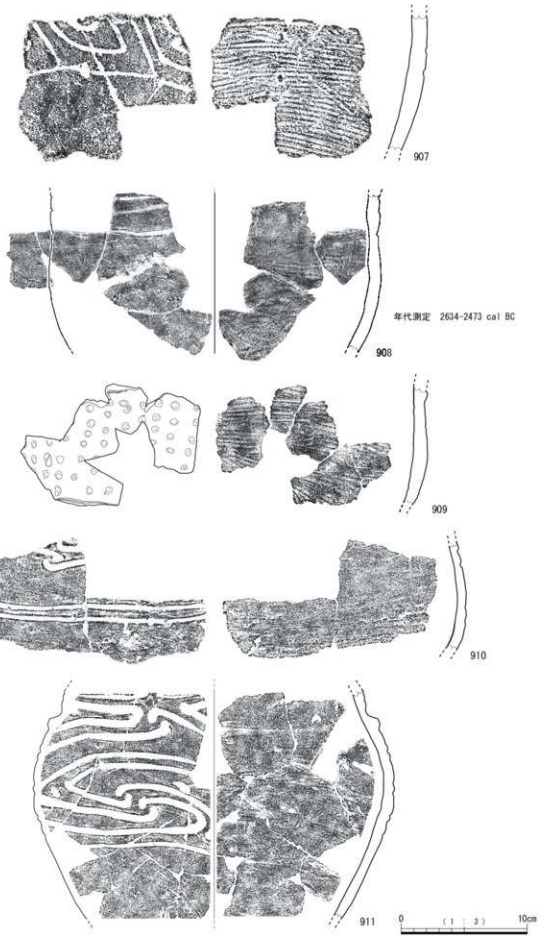
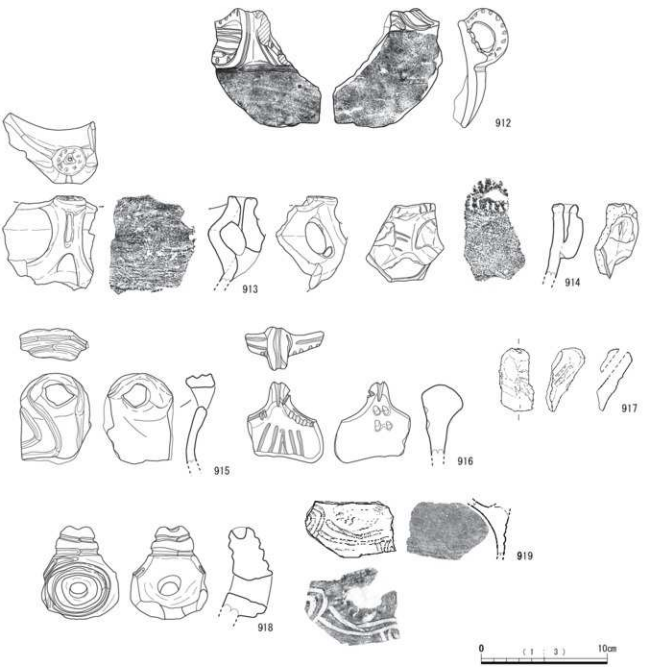


第２－58図　Ⅷb, c類土器（胴部）（２）



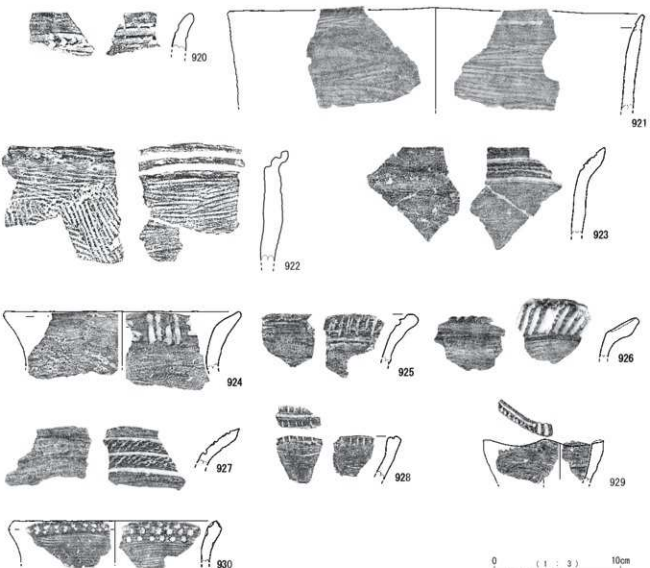
第２－59図　Ⅷ類土器（波頂部・装飾）

い。878はわずかに残る胴部の文様が本遺跡のⅥ類にみられる凹線であるが，口縁部外面を肥厚させ，口唇部に凹線をもつⅧa類に似た口縁部の形態からここに含めた。878は頸部で大きく外反し口縁部はやや内湾気味に開く。波頂部には粘土紐による装飾が施され，上面からみると大きな輪状となる。装飾部分に凹線を施す。口縁部外面と口唇部にも凹線を巡らせる。胴部には平行沈線による曲線文が描かれると推測される。胎土には金色の雲母が混じる。

Ⅷc類（第２-54～56図　879～899）

口唇部を上面に向けて形成し，沈線を１条巡らせるもの。口縁端部の角は丸みを帯び不明瞭である。口縁部外面の形態はⅧb類に類似し，Ⅷa類のように明瞭には肥厚させない。胴部は，有文のものと無文のものとが出土する。

879～887は胴部上位に直線的な文様（879～882）や，矩形や窓枠状の文様を横位に展開させるもの（883～887）で，Ⅷb類に類例の多い文様パターンである。879と880は口唇部に沈線を施した後に，前者は篦状工具，後者は貝殻腹縁により連続刺突を施す。885～887にみら



第２－60図　Ⅸa類土器（１）

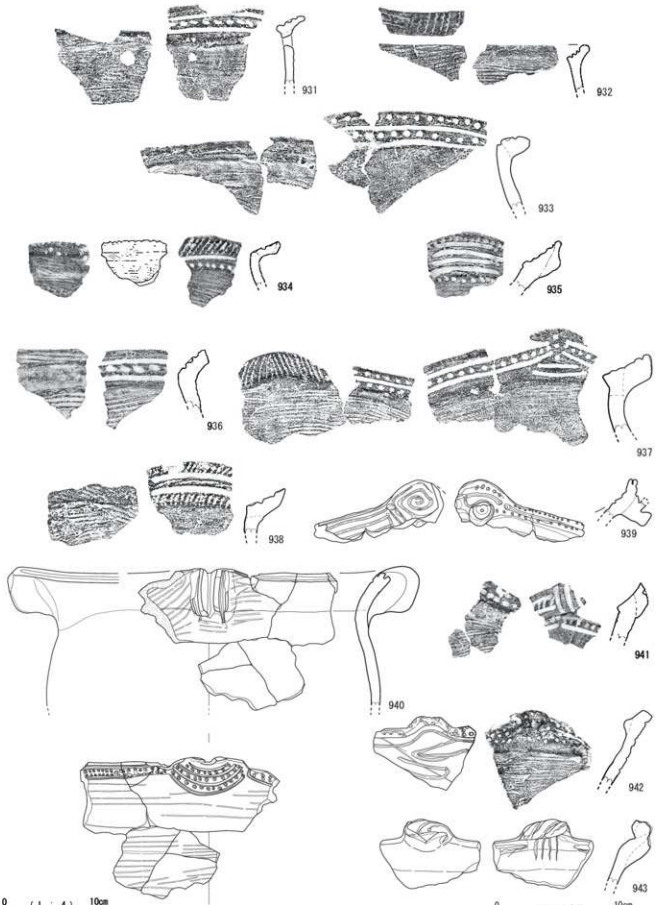
れるような口縁部直下に連続刺突を巡らせる特徴はⅥa類，Ⅶb類の一部にもみられる。884～886の口唇部には凹線のみではなく，円形の刺突や弧状の平行沈線が施される。

888～892は，崩れた印象の平行沈線文を描くものである。文様の沈線を部分的に波打たせる。口縁部の器壁は内面側にわずかに肥厚し，外反の度合いは低く，胴部はあまり張らない。

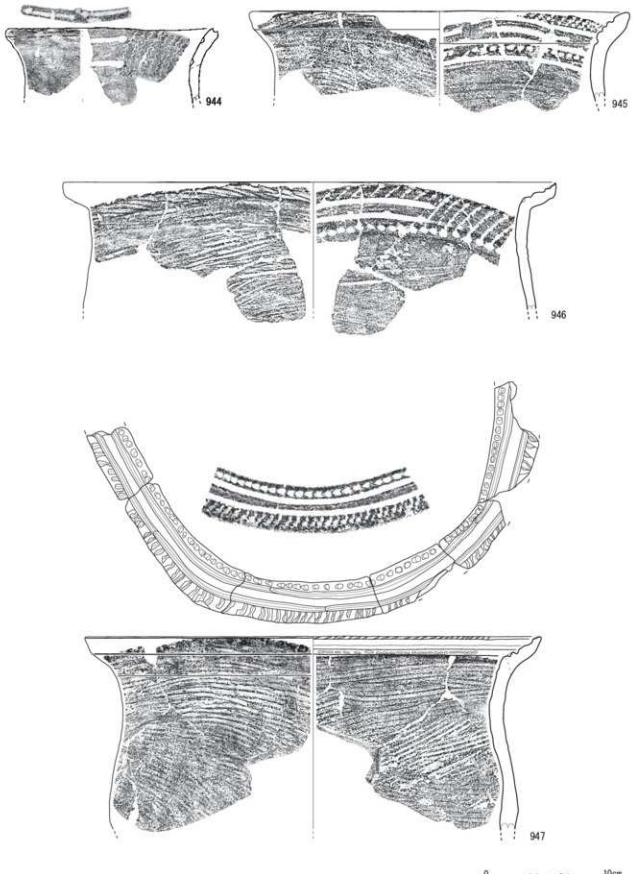
889・891は胴部の文様に曲線的なモチーフが確認できるものであるが，小片のため全容は不明である。Ⅶa類と比較すると明瞭さには欠けるが，口縁部外面をわずかに肥厚させる。889の口唇部の沈線は，丸みを帯びた口縁部より少し下がった内面際に巡る。

893は細い平行沈線間に棒状工具による円形の連続刺突文を施したモチーフを描くものである。Ⅶa類土器の750～752（第２-31図）には類似するモチーフが描かれる。口縁部の器壁の厚みは均一で，形態としてはⅦa類に類似する。胴部には斜位の平行沈線文が描かれる。894も頸部が大きくくびれて外反する。頸部のくびれた部分に平行沈線文を巡らせる特徴は893と類似する。胴部には斜位の平行沈線文を描く。

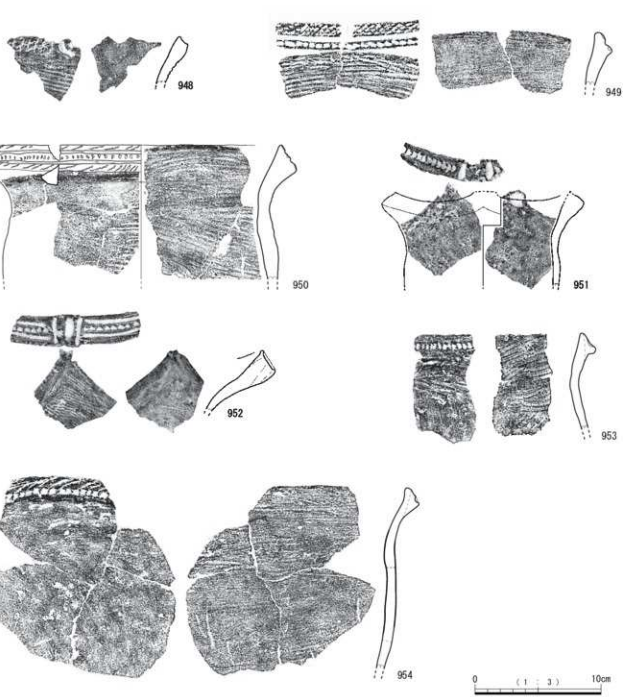
895～899は口唇部に凹線を巡らせるタイプのなかで，胴部が無文のものである。残存部の状況から，頸部の外反角度が小さく，胴部はあまり張らないものが多いと推測される。口縁端部をわずかに内湾させる傾向がみられる。Ⅸa類にも類似する口縁部形態であるといえるが，比較すると口縁端部の稜は緩い。895は口縁部外面の直下に不明瞭だが浅い沈線を粗く巡らせる。外面には工具によるナデ調整が施される。897・898は粗いナデ調整で仕上げられる。898の外面にはハの字状の施痕が確認できるが文様かは不明である。896は口唇部に平坦面を形成し，外傾させる。凹線をもたず，Ⅸb類の範疇である



第２－61図　Ⅸa類土器（２）



第２－62図　Ⅸa類土器（3）

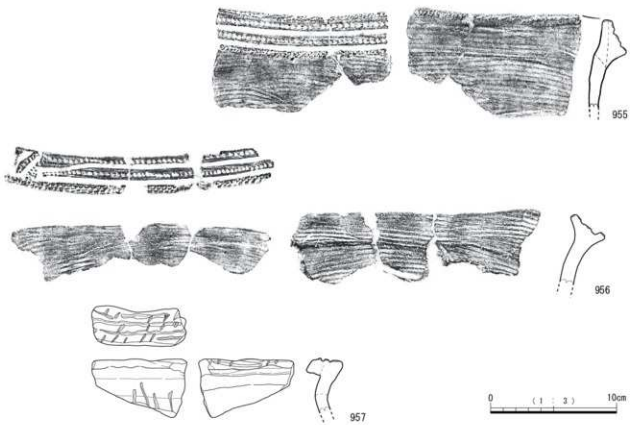


第２－63図　Ⅸb類土器（１）

可能性もあるが，比較すると粗雑な仕上げであり，全体的な形態としてはⅧc類に近いと判断し，ここに含めた。899は４か所に突起を有する緩い波状口縁を呈する。幅広の波頂部にも凹線が描かれる。内外面ともに貝殻条痕で調整される。焼けた破片と，焼けていない破片が接合しているため，破砕後に被熱している。

Ⅷb，c類胴部（第２-57・58図　900～911）

900～911はⅧb類の胴部であると推測される。Ⅷa類胴部と比較すると文様の密度が薄く横位に展開するパターンのものをここに含めた。901は器壁が非常に薄い。903～905は付着炭化物の年代測定の結果を得た資料（報告№４）である。903の付着炭化物の^{14}C年代は4080±30yrBP１σ，２σ暦年代範囲が2697-2567calBC（70.8%）で，904の外面に付着した煤を年代測定した結果^{14}C年代が3950±30yrBP１σ，２σ暦年代範囲が2498-2398calBC（59.2%）で，905の外面に付着した煤を年代測定した結果^{14}C年代が4060±30yrBP１σ，２σ暦年代範囲が2671-2554calBC（63.1%）である。小片のため確定的にⅧ類とすることは難しかったが，文様のパターンからⅧa類



第２－64図　Ⅸb類土器（２）

に該当する可能性が高いと推測する。

900～908は胴部上位に文様帯が集約され，矩形・アーチ状・平行線状の文様が横位に展開される。907は明るい黄褐色の胎土で，白色粒と金色の雲母を特に多く含む特徴的な胎土である。搬入品の可能性も考えられる。908の外面に付着した煤を年代測定した結果（報告№４）^{14}C 年代が4050±30yrBP１σ，２σ暦年代範囲が2634-2473calBC（91.7％）である。909～911は文様帯が胴部下位に及ぶものである。909はほぼ等間隔に円形刺突を施した破片で，外反すると推測される器形からここに含めたが，Ⅵ類の範疇に入る可能性も考えられる。911はやや太めの斜位の平行沈線を主体とし，曲線的なモチーフを描く。胴部が丸く張り出す器形であると推測される。

Ⅷ類波頂部，装飾（第２-59図　912～919）

912～919はⅧ類に該当すると考えられる波頂部装飾や，特殊な形態の土器片である。912～914のような橋状把手や，915･918のような穿孔をもつものも出土した。918は，穿孔部分の周りを内面側から打ち欠いて円形に成形する。916は深鉢の波頂部で，口唇部に凹線を巡らせるタイプであると推測される。口縁端部の稜は不明瞭で丸みを帯びる。917は調整の粗さから，穿孔を持つ筒状の把手として図化したが正面を上面に向けた注口部分である可能性も考えられる。正面に曲線文，側面に短い平行沈線文が描かれる。919は丸みを帯びた深鉢の上胴部片であり，把手が剥離した痕跡が確認できる。外面には平行沈線による曲線文が描かれ，把手の付け根部分には貝殻腹縁刺突を数か所施す。赤みの強い胎土で内面には丁寧なミガキが施される。混和材の種類が少なく，粒子が細かな精製された胎土を使用しており，特殊用途が想定され，また搬入品の可能性も考えられる。

Ⅸ類

口縁部内面の上位，あるいは平坦面を作った口唇部に，平行沈線文，貝殻や施状工具による連続刺突文，貝殻腹縁刺突文などの組み合わせによる文様帯を形成する。Ⅷ類土器と比較すると文様のバリエーションが少ない。上面施文タイプ。平坦口縁と波状口縁とがある。胴部は無文が主流で，内外面に粗い貝殻条痕を施すものが多い。一部は口縁部外面にも文様を有する。口縁端部の形態は先細るものと，丸みを帯びるもの，面取りにより角張るものとが出土する。口縁端部にまで口唇部の文様が及ぶものもみられる。口縁部の形態によりⅨa類，Ⅸb類に細分した。松山式に該当する一群である。

Ⅸa類（第２-60～62図　920～947）

口縁部の内側や，口唇部上面に文様帯をもつもののうち，口唇部が内傾するもの。器面と文様帯との境目が緩く不明瞭なものと明瞭に角付けられるものとが出土する。

920～929は口縁部内面の上位に文様帯を形成するものである。金色の雲母を含むものの比率が高い。920，921はわずかに外反する口縁部内面の内側に沈線を巡らせる。器壁は直線的に立ち上がる。Ⅶ類の口縁部内面際に凹線を巡らせるものと比較すると，その位置はさらに下がる。922～927は口縁部が短く外反し，外反した内面側に文様帯を形成する。内面の稜は緩く丸みを帯びる。922・923・926・927は口縁部外面にわずかな平坦面を形成する。930は口唇部や口縁部内外面に多重の連点文を横位に施す。巻貝を使用し，胴部にも浅く刺突する。928・929はともに小形の浅い鉢状の形態で，丸みのある口唇部を内径させ，文様帯を形成する928は内外面が丁寧にナデて仕上げられ祭祀用の台付皿などの特殊な器種の可能性もある。

931～938は内傾する口唇部文様帯の幅がやや広くなり，その内面の稜が明瞭なものである。沈線の上下または平行沈線の間に連点や貝殻腹縁刺突文を巡らせる傾向がみられる。934～936・938は口縁部の外面に平坦面を形成する。

939～942は波頂部で，口縁部の内面のみではなく外面にも文様を描く。939・940・943のように装飾をもつものも出土した。942の胎土は混和材の粒子が他と比較して細かく，金色の雲母の入らない特徴的なもので，薩摩半島で作られた可能性もある。外面の文様の特徴からはⅦ類の範疇である可能性もあるが，沈線と連点を組み合わせた口唇部の文様の特徴からここに含めた。943は大きく開く器形で，波頂部に細い粘土紐２本をねじり合わせた飾りを輪状にして貼り付ける。波頂部内面には貝殻腹縁刺突文を縦位に４条施す。口縁部内面の口唇部と胴部の境目の稜は緩い。金色の雲母が混じる。

944～947は口縁部内面の幅の広い文様帯をもつものである。このうち945～947の文様帯には，口縁端部側から貝殻腹縁刺突文→平行沈線文→巻貝や施状工具による連続刺突文を巡らせ，文様のパターンが共通する。口縁部外面に平坦面を形成する。944・945の口縁部は緩く外反し，屈曲部から上を文様帯とする。内面の稜は形成しない。946・947は口縁部を強く外側に屈曲させる。947の内面の稜は明瞭である。調整は944は内外面ともにナデ調整で，945・946は内面は丁寧なナデ，外面は貝殻条痕により調整される。947は内外面ともに貝殻条痕により調整される。

Ⅸa類は胎土の色調に赤みが強い傾向がみられ，金色の雲母が多量に混じるものが多い。

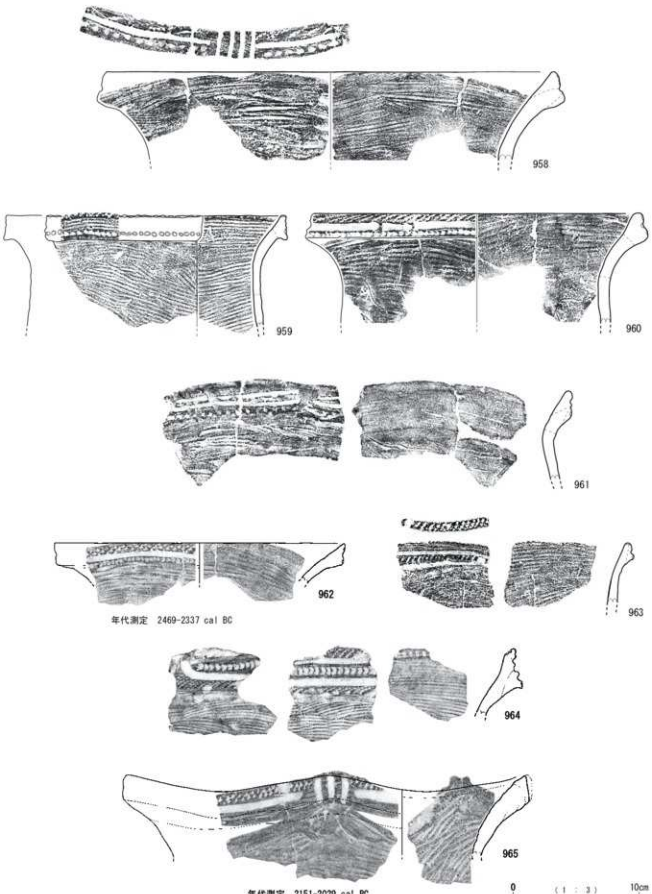
Ⅸb類（第２-63～66図　948～971）

口縁部内面に文様帯を有するものと口唇部に平坦面を形成し文様帯とするもののなかで，平坦面が外傾するもの。Ⅸa類と比較して，文様帯の幅が広いが，最大でも約４cm幅で，総じて細めである。口唇部の各稜が明瞭で断面が三角形状のものが多い。口縁端部は丸みを帯びるものが主流で，平坦面を作りそこに貝殻腹縁などを連続して刺突するものも少数出土した。内外面の調整は，貝殻条痕によるものが主流である。

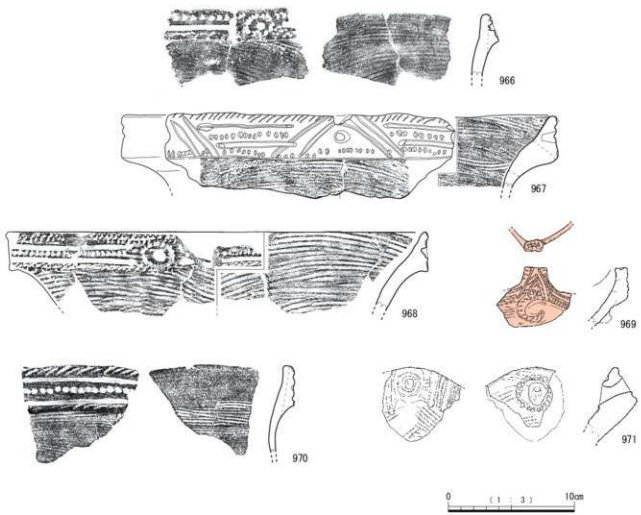
948～957は口唇部平坦面に描かれた文様帯の外傾する角度が小さく，より上面施文型であるといえるものである。948～954は文様帯の幅が狭い。948は口唇部に斜位の貝殻腹縁刺突文を少し押し引きながら密に施し，その後で縦位の貝殻腹縁刺突文を規則的な間隔で施す。円形のモチーフの一部が残存する。949～954は文様の構成はⅨa類に類似する。平行沈線間に連続刺突を施すもの（950・952）もみられ，また，連続刺突は半月状の形態で，施状工具を使用したことが推測される。951・952は波頂部片で，ともに波頂部頂点のあたりに数条の縦位の沈線を施す。波頂部は外側に大きく張り出す。955・956は文様帯の幅が広いものである。口径50cmを超える大型と推測される。955と956は胎土・文様・調整の特徴が一致するため同一個体の可能性が高い。口唇部は平たく形成され，貝殻腹縁刺突文を施す。平行沈線間には巻貝による連続刺突を施す。角閃石を多く含み，赤みの強い胎土である。957は口縁部の内面側に粘土を貼り付けることにより，口唇部文様帯を形成する。口縁部の断面形は逆「L」字状の形態である。沈線と刺突を巡らせる文様の特徴からここに含めた。胴部外面にも縦位の沈線が数条確認できる。

958～970は口唇部平坦面の外傾する角度が大きく，文様帯がやや横向きに形成されるものである。頸部で大きく外反しながら開く傾向がみられ，胴部はあまり張り出さない。この器形のものは，混和材に金色の雲母を含むもの（966，967，970）が少なく，角閃石が目立つ胎土を使用するものが多い。

959と963の口縁端部には平坦面を形成し，貝殻腹縁刺突を密に施す。961・963は他と比較すると粗い沈線が巡る。964は刺突輪郭がシャープである。半管状の工具による逆「C」の字状の連続刺突を施す。口縁端部の内側にも平坦面を作り小さな円形の連続刺突を施す。胎土の色調が明るく，混和材が細かく端正なつくりであり搬入品の可能性も考えられる。また，965は波頂部片で，波頂部は外側に大きく張り出す。波頂部外面には粘土の貼り付け痕が明瞭に残る。962の外面に付着した煤を年代測定した結果（報告No４）^{14}C 年代が3910±30yrBP 1 σ，2 σ 暦年代範囲が2469-2337calBC（86.7%），965の外面に付着した煤を年代測定した結果（報告No４）^{14}C 年代



第２－65図　Ⅸb類土器（３）



第２－66図　Ⅸb類土器（４）

が3710±30yrBP１σ，２σ暦年代範囲が2151-2029calBC（79.7%）である。

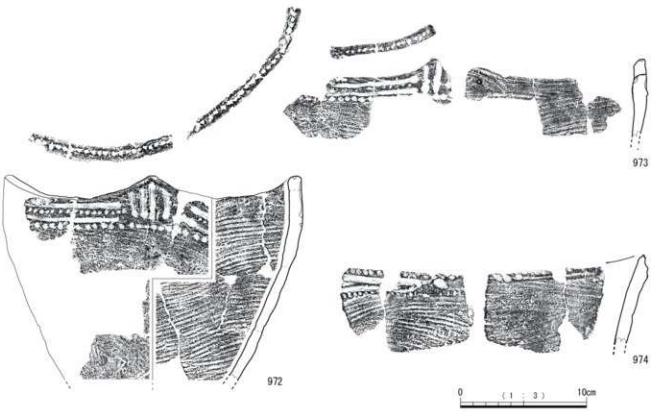
966～970は平坦口縁である。967～970は文様帯の幅が広い。966～968は文様帯のなかに円形の凹点を中心としたモチーフを描く。970は器壁が薄く。今回報告する包含層のⅨ類のなかでも口縁部の文様帯が最も横向きに形成されるものである。市来式の範疇である可能性も考えられる。969・971は波頂部装飾部分の破片で，文様構成や口唇部文様帯が外傾するタイプと判断しここに含めた。969は黒色を呈し，外面には赤色顔料が付着する。波頂部の平坦面の中心を巻貝により刺突し，浅い刻目を数条施す。文様は緻密に描かれ貝殻腹縁刺突を施す。内外面と断面に煤が付着する。大きく開く器形と推測され，台付皿などの特殊な形態であることや，祭祀用などの特殊な用途の遺物の可能性も考えられる。精緻なつくりで搬入品の可能性が高い。971は深鉢の装飾部分の小片である。孔を有し内面側は孔の周りを小さな円形刺突で囲む。

Ⅸ類（第２-67図　972～974）

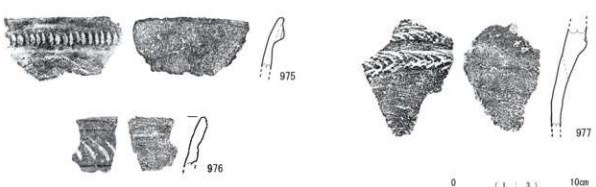
972～974は，口唇部や口縁部に肥厚帯をつくらず，口縁部～胴部の器壁はほぼ均一な厚みである。３点ともに波状口縁である。胴部最上位に集約され，口唇部にも施文する。972・973は胎土の特徴や文様の構成が同じで，同一個体の可能性も捨てきれないが，972は23.4cm，973は28.0cmと推定口径に差があり，口唇部に施される連点の大きさも違うため別個体の可能性もある。973の波頂部表面には径約３㎜の角張った孔が深さ２㎜程度で施される。974は口唇部にごく細い沈線と刻目を施す。沈線文と連続刺突文で文様帯を構成することからⅨ類土器に併存すると捉えてここに含める。波頂部外面に縦位の沈線を施すことや，円形の凹点をもつことからもⅨ類土器との関連が窺える。a類，b類への細分は難しかった。

Ⅹ類（第２-68図　975～977）

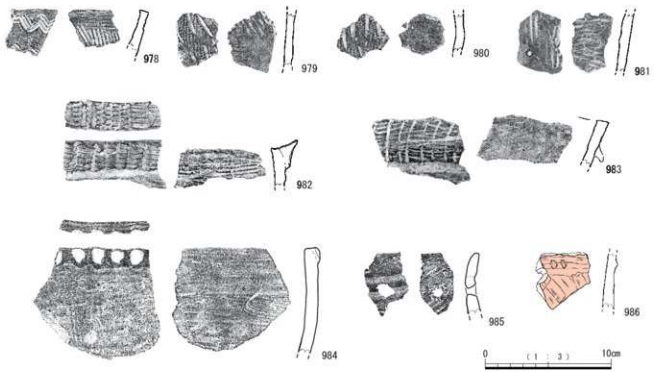
口縁部と頸部との境目に緩い逆「く」の字状の段を形成する。段の直上あるいは上下に貝殻腹縁刺突文を巡らせるものである。976・977は段の角度はごく緩く，丸尾



第２－67図　Ⅸ類土器



第２－68図　Ⅹ類土器



第２－69図　XI類土器

式の範疇であると考えられる。975は976・977と比較すると外側に大きく隆起しており，屈曲角度も大きい。より古い段階（市来式）の特徴も併せもつがここに含めた。

XI類（第２-69図　978～986）

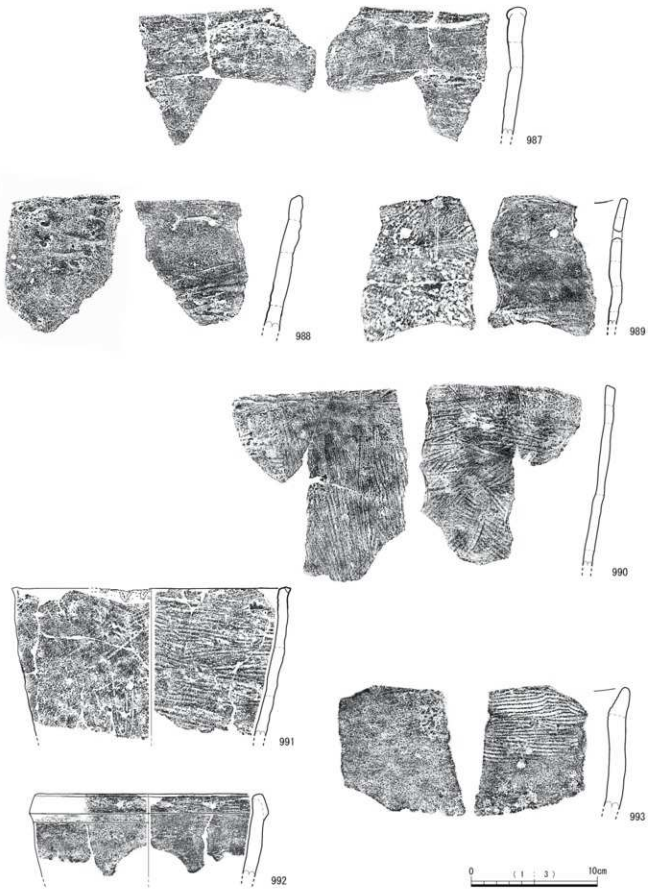
Ⅳ類～Ⅹ類への分類は難しいが，形態的な特徴や胎土から縄文時代後期前半に該当する可能性をもつ遺物であると判断したもの。

978は，直線的に立ち上がる口縁部片で，口縁端部を内面側に少し張り出させる。口唇部を平たく形成し明瞭に角付ける。外面上位に，波状の櫛描文を描く。内面は胴部上位に下→上の粗い条痕を施し，口縁部の付近は横ナデにより調整する。胎土の色調は明るく混和材は砂状に入る。979・980は同一個体の可能性が高い。C-15区の近世の溝の埋土に流れ込んだ状況で出土した。979は頸部片で，口縁部にむかって外反すると推測される。980は下胴部片で，底部に向かって丸みを帯びながらすぼまると推測される。器面には縄文を回転させ，その後で緩に短沈線を現則的に描く。沈線の施文具は巻貝の可能性もある。他の時期の遺物の可能性もあるためⅦa類（磨消縄文系）とは区別しここに含める。981は分類は難しいが胎土や調整の特徴により，縄文時代後期前半の土器片と捉えた。982・983は分類できたものとは形態の異なる突帯をもつものである。982は突帯の先端を尖らせ，外面と上面には貝殻腹縁を押し引く。983は口縁部外面の器面に直接緩位の貝殻腹縁刺突文を連続して施し，その下に下垂する突帯を貼り付ける。胎土の色調が暗く少し紫がかる特徴的なもので，搬入品の可能性も考えられる。Ⅶb類（擬似縄文系）とは区別しここに含める。984は口縁部最上位に薄い突帯を貼り付け大ぶりの円形刺突を巡らせる。口唇部に食い込ませるように口縁端部外面の際を刻む。焼成が良く明るい色調のため，第３分冊に報告する突帯文期の遺物の可能性もあるが，刻目の位置からⅥ類（宮之迫式系）の口唇を連続して押圧するタイプに該当する可能性を捨てきれずここに含めた。985・986は穿孔をもつ。985は薄く，口縁部が短く外反する。頸部に平行な凹線を施す。外面と穿孔部の内側に煤が付着する。986には外面に赤色顔料が付着する。蛍光Ｘ線分析の結果，鉄を多く含有し，ベンガラの可能性がある。

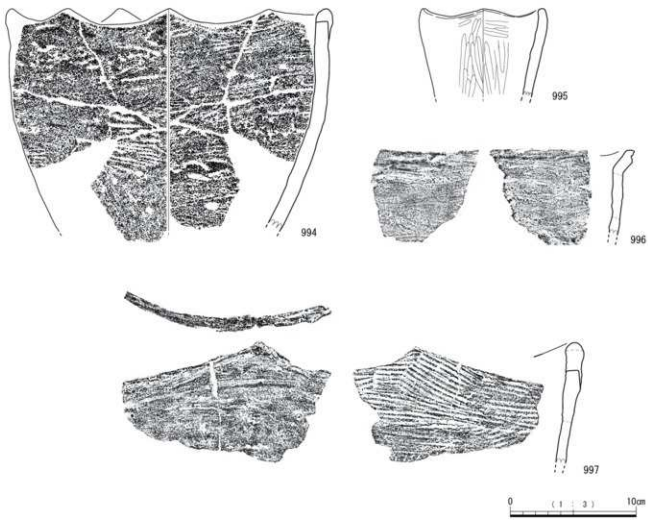
無文土器（第２-70～72図　987～1001）

口縁部～胴部に文様をもたないもの。平坦口縁・波状口縁ともに出土した。口縁部の形態は内湾，直口，外反と様々である。有文のものと同様に口縁部や口唇部を肥厚させる形態のものも出土した。粗いナデ調整か貝殻条痕により調整され，指頭痕の凹凸が残るものも多く，総じて粗雑なつくりである。帰属時期を判断することが難しいものを含むことを前置きする。

987～989，993は緩い波状口縁であると推測できるものである。内外面は貝殻条痕後粗いナデ調整で仕上げる。989の孔は内外面から施される。外面は摩滅が著しいが貝殻条痕後にナデ調整を施したことが観察できる。胎土



第２－70図　縄文時代後期の無文土器（１）



第２－71図　縄文時代後期の無文土器（２）

の色調は暗く，やや硬質で灰色の小角礫を多く含み，後期前半のものとは違いがみられることから他の時期の遺物の可能性も考えられる。

990～992は平坦口縁のもののうち口縁部が内湾するものである。990は器壁がやや外傾しながら立ち上がる。内面の貝殻条痕は斜格子状に施される。早期末～前期初頭の条痕系土器の可能性もある。988は外面に布目痕が付く可能性があり，内面はミガキ様のナデ調整である。粗製ではあるが焼成も良く胎土の色調が明るい。縄文時代晩期の遺物の可能性もある。991は口縁部がわずかに残存し，口縁部最上位にごく小さな山形の突帯を貼り付け，貝殻腹縁による深い刻目を入れる。そのほかは無文で，つくりの粗さからここに含めた。992は口縁部外面を肥厚させる。Ⅶa類のような口縁部の形態である。

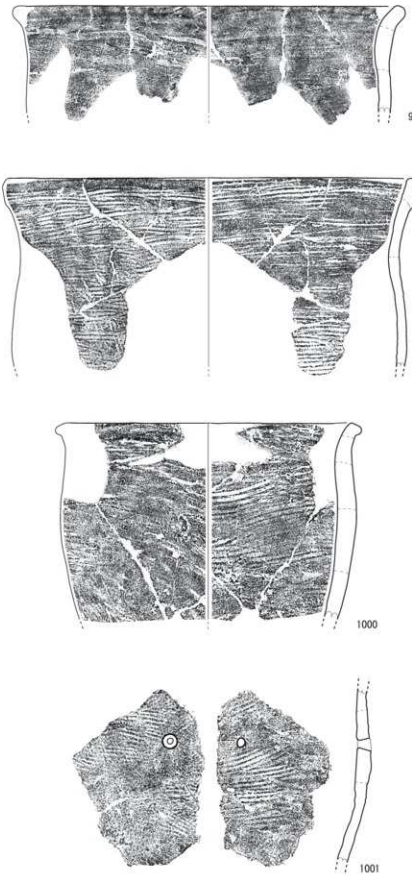
994～997は明瞭に波状口縁とわかるものである。994・995・997は口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。波頂部の器壁にはわずかに厚みをもたせ，小さな山形に成形する。残存部の状況から大型の994には８か所，小型の995には４か所の波頂部をつくると推測される。995は内外面に丁寧にミガキを施し，外面上位には煤が薄く付着する。祭祀などの特殊な用途の遺物の可能性もある。996は波頂部を欠損する。口縁部外面をわずかに肥厚させる。肥厚帯の下位には粘土の貼り付け痕が残る粗雑なつくりである。赤みの強い胎土を使用し，金色の雲母を多く含む。

998～1000は頸部で緩いくびれを形成し，口縁部が外傾するものである。998・1000は器壁が厚く，口縁部は外反しながら開き，短い。1000は口縁端部のみ肥厚する。999は口縁部がやや長く，口縁端部でわずかに内湾する。998は内外面を工具によりナデで仕上げ，999，1000は貝殻条痕を施す。

1001は頸部～下胴部片で，穿孔は外面から施される。

特殊な底部・脚（第２-73図　1002～1018）

底部片や脚のなかで，特殊な形態のものをまとめた。1002～1009は深鉢や台付皿等の杯部あるいは脚や底部片である。1003は扁平な皿状の形態であると推測される。口縁部外面を肥厚させ，大きな凹みを形成しそのなかに



第２－72図　縄文時代後期の無文土器（３）

横位の沈線を描く。口唇部に凹線を巡らせ，棒状あるいは把手状の装飾をもつと推測される。1002は厚みのある底部片で，底面の剥離痕から6か所程度柱状の脚か突起をもつと推測される。1004は底面に脚部の剥離痕と突起による装飾が確認できる。突起の中央には深い凹みを形成する。1006はレンズ状の形態の底部で，残存部の状況から4か所の脚が付くことが想定される。脚の付け根には弧状の沈線を描く。赤色顔料が明瞭に付着する。分析の結果ベンガラの可能性がある。1009は，器壁が丸みを帯びながら立ち上がる鉢状の形態であると考えられる。底面には3か所の剥離面が確認できる。内面には粗い貝殻条痕を施し粘土の痕が多く残る粗いつくりである。1003と1004は文様の特徴からⅧ類の範疇の可能性が考えられる。

1005～1010は接地面近くに文様をもつ深鉢の底部片である。Ⅴ類の時期に多くみられる形態である。1005は接地面近くに指頭による凹点を連続させる。底面には白い粉状の付着物が付き，まだら状の圧痕が確認できる。鯨の頸椎骨の圧痕の可能性もある。1010，1011は細い沈線による平行沈線文を描く。底部は丁寧なナデ仕上げである。

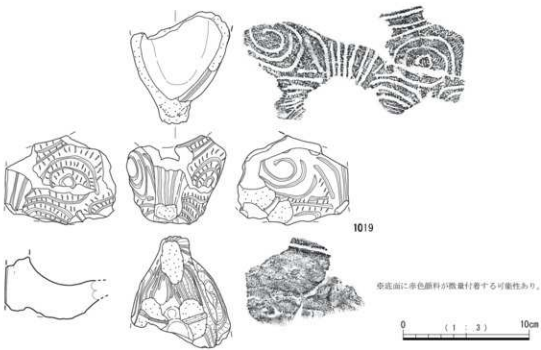
1007～1018は透かしを有する脚である。1007・1008はドーナツ状の台座にやや細めの棒状の脚を貼り付けるものである。つくりがやや粗い。1007には平行沈線文が描かれる。1012は貝殻腹縁刺突を横位に施す。埋設土器1号からはⅧc類土器と考えられる深鉢の底部に四か所の脚の剥離痕が確認できるもの（527）が出土しており，同じような形態の器種の脚部片であると推測される。1016～1018は沈線や刺突による装飾を施し，器面も丁寧に調整された精緻なつくりである。1017には赤色顔料が明瞭に付着し，蛍光X線分析の結果，ベンガラの可能性がある。また，白色の物質も所々に付着するが，成分は不明である。脚はⅧ類～Ⅸ類の時期の時期の遺物と考えられる。なかでも，1014～1018の文様の特徴はⅨ類に近い。

特殊な器種（第2-74図　1019）

1019は上面からみると湾曲しながら先端がすぼまり，残存部のみをみると，舟あるいは鳥の嘴や猪などの獣の鼻頭と似た形態の土器である。底面には剥離面が確認できるため，脚または装飾が付き，その付根に孔径5㎜ほどの孔を貫通させると推測される。文様は渦巻文を主体とし，その間に緻密な貝殻による文様を充填させる。ヘナタリを回転させた可能性も考えられる。口唇部には凹線を施す。文様としては，Ⅷb類土器，Ⅷc類土器の特徴を併せもつ。また，同心円状のモチーフからは，小池原下層式などの磨消縄文系の土器との関連も考えられる。右側面の擬似縄文は明瞭に確認できるが，左側面はていねいにナデ消されている。胎土は青みがかった明るい黄褐色で，断面は灰色を呈する。混和材は石英と角閃石を中心とし，白雲母も少量含む。混和材の粒子は細かく量も少ない。精良な胎土を使用する。搬入品の可能性が高い。また，底部は被熱により黒ずみ，内面も黒色を呈する。祭祀などの特殊な用途に使用されたことも窺える。底面にごく少量の赤色顔料が付着している可能性もある。

※スクリーントーン部は剥離面を示す。

第２－73図　特殊な底部・脚



上面

右側面

北側から見た出土状況

底面

左側面

第２－74図　特殊器種および写真

底部（第２-76～83図　1020～1106）

1020～1106は底部片である。出土エリアは先に報告した縄文時代後期前半の土器と同様に，包含層の土器と同様に３～17区に集中する。分布の状況と，胎土や形態そして底面に残る圧痕や調整の技法などから縄文時代後期前半の土器の底部であると考えられる。形態は接地面近くでややくびれ，胴部が大きく開きながら立ち上がるものが多い傾向にある。遺構内や包含層から出土した完形の土器の形態から鑑みてⅥ～Ⅷ類に該当する底部片が多いと推測する。

1020～1045は底面に網代痕を明瞭に残すものである。大きさの規格は様々で，約６～13cmの範囲に入る底径のものがほとんどである。1028・1029・1031・1033のように底面中心部を円形に欠くものも出土し，これは胴部器壁と一体化させて輪状に成形した中に，円盤状の粘土別塊を足して底面を作ったことによる。網代痕のついた円盤状の底部片も多く出土し，その一部を報告している（第２-94図など）。網代の編み方は１本ずつを垂直に交差させた籠目編み（1024～1040，1045），２本飛ばしの籠目編み（1042），矢羽根編み（1037～1044）等様々である。1043は籠目編みと矢羽根編みを組み合わせる。また，1039のように細い葦状のものを編んだ圧痕が残るものも出土している。1043には網代の継ぎ目をナデ消した痕跡がみられる。

1045の底面からはクロゴキブリの卵鞘の圧痕が検出，同定された。この種が，縄文時代後期前半の本遺跡で生息したことを示す資料である。1045の形態は接地面近くでやや強くくびれ，胴部は外側に大きく開くと推測される。胎土は，金色の雲母や白色粒が多く混じりⅧ類やⅨ類に類似したものが多い。第Ⅸ章に分析の結果を報告する。

1046～1071は底面の網代痕をナデで仕上げたものである。これらは底径が10cm以下のものが多く，やや小形であることが推測される。1049～1061は底面の一部をナデ消す。網代痕の凹凸は滑らかになり，1020～1045ほど判然としない。1046～1071はほぼ全面を丁寧にナデる。成形時に付いたと考えられる網代の凹凸が残るものも多い。

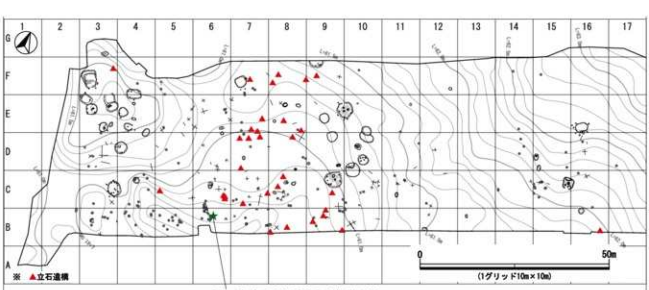
1072～1075は底面に中心から円形に編む捩り編みの圧痕がつくものである。

1076～1078は底面に葉脈痕が付くものである。本遺跡で確認できたものは小形の傾向がみられる。

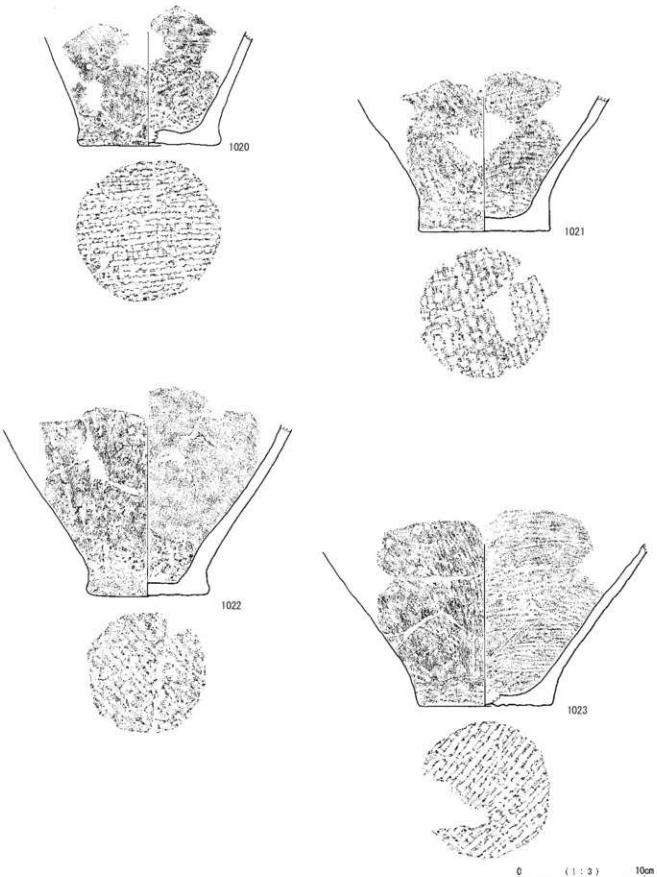
1079～1106は上げ底あるいは高台を有するものである。底面をナデで仕上げるものがほとんどだが，成形時に付いたと考えられる網代痕の凹凸がわずかに残るものも多い。1079～1085は明瞭な上げ底を呈し，底面をナデで調整する。1083のように指でナデた痕が残るものや，1085のように貝殻条痕を施すものが出土する。1082は胴部下位に平行沈線文が確認できるためⅧ類の範疇であると考えられる。

1086～1090は高台を有するもののうち，底面との境目がやや不明瞭なものである。

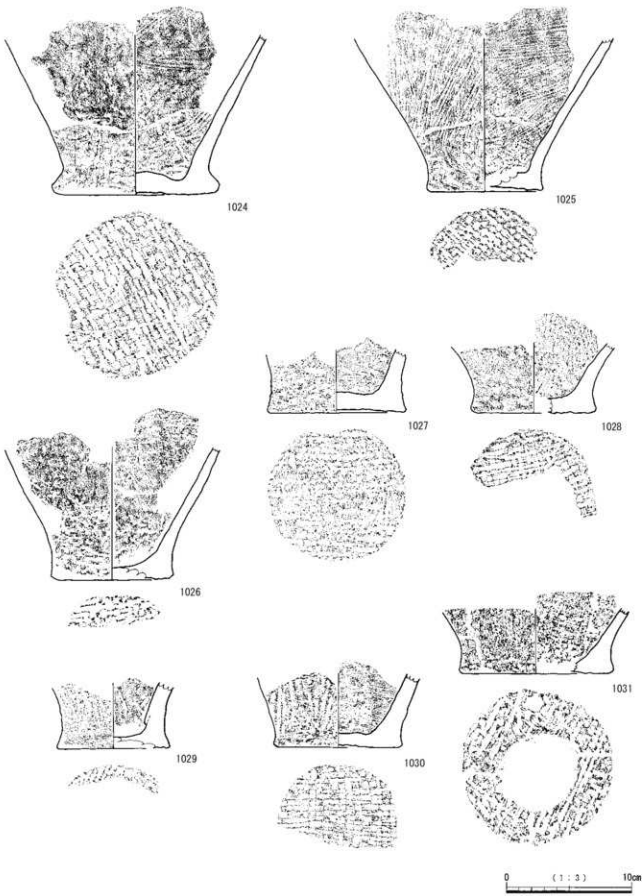
1091～1106は底面と高台の境目が明瞭に角付けられる。高台は約１cm程の高さのものが主流だが，1094・1097のように1.5cmを超えるものも出土する。



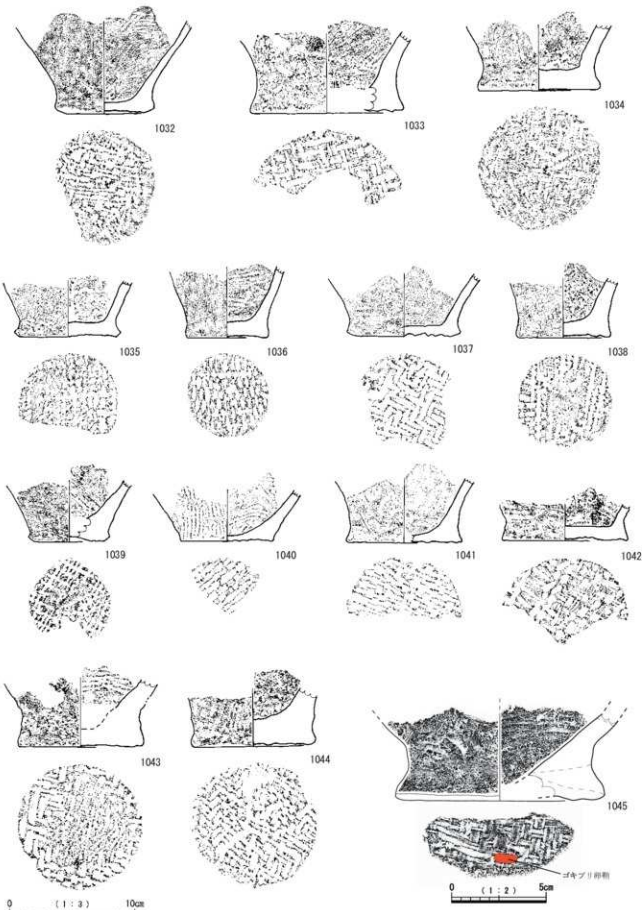
第２－75図　底部片分布図



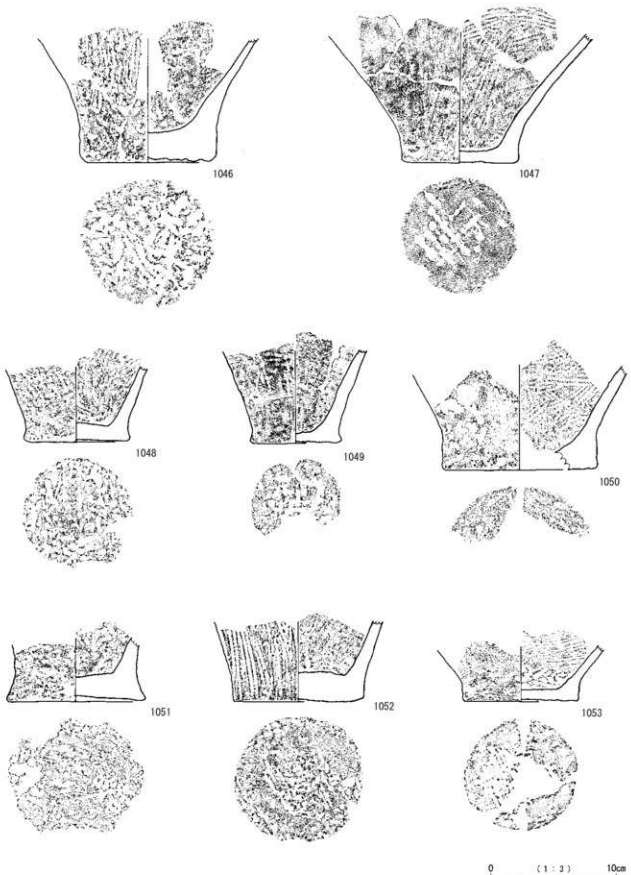
第２－76図　後期前半の底部（１）



第２－77図　後期前半の底部（２）

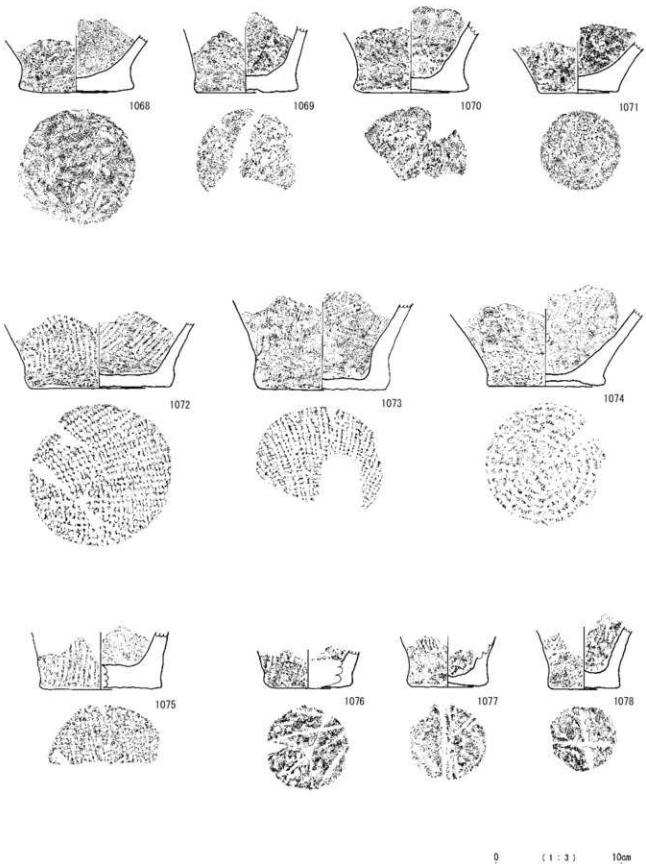


第２－78図　後期前半の底部（３）

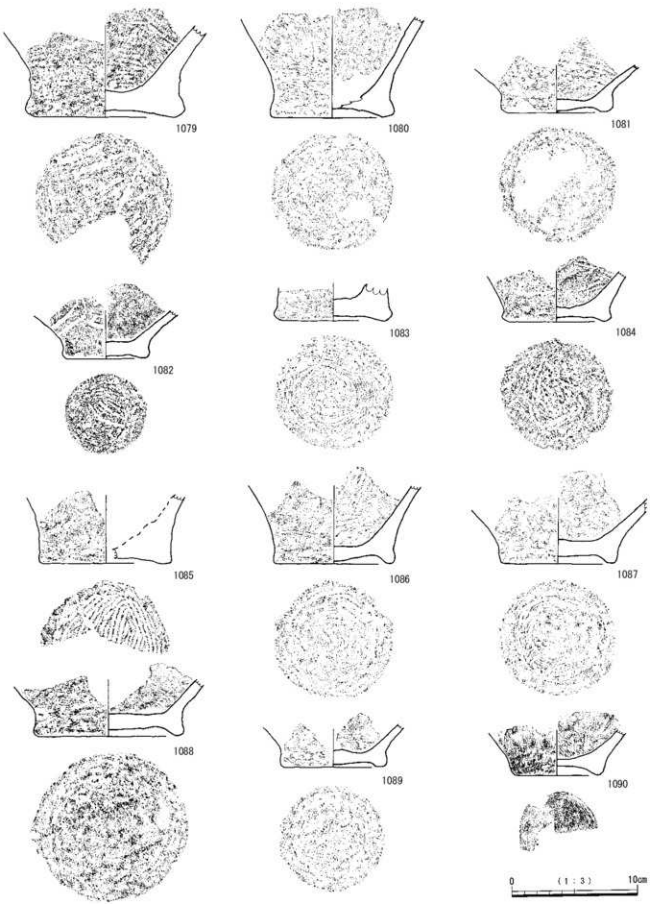


第２－79図　後期前半の底部（４）

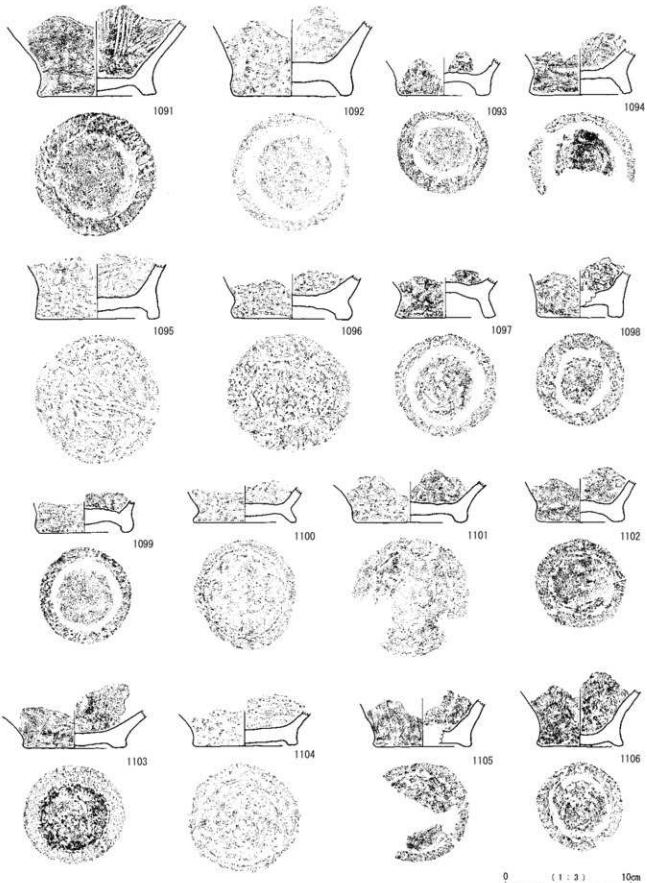
第２－80図　後期前半の底部（５）



第２－81図　後期前半の底部（６）



第２－82図　後期前半の底部（７）



第２－83図　後期前半の底部（８）

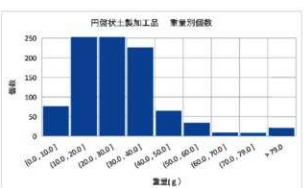
円盤状土製加工品（第２－86～96図　1107～1365）

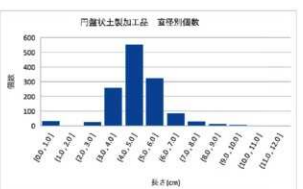
本遺跡の包含層からは円盤状土製加工品（通称：メンコ）が多量に出土した。本報告ではうち1323点を無作為に抽出し，遺跡における分布状況（第２-85図）を調べ，重量，直径を計測した（第２-84図）。有文のものについては，分類が可能なものは観察表に示した。後期前半の土器と分布エリアが重なり，有文のものからはⅤ～Ⅸ類すべての時期に製作されたことが窺える。また，そのうち258点について以下の分類を遺物の図の下に示して掲載する。

なお，Ⅰ類の口縁部片は必ずしも円盤状に丸みを帯びる形態ではないが，縁辺の一部を意図的に打ち掻いたり，研磨痕がみられて土製品であると判断したものについてここに含めた。また，Ⅲ類とした底部片のなかには，底部の項で示した底面を成形した際の粘土別塊の可能性をもつものもみられるが，口縁部片と同様に人為的な加工痕がみられるものをここに含めた。

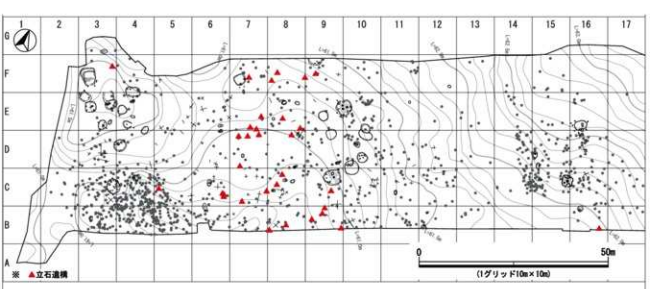
【包含層出土の円盤状土製加工品の分類について】

部位等	文様		成形技法など	図版番号
Ⅰ類 口縁部片	A類 有文	a	縁辺を打ち掻いて成形	第２-86図
		b	縁辺の一部を研磨して成形	第２-86図
		c	全周を研磨して成形	第２-86図
	B類 無文	a	縁辺を打ち掻いて成形	第２-86図
		b	縁辺の一部を研磨して成形	第２-86図
		c	全周を研磨して成形	第２-86図
Ⅱ類 胴部片	A類 有文	a	縁辺を打ち掻いて成形	第２-87・88図
		b	縁辺の一部を研磨して成形	第２-88～91図
		c	全周を研磨して成形	第２-91・92図
	B類 無文	a	縁辺を打ち掻いて成形	第２-93図
		b	縁辺の一部を研磨して成形	第２-93図
		c	全周を研磨して成形	第２-93図
Ⅲ類 底部片		a	縁辺を打ち掻いて成形	第２-94図
		b	縁辺の一部を研磨して成形	第２-94図
		c	全周を研磨して成形	第２-94図
Ⅳ類 欠損品		加工された後に欠損するもの		第２-95図
Ⅴ類 未製品		加工の痕跡が確認できる土器片		第２-96図



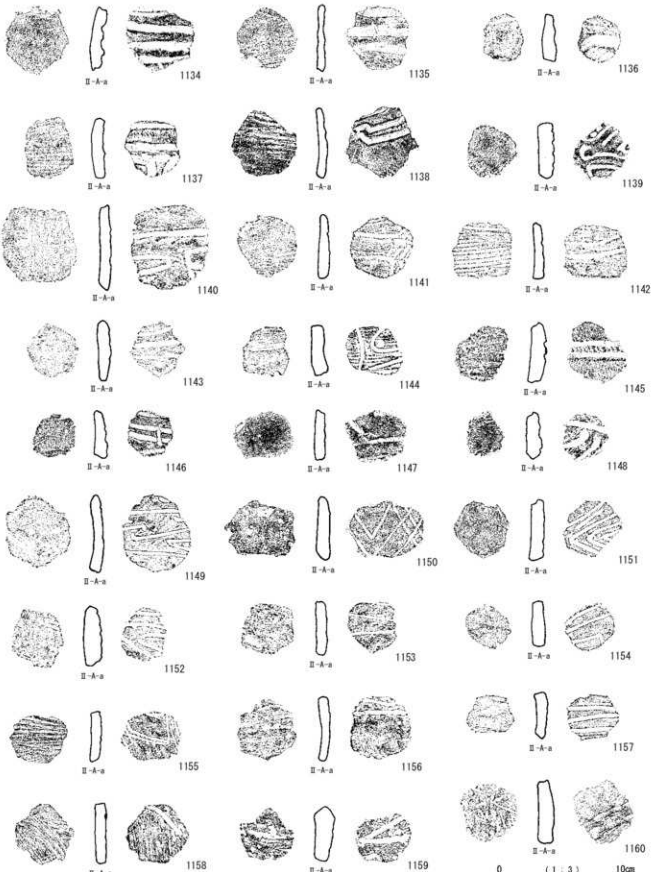


第２－84図　円盤状土製加工品重量，直径計測値

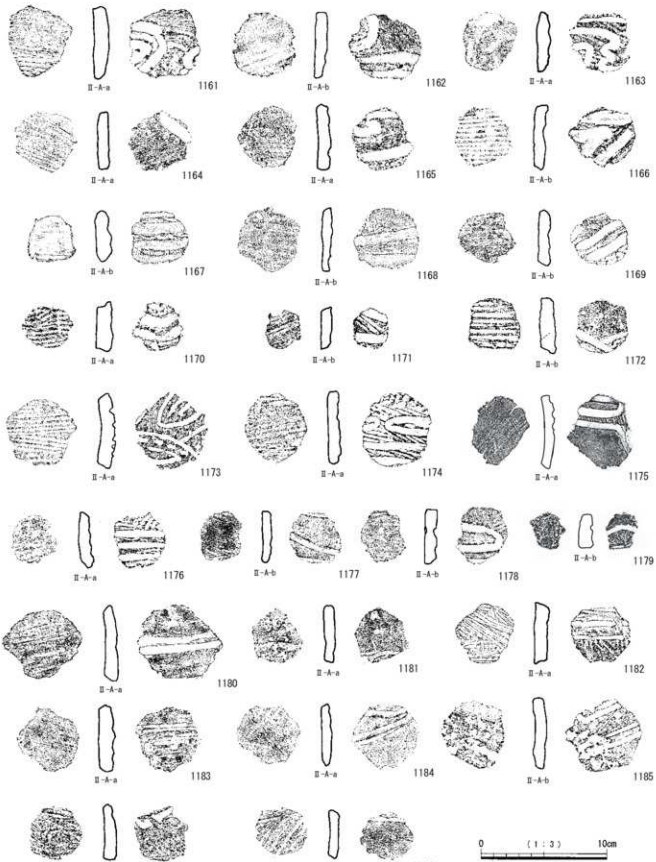


第２－85図　円盤状土製加工品分布図

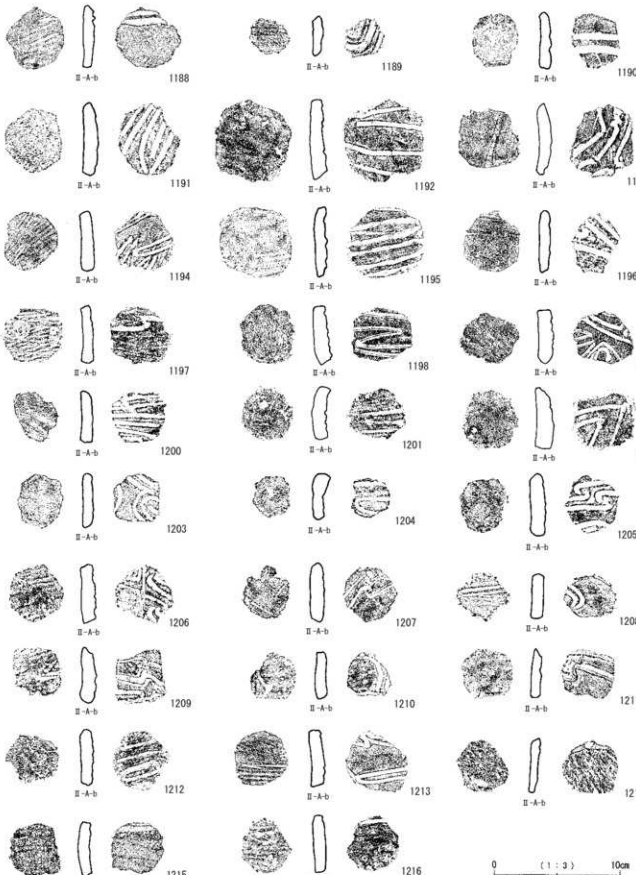
第２－86図　円盤状土製加工品（１）



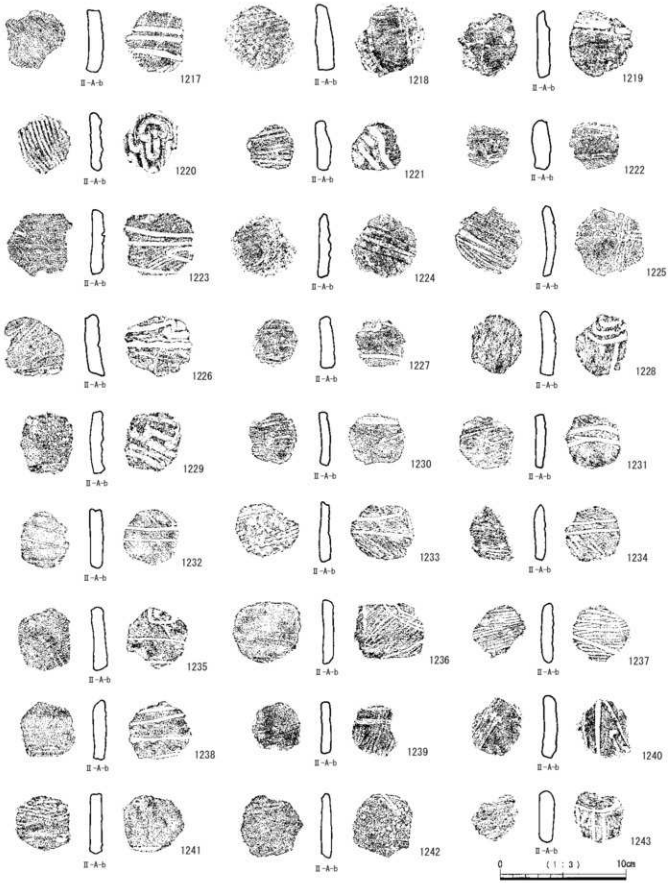
第２－87図　円盤状土製加工品（２）



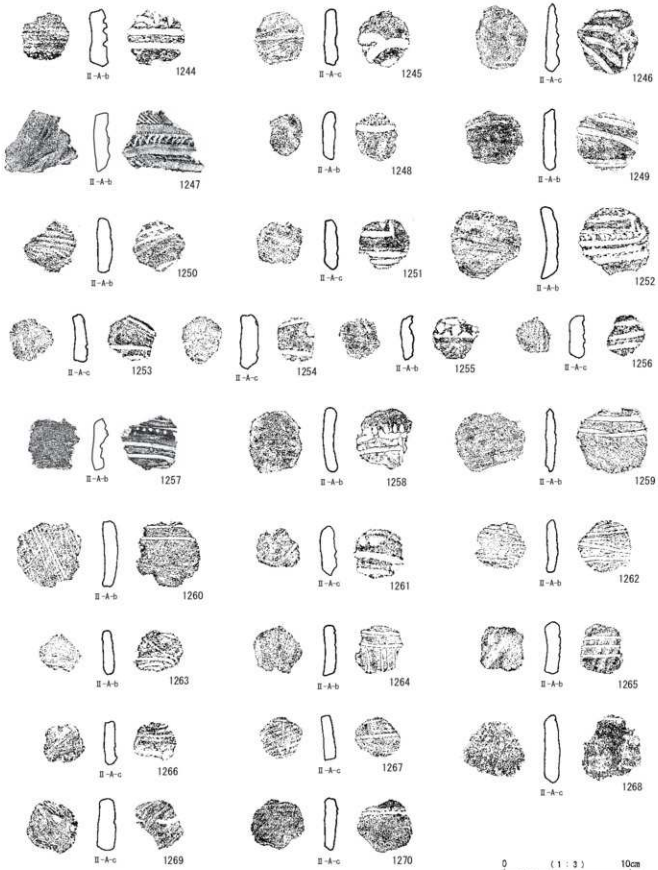
第２－88図　円盤状土製加工品（３）



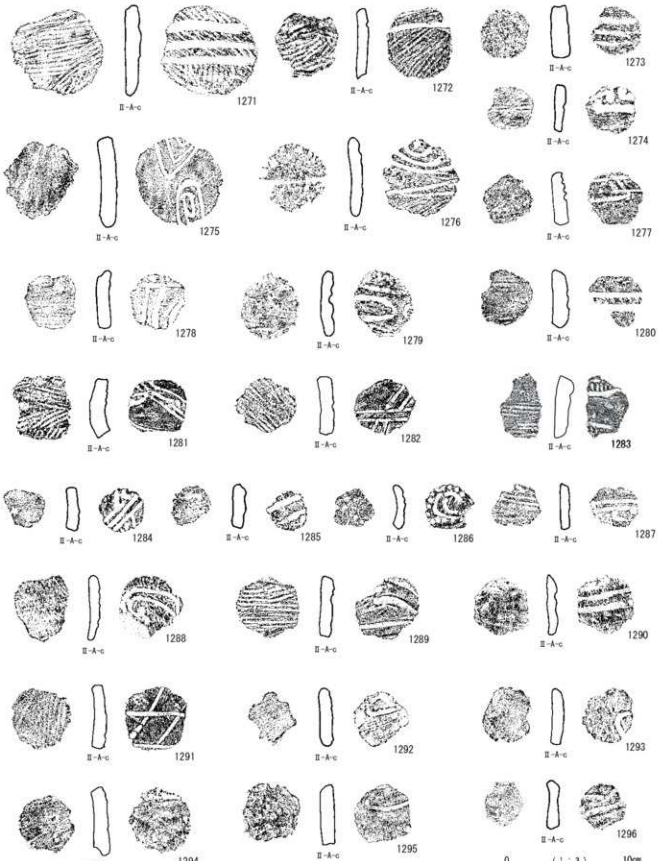
第２－89図　円盤状土製加工品（４）



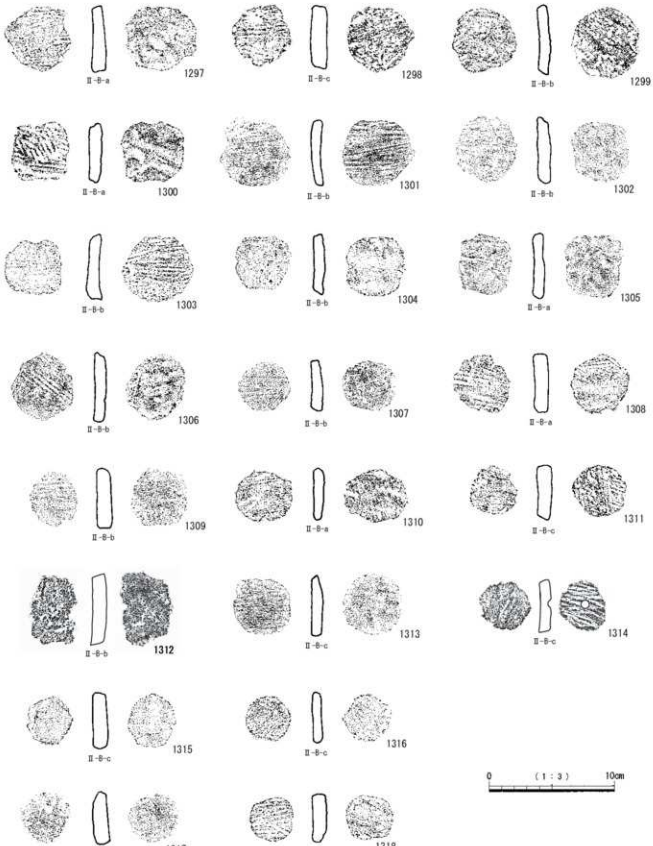
第２－90図　円盤状土製加工品（５）



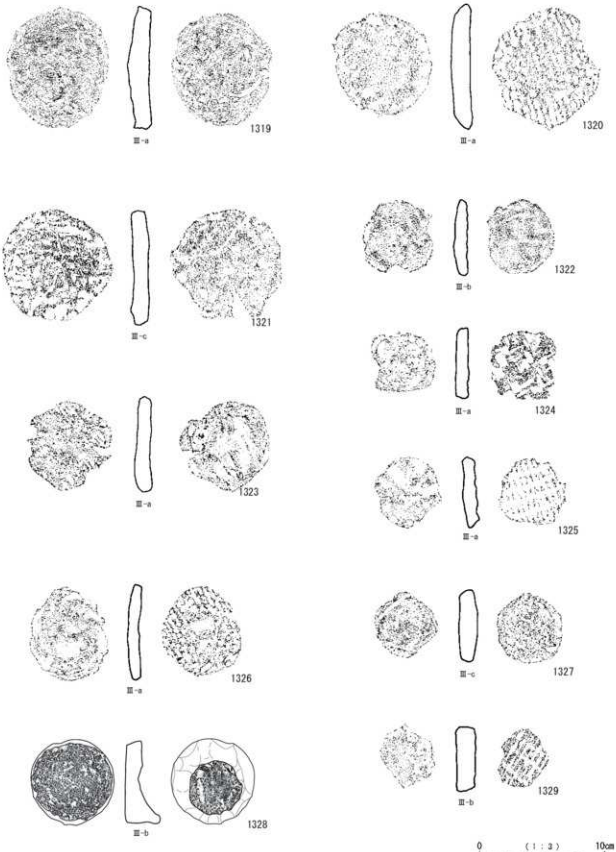
第２－91図　円盤状土製加工品（６）



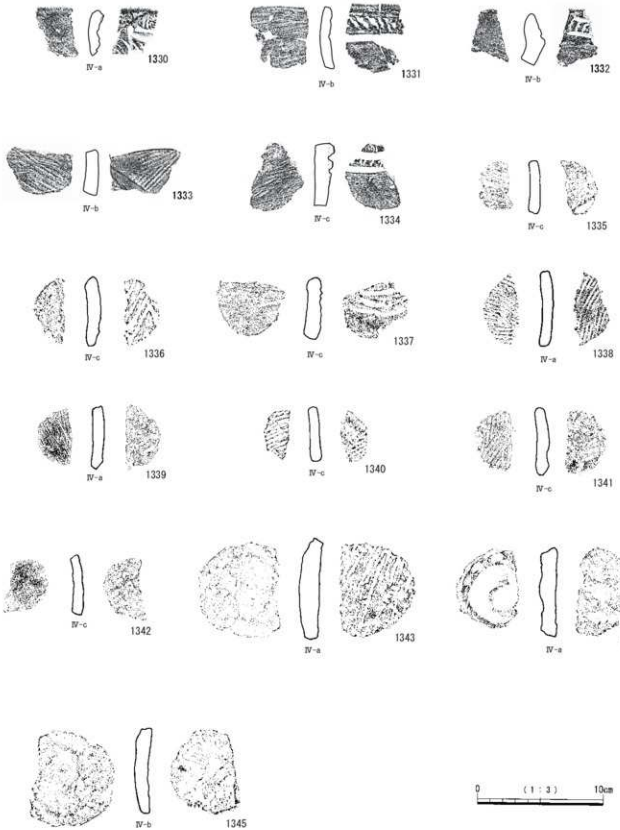
第２－92図　円盤状土製加工品（７）



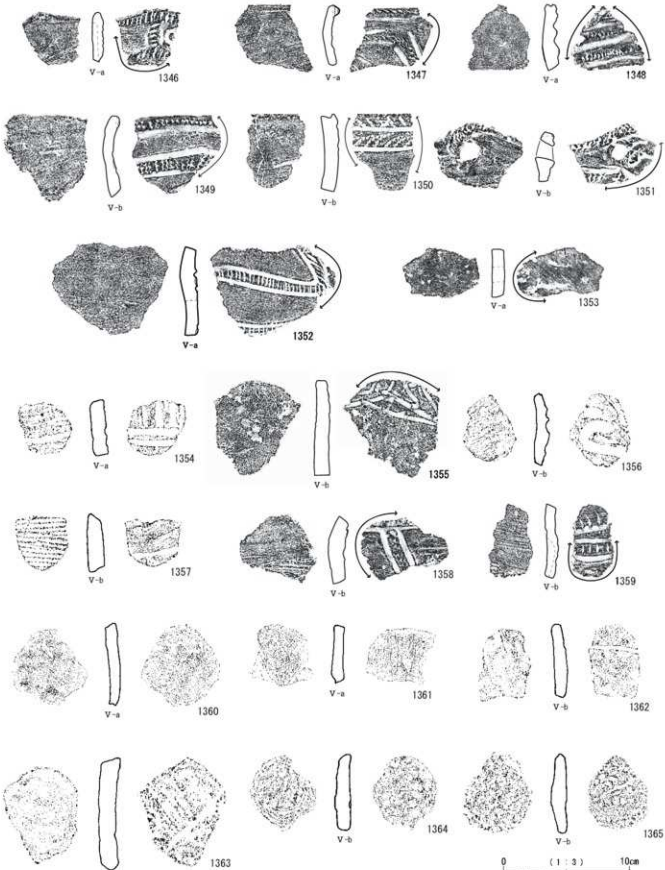
第２－93図　円盤状土製加工品（８）



第２－94図　円盤状土製加工品（９）



第２－95図　円盤状土製加工品（10）



第２－96図　円盤状土製加工品（11）

第２－１表　後期包含層土器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
2-5	538	深鉢	Ⅳ	B-2	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙	灰褐	○			○				40281他		71
	539	深鉢	Ⅳ	C-16	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰赤	にぶい赤褐	○	○	○					7992		71
2-6	540	深鉢	Ⅴa	F-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○			○		45518他		71
	541	深鉢	Ⅴa	F-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	◎	○	○	◎				46469	圧痕分析試料	71
2-7	542	深鉢	Ⅴb	D-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	暗灰黄	○	○						37240		71
	543	深鉢	Ⅴb	D-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○						26452		-
	544	深鉢	Ⅴb	B·C-15	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○				○		34485他		71
	545	深鉢	Ⅴb	C-3	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	灰褐	○		○	○				40809		71
	546	深鉢	Ⅴb	C-9	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○			○		43009		71
	547	深鉢	Ⅴb	B-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○		○		41163		71
	548	深鉢	Ⅴb	C-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい黄褐	○	○		◎				32938		71
2-8	549	深鉢	Ⅴc	B-41	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	明赤褐	○	○				○		101952	年代測定·圧痕分析試料	74
2-9	550	深鉢	Ⅵa	C-14, D-11	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○		○	礫	12339他		72
	551	深鉢	Ⅵa	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				12338	赤色顔料付着	72
	552	深鉢	Ⅵa	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○		○	○			礫	30206他		-
	553	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○		○				8065他		-
	554	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				770		-
	555	深鉢	Ⅵa	D-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○					32387		72
	556	深鉢	Ⅵa	C-5	Ⅳb·Ⅴ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○			◎				43756		71
	557	深鉢	Ⅵa	C-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗赤褐	にぶい赤褐	○							32932他		72
2-10	558	深鉢	Ⅵa	F-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	◎			○	○		42973		72
	559	深鉢	Ⅵa	C-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	赤褐	○	○	○					33617		-
	560	深鉢	Ⅵa	C-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	暗褐	にぶい赤褐	○		○	◎			礫	33007		-
	561	深鉢	Ⅵa	B·C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○					34027他		-
	562	深鉢	Ⅵa	E-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				26682		72
2-11	563	深鉢	Ⅵa	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄	○	○					礫	38031他		72
	564	深鉢	Ⅵa	C-6	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○		○	○				29509		-
	565	深鉢	Ⅵa	C-6	Ⅳa·Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○		○	○				23429他		-
	566	深鉢	Ⅵa	D-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	橙	○	○	○					25725		72
	567	深鉢	Ⅵa	C-6	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○		○	○			礫	29493		-
	568	深鉢	Ⅵa	B·C-3·4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○					○	礫	41160他		72
	569	深鉢	Ⅵa	-	-	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○					礫	−		72
	570	深鉢	Ⅵa	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	◎	○	○	◎		○		27116		72
	571	深鉢	Ⅵa	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○						31354他	南福寺式の範疇か	72
2-12	572	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○			○		○		14692他		73
	573	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	貝殻条痕	ナデ	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	○		○		11293		73
	574	深鉢	Ⅵb	D-5	Ⅳb	貝殻条痕	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	◎		○		33108		73
	575	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○				38815		-
	576	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	橙	○	○						36369他	穿孔あり	-
	577	深鉢	Ⅵb	B-11, C-14·15	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○	○	○		○	礫	18551他		74
2-13	578	深鉢	Ⅵb	D-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	灰褐	◎	○	○		○	○	礫	25544		73
	579	深鉢	Ⅵb	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	◎		○	◎				30126		-
	580	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○					26947		73
	581	深鉢	Ⅵb	D-15	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○		○	○		○		2357他		-
	582	深鉢	Ⅵb	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	橙	○	○	○	◎				10293		-
	583	深鉢	Ⅵb	C-7	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○			○		29647		73
	584	深鉢	Ⅵb	D-5	Ⅳa	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○					礫	25541		73
	585	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○	○				42033		73
	586	深鉢	Ⅵb	B-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい黄橙	○		○	○				32819		-
	587	深鉢	Ⅵb	C-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○		○	○				33967		-
	588	深鉢	Ⅵb	D-22	Ⅴ	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○				9350		-
	589	深鉢	Ⅵb	C-8	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	褐灰	○	○					礫	28944他		73
2-14	590	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	暗灰黄	黄褐	○	○						34296他	年代測定試料	74
	591	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰	にぶい黄褐	○	○						36405他		-
	592	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰オリーブ	○	○			○			37801他		73
	593	深鉢	Ⅵb	D-7	Ⅴa	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	褐灰	○	○			○			48483他		-
	594	深鉢	Ⅵb	D-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	橙	○	○			○	○	礫	11245		-
	595	深鉢	Ⅵb	D-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○						36759		73
	596	深鉢	Ⅵb	D-6	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○			◎				47656		-
	597	深鉢	Ⅵb	D·E-16	Ⅳa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				3210他		73
	598	深鉢	Ⅵb	D-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○						32366		73
	599	深鉢	Ⅵb	E-3	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黒褐	○	○		○				カクラン一括		-
2-15	600	深鉢	Ⅵb	B-4	Ⅳb	ナデ	ケズリ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○						33414		-
	601	深鉢	Ⅵb	D-9	Ⅳb	ナデ	ナデ	赤褐	明褐	○		○	◎				29180		-
	602	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○						10442		-
	603	深鉢	Ⅵb	C-2	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○						40277		-
	604	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○						34246		-
	605	深鉢	Ⅵb	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○		○				19820		-
	606	深鉢	Ⅵb	D-8	Ⅳb	ヘラナデ	ヘラナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○				28224		-
	607	深鉢	Ⅵb	D-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		33106		-
2-16	608	深鉢	Ⅵc	E15	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		493他		-
	609	深鉢	Ⅵc	C·D-5	Ⅳ～Ⅴ	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○				○		−		-
	610	深鉢	Ⅵc	C-8	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐	褐	○		○	○				48267		-
	611	深鉢	Ⅵc	C-15	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○		○		○		8951		-
	612	深鉢	Ⅵc	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○		1110	穿孔あり	-
	613	深鉢	Ⅵc	G-25	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○		○	○	礫	39260		-
	614	深鉢	Ⅵc	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	褐	○	○		○				SD5	SD5→近世SD14	-
	615	深鉢	Ⅵc	C-15	-	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○	○				○		−		-
	616	深鉢	Ⅵc	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	褐灰	○	○		○			礫	27066		-
	617	深鉢	Ⅵc	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい橙	○	○		○		○		31086		-
	618	深鉢	Ⅵc	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○		○	礫	31390		-

第２－２表　後期包含層土器観察表２

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色調		胎土						取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
2-17	619	深鉢	Ⅵ	E-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○		○			6403		–
	620	深鉢	Ⅵ	D-10	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	黒褐	○	○	○		○			53398	羊代掘完試料	–
	621	深鉢	Ⅵ	C-3・4	Ⅳb	ナデ	目殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○		○	○	○			31412他		–
	622	深鉢	Ⅵ	E-15	Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○		○	○	○	○		2453		–
	623	深鉢	Ⅵ	C-4	Ⅳb	ヘラナデ	目殻条痕	灰褐	灰黄褐	○		○		○			27110	赤色顔料付着	–
2-18	624	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳ	工具ナデ	工具ナデ	灰	暗オリーブ	○						○	–	搬入品か	75
	625	深鉢	Ⅵa	B-6・C-15	Ⅳ・Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○		○		○		○	7288		75
	626	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○		○		○	4284	搬入品か	75
	627	深鉢	Ⅵa	E-7	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		28874		–
	628	深鉢	Ⅵa	E-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		○			30516		–
	629	深鉢	Ⅵa	E-8	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	黒褐	灰褐	○	○	○				○	29697	搬入品か	75
	630	深鉢	Ⅵa	C-8	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	橙	にぶい橙	○				○			26306		–
	631	深鉢	Ⅵa	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		○		○	32806		–
	632	深鉢	Ⅵa	D-8	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○			○		○	29093		–
	633	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳa	ナデ	工具ナデ	灰赤	赤褐	○	○	○		○			2630	年痕分析試料	–
	634	深鉢	Ⅵa	D-16	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○			○		○	13652		–
	635	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○				○	1464		–
	636	深鉢	Ⅵa	B-9	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		○		○	22589		–
	637	深鉢	Ⅵa	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○					○	6613		–
2-19	638	深鉢	Ⅵa	D-8	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	灰黄褐	褐	○	○	○		○			25800		–
	639	深鉢	Ⅵa	E-14	Ⅵ	ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		○		○	15998		–
	640	深鉢	Ⅵa	D-14	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	明赤褐	明赤褐	○		○		○		○	11057		–
	641	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	褐	黒褐	○		○		○			11337		–
	642	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	明褐	にぶい褐	○	○	○		○		○	13090		–
	643	深鉢	Ⅵa	B-6	Ⅳb	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	黄灰	○	○	○					36924		–
	644	深鉢	Ⅵa	B-C・16-17	–	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○			○		○	SH10埋土	SH10→古墳SH13	–
	645	深鉢	Ⅵa	D-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○				○		○	66813		75
	646	深鉢	Ⅵa	D-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○				○		○	29095		–
	647	深鉢	Ⅵa	D-9	Ⅵ	ナデ	ナデ	暗灰黄	黒褐	○	○	○					49271	搬入品か	–
	648	深鉢	Ⅵa	E-14	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	黒	黄褐	○				○		○	13086		75
	649	浅鉢	Ⅵa	D-16	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○					○	6159	搬入品か	75
	650	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○	○		○	1167		75
	651	深鉢	Ⅵa	B-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐	灰褐	○	○	○					29669他		75
	652	深鉢	Ⅵa	D-11	Ⅵ	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○		○	○				24391		75
	653	深鉢	Ⅵa	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○			○				33728		–
2-20	654	深鉢	Ⅵa	D-15	Ⅳb	ミガキ→ナデ	ナデ	褐灰	褐灰	○		○	○		○	○	13868		–
	655	深鉢	Ⅵa	C-9	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰	灰	○	○	○					47130		75
	656	深鉢	Ⅵa	F15	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐	褐	○				○		○	20370		75
	657	深鉢	Ⅵa	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○		○			25805		75
	658	深鉢	Ⅵa	B-4・D-7	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ→ナデ	明赤褐	明赤褐	○	○	○					28894他		75
	659	深鉢	Ⅵa	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○			○		6695		–
	660	深鉢	Ⅵa	C-5	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○		○		○	33582		75
	661	深鉢	Ⅵa	D-9	Ⅵ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○		○			49388		75
2-21	662	深鉢	Ⅵa	B-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○					30631		–
	663	深鉢	Ⅵa	E-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	明褐	明褐	○		○		○			9863		–
	664	深鉢	Ⅵa	D-9	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○		○		○			45678他		75
	665	深鉢	Ⅵa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰褐	○	○	○		○			12863		75
	666	深鉢	Ⅵa	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○		○		○	4733		–
	667	深鉢	Ⅵa	E-7・8	Ⅳa・Ⅳb	目殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○		○			22534他		75
	668	深鉢	Ⅵa	B-9	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○		○		○	28622他		75
	669	深鉢	Ⅵa	E-7	Ⅵa	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○		○		○			53805		75
	670	深鉢	Ⅵa		Ⅵ	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○		○			SI130埋土	SI130→古墳SI86	75
	671	深鉢	Ⅵa	E-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○		○		○	30506		–
2-22	672	深鉢	Ⅵa	C-8	Ⅵ	ヘラナデ	ヘラナデ	暗灰黄	黄灰	○		○		○			54337他		–
	673	深鉢	Ⅵa	D-15	–	ナデ	工具ナデ	灰褐	褐灰	○		○	○		○		–		–
	674	深鉢	Ⅵa	C-15	–	ナデ	目殻条痕→ナデ	にぶい褐	黄灰	○	○	○		○	○		–		–
	675	浅鉢	Ⅵa	C-6	Ⅳb	ナデ	ミガキ→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○					36716		75
	676	深鉢	Ⅵa	D-9	Ⅵ	ナデ	ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○	○					49259	墨粉付の粒子が大きい	75
	677	深鉢	Ⅵa	B-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○				○	○	32638		75
	678	深鉢	Ⅵb	C・D-14・15	Ⅳb	目殻条痕	目殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			○		○	10987他		74
	679	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳa	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○			○		○	17734他		74
	680	深鉢	Ⅵb	C-14・15	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○	○		○		○	14583他		76
2-23	681	深鉢	Ⅵb	C-14	Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○			○		○	10381他		76
	682	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○	○		○		○	12121		–
	683	深鉢	Ⅵb	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○		○			8901他		76
	684	深鉢	Ⅵb	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	暗灰黄	○	○	○		○		○	37338		–
	685	深鉢	Ⅵb	B-C-4・5	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○	○		○			30150他		74
	686	深鉢	Ⅵb	C-15	–	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○		○			–		–
	687	深鉢	Ⅵb	D-12	Ⅳa	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	褐灰	黒褐	○	○	○		○			5296		–
	688	深鉢	Ⅵb	B-4	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○		○			34119		–
2-24	689	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			○		○	17666他		–
	690	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳa・Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙		○			○		○	3005他		74
	691	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	目殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐			○		○		○	33494他		–
	692	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	目殻条痕→ナデ	目殻条痕	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○		○		○	39588		–
	693	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○		○		○		○	17823他		–
	694	深鉢	Ⅵb	C-4	Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○		○		○		○	36237		–
2-25	695	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	ナデ	ヘラナデ	橙	褐灰	○		○		○		○	1436他		–
	696	深鉢	Ⅵb	C-15	Ⅳb	ナデ	目殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○		○	○		628		–
	697	深鉢	Ⅵb	D-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○		○		○	1229他		–
	698	深鉢	Ⅵb	C-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○		○		○	46251		–
	699	深鉢	Ⅵb	C-4・5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○		○			32319他		–

第２－３表　後期包含層土器観察表３

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等 外面	器面調整等 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 褐色粒	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	取上番号	備考	写真図版
2-25	700	深鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○					礫	46214		76
	701	深鉢	Ⅷb	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○		○		34528他		-
	702	深鉢	Ⅷb	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○		○		SD3覆	SD3→近世SD13	76
	703	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○			○		○		10617		76
	704	深鉢	Ⅷb	F-16	-	ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	○	○				○		20437他		76
	705	深鉢	Ⅷb	C-12	Ⅵ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○		○		24774		76
2-26	706	深鉢	Ⅷb	C-14	Ⅳb	ナデ	工具ナデ→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○				10398他		76
	707	深鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○					34253		76
	708	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	ナデ	工具ナデ→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○				9058		-
	709	深鉢	Ⅷb	E-6	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○		○	○				35270		76
	710	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○		○	○	○			4212他	年代測定試料	76
	711	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	にぶい橙	○		○	○		○		31257		-
	712	深鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙	暗灰黄	○	○			○	○		38066		-
	713	深鉢	Ⅷb	C-14	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○		○	○		○		10353他		76
	714	深鉢	Ⅷb	C・D-16・17	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○			○		6234他		76
	715	深鉢	Ⅷb	C-18	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○		○			8574		-
2-27	716	深鉢	Ⅷb	B-11	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○						5104		-
	717	深鉢	Ⅷb	C-14	Ⅳb	ナデ	ケズリ	暗灰黄	にぶい褐	○		○	○		○		10384		-
	718	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい褐	○	○	○					34054		-
	719	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	明褐	灰褐	○	○	○	○		○		13709		76
	720	深鉢	Ⅷb	C-6	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	暗灰黄	○	○		○		○		42789		-
	721	深鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○		○			36093		76
	722	深鉢	Ⅷb	C-12	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○		○		15484		76
	723	深鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○		○		36090		-
	724	深鉢	Ⅷb	E-10	Ⅳa	ナデ	ナデ	褐灰	褐灰	○		○	○				54388		-
	725	深鉢	Ⅷb	C-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○				礫	14786		76
2-28	726	深鉢	Ⅷb	E-2	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○		○	○		○		50387		-
	727	深鉢	Ⅷb	C-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○					30366		-
	728	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○		○	○				1535		-
	729	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○		○		○		一括		-
	730	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○	○	○		32071		-
	731	深鉢	Ⅷb	C-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○		○	○				46325		-
	732	深鉢	Ⅷb	C-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	○	○	○			○		-	外面：貝殻腹縁押引文	-
	733	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				○		6179他		76
2-29	734	深鉢	Ⅷa	E-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○		○		27696		77
	735	深鉢	Ⅷa	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○			○		SD1_覆土	SD1→近世SD12	-
	736	深鉢	Ⅷa	E-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○				14622		77
	737	深鉢	Ⅷa	E-8	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○	○				24193		77
	738	深鉢	Ⅷa	D-9	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	◎						28358		77
	739	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○			○				40575		-
	740	深鉢	Ⅷa	C-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○					32257		-
2-30	741	鉢	Ⅷa	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	○		○	○				36278		-
	742	深鉢	Ⅷa	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				33742		-
	743	深鉢	Ⅷa	B-10	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				28523他		-
	744	深鉢	Ⅷa	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○			○				34145他		77
	745	深鉢	Ⅷa	D-16	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○		○	○				6205		-
	746	深鉢	Ⅷa	E-16	Ⅳa	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	◎	○					3654		-
	747	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○				覆土		-
	748	深鉢	Ⅷa	D-12	Ⅳb・Ⅵ	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰黄褐	○		○	○				24071他		-
	749	深鉢	Ⅷa	E-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○		○		26662		-
2-31	750	深鉢	Ⅷa	12T	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○				12T_260		-
	751	深鉢	Ⅷa	D-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				11034		77
	752	深鉢	Ⅷa	B-11	Ⅳa・Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○		○				4544他		78
2-32	753	深鉢	Ⅷa	B-7	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				34658		-
	754	深鉢	Ⅷa	D-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい褐	○			○		○		10051		-
	755	深鉢	Ⅷa	D-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい黄褐	○		○	○				39187		-
	756	深鉢	Ⅷa	C-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○			○		○		19415		-
	757	深鉢	Ⅷa	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	黄褐	灰黄褐	○	○				○		32111他		-
	758	深鉢	Ⅷa	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○		○	○				31415他		77
	759	深鉢	Ⅷa	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい褐	○	○	○	○		○		37421		-
	760	深鉢	Ⅷa	12T	Ⅳ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				12T_155他	確認調査トレンチ	78
	761	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○				33270		77
	762	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				26558		-
2-33	763	深鉢	Ⅷa	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○		○		30193他		81
	764	深鉢	Ⅷa	E-10	Ⅳa	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○			○				54395		-
	765	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○		○				33262他		78
	766	深鉢	Ⅷa	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	褐灰	○	○		○				32128他		78
2-34	767	深鉢	Ⅷa	D-15	旧SD覆土	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○					SD3	SD3→近世SD13	-
	768	深鉢	Ⅷa	SD5	-	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○					－		-
	769	深鉢	Ⅷa	B-10	Ⅱ	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○			○			礫	55021		-
	770	深鉢	Ⅷa	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		6268他		-
	771	深鉢	Ⅷa	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		○				36165他		-
	772	深鉢	Ⅷa	F-8	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	黄褐	灰黄褐	○	○					礫	26127		77
	773	深鉢	Ⅷa	C-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					41289		-
	774	深鉢	Ⅷa	D-16	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい褐	○	○			○		礫	6624他		-
	775	深鉢	Ⅷa	B-12	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	褐	にぶい黄褐	○			○		○	礫	4769		77
2-35	776	深鉢	Ⅷa	B-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○		○		30740		77
	777	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○		○				17853他		78
	778	深鉢	Ⅷa	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○		○		33661		77
	779	深鉢	Ⅷa	D-14	攪土	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○				19718		-
2-36	780	深鉢	Ⅷa	C-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○	○	○			礫	32239他		78

第２－４表　後期包含層土器観察表４

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等 外面	器面調整等 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 褐色粒	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	取上番号	備考	写真図版
2-36	781	深鉢	Ⅷa	F-3	Ⅵ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	49909		77
	782	深鉢	Ⅷa	E-7	Ⅵ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○			礫	49532		-
	783	深鉢	Ⅷa	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤褐	○	○	○	○		○		30172他		78
	784	深鉢	Ⅷa	C-12	Ⅳb・Ⅵ	ナデ	貝殻条痕	橙	灰黄褐	○		○	○				12453他		77
2-37	785	深鉢	Ⅷa	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		32304	年代測定試料	79
	786	深鉢	Ⅷa	E-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○		○	礫	6607		79
	787	深鉢	Ⅷa	C-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○		○		礫	10865		-
	788	メンコ	Ⅷa	D-16	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	DKS9-153	DKS9→古墳DKS7	-
	789	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○		○		○		11134		79
	790	深鉢	Ⅷa	B・C-16・17	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○		○		SH10	SH10→古墳SH13	79
	791	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○	○	○			683		-
	792	深鉢	Ⅷa	E-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○				35281		79
2-38	793	深鉢	Ⅷa	C-11	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○				5576		-
	794	深鉢	Ⅷa	D-10	Ⅶb	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○		○	○				54359		-
	795	深鉢	Ⅷa	E-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○		○	○		○		44423		-
	796	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○		○	○				383埋土?	P383(時期不明)	-
	797	深鉢	Ⅷa	D-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	明赤褐	黒褐	○		○	○				10030他		-
	798	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	○		○		埋土341?	P341(時期不明)	-
	799	深鉢	Ⅷa	D-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4714他		-
	800	深鉢	Ⅷa	C-14	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○		○		14375		79
2-39	801	深鉢	Ⅷa	12T	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○		○	○		○		12T_220	確認調査トレンチ	-
	802	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		33214他		79
2-40	803	深鉢	Ⅷa	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○	○				7420		-
	804	深鉢	Ⅷa	C-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○				礫	32898		-
	805	深鉢	Ⅷa	C-15	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	橙	明赤褐	○	○	○	○		○		849他		-
	806	深鉢	Ⅷa	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○		33327		-
	807	深鉢	Ⅷa	C-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○				26394他		-
2-41	808	深鉢	Ⅷb	D-12	Ⅳa・Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○		○	○	礫	5256他		-
	809	深鉢	Ⅷb	F-8	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○		○	○	礫	23597他		80
	810	深鉢	Ⅷb	E-4	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○		○	○			礫	31783		-
	811	深鉢	Ⅷb	B-3	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	○			○			33254他		80
	812	深鉢	Ⅷb	D-12	Ⅵ	ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○		○	○	礫	24437		80
	813	深鉢	Ⅷb	C-3・12、F-3	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	ナデ・ヘラナデ	灰褐	褐灰	○	○	○		○			429他		-
	814	深鉢	Ⅷb	D-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○	○				○	礫	36023		-
	815	深鉢	Ⅷb	D-14	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○		11044		-
2-42	816	深鉢	Ⅷb	D-15	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰赤	にぶい橙	○	○	○		○			2332他		-
	817	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○			○		礫	32147他		80
	818	深鉢	Ⅷb	12T	Ⅳ	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	橙	○	○	○					12T他		79
2-43	819	鉢	Ⅷb	D-9	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		27894他		-
	820	鉢	Ⅷb	C-6	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	明赤褐	○	○	○	○			礫	29467		-
	821	深鉢	Ⅷb	C-12	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	黄灰	○	○	○					24452		80
	822	深鉢	Ⅷb	C-15	埋土	ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄褐	○	○	○	○			礫	5538		-
	823	深鉢	Ⅷb	C-15	-	ナデ	工具ナデ	褐灰	黄褐	○	○	○	○				SD1_埋土他	SD1→近世SD12	-
	824	深鉢	Ⅷb	D-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○						36009他		80
	825	鉢	Ⅷb	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	暗灰黄	橙	○	○		○				31432他	年代測定試料	81
	826	深鉢	Ⅷb	F-13	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○		○			23221		-
	827	深鉢	Ⅷb	C-2・3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○				41762他		81
	828	深鉢	Ⅷb	B・C-6	Ⅳa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○		○			25535他		-
	829	深鉢	Ⅷb	C-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○	○			41765他		-
2-44	830	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○			○			33431他		-
	831	深鉢	Ⅷb	E-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○		○	○			礫	13954		-
	832	深鉢	Ⅷb	D-9	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○				礫	27900		-
	833	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○		○			礫	1361		80
	834	深鉢	Ⅷb	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○		○		31104他		-
	835	深鉢	Ⅷb	C-6	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○		○	○		○		52567		80
	836	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○	○		○			6614他		-
	837	深鉢	Ⅷb	B-6	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		23366		-
	838	深鉢	Ⅷb	F-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	黄褐	○	○			○	○		45655		-
	839	深鉢	Ⅷb	E-16	Ⅳa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	7にぶい橙	○	○	○	○				5896		-
	840	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○			○		礫	5657		-
2-45	841	深鉢	Ⅷb	B-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○					32851他		-
	842	深鉢	Ⅷb	B-5	Ⅲ～Ⅴ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○			○	○		オウテン		-
	843	深鉢	Ⅷb	B・C-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○	○					39763他		79
	844	深鉢	Ⅷb	C-12	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○		○		12587		-
	845	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○				5660		-
	846	深鉢	Ⅷb	C-8	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	橙	○	○		○		○		28274他		-
2-46	847	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○				－		80
	848	深鉢	Ⅷb	C-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	にぶい褐	○		○	○			礫	26511他		80
	849	深鉢	Ⅷb	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○				32838		-
2-47	850	深鉢	Ⅷb	E-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○		○			31012		-
	851	深鉢	Ⅷb	C-8	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		35374他		-
	852	深鉢	Ⅷb	B-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○		○		○		32153		-
	853	深鉢	Ⅷb	B・C-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○		○	○			礫	31519他		-
2-48	854	深鉢	Ⅷb	C・D-8	Ⅳa・Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○		○	○		21908他		81
	855	深鉢	Ⅷb	B-9	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	褐灰	○		○	○		○		45814		-
	856	深鉢	Ⅷb	C-16、D-17・19	埋土	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○		○				20535他		81
	857	深鉢	Ⅷb	C-8	Ⅳa・Ⅳb・Ⅶa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐	○	○	○	○			礫	27999他		-
	858	深鉢	Ⅷb	C-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○		○		礫	35356他		-
2-49	859	深鉢	Ⅷb	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○		○	○	礫	33278		-
	860	深鉢	Ⅷb	C-15	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○			○	○			889		-
	861	深鉢	Ⅷb	E・F-10	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○			○		35018他		-

第２－５表　後期包含層土器観察表５

調査区番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色調		胎土						取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石雲母	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
2-49	862	深鉢	Ⅶb	C-6	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰褐	○	○	○	○			礫	29604焼		–
	863	深鉢	Ⅶb	C-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	○			○		○		29892焼		–
	864	深鉢	Ⅶb	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	明赤褐	灰褐	○		○	○		○	礫	31116		–
	865	深鉢	Ⅶb	D-E-6	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○		○				32450焼		–
2-50	866	深鉢	Ⅶb	F-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○						26137焼		–
	867	深鉢	Ⅶb	8T	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○		◎		○		8T_34焼	確認調査トレンチ	–
	868	深鉢	Ⅶb	B-8	表a-Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○		○		21575焼		–
	869	深鉢	Ⅶb	E-8	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○		○		22143		–
	870	深鉢	Ⅶb	C-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○		○		○		26430		–
	871	深鉢	Ⅶb	F-14	掘土	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		4288		–
	872	深鉢	Ⅶb	D-12	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	橙	にぶい褐	○	○	○			○		15524		82
2-51	873	深鉢	Ⅶb	D-6	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○	○			○		46446焼		81
	874	深鉢	Ⅶb	D-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐	○			◎		○		10013焼		–
2-52	875	深鉢	Ⅶb	D-16	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		6705焼		–
	876	深鉢	Ⅶb	D-E-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		5641焼		80
2-53	877	深鉢	Ⅶb	C-15	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○				2010	三重分析試料	80
	878	深鉢	Ⅶb	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○		○		○		33316焼		80
2-54	879	深鉢	Ⅶc	B-9	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○		○			53805		82
	880	深鉢	Ⅶc	D-15		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	–
	881	深鉢	Ⅶc	D-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰黄	にぶい黄橙	○	○	○			○		29585		82
	882	深鉢	Ⅶc	E-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○		○				14003		–
	883	深鉢	Ⅶc	B-3	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○		◎				26539焼		82
	884	深鉢	Ⅶc	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○		○				10236		82
	885	深鉢	Ⅶc	C-13	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	◎		○		20904		82
	886	深鉢	Ⅶc	B-1・C-16	Ⅳb・Ⅵ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			◎				14982焼		82
	887	深鉢	Ⅶc	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○		○		○		39095		82
	888	深鉢	Ⅶc	C-17	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○		○	◎		○		13601		82
	889	深鉢	Ⅶc	E-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○		○		21724		82
2-55	890	深鉢	Ⅶc	D-15		ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		○		○		SD3_埋土	SD3→近世SD13	–
	891	深鉢	Ⅶc	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐				◎		○		33207焼		–
	892	深鉢	Ⅶc	12T	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐				○		○	礫	12T_168焼		78
2-54	893	深鉢	Ⅶc	E-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰褐	○	○		○		○		15229		82
	894	深鉢	Ⅶc	B-12・C-16	Ⅱ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○			○			64焼		–
	895	深鉢	Ⅶc	B-3	Ⅳb	ヘラナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○		○		○		33306焼		82
2-56	896	深鉢	Ⅶc	F-8	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○	○				26123焼		–
	897	深鉢	Ⅶc	B-5	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄	○			○		○		4201		–
	898	深鉢	Ⅶc	C-15	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○		○		17987		82
	899	深鉢	Ⅶc	D～E-4～7	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい赤褐	○			◎				30912焼		82
2-57	900	深鉢	Ⅶd	B-5	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰赤	褐	○	○	○		○	○		35783焼		–
	901	深鉢	Ⅶd	C-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○		○		○		8009		–
	902	深鉢	Ⅶd	C-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	灰黄褐	○			○		○	礫	14127		–
	903	深鉢	Ⅶd	D-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	黒褐	○		○					30996	年代測定試料	–
	904	深鉢	Ⅶd	C-2	Ⅳb	ヘラナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○		○	○		○		43901	年代測定試料	–
	905	深鉢	Ⅶd	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	◎				42076	年代測定試料	–
	906	深鉢	Ⅶd	B-5	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○						27238焼		–
2-58	907	深鉢	Ⅶd	E-7	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		◎		○		28834焼		–
	908	深鉢	Ⅶd	B-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	灰褐	○			○				32540焼	年代測定試料	–
	909	深鉢	Ⅶd	C-D-8	Ⅵ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○			○		○		48575焼		–
	910	深鉢	Ⅶd	C-3	Ⅳb	ナデ	ヘラナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		○				31539焼		–
	911	深鉢	Ⅶd	C-9	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○		◎		○		46843		–
2-59	912	深鉢	Ⅶd	C-8	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○			○		35361		81
	913	深鉢	Ⅶd	C-7	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○			○		29829		81
	914	深鉢	Ⅶd	D-15	Ⅳa	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○			○				4170		81
	915	深鉢	Ⅶd	B-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○		○					13004		81
	916	深鉢	Ⅶd	B-12	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○			○	○		11504		81
	917	深鉢	Ⅶd	D-7	Ⅳb	ナデ後ナミ	ナデ後ナミ	橙	橙	○	○		○				25413		81
	918	深鉢	Ⅶd	D-10	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○	○	○		○		27406		81
	919	深鉢	Ⅶd	C-15	Ⅳb	ナデ	ヘラナデ	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			○			9110		81
2-60	920	深鉢	Ⅸa	E-3	Ⅷa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙		○	○					52864		–
	921	深鉢	Ⅸa	D-12	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	褐灰	○	○		◎		○		15525		83
	922	深鉢	Ⅸa	D-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○		○		○		32422焼		83
	923	深鉢	Ⅸa	D-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	◎				31752		–
	924	深鉢	Ⅸa	E-16	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○			○			6407		83
2-60	925	深鉢	Ⅸa	D-15		貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	–
	926	深鉢	Ⅸa	E-6	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	橙	○	○	○	○				31039		83
	927	深鉢	Ⅸa	B-7	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		○				31925		83
	928	深鉢	Ⅸa	D-15	–	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○			○			SD3_埋土	SD3→近世SD13	–
	929	深鉢	Ⅸa	B-10	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄橙	灰	○	○	○	○				28812		83
	930	深鉢	Ⅸa	D-3	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐	褐	○	○		○				41029		83
2-61	931	深鉢	Ⅸa	C-16	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○					7962		83
	932	深鉢	Ⅸa	C-15	–	貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	にぶい赤褐	○			○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	–
	933	深鉢	Ⅸa	D-14	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○			◎				35957焼		–
	934	深鉢	Ⅸa	E-4	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい赤褐	○	○		○				50116		83
	935	深鉢	Ⅸa	D-12	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○	○			15523		–
	936	深鉢	Ⅸa	E-10	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐	にぶい赤褐	○			◎				53312		–
	937	深鉢	Ⅸa	C-16	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○	○	○				8831焼		83
	938	深鉢	Ⅸa	C-5	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○	○	◎				31510		–
	939	深鉢	Ⅸa	12T	Ⅳ	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○					12T_152焼	確認調査トレンチ	83
	940	深鉢	Ⅸa	D-E-5	Ⅱ～Ⅳ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○		○				–		83
	941	深鉢	Ⅸa	D-7	Ⅳb	貝殻条痕	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○			◎				32588		83
	942	深鉢	Ⅸa	D-14	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○				9493		–

第2－6表　後期包含層土器観察表6

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等 外面	器面調整等 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 褐色粒	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	取上番号	備考	写真図版
2-61	943	深鉢	Ⅸa	B-8	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○				30637		83
2-62	944	深鉢	Ⅸa	B-3	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○	○		○		33234		-
	945	深鉢	Ⅸa	D-12	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○		○	◎				23275他		-
	946	深鉢	Ⅸa	B·C-6·7	Ⅳa	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○		○	◎		○		21664他		-
	947	深鉢	Ⅸa	C·D-6·7	Ⅳa	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい赤褐	○		○	◎		○		22052他		85
2-63	948	深鉢	Ⅸb	C-15	-	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		SD3_埋土	SD3→近世SD13	84
	949	深鉢	Ⅸb	C-11·E-13	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○				5765他		-
	950	深鉢	Ⅸb	D-6·7	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○				25412他		85
	951	深鉢	Ⅸb	C-9	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黒褐	○			○				29676		84
	952	深鉢	Ⅸb	B-10	Ⅳb	貝殻条痕	ナデ	橙	にぶい黄褐	○	○						34760		-
	953	深鉢	Ⅸb	D-12	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	褐灰	○	○	○	○				11411		-
	954	深鉢	Ⅸb	D-6·7	Ⅳa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○		○		○		21946他		84
2-64	955	深鉢	Ⅸb	SH11	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	橙	○	○	○					SH11_埋土他	SH11→古墳SH17	-
	956	深鉢	Ⅸb	C-19	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	橙	明赤褐	○	○	○					4939他		-
	957	深鉢	Ⅸb	B-12	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○			○		3807		84
2-65	958	深鉢	Ⅸb	B-11	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○			○	○		15605		84
	959	深鉢	Ⅸb	C-12·14	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	灰褐	○	○	○					15180他		85
	960	深鉢	Ⅸb	B·C-10·11	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○					15679他		85
	961	深鉢	Ⅸb	B-11	Ⅳa·Ⅳb	貝殻条痕	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○			○	○		5059他		84
	962	深鉢	Ⅸb	C-11	Ⅳa·Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			○	○		5554他	年代測定試料	84
	963	深鉢	Ⅸb	B-11	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○		○		○			12505		84
	964	深鉢	Ⅸb	B-10	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい橙	○	○				○		29566	搬入品の可能性あり	84
	965	深鉢	Ⅸb	B-5·C-9	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	黒褐	にぶい黄橙	○	○						28776他	年代測定試料	84
2-66	966	深鉢	Ⅸb	D-8·9	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○				25955他		-
	967	深鉢	Ⅸb	C-12·D-9	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙	橙	○	○	○	○				11454他		84
	968	深鉢	Ⅸb	D-7	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○				○		32608他		84
	969	台付皿	Ⅸb	E-10	Ⅷb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	黒褐	黒褐	○	○			○		礫	54405	赤色顔料付着 搬入品の可能性あり	84
	970	深鉢	Ⅸb	D-14	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	橙	○		○	○		○		10061		84
	971	深鉢	Ⅸb	F-9	Ⅶa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○	○			○	礫	54769		84
2-67	972	深鉢	Ⅸ	C·D-7·9	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	橙	灰褐	○		○	○				22532他		85
	973	深鉢	Ⅸ	C·D-7·8	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	黒褐	褐灰	○		○	○				35450他		85
	974	深鉢	Ⅸ	D-9	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○			○	○		34814他		-
2-68	975	深鉢	Ⅹ	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		38434		85
	976	深鉢	Ⅹ	SD12埋	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○	○		○		-		85
	977	深鉢	Ⅹ	D-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	○		○	○			礫	40131		85
2-69	978	深鉢	Ⅺ	D-8	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○			○		○	礫	一括		86
	979	深鉢	Ⅺ	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○		○		○		SD3_埋土	SD3→近世SD13	86
	980	深鉢	Ⅺ	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	褐灰	○	○		○		○		SD3_埋土	SD3→近世SD13	86
	981	深鉢	Ⅺ	C-16	Ⅳa	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○			○		1579	圧痕分析試料	86
	982	深鉢	Ⅺ	C-8	Ⅴa	ナデ	貝殻条痕	灰褐	明赤褐	○		○	○				48651		86
	983	深鉢	Ⅺ	4T	Ⅵ	貝殻条痕	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		○			-		86
	984	深鉢	Ⅺ	E-5	Ⅳb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○					37265		86
	985	深鉢	Ⅺ	C-17	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○		○		8102		86
	986	深鉢	Ⅺ	F-37	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○					102650	赤色顔料付着	86
2-70	987	深鉢	無文	C-14	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○		○	礫	10316他		-
	988	深鉢	無文	C-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○	礫	7169		-
	989	深鉢	無文	E-3	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○				○		27723他		-
	990	深鉢	無文	C-4	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	褐灰	○	○						37875他		-
	991	深鉢	無文	C-20	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○		○		○	礫	8335他		-
	992	深鉢	無文	D-16	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○		○		一括他		-
	993	深鉢	無文	B-3	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	灰褐	○	○	○	○		○		40470		-
2-71	994	深鉢	無文	D-12	Ⅳa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			○	礫	5274他		-
	995	深鉢	無文	F-11	Ⅵ	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○			○		14294		-
	996	深鉢	無文	D-3	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○				27648		-
	997	深鉢	無文	D-16	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○		○				4275		-
2-72	998	深鉢	無文	D-16	Ⅳb	工具ナデ	工具ナデ	黒褐	褐灰	○	○						6721他		-
	999	深鉢	無文	B-3	Ⅳb	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐	にぶい褐	○	○				○		40640他		-
	1000	深鉢	無文	B-6·D-15	Ⅳa·Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○				○		2337他		-
	1001	深鉢	無文	C-4	Ⅳb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	○	○	○	○		○		32476		-
2-73	1002	脚	-	C-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○					8824		86
	1003	台付皿	Ⅷ	E-6	Ⅳb	工具ナデ後ナデ	ナデ	橙	橙	○		○	○			礫	22585		86
	1004	台付皿	Ⅷ	B-6	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	褐	○	○	○	○			礫	26776		86
	1005	深鉢	Ⅴ	C-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○	○			○	礫	27055	底面輪底か？	86
	1006	台付皿	Ⅺ	D-10	Ⅳa	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○			○				34800	赤色顔料付着	86
	1007	台付皿	Ⅷ	B-6	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	褐	○		○	○			礫	25861他	脚部	86
	1008	深鉢	Ⅷ	D-2	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○	○		○		42598	脚部	86
	1009	台付皿	Ⅺ	C-15	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄橙	○		○	○				1031	圧痕分析試料	86
	1010	深鉢	Ⅷ	E17	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○	礫	5007		86
	1011	深鉢	Ⅷ	C-16	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○	○				9607		86
	1012	台付皿	Ⅷc	B-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	明褐	○	○					礫	31211	脚部	86
	1013	台付皿	Ⅷ	E-4	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	赤褐	○	○				○		37022	脚部	-
	1014	脚	Ⅸ	E-10	Ⅵ	ナデ	ナデ	橙	赤褐	○	○	○			○		46000		86
	1015	台付皿	Ⅸ	C-15	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○				○		8990	脚部	-
	1016	台付皿	Ⅸ	D·E-5	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○				○		—	脚部	86
	1017	台付皿	Ⅸ	D-10	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○		○	○		○	礫	29162	脚部、赤色顔料付着	86
	1018	台付皿	Ⅸ	C-4	Ⅳb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○		○				37772	脚部	86
2-74	1019	不明	特殊土器	B-7	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○				礫	29950他	舟・獣頭様　擬似縄文を施す　搬入品	86

第２－７表　土器底部観察表１

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 褐色粒	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	底径(cm)	器高(cm)	取上番号	備考	写真図版
2-76	1020	網代	C-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			11.40	(8.50)	37912		88
	1021	網代	12T	Ⅳ	赤褐	にぶい黄褐	○	○		○				10.10	(10.50)	12T-035他		-
	1022	網代	D-E-7	Ⅳa	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○			礫	9.50	(13.20)	21983他		-
	1023	網代	C-15	Ⅳb	にぶい黄褐	赤褐	○	○		○				10.40	(12.20)	12047他		-
2-77	1024	網代	B-C-6	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○	○				礫	12.70	(12.30)	29439他		-
	1025	網代	C-15	Ⅳb	褐	黒褐	○		○	○			礫	(8.80)	(12.10)	1424他		-
	1026	網代	C-7	Ⅵa	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		(9.00)	(9.20)	53653他		-
	1027	網代	C-3	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	◎				10.90	(4.60)	41696		-
	1028	網代	B-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				(10.00)	(5.20)	43644他		-
	1029	網代	C-7	Ⅳb	明褐	明褐	○	○	○	○				(9.00)	(4.80)	35419		-
	1030	網代	F-5	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○			◎				10.20	(5.50)	45658		88
	1031	網代	C-4·D-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		○			礫	12.00	(4.90)	36108他		-
2-78	1032	網代	B-5	Ⅳb	褐	褐	○		○	○				7.80	(6.80)	32850		-
	1033	網代	F-4	Ⅳb	明赤褐	明赤褐	○		○	○				12.20	(5.80)	25931		-
	1034	網代	D-14	Ⅳb	にぶい黄褐	褐	○	○						9.80	(5.10)	9986		-
	1035	網代	C-7	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○						8.20	(4.40)	29809		-
	1036	網代	F-7	Ⅶb	赤褐	赤褐	○	○						6.40	(5.30)	53527		-
	1037	網代	B-5	Ⅳb	褐	にぶい黄褐	○		○	○				9.00	(4.50)	33776他		88
	1038	網代	C-16	Ⅳb	褐	褐	○	○						7.50	(4.40)	13078		88
	1039	網代	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○				6.50	(4.50)	38363		-
	1040	網代	D-14	Ⅳb	黄褐	にぶい橙	○		○	○				(6.40)	(3.70)	10023		-
	1041	網代	B-5	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				9.00	(4.80)	33802		-
	1042	網代	E-14	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	○				10.00	(2.70)	14002		88
	1043	網代	D-16	Ⅳa	褐	褐	○	○	○	◎				9.80	(5.00)	3154		-
	1044	網代	B-19	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	◎		○		9.90	(3.90)	4924他		88
	1045	網代	B-6	Ⅳb	にぶい橙	にぶい橙	◎	○	○	◎				(11.00)	(4.30)	31959	クロゴキブリ卵鞘圧痕土器	88
2-79	1046	網代→ナデ	D-3	Ⅳb	褐	赤褐	○	○		○		○		10.70	(9.80)	41892		-
	1047	網代→ナデ	B-4·5	Ⅳb	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○	○				9.20	(9.90)	31385他		88
	1048	網代→ナデ	C-32	Ⅳb	にぶい赤褐	暗赤褐	○	○	○	○				7.80	(5.80)	104319		-
	1049	網代→ナデ	B-6	Ⅳa	赤褐	褐	○	○			○	○		7.20	(7.30)	23373他		-
	1050	網代→ナデ	12T	Ⅳ	にぶい黄褐	明赤褐	○	○		○		○		(12.00)	(7.50)	12T-089他		-
	1051	網代→ナデ	B-3	Ⅳb	にぶい黄褐	赤褐	○		○	○				10.80	(4.50)	33363		-
	1052	網代→ナデ	D-17	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○	○	◎			礫	10.20	(6.30)	7800		-
	1053	網代→ナデ	B-7	Ⅳb	にぶい黄褐	明赤褐	○	○			○	○	礫	9.20	(4.10)	32694他		-
2-80	1054	網代→ナデ	B-4	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○			礫	9.10	(3.60)	32215他		-
	1055	網代→ナデ	B-6	Ⅳa	褐	褐	○	○	○					9.60	(4.00)	25493他		-
	1056	網代→ナデ	C-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			8.20	(5.50)	39930他		-
	1057	網代→ナデ	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		○				9.40	(5.20)	32073他		-
	1058	網代→ナデ	D-14	Ⅳb	にぶい褐	橙	○	○		○			礫	9.20	(2.70)	4704		-
	1059	網代→ナデ	B-3	Ⅳb	にぶい褐	灰黄褐	○	○			○			(8.00)	(4.10)	41206		-
	1060	網代→ナデ	12T	Ⅳ	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		7.60	(3.00)	12T-撹土		-
	1061	網代→ナデ	D-3	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	○	○					7.50	(2.40)	27644		-
	1062	網代→ナデ	C-15	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄褐	○			◎				10.00	(9.80)	17828		-
	1063	網代→ナデ	B-5	Ⅳb	にぶい褐	明赤褐	○	○			○	○		8.00	(7.20)	30205他		-
	1064	網代→ナデ	D-5	Ⅳa	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				10.00	(5.70)	25540		-
	1065	網代→ナデ	B-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○						9.90	(2.10)	40548		-
	1066	網代→ナデ	C-10	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○		10.00	(3.70)	28800		-
	1067	網代→ナデ	D-11	Ⅳa	にぶい黄橙	褐灰	○	○				◎		(11.00)	(3.60)	5335		-
2-81	1068	網代→ナデ	C-9	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		○			9.10	(4.10)	28173		-
	1069	網代→ナデ	F-7	Ⅳa	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○			礫	8.20	(5.10)	23487他		-
	1070	網代→ナデ	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○				(9.00)	(3.70)	35553他		-
	1071	網代→ナデ	D-35	Ⅳa	褐	黒褐	○	○					礫	6.40	(3.50)	101359他	内面に煤付着	-
	1072	モジリ	B-5	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				11.20	(5.10)	32041他		88
	1073	モジリ	C-4	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				10.20	(6.80)	36114他		-
	1074	モジリ	B-9·10,C-10	Ⅳb	にぶい黄褐	褐	○	○	○	◎				9.50	(5.70)	47074他		88
	1075	モジリ	D-5	Ⅳb	褐	褐	○		○	○				9.80	(4.50)	32420		-
	1076	葉脈	C-4	Ⅳb	褐	にぶい褐	○	○	○	○				6.80	(2.90)	26374		88
	1077	葉脈	B-7	Ⅶb	褐	にぶい褐	○		○	◎				6.20	(4.00)	54178		88
	1078	葉脈	E-7	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○					5.60	(4.60)	38210		-
2-82	1079	その他	B-5	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	○		○		12.30	(6.70)	30112他		-
	1080	高台	D-7	Ⅳb	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○	○		○	礫	9.60	(7.70)	47707		-
	1081	高台	F-5	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		8.80	(3.50)	27928		-
	1082	高台	C-6	Ⅳb	明褐	明褐	○	○	○	○				6.80	(3.40)	29468		-
	1083	高台	C-7	Ⅳb	明褐	褐	○	○	○	○				9.40	(2.70)	29805		-
	1084	高台	B-9	Ⅳa	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○	○				8.60	(3.60)	28144		-
	1085	その他	C-4	Ⅳb	褐	褐	○		○	○			礫	10.30	(5.30)	31404		88
	1086	高台	C-8	Ⅳb	褐	褐	○	○		○				9.40	(6.10)	35373		-
	1087	高台	F-15	Ⅳb	にぶい黄褐	褐	○	○	○	○		○		8.90	(4.20)	20364		-
	1088	高台	B-9	Ⅳb	明褐	明褐	○	○	○	○		○		11.90	(4.00)	29644		-
	1089	高台	C-9	Ⅶb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		8.30	(3.20)	54800		-
	1090	高台	C-11	Ⅳb	褐	にぶい黄褐	○	○	○			○		7.30	(3.40)	24977他		-
2-83	1091	高台	D-15	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				9.20	(5.50)	6889		-

第2－8表　土器底部観察表2

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							底径(cm)	器高(cm)	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-83	1092	高台	E-8	Ⅳa	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		○			9.30	(5.50)	28039		-
	1093	高台	C-6	Ⅳa	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○	礫	7.20	(2.70)	25562		-
	1094	高台	D-8	Ⅳb	にぶい黄褐	褐	○	○	○		○		礫	8.00	(3.20)	28636他		-
	1095	高台	C-6	Ⅳa	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○		○		○		9.90	(4.30)	23402他		-
	1096	高台	E-11	Ⅳb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○				9.60	(3.30)	18288		88
	1097	高台	D-15	Ⅳb	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○	○	○		8.00	(2.90)	11929		88
	1098	高台	C-9	Ⅵ	褐	褐	○	○	○	○				6.80	(3.40)	48769		-
	1099	高台	F-14	Ⅳb	褐	褐	○		○	○				7.80	(2.40)	24932		-
	1100	高台	C-12	Ⅳb	にぶい黄褐	オリーブ褐	○	○	○	○		○		8.20	(2.50)	10709		-
	1101	高台	C-16	Ⅳb	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○	○			8.80	(3.00)	4090		-
	1102	高台	B-7	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	○		○		6.70	(3.10)	31931		-
	1103	高台	C-8	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		8.20	(2.50)	28322他		-
	1104	高台	C-10	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				8.40	(2.50)	27525		-
	1105	高台	B-9	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○		○			7.70	(3.40)	47078他		-
	1106	高台	B-3	Ⅳb	褐	褐	○	○	○		○	○		6.80	(4.30)	40636		-

第2－9表　円盤状土製加工品観察表1

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							最大長(cm)	重量(g)	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-86	1107	Ⅰ-A-a	C-17	Ⅳb	にぶい橙	橙	◎	○	○	○	○	○	礫	5.50	32.32	8096	Ⅵa	-
	1108	Ⅰ-A-a	C-4	Ⅳb	褐灰	黄橙	◎	○	○	○				4.00	20.49	31464	Ⅵc	-
	1109	Ⅰ-A-a	C-4	Ⅳb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				5.20	25.14	43172	Ⅵc	-
	1110	Ⅰ-A-b	C-15	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	◎	○		○		○	礫	6.30	38.10	18670		-
	1111	Ⅰ-A-a	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○		○			礫	5.10	29.00	18670		87
	1112	Ⅰ-A-b	D-5	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○	○				4.80	23.90	32429		-
	1113	Ⅰ-A-a	B-5	Ⅳb	褐灰	にぶい褐	○		○	◎		○	礫	4.50	19.46	40093	Ⅶb	-
	1114	Ⅰ-A-b	D-16	Ⅳb	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		◎		5.00	20.52	5602	Ⅶb	-
	1115	Ⅰ-A-b	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	○				4.70	17.93	39425		-
	1116	Ⅰ-A-c	D-16	Ⅳb	橙	橙	◎	○	○	○		○		4.20	22.75	6961		-
	1117	Ⅰ-A-b	D-12	Ⅳb	にぶい赤褐	黒褐	○		○	◎		○		4.20	17.33	24465		-
	1118	Ⅰ-A-b	C-15	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○	○		○		5.60	30.99	14710		87
	1119	Ⅰ-A-a	E-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		6.20	47.40	27707		87
	1120	Ⅰ-A-b	D-14	Ⅳb	にぶい褐	灰黄褐	◎	○		◎		○		5.50	24.25	10024	Ⅷc	-
	1121	Ⅰ-A-a	D-12	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		4.60	34.80	20911		-
	1122	Ⅰ-A-c	C-15	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	○		○		4.80	25.13	19629		-
	1123	Ⅰ-A-c	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○		4.20	18.26	38432		-
	1124	Ⅰ-A-b	12T	Ⅳ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4.00	13.61	143		-
	1125	Ⅰ-A-a	B-10	Ⅳb	灰褐	にぶい褐	◎		○	○				4.80	24.26	45284	Ⅷa	-
	1126	Ⅰ-A-a	F-7	Ⅵ	明赤褐	明赤褐	○		○		○			4.50	20.19	48828	Ⅷ	87
	1127	Ⅰ-A-a	E-6	Ⅳb	灰黄褐	にぶい黄褐	○			○				4.90	29.28	44858		87
	1128	Ⅰ-A-b	D-2	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○						4.20	17.73	42887		-
	1129	Ⅰ-B-a	B-3	Ⅶb	にぶい褐	黒	○	○	○					4.80	31.02	33362		-
	1130	Ⅰ-B-a	D-9	Ⅳa	黒褐	褐	○	○	○	○		○		4.20	17.23	22626		-
	1131	Ⅰ-B-c	E-6	Ⅷ	明褐	黒褐	○							4.80	31.21	52961		-
	1132	Ⅰ-B-b	F-7	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○					4.60	29.94	47415		-
	1133	Ⅰ-B-a	F-4	Ⅳb	赤褐	赤褐	○		○	○				4.30	20.80	43041		-
2-87	1134	Ⅱ-A-a	C-2	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○		◎		○		5.40	33.92	31606		87
	1135	Ⅱ-A-a	B-10	Ⅳa	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○			礫	5.20	20.88	27802	Ⅴ	87
	1136	Ⅱ-A-a	B-4	Ⅳb	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		4.00	17.11	39341	Ⅴ	87
	1137	Ⅱ-A-a	C-5	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○		4.70	23.68	32948		-
	1138	Ⅱ-A-a	D-14	Ⅳb	にぶい褐	黒褐	○	○	○		○	○		5.80	26.24	11066		-
	1139	Ⅱ-A-a	C-16	Ⅳb	赤褐	褐灰	○		○	○		○	礫・黒雲母	4.60	28.19	9571	Ⅷ	-
	1140	Ⅱ-A-a	D-16	Ⅳb	暗褐	暗褐	○		○	○		○		6.70	50.56	6198		-
	1141	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅳb	褐	褐	○	○	○		○	○	礫	5.20	25.03	32012		-
	1142	Ⅱ-A-a	D-8	Ⅳb	橙	にぶい黄褐	○	○	○					5.00	19.43	30554		-
	1143	Ⅱ-A-a	B-6	Ⅳb	にぶい赤褐	褐	◎			○		○		4.60	21.31	36692		-
	1144	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅳb	黒褐	褐	○	○	○		○	○		4.60	24.03	33679		-
	1145	Ⅱ-A-a	C-3	Ⅳb	灰黄褐	赤褐	◎	○		○		○		5.10	32.22	40820	Ⅶb	87
	1146	Ⅱ-A-a	D-12	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○		○			○		3.90	15.39	15557		-
	1147	Ⅱ-A-a	C-11	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○		○	○				4.90	22.87	18425		-
	1148	Ⅱ-A-a	F-7	Ⅳa	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○				3.80	18.25	23549		-
	1149	Ⅱ-A-a	D-17	Ⅳb	褐	褐	◎	○	○	○		○		6.30	35.61	7794	Ⅷ	87
	1150	Ⅱ-A-a	C-17	Ⅳb	褐	褐	○	○	○	◎		○		6.00	39.46	8567		-
	1151	Ⅱ-A-a	E-10	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○						4.80	26.55	35029		87
	1152	Ⅱ-A-a	B-17	Ⅳb	黒褐	にぶい赤褐	◎	○	○	○		○		4.90	35.33	9419	Ⅷ	-
	1153	Ⅱ-A-a	D-10	Ⅳb	灰褐	黒褐	○	○				○		4.50	21.63	44390		-
	1154	Ⅱ-A-a	F-11	Ⅳa	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4.10	16.43	23855		-
	1155	Ⅱ-A-a	C-11	Ⅵ	赤褐	黒褐	○	○						4.80	21.07	25002	Ⅷ	87
	1156	Ⅱ-A-a	B-4	Ⅳb	にぶい褐	黒褐	○	○						5.10	25.30	35628		-
	1157	Ⅱ-A-a	C-5	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		◎		○	礫	4.30	19.91	36870		-

第２−10表　円盤状土製加工品観察表２

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							最大長（cm）	重量（g）	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-87	1158	Ⅱ-A-a	B-17	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○				5.00	23.98	9421		-
	1159	Ⅱ-A-a	B-3	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○		○	○	○		4.80	31.53	33192		-
	1160	Ⅱ-A-a	F-18	Ⅳb	赤褐	赤褐	○		○	○		○		5.00	30.53	20464		-
2-88	1161	Ⅱ-A-a	D-15	Ⅳb	黒褐	にぶい黄褐	○							6.00	48.18	14687	Ⅵ	87
	1162	Ⅱ-A-b	8T	Ⅳ	にぶい黄褐	明赤褐	◎	○		○				5.80	36.58	7	Ⅵ	-
	1163	Ⅱ-A-a	C-16	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○				4.90	27.37	11818	Ⅵ	-
	1164	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅳb	褐	黒褐	○	○	○	○				5.20	28.63	30161	Ⅵ	-
	1165	Ⅱ-A-a	C-15	Ⅳb	暗赤褐	褐	◎		○	◎		○		5.20	29.97	14752	Ⅶb	-
	1166	Ⅱ-A-b	B-10	Ⅵ	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○						5.60	32.75	53982	Ⅴb	87
	1167	Ⅱ-A-b	B-4	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○			○		4.70	29.61	41012	Ⅴb	-
	1168	Ⅱ-A-b	D-9	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄褐	○		○	○			礫	5.20	25.94	47232	Ⅴa	-
	1169	Ⅱ-A-b	B-5	Ⅳb	黒褐	にぶい褐	○		○	○				4.90	23.29	44914	Ⅶb	-
	1170	Ⅱ-A-a	C-14	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○					4.40	23.50	13688	Ⅴb	-
	1171	Ⅱ-A-b	C-16	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○			○				3.40	12.03	8771		-
	1172	Ⅱ-A-b	C-16	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○						4.40	29.81	9568		-
	1173	Ⅱ-A-a	C-8	Ⅳb	黒褐	にぶい赤褐	○	○		◎		○		6.00	45.54	34747	Ⅷ	87
	1174	Ⅱ-A-a	C-4	Ⅳb	黒褐	にぶい褐	○			○				6.00	37.02	44608	Ⅵ	87
	1175	Ⅱ-A-a	B-9	Ⅵ	にぶい橙	にぶい赤褐	○			○			礫	5.80	26.58	一括	Ⅶb	87
	1176	Ⅱ-A-a	B-4	Ⅳb	黒褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		4.50	20.31	31160	Ⅵc	-
	1177	Ⅱ-A-b	C-16	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				○		4.20	16.59	8507		-
	1178	Ⅱ-A-b	B-11	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○				○		礫	4.40	18.94	10813		-
	1179	Ⅱ-A-b	12T	Ⅵ	にぶい褐	にぶい橙	○			○		○		2.70	7.14	-		-
	1180	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○			○		6.70	45.04	33751		-
	1181	Ⅱ-A-a	B-3	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○				4.70	19.53	41541		-
	1182	Ⅱ-A-a	C-5	Ⅳb	暗赤褐	にぶい褐	○	○				○		4.90	32.11	30405		-
	1183	Ⅱ-A-a	C-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	○				5.30	39.64	32504		-
	1184	Ⅱ-A-a	C-10	Ⅳb	褐・にぶい褐	にぶい黄褐	○			○			礫	5.50	26.99	47036		-
	1185	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	にぶい赤褐	灰褐	○	○			○	○		5.90	31.06	42540		-
	1186	Ⅱ-A-b	B-4	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい褐	○		○	○		○		4.50	22.25	38399		-
	1187	Ⅱ-A-a	D-15	Ⅳb	にぶい褐	灰褐	○			○				5.20	17.96	10112		-
2-89	1188	Ⅱ-A-b	D-7	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	◎		○		5.20	24.87	22539		-
	1189	Ⅱ-A-b	C-3	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		3.40	9.96	42799	Ⅵ	-
	1190	Ⅱ-A-b	D-10	Ⅳa	橙	にぶい黄褐	○	◎					礫	4.50	21.01	22679		-
	1191	Ⅱ-A-b	D-16	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○	○					5.80	37.20	17003		-
	1192	Ⅱ-A-b	C-10	Ⅳb	明赤褐	にぶい赤褐	○		○	○			礫	6.40	55.17	34785		-
	1193	Ⅱ-A-b	B-13	Ⅳb	にぶい黄褐	暗オリーブ褐	○		○	○				5.30	32.38	15283		-
	1194	Ⅱ-A-b	B-4	Ⅳb	褐	褐	○		○		○			5.00	29.06	32324	Ⅷ	-
	1195	Ⅱ-A-b	D-6	Ⅳb	褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		6.30	45.48	46824		-
	1196	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		5.10	24.00	41990	Ⅷ	-
	1197	Ⅱ-A-b	C-14	Ⅲ	褐	褐	○	○						5.50	23.79	356		-
	1198	Ⅱ-A-b	D-8	Ⅳb	暗褐	赤褐	○	○	○	◎			礫	4.80	34.19	46160		-
	1199	Ⅱ-A-b	F-10	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4.90	30.73	47322		-
	1200	Ⅱ-A-b	C-11	Ⅳb	暗褐	赤褐	○	○			○	○		4.40	20.83	12468		-
	1201	Ⅱ-A-b	B-12	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		4.70	26.47	12530		-
	1202	Ⅱ-A-b	E-5	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	◎		○	礫	4.80	34.77	37272		-
	1203	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○		4.30	18.54	33314	Ⅷ	-
	1204	Ⅱ-A-b	D-14	Ⅳb	褐	褐	○	○		◎			礫	3.70	14.08	9989		-
	1205	Ⅱ-A-b	B-5	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○		○			4.90	28.66	31997	Ⅷ	87
	1206	Ⅱ-A-b	D-16	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4.70	28.43	6927		-
	1207	Ⅱ-A-b	D-14	Ⅳb	灰黄褐	にぶい褐	○		○	◎				4.60	25.80	一括		-
	1208	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	黒褐	赤褐	○		○	○				4.30	17.30	41260		-
	1209	Ⅱ-A-b	C-15	Ⅳb	黒褐	黒褐	○		○	○		○	礫	4.40	25.08	18671		-
	1210	Ⅱ-A-b	D-10	Ⅳb	明赤褐	褐灰	○	○			○	○	礫	3.70	14.11	46961		-
	1211	Ⅱ-A-b	E-8	Ⅳa	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○		4.20	17.17	22004		-
	1212	Ⅱ-A-b	D-12	Ⅳb	褐	黒褐	◎			○		○	礫	4.60	23.38	24098		-
	1213	Ⅱ-A-b	C-14	Ⅳb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○					5.20	33.24	4609	Ⅷ	-
	1214	Ⅱ-A-b	E-8	Ⅳb	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○	◎				4.60	15.66	30533		-
	1215	Ⅱ-A-b	E-10	Ⅷ	にぶい褐	灰黄褐	◎			◎			礫	4.40	23.08	54065		-
	1216	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○				4.60	22.95	26889		-
2-90	1217	Ⅱ-A-b	D-14	Ⅳb	にぶい赤褐	黒褐	○	○			○			5.10	33.53	11058		-
	1218	Ⅱ-A-b	C-5	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		5.60	40.54	33937		-
	1219	Ⅱ-A-b	F-11	Ⅶa	暗赤褐	暗赤褐	○			○		○		5.40	26.82	23935		-
	1220	Ⅱ-A-b	C-14	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○		○			○		4.90	21.13	10835	Ⅵ	-
	1221	Ⅱ-A-b	B-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		4.00	21.86	40637		-
	1222	Ⅱ-A-b	E-3	Ⅳb	にぶい褐	黄灰	○		○			○	礫	4.20	26.18	37119		-
	1223	Ⅱ-A-b	B-5	Ⅳb	明赤褐	明赤褐	○	○			○	○		5.80	35.71	30256	Ⅷ	87
	1224	Ⅱ-A-b	F-7	Ⅳa	にぶい褐	赤褐	○	○	○	○		○		5.10	27.68	23541		-
	1225	Ⅱ-A-b	D-7	Ⅳb	にぶい赤褐	赤褐	○	○			○	○		5.60	26.40	30934		-
	1226	Ⅱ-A-b	F-11	Ⅶa	にぶい褐	褐	○	○	○	○		○		5.40	38.87	23950	Ⅷ	-
	1227	Ⅱ-A-b	B-7	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		4.10	22.85	26733		-
	1228	Ⅱ-A-b	C-10	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				5.10	28.49	28792	Ⅷ	-
	1229	Ⅱ-A-b	D-3	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○			○		5.10	27.91	39152		-

第２−11表　円盤状土製加工品観察表３

報告番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							最大長(cm)	重量(g)	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-90	1230	Ⅱ-A-b	B-8	8/a	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○	○		○		4.60	17.84	22381		−
	1231	Ⅱ-A-b	C-7	8/b	黒褐	黒褐	○			○	○			4.80	21.51	45776		−
	1232	Ⅱ-A-b	B-9	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		4.70	27.86	30723		−
	1233	Ⅱ-A-b	F-11	8/b	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		5.20	21.94	無し		−
	1234	Ⅱ-A-b	D-15	Yl	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○		○		4.50	20.04	−括		−
	1235	Ⅱ-A-b	12T	8/	にぶい褐	褐	○	○		○				5.20	33.78	74		−
	1236	Ⅱ-A-b	D-9	8/b	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○					礫	5.70	31.66	34849		−
	1237	Ⅱ-A-b	D-14	8/b	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○						4.70	22.25	9064		−
	1238	Ⅱ-A-b	C-16	8/b	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○		○		5.00	30.03	11827		−
	1239	Ⅱ-A-b	F-7	8/a	褐	褐	○		○	○				4.10	16.42	23395		−
	1240	Ⅱ-A-b	C-2	8/b	褐	明赤褐	○	○		○		○		5.10	27.97	42518		−
	1241	Ⅱ-A-b	D-10	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○			礫	4.90	28.17	29123		−
	1242	Ⅱ-A-b	C-16	8/b	褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		5.40	28.54	20286		−
	1243	Ⅱ-A-b	D-15	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				4.40	25.81	14538		−
2-91	1244	Ⅱ-A-b	C-3	8/b	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	○		○		4.80	29.66	42388		−
	1245	Ⅱ-A-c	C-9	8/b	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				4.60	25.63	46837		−
	1246	Ⅱ-A-c	C-13	8/b	黒褐	にぶい黄褐	○	○					礫	5.40	26.46	9653		87
	1247	Ⅱ-A-b	F-6	8/b	褐灰	灰黄褐	○	○		○		○	雲母	6.00	33.10	30029	五	−
	1248	Ⅱ-A-b	3T	8/	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		3.90	15.56	159		−
	1249	Ⅱ-A-b	D-15	8/b	黒褐	黒褐	○		○	○		○		5.10	27.02	3013	確	−
	1250	Ⅱ-A-b	D-12	8/b	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○		○		○	礫	4.40	23.88	10743		−
	1251	Ⅱ-A-c	E-15	8/a	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			○	○		3.90	20.23	336		−
	1252	Ⅱ-A-b	D-9	Y-a	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		5.70	40.23	48450	確	87
	1253	Ⅱ-A-c	D-15	8/b	赤褐	赤褐	○	○	○	○		○		3.80	14.39	14543		−
	1254	Ⅱ-A-c	B-16	8/b	赤褐	赤褐	○	○	○	○		○		4.20	24.20	16173		−
	1255	Ⅱ-A-b	C-15	8/b	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	○		○		3.60	12.74	4662		−
	1256	Ⅱ-A-c	C-16	8/b	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				3.70	16.59	19707		−
	1257	Ⅱ-A-b	C-6	8/a	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		4.70	21.19	21686	確a	−
	1258	Ⅱ-A-b	B-10	8/a	黒褐	黒褐	○	○		○				5.10	28.88	54493		−
	1259	Ⅱ-A-b	D-4	8/b	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○					5.70	29.44	41096		−
	1260	Ⅱ-A-b	D-7	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				5.50	39.56	32807		−
	1261	Ⅱ-A-c	E-10	8/b	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	○				4.00	23.03	54964		−
	1262	Ⅱ-A-b	D-3	8/b	黒褐	褐	○	○	○	○		○		4.50	18.32	39038		−
	1263	Ⅱ-A-b	B-4	8/b	褐	褐	○	○	○	○	○	○		3.90	13.92	38502		−
	1264	Ⅱ-A-b	E-6	9/b	暗赤褐	黒褐	○	○	○	○			礫	4.00	16.28	54581		−
	1265	Ⅱ-A-b	D-14	8/a	明赤褐	黒褐	○	○					礫	4.20	18.61	1011		−
	1266	Ⅱ-A-c	D-13	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○		○		3.70	13.49	22526		−
	1267	Ⅱ-A-c	D-5	8/b	にぶい黄橙	黒褐	○	○		○		○	礫	3.80	12.63	35116		−
	1268	Ⅱ-A-c	C-17	8/b	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		○		○		5.40	36.41	9459		−
	1269	Ⅱ-A-c	B-10	8/b	黒褐	黒褐	○	○	○					4.30	25.63	28527		−
2-92	1270	Ⅱ-A-c	C-4	8/b	黒褐	褐	○	○	○	○		○		4.60	23.70	34141		−
	1271	Ⅱ-A-c	D-8	8/b	黒褐	にぶい褐	○	○		○				7.70	88.26	45471	Yl	87
	1272	Ⅱ-A-c	C-4	8/b	黒褐	明褐				◎		○		5.50	28.94	36359		−
	1273	Ⅱ-A-c	D-3	8/	明赤褐	明赤褐	○	○		◎		○		4.10	27.97	52608		−
	1274	Ⅱ-A-c	D-3	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○				○		3.70	16.40	44652		−
	1275	Ⅱ-A-c	D-15	8/a	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		○		○		7.10	64.63	12832	Yl	−
	1276	Ⅱ-A-c	F-11	Y-a	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○	礫	6.30	39.52	23934	確	−
	1277	Ⅱ-A-c	D-8	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		4.30	21.85	48250		−
	1278	Ⅱ-A-c	B-13	8/a	暗褐	暗褐	○	○		○				4.70	24.86	無し		−
	1279	Ⅱ-A-c	C-8	8/b	暗褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				5.20	28.01	36826		−
	1280	Ⅱ-A-c	B-5	8/b	赤褐	褐	○	○	○	○				4.70	32.78	38963	Wb	87
	1281	Ⅱ-A-c	E-3	8/b	黒褐	明赤褐	○	○			○	○		5.00	40.34	27737	確	−
	1282	Ⅱ-A-c	C-9	8/b	赤褐	黒褐	○	○	○		○			5.20	28.96	47181	確	−
	1283	Ⅱ-A-c	D-3	8/b	にぶい橙	にぶい橙	○	○		○		○	礫	5.00	26.21	39059	Wb	−
	1284	Ⅱ-A-c	E-3	Yl	赤褐	灰褐	○	○	○		◎	○		3.80	13.44	43866	確	87
	1285	Ⅱ-A-c	C-16	8/b	赤褐	にぶい褐	○			○		○		4.80	14.69	11068		−
	1286	Ⅱ-A-c	12T	8/	にぶい橙	にぶい橙	○	○		○				4.50	21.02	33		87
	1287	Ⅱ-A-c	C-16	8/b	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○				礫	4.10	13.58	13366		−
	1288	Ⅱ-A-c	B-17	8/b	にぶい黄褐	縞ガラ褐	○	○	○		○			5.50	27.69	9414		−
	1289	Ⅱ-A-c	E-11	8/a	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○		○		○		5.30	33.86	44393		−
	1290	Ⅱ-A-c	F-9	8/b	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				4.90	21.14	34931		−
	1291	Ⅱ-A-c	D-9	8/a	褐	にぶい黄褐				◎		○		5.10	34.08	28375		−
	1292	Ⅱ-A-c	D-10	8/b	暗褐	黒	○		○	◎				4.60	22.32	45489		−
	1293	Ⅱ-A-c	C-6	8/a	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○		○		○		4.60	22.29	23413		−
	1294	Ⅱ-A-c	C-3	8/b	にぶい赤褐	灰褐	○	○		○		○		5.30	36.13	34469		−
	1295	Ⅱ-A-c	B-12	8/b	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○		○		5.10	31.75	9130		−
	1296	Ⅱ-A-c	F-18	8/b	赤褐	にぶい褐	○	○						5.00	30.53	20454他		−
2-93	1297	Ⅱ-B-a	F-4	8/b	明赤褐	明赤褐	○	○		○		○		6.10	45.39	31878		−
	1298	Ⅱ-B-c	D-9	8/a	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○			○	○		5.40	37.13	24318		−
	1299	Ⅱ-B-b	B-4	8/b	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		5.50	31.57	42265		87
	1300	Ⅱ-B-a	B-8	8/b	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				○		4.70	33.26	28277		−
	1301	Ⅱ-B-b	C-8	8/b	にぶい橙	明赤褐			○	○	○	○		5.90	32.49	28321		−

第２−12表　円盤状土製加工品観察表４

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 褐色粒	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	最大長(cm)	重量(g)	取上番号	備考	写真図版
	1302	Ⅱ-B-b	B-4	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○		○		5.30	37.34	43411		-
	1303	Ⅱ-B-b	E-10	Ⅶb	黒褐	褐	○	○		◎		○		5.50	35.61	54656		-
	1304	Ⅱ-B-b	E-10	Ⅳ	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○		○			5.00	26.99	54396		-
	1305	Ⅱ-B-a	E-16	Ⅳb	赤褐	赤褐	○		○					5.20	31.15	6374		-
	1306	Ⅱ-B-b	12T	Ⅳ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		5.50	27.29	150		-
	1307	Ⅱ-B-b	B-5	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○					4.60	21.49	30258		-
	1308	Ⅱ-B-a	E-9	Ⅳb	黒褐	赤褐	○	○	○	○		○		5.00	35.11	29343		-
	1309	Ⅱ-B-b	D-5	Ⅳb	灰黄褐	明赤褐	○			○		○		4.80	30.80	35191		-
2-93	1310	Ⅱ-B-a	D-16	Ⅳb	暗赤褐	暗赤褐	○	○	○		○			5.00	24.24	7234		-
	1311	Ⅱ-B-c	C-7	Ⅳb	にぶい橙	褐灰	○	○				○		4.60	26.08	46713		-
	1312	Ⅱ-B-b	C-16	Ⅳb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		4.90	39.99	9375		-
	1313	Ⅱ-B-c	B-5	Ⅳb	赤褐	黒褐	○	○		○				4.90	27.75	42029		87
	1314	Ⅱ-B-c	C-4	Ⅳb	にぶい黄橙	黄褐	○	○				○		4.50	18.00	39501	孔あり貫通せず	87
	1315	Ⅱ-B-c	E-16	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○		○	○				4.50	26.94	7526		-
	1316	Ⅱ-B-c	D-15	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	◎				4.00	14.76	12937		-
	1317	Ⅱ-B-c	B-8	Ⅳb	にぶい褐	明赤褐	○	○		○		○		4.40	22.54	29761		-
	1318	Ⅱ-B-c	D-8	Ⅶ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		○	○		3.80	21.24	53718		-
	1319	Ⅲ-a	C-2	Ⅳb	黒褐	にぶい褐	○	○	○					9.70	143.70	43911		-
	1320	Ⅲ-a	D-11	Ⅳb	褐灰	にぶい橙	○		○	○				9.70	131.90	15789	網代	-
	1321	Ⅲ-c	F-4	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			○	○		9.20	129.00	37138		-
	1322	Ⅲ-b	F-4	Ⅶ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○				○		5.80	39.48	51716		-
	1323	Ⅲ-a	C-5	Ⅳa	にぶい褐	にぶい褐	○	○				○		7.60	76.26	33020	網代	-
2-94	1324	Ⅲ-a	C-8	Ⅳb	明赤褐	明赤褐	○	○	○			○	礫	5.60	39.97	攪土	網代	-
	1325	Ⅲ-a	C-23	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○				5.80	37.70	9278	網代	87
	1326	Ⅲ-a	D-5	Ⅳb	明褐	明褐	○	○	○				礫	7.60	49.51	35188	網代	-
	1327	Ⅲ-c	B-3	Ⅳb	褐	褐	○		○	○				5.80	47.14	39769		-
	1328	Ⅲ-b	C-15	Ⅳb	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		6.70	108.81	8864	網代	-
	1329	Ⅲ-b	C-4	Ⅳb	明褐	明褐	○	○	○			○	礫	5.20	39.14	31437		-
	1330	Ⅳ-a	C-4	Ⅳb	褐灰	にぶい赤褐			○	○		○		4.50	11.17	34236		-
	1331	Ⅳ-b	D-4	Ⅳb	褐灰	にぶい褐	○	○		○		○		5.20	28.86	46941	Ⅵc	-
	1332	Ⅳ-b	F-11	Ⅳa	にぶい褐	灰黄褐	○		○					4.10	16.49	攪土	Ⅸa	-
	1333	Ⅳ-b	C-14	Ⅳb	にぶい橙	にぶい黄橙	○		○		○	○	礫	5.70	28.22	18718		-
	1334	Ⅳ-c	D-13	攪土	にぶい橙	にぶい橙	○		○	○			礫	5.50	34.93	18159	Ⅷa	-
	1335	Ⅳ-c	C-14	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○					4.40	14.49	8930		-
	1336	Ⅳ-c	B-3	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○	○	○		○		5.50	17.04	42522		-
2-95	1337	Ⅳ-c	B-3	Ⅳb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				5.80	36.62	40578	Ⅷ	-
	1338	Ⅳ-a	B-3	Ⅳb	赤褐	赤褐	○	○						6.10	17.76	不明		-
	1339	Ⅳ-a	D-16	Ⅳa	明赤褐	灰褐	○	○						5.00	17.39	2222		-
	1340	Ⅳ-c	C-3	Ⅳb	にぶい橙	黒褐	○	○						4.50	10.10	41736		-
	1341	Ⅳ-c	B-6	Ⅳb	にぶい褐	黒褐	○	○	○	○				5.40	21.72	26760		-
	1342	Ⅳ-c	B-6	Ⅳb	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○				5.30	17.59	34683		-
	1343	Ⅳ-a	C-4	Ⅳb	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○	○		○		8.10	94.22	33560		-
	1344	Ⅳ-a	B-2	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○				8.10	57.38	31584	Ⅴ	87
	1345	Ⅳ-b	B-13	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○						7.30	51.44	9831		-
	1346	Ⅴ-a	C-5	Ⅳb	にぶい褐	にぶい橙	○		○				礫	4.70	14.38	33633	Ⅷa	-
	1347	Ⅴ-a	B-5	Ⅳb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○		○		6.70	29.73	30145	Ⅶb	-
	1348	Ⅴ-a	B-10	Ⅳb	にぶい橙	にぶい橙	○		○			○	礫	5.40	35.11	34756	Ⅷa	-
	1349	Ⅴ-b	8T	-	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	○				7.30	52.32	不明-029	Ⅶb	-
	1350	Ⅴ-b	E-6	Ⅳa	にぶい橙	灰黄褐	○	○		○			礫	6.10	45.89	22087	Ⅶb	-
	1351	Ⅴ-b	B-5	Ⅳb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				6.80	31.87	34486	Ⅶb	-
	1352	Ⅴ-a	C-5	Ⅳb	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○				9.80	85.62	30341	Ⅶb	-
	1353	Ⅴ-a	C-6	Ⅳb	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				6.80	31.56	29875		-
	1354	Ⅴ-a	B-7	Ⅳb	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		4.70	29.76	31914	Ⅵa	-
2-96	1355	Ⅴ-b	C-16	Ⅳb	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○				8.00	72.31	13189		-
	1356	Ⅴ-b	D-15	Ⅳa	灰褐	にぶい褐	○		○	○		○		5.70	27.76	4163	Ⅵ	-
	1357	Ⅴ-b	B-6	Ⅳa	にぶい橙	黒褐	○	○	○			○		4.60	31.22	25522		-
	1358	Ⅴ-b	D-8	Ⅳb	褐灰	暗灰黄	○	○	○	○	○			6.70	41.74	29071	Ⅶb	-
	1359	Ⅴ-b	C-4	Ⅳb	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○			○		6.10	23.20	31425	Ⅶb	-
	1360	Ⅴ-a	F-10	Ⅶb	褐	にぶい黄褐	○	○						6.60	40.20	54649		-
	1361	Ⅴ-a	D-18	Ⅳb	黒褐	にぶい赤褐	○		○					5.40	27.88	8234		-
	1362	Ⅴ-b	C-4	Ⅳb	灰褐	にぶい黄褐	○	○	○					6.10	32.41	33903		-
	1363	Ⅴ-a	D-14	Ⅳb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		8.90	94.40	4719		-
	1364	Ⅴ-b	F-8	Ⅳa	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○					6.00	40.99	24116		-
	1365	Ⅴ-b	B-8	Ⅳb	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○	○			6.20	33.72	30630		-

第Ⅶ章　縄文時代後期末～弥生時代初頭の調査

縄文時代後期末から弥生時代初頭の遺物は調査区の全域にみられ，第2-97図に示したように時期ごとにみるとある程度のまとまりがみられる。時期と生活区域は次のとおりである。

Ⅻ類：中岳Ⅱ式土器…5～20区，32～35区
ⅩⅢ類：上加世田式・入佐式土器…6～16区，34～37区
ⅩⅣ類：黒川式土器…8～14区，30～32区
ⅩⅤ類：干河原段階の土器…6～14区
ⅩⅥ類：刻目突帯文土器…6～38区

この時期の遺構は土坑4基，集石2基，石斧埋納遺構1基が検出されているが，時期を判断できる遺物がないものもあり，中には新しい時期の遺構が含まれていることも否めない。また，確認できた総数1,963点，74,150gの土器の内224点を掲載した。なお，石器については，20区から東側で出土したもので，明確に前期および中期に属するもの以外は本章の時期に使用された可能性がある。

第1節　遺構

（1）土坑（第2-99～102図）

土坑59号（第2-99図）

検出状況：SK59はD-12区のⅥ層で検出された。後期前半に造成された地点であり，当時の地表面と検出面に極端な差はなかったと考えられる。長軸は0.33m，短軸0.25m，深さ13cm，推定面積は0.06㎡を測る。楕円率0.76の楕円形である。完形に復元できる土器が出土したが，足りない破片が多く底部が口縁部付近の内面に落ち込んだ状態であり，埋設された可能性は低い。掘り込みはほぼ土器が出土した範囲である。

分類：タイプⅡ

埋土：埋土は褐色のやや軟質である。

出土遺物：1366は口径33.4cm，胴部最大径30.8cm，底径8.2cm，器高27.2cmを測る深鉢形土器である。張り出しのある円盤状の底部から外開きして胴上部で内傾に屈曲する。肩部は1cmほどと短く，わずかに外反しながら立ち上がる。口縁部から口唇部にかけて同じ器厚であり，口唇部は平らに面取りする。口縁部には2か所もしくは4か所に山形の低い突起が付くと想定され，この部分だけ肥厚する。胴部外面がナデによる器面調整であるのに対し，肩部から口縁部の外面に明瞭な貝殻条痕がみられ，口縁部文様帯を意識しているようにも推察される。一方，内面は胴部以下が貝殻条痕で，口縁部はナデによる器面調整である。これらの特徴から宮類の黒川式土器に該当する。

土坑60号（第2-99図）

検出状況：SK60はD-36区のⅣc層で検出された。長軸は0.84m，短軸0.84m，深さ14cm，推定面積0.56㎡を測る。楕円率1.00の円形である。掘り込みの断面は深めの皿状である。

分類：タイプⅢ

埋土：暗褐色の砂質土である。

出土遺物：黒曜石のチップが1点出土した。周囲にはⅫ類の土器が多く，入佐式土器の時期と考えられる。

土坑61号（第2-100・101図）

検出状況：SK61はE-36区のⅣc層で検出された。長軸は1.82m，短軸1.00mで，南側が一段深くなっている。深さは浅いところで34cm，深いところで58cmである。床面はどちらも平坦である。推定面積は1.51㎡を測る。楕円率0.55の楕円形である。深い部分の床面から27cm浮いたところに土器や割れた状態の石器を含む礫が全部で26点出土した。土坑が使われなくなり，自然に埋まる途中で土器などが廃棄された可能性もあるが，土坑の廃棄に伴う祭祀的な意味合いも考えられる。土器や石器は故意に割られた可能性もある。土坑の用途は不明である。

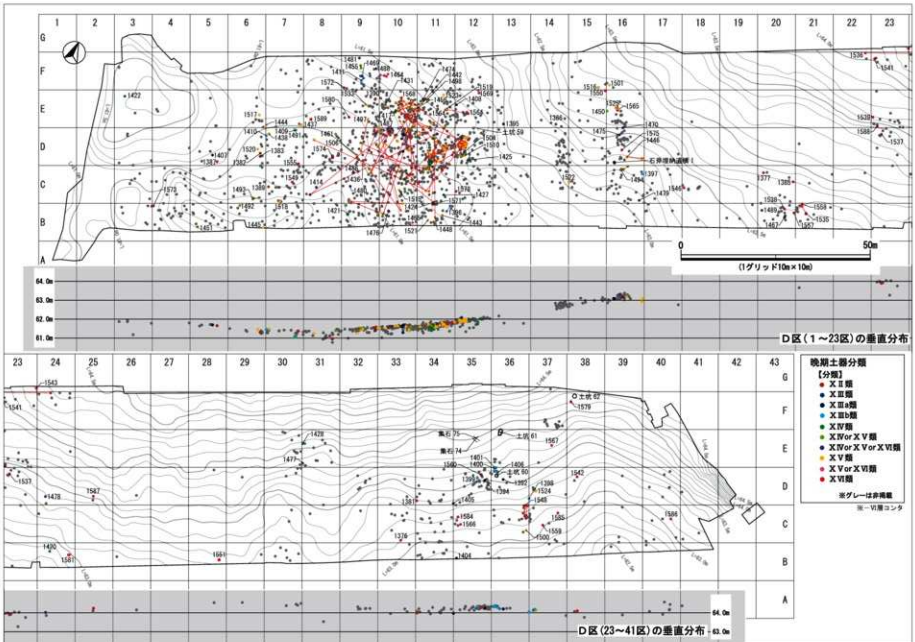
分類：タイプⅡ

埋土：黒褐色の砂質土で，炭化物をわずかに含む。

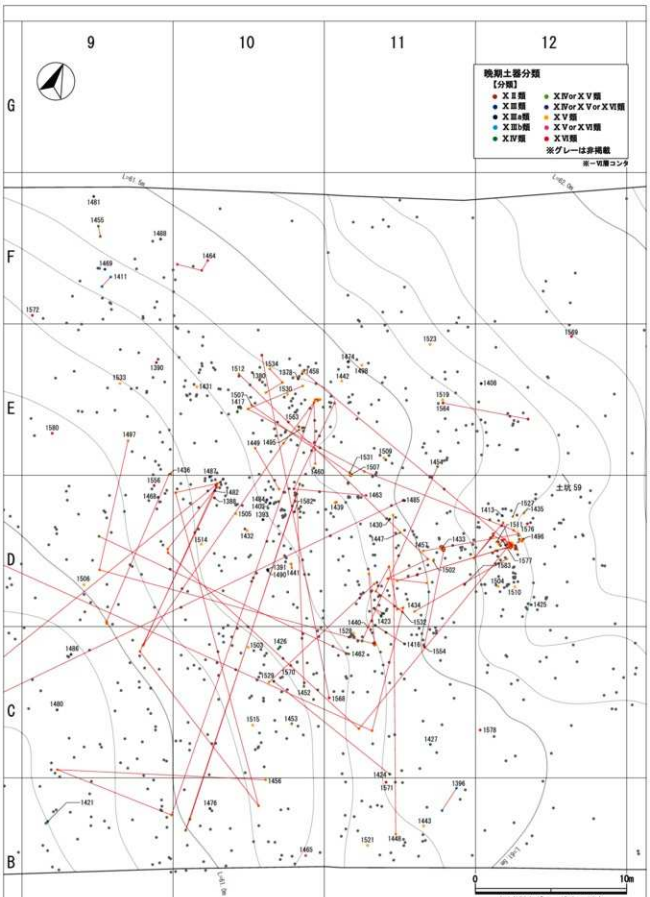
出土遺物：1367～1371は土器および土製加工品である。1367は深鉢の頸部から口縁部にかけての破片である。内傾する肩部から「く」字状に屈曲して直線的に外開きする口縁部に至る。屈曲部の内面はゆるい稜が入り，外面は調整具の痕跡がみられるが意識して段をつくることはない。口縁部はわずかに膨らむが，口縁部文様帯はみられない。内外面ともミガキ様のナデである。胎土に金色の雲母を多く含む。色調は中岳Ⅱ式土器に類似する。器形からⅫ類の入佐式土器と考えられ，口縁部文様帯がみられないことから新段階に該当する。

1368は深鉢の胴上部から口縁下部にかけての肩部に相当する破片である。内湾気味の胴上部から稜をもって内傾する肩部に至る。肩部は25mm幅と短く，「く」字状に屈曲して口縁部に至る。内面の肩部境は内湾するのみで明瞭でないが，内面の口縁部境には稜がみられる。外面の器面調整はヘラミガキで，内面はナデである。色調は栗色（極暗赤褐色）に近く中岳Ⅱ式土器に類似するが，器形は入佐式土器と共通することから，この時期が考えられる。

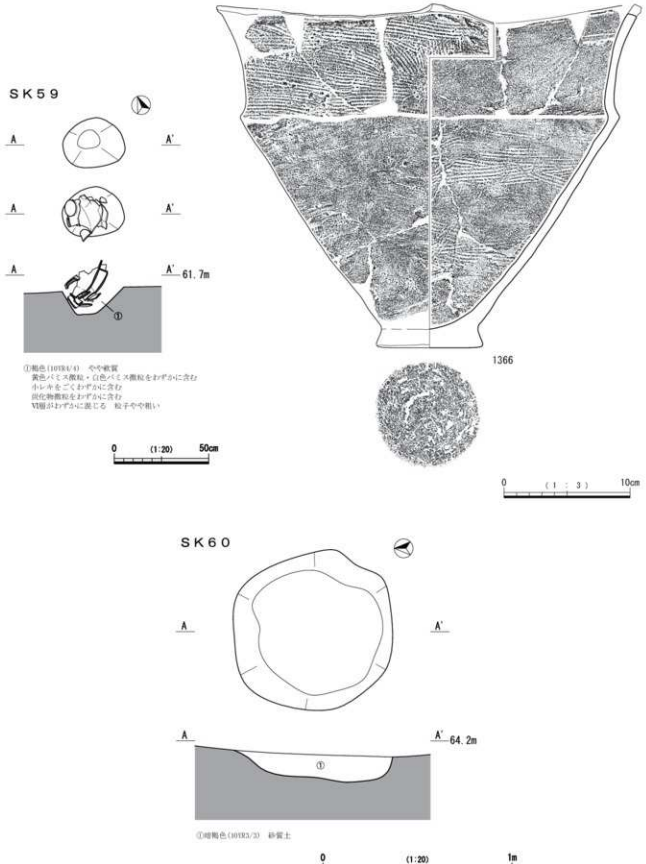
1369は胴上部から内側に屈曲する深鉢の破片である。内湾気味に開く胴上部から内側に屈曲する部分であり，擬似口縁の内側に粘土を貼り付けて成形している状況が観察できる。内外面ともナデによる器面調整である。器



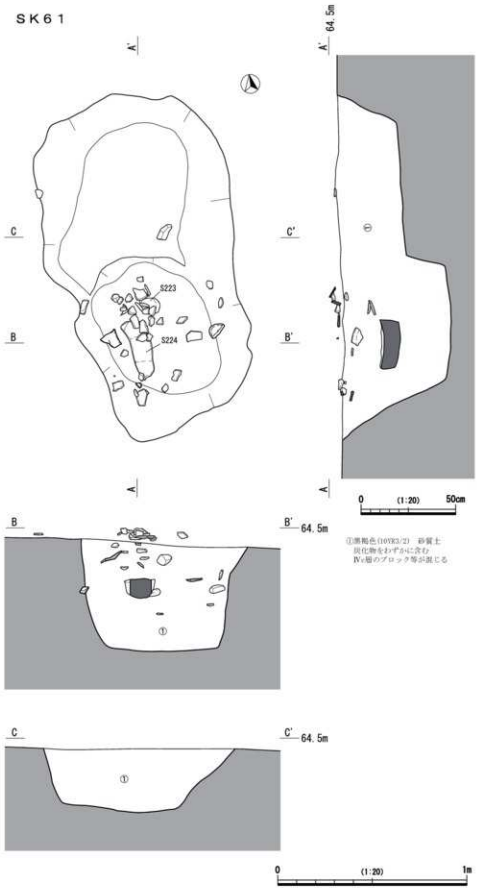
第２－97図　縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構配置図および遺物分布図１



第２－98図　縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構配置図および遺物分布図２（部分拡大）



第２－99図　土坑59・60号と土坑59号出土遺物



第２－100図　土坑61号

形は入佐式土器に類似する。

1367～1369の３点は深鉢形土器であるが，胎土が異なりそれぞれ別個体である。

1370は深鉢の胴部破片を利用したもので，長辺の内面端部に磨滅した痕がある。対象物に約20度の角度で押し当てて，何かを研磨する道具として使用した可能性がある。1371は円盤状土製加工品の未製品としたものである。深鉢の胴部破片を利用したものと考えられる。

S223は安山岩製の磨・敲石類である。13.67㎝×9.59㎝×6.28㎝で，重さは1,235ｇの肉厚である。両面に磨面があり，一端に敲打痕がわずかにみられる。磨面は平坦に近い面と丸みを帯びた面がある。割れた状態で出土し，接合する。尖った様な道具で故意に割られたような状況が窺える。

S224は花崗岩製の石皿Ｖ類である。15.7㎝×33.4㎝×12.1㎝，重さ7,700ｇの四角柱状に割れてはいるが，使用面の凹みは深く27㎜を測る。元々は海岸でみられるような50㎝大の楕円形をした自然石であり，裏面に使用痕はみられない。凹面に磨面と敲打痕がみられ，敲打は磨面を再生し摩擦を得るためとも考えられる。割れ口の４面は赤色化し，被熱している。表裏面の赤色化が弱いのは鉱物の粒子が密になっているためと推察される。分厚い花崗岩が四角柱状に，しかも主使用面だけが残っており，磨石とともに故意に割られた可能性もある。

石皿や磨石を故意に割って立石とするなど，祭祀的

な遺構を残したのは，縄文時代後期前半における小牧遺跡の特徴でもある。そのような行為が，約800年の時を経ても残っている点は，南九州あるいは大隅半島の特色を示している可能性もある。

土坑内の炭化材を年代測定した結果，^{14}C年代が3400±20，2σ暦年代範囲が1749－1638calBC（95.4％）で縄文時代後期中半に相当する年代であり，混入の可能性もある。

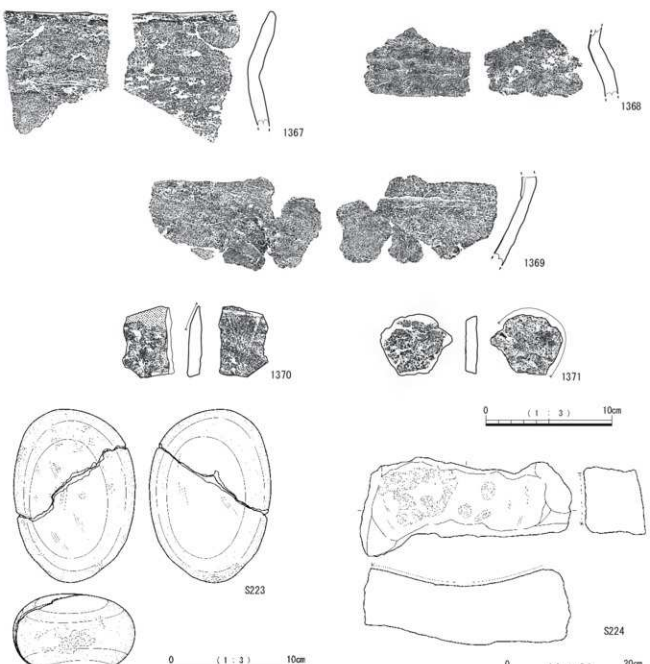
土坑62号（第2-102図）

検出状況：SK62はF-38区のⅣb層で検出された。検出面での長軸は1.05m，短軸1.00m，深さ66cm，推定面積は0.21㎡を測る。楕円率0.88の円形である。床面より15cm上が最も広く，長軸1.16m，短軸1.05mとなる。断面形はフラスコ形で，アカホヤ火山灰層下のⅥ層まで掘り込んでいる。床面は平坦で丁寧に掘られている。

分類：タイプⅢ

埋土：埋土は6層に分かれ，レンズ状に堆積している。埋土の詳細は図中の注記のとおりである。

出土遺物：第3分冊の補遺に図化した刻目突帯文土器（1595）が出土している。S225の石鏃が床直上で出土した。



第2－101図　土坑61号出土遺物

一部が鉄石英のように赤色となる珪質頁岩を素材とする。浅い凹基の三角形をしている。一方の側縁が欠けている点と，凹基部の押圧剥離が丁寧でないことから，製作途中で破損したものとも考えられる。

土坑内の「クリ？炭化子葉」を年代測定した結果，^{14}C年代が3620±20，2σ暦年代範囲が2036－1912calBC（94.8％）で縄文時代後期前半に相当する年代であり，混入の可能性もある。

検出された区域は凹類の土器が多く，埋土から出土した刻目突帯文土器と同じである。埋土下部に黒色の砂質土が含まれることもこの時期の遺構と考えられる。県内での類例はあまりないが，他地域でこの時期のフラスコ状の貯蔵穴が知られている。

（2）集石（第2－103図）

集石74号（第2－103図）

分　類：タイプⅢ

検出状況：SS74はE－35区のⅣc層で検出された。掘り込みがあり，床直上出土もあるが，ほとんどの礫は底面より6cm浮いた位置で重なりながらまとまって出土した。構成礫には砂岩96個，頁岩37個，凝灰岩9個，安山岩6個，軽石4個，泥岩2個があり，半数以上の礫89個が被熱している。SS75を切っている。

規　模：構成礫数154個，総重量は19,032gで，1個平均の重さが124gである。礫は，長軸1.20m，短軸1.02mの範囲に広がる。掘り込みは114cm×103cmで，深さは検出面から14cmである。埋土は灰黄褐色の砂質土で炭化物を少量含む。

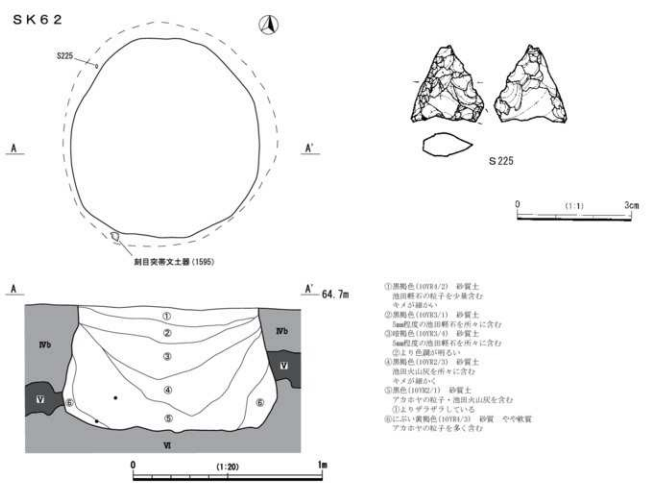
出土遺物：遺物はない。

集石内の炭化材を年代測定した結果，^{14}C年代が2425±20，2σ暦年代範囲が545－408calBC（79.6％）である。検出された区域は凹類が多く，土加世田式や入佐式期の可能性もあるが，年代値は刻目突帯文土器期の弥生時代前期に相当する。隣接する36・37区で刻目突帯文土器が出土しているので，この時期で妥当である。

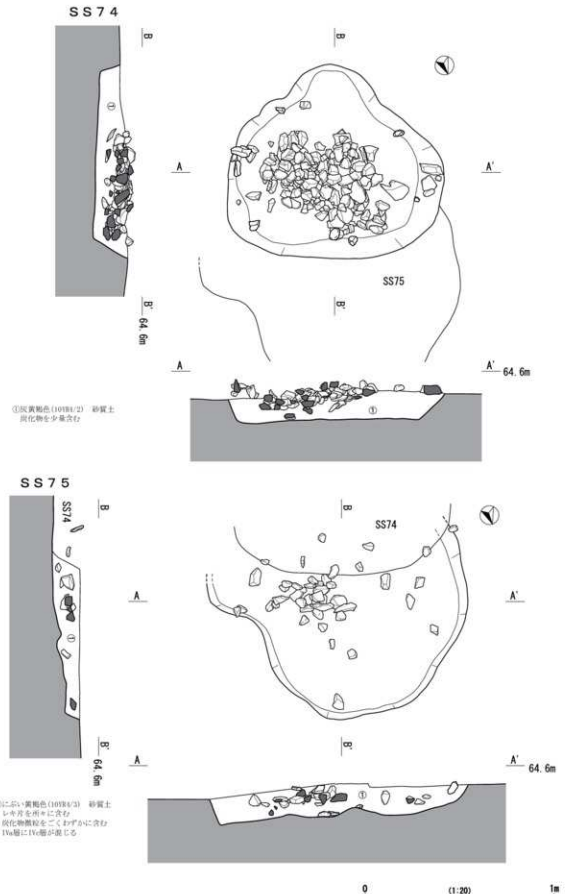
集石75号（第2－103図）

分　類：タイプⅢ

検出状況：SS75はE－35区のⅣc層で検出された。集石74



第2－102図　土坑62号と出土遺物



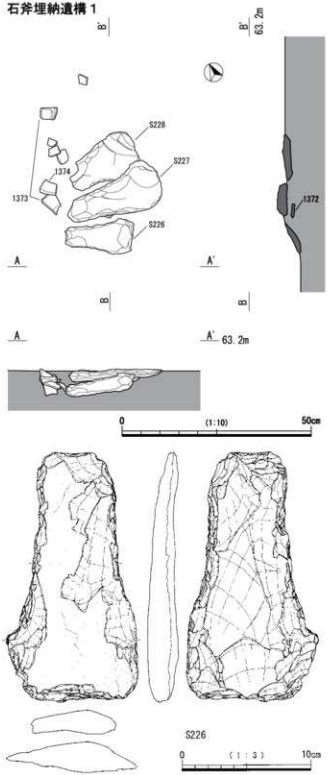
第２－103図　集石74・75号

号に一部を切られている。掘り込みがあり，床直上出土もあるが，礫は底面より６cm浮いた位置で比較的まとまっている。構成礫には砂岩32個，頁岩10個，凝灰岩４個，軽石１個があり，32個が被熱している。

規　模：構成礫数47個，総重量は5,484ｇで，１個平均の重さが116ｇであった。礫は，長軸1.30m＋α，短軸0.77m＋αの範囲に広がる。掘り込みは少なくとも137cmの長さで，深さは14cmである。埋土はにぶい黄褐色の砂質土で，礫片を所々に含み，微粒炭化物をごくわずかに含む。

出土遺物：遺物はない。

集石74号よりも古く位置づけられるが，年代的にはそれほど差のない刻目突帯文土器期の可能性がある。



第２－104図　石斧埋納遺構１号と出土遺物（１）

石斧埋納遺構１号（第２-104～106図）

検出状況：石斧埋納遺構はD-16区のⅣa層で検出されたが，D-16区の一部はⅡ層およびⅢ層が削平された区域である。重機で表土を掘削する際，S228が出土したので丁寧に掘り下げたが，掘り込みは確認できなかった。扁平打製石斧が３点出土した。扁平打製石斧は刃部をいずれも東側に向け２点はほぼ水平に，S226はやや傾いて置かれていた。周囲から数点の土器片が確認された。縄文時代後期前半の松山式土器に比定できる土器であるが，扁平打製石斧は縄文時代後期末から弥生時代中期前半に出土例が多いことから，この時期で扱うこととした。

出土遺物：S226～S228の３点の扁平打製石斧が埋納されていた。いずれも刃部と基部がはっきりしているものの，その境が不明瞭な撥形である。石材も同じであり，風化すると白黄色となるが，新鮮な面は青灰色の頁岩である。

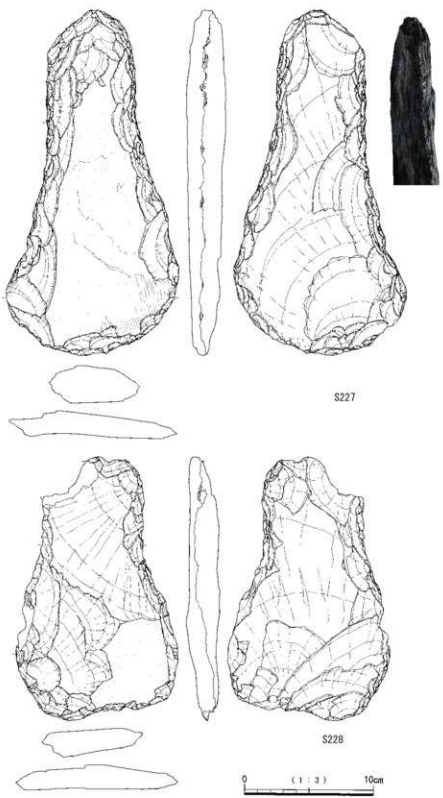
S226の背面は自然面をよく残し，腹面は大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部下縁は使用によるものか剥離が詰まり，平坦な形である。刃部の左側縁は使用による摩滅がみられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約６cmで，刃部の幅は約10cmである。長さは19.4cm，厚さ2.4cmである。

S227の背面は自然面をよく残し，腹面は斜位方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部は全体的に薄く仕上げられ，下縁は湾曲しており，刃先は鋭い。刃部の右側縁にわずかな摩滅がみられるが，未だ使用の頻度は少なかったと考えられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もあり，細かな階段状剥離が多くみられる。さらに，刃潰し状の敲打を加えており，柄に固定するための緊縛の紐が切れにくくする様々工夫がみられる。刃部の薄さに対して，基部は厚く仕上げる。基部の幅は約７cmで，刃部の幅は約13.4cmである。長さは26.9cm，厚さは基部で2.7cm，刃部で1.2cmである。本資料は，これまで県内で出土した扁平打製石斧の中でも大型のものである。使用痕もわずかであり，製作された時の状態を良好に示している可能性が高い。刃部は使用や刃部再生によって形が変わるが，基部の幅・厚さ・長さ・形状は製作時のままであり，扁平打製石斧の時期を位置づけるのには有効な手掛かりに

なると考えられる。

S228の背面の自然面は刃部付近のみで，基部には剥離面がある。腹面は縦方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに大ぶりの剥離を入れた後，周りから剥離が加えられる。刃部下縁はほぼ平坦で，刃先は鋭い。基部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約7.5cmで，刃部の幅は約12.6cmである。長さは20.6cm，厚さ2.6cmである。

注目される点は，土器数点が水平的にも垂直的にも3点の扁平打製石斧に近接して出土したことである。



第2－105図　石斧埋納遺構1号出土遺物（2）

1372は残存部の状態から，波状口縁の深鉢と推測される。口縁部直下を無文とし，胴部上位を横位の沈線により区画する。文様を描く線の始点と終点を刺突する。波頂部の上部内面に棒状工具による円形刺突を連続させる。Ⅶb類の範疇と考えられる。S227の下1cmで出土しているが，元々包含層に埋もれていたのか，扁平打製石斧と同時に埋まったのか判断できない。

1373は口縁部外面を三角形状に肥厚させ貝殻腹縁刺突文，横位の沈線文，巻貝頂部によると考えられる連続刺突文の組み合わせによる文様帯を有する。口縁端部の稜は丸く，文様帯の貝殻腹縁刺突がおよぶ。Ⅸb類と考えられる。胎土には金色の雲母を多く含む。

1374は口縁部片で，口縁端部を「コ」の字状に明瞭に角付け，口唇部に平坦面を形成する。内外面の調整はやや粗く，外面には全面に煤が付着する。胎土には金色の雲母が多く含まれ，白色粒子や透明感のある赤色粒子を含む特徴から縄文時代後期前半の遺物と判断した。

南九州において扁平打製石斧がいつからいつまで使用されたか明らかにすることが課題となっているので，ここで確認しておきたい。今回の出土例は竪穴建物跡内や土坑内などのように埋土から供伴して出土したものではなく，扁平打製石斧が縄文時代後期前半に位置づけられる松山式土器と供出したものである。扁平打製石斧の下から出土した1372はⅦb類の指宿式土器であり，松山式土器より古く位置づけられているので，ここでの検討から省く。

前述したように，鹿児島県内における扁平打製石斧の出土は，町田堀遺跡（鹿屋市）で中岳Ⅱ式土器に伴った縄文時代後期末から轟Bヶ迫遺跡（錦江町）で入来Ⅱ式土器に伴った弥生時代

中期前半までが確実な例である。この前後の時期からも扁平打製石斧が散見されるが，確定できるような例は現在のところないようである。後期中半にさかのぼる可能性のある例としては，干迫遺跡（始良市）で市来式土器に伴って出土した例はあるが，他の市来式土器を主体とする遺跡での追加事例が少ない。仮に干迫遺跡例が市来式土器に伴うとしても，本遺跡の事例は一段階古く位置づけられる。石斧埋納遺構１号周辺では縄文時代後期前半の他に後期末の土器から刻目突帯文土器も出土している。Ⅳ層の上部まで削平された表土層直下での出土であり，垂直分布で前後関係を確認することはできない。

次に形状から時期を推測すると，町田堀遺跡出土例は13点が埋納されており，短冊形５点，撥形４点，抉りの浅い有肩形２点，不明２点があり，少なくとも撥形は縄文時代後期末までは遡る。刻目突帯文期の扁平打製石斧は刃部と基部の明確な有肩形が一般的であるので，この時期まで降りることはないと考える。製作技術から推測すると，S227の基部にみられる両極打法での両面剥離の後，刃潰し状の敲打を加える点は，本遺跡でも出土している石錘の製作方法と共通する。本遺跡出土の石錘は19区より西側に限られ，後期前半の土器に伴う可能性が高い。しかし，県内での石錘の出土例では，大坪遺跡（出水市）例のように縄文時代後期末の上加世田式土器以降に伴う例もあり，必ずしも石錘が後期前半に限られるとは言えない。以上のように，扁平打製石斧と松山式土器が接して出土したが，供伴とは言いがたい。いずれにしても，本遺跡で検出された扁平打製石斧埋納遺構については，本県での扁平打製石斧がいつから使い始められたのかを議論する上で，検討されるべき一例となった。今後，事例が増えていくことを期待したい。

第２－106図　石斧埋納遺構１号出土遺物（３）

第２－13表　晩期遺構内出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	器面調整等 外面	器面調整等 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	取上番号	備考	写真図版
99	1366	深鉢	XⅣ	D-12	Ⅵ	土坑59	ナデ,貝殻条痕	ナデ,貝殻条痕	にぶい褐	黒褐	○	○					24964	-	91
101	1367	深鉢	XⅢb	E-36	埋土	土坑61	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○				103968	-	91
	1368	深鉢	XⅢb	E-36	埋土	土坑61	ヘラミガキ	ナデ	極暗赤褐	にぶい黄褐	○						103964	-	91
	1369	深鉢	XⅢb	E-36	埋土	土坑61	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○					104322他	-	91
	1370	深鉢	XⅢb	E-36	埋土	土坑61	ミガキ様のナデ	ナデ	黒褐	暗灰黄	○	○					103135	-	91
	1371	円盤状土製加工品	XⅢb	E-36	埋土	土坑61	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○				104590	-	91
106	1372	深鉢	Ⅷb	D-16	Ⅳa	石斧埋納遺構1	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○					784	-	91
	1373	深鉢	Ⅸb	D-16	Ⅳa	石斧埋納遺構1	条痕→ナデ	条痕→ナデ	にぶい褐	暗灰黄	○	○	○				779	-	91
	1374	深鉢	無文	D-16	Ⅳa	石斧埋納遺構1	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰褐	○	○	○				7	煤付着	91

第２－14表　晩期遺構内出土石器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
101	S223	土坑61	E-36	埋土	磨・敲石	-	13.67	9.59	6.28	1235.00	安山岩	-	104323	-	89-91
	S224	土坑61	E-36	埋土	石皿	-	(15.70)	(33.40)	(12.10)	(7700.00)	花崗岩	-	104320	-	89-91
102	S225	土坑62	F-38	埋土	石鏃	-	2.00	1.90	0.60	2.08	チャート	-	101048	-	91
104	S226	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	19.40	10.30	2.40	457.40	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-1	-	90-91
105	S227	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	26.90	13.40	3.00	1055.00	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-2	-	90-91
	S228	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	20.60	12.60	2.60	(620.00)	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-3	一部欠損	90-91

第２－15表　晩期遺構観察表

挿図番号	遺構番号	区	検出面	埋土基本層	大きさ(cm) 長軸	大きさ(cm) 短軸	深さ(cm)	面積(㎡)	旧遺構番号	備考	写真図版
2-99	土坑59号	D-12	Ⅵ層	-	33	25	13	0.06	遺物出土状況No.01	黒川式土器	89-91
	土坑60号	D-36	Ⅳc層	Ⅳ層土	84	84	14	0.56	土坑223		89
2-100	土坑61号	E-36	Ⅳc層	Ⅳ層土	182	100	58	1.51	土坑186	入佐式土器　石皿　磨石 年代測定	89-91
2-102	土坑62号	F-38	Ⅳb層	Ⅳ層土	105	100	66	0.21	土坑184	刻目突帯文土器　石鏃　年代測定	89
2-103	集石74号	E-35	Ⅳc層	Ⅳ層土	114	103	14	-	集石93	年代測定	90
	集石75号	E-35	Ⅳc層	Ⅳ層土	130+α	77+α	14	-	集石126		90
2-104	石斧埋納遺構1	D-16	Ⅳa層	-	-	-	-	-	石斧埋納遺構1	扁平打製石斧３点 土器３点	90-91

第２節　遺物（土器）

小牧遺跡で出土した縄文時代後期末から弥生時代初頭にかけての土器は，大きく５つに分類できる。第１分冊の第Ⅳ章に概略は紹介したが，Ⅻ類が中岳Ⅱ式土器，ⅩⅢ類が上加世田式土器～入佐式土器，ⅩⅣ類が黒川式土器，ⅩⅤ類が千河原段階，ⅩⅥ類が刻目突帯文期の土器である。この時期になると，深鉢や浅鉢など器種の分化が著しくなり，器種ごとの同時性を明確にはできないが，これまでの研究や調査事例等を参考に近いと考えられる時期に寄せてある。また，器種名については未だ一般化されていないものもあるが，単語で器形を思い浮かべることが容易になることを期待して，現代の生活用具の名称を使用することとする。的確な名称があれば，変更していきたい。浅鉢については宮地聰一郎氏の呼称を参考にした。

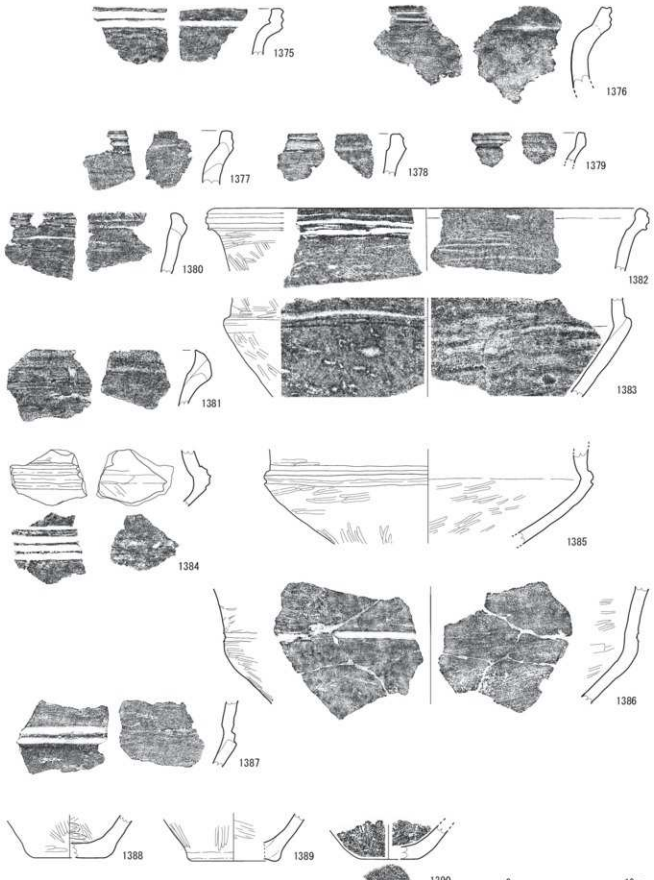
各類ごとに紹介する前に，この時期の土器分布状況を第２-97・98図に示す。全体的には発掘調査範囲である１～43区に渡って出土している。特に，８～12区に集中しており，Ⅻ類から ⅩⅥ類まで混在して出土している。33～38区にも出土量は少ないものの，ⅩⅢ類の上加世田式土器・入佐式土器とⅩⅥ類の刻目突帯文土器の集中した地点がみられる。なお，Ⅻ類の中岳Ⅱ式土器とⅩⅣ類の黒川式土器は15区より西側にしかみられず，ⅩⅥ類の刻目突帯文土器期には16～26区にも分布域がみられる。弥生時代に入ったⅩⅥ類の刻目突帯文土器期には，居住空間の他に作物を育てる生産空間も近くにあったと考えられる。

Ⅻ類土器　口縁部文様帯および胴上部屈曲部に凹線を巡らすものや，それに近いと考えられるものである。

1375～1382は深鉢形土器の口縁部である。1375は大きく外反する頸部から内側に強く屈曲した口縁部に至り，口唇部は平らに面取りする。口縁部外面は17㎜幅の文様帯があり２条の凹線が巡る。口縁部内面の下には沈線状の切れ込みが入る。内外面ともヘラミガキによる。1376は外湾する頸部から屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は13㎜幅の文様帯に２条の凹線を巡らす。口唇部はくぼみ，両端はシャープである。内面の頸部と口縁部境は沈線等はみられないが明瞭である。器厚は11㎜と厚い。胎土は花崗岩質で，色調は極暗赤褐色である。器厚や色調等は中岳Ⅱ式土器に近く，器形や施文方法は上加世田式土器古段階に類似し，両者の特徴をもつ土器である。1377は外反する頸部から屈曲して15㎜ほど立ち上がる口縁部である。口縁内面の緩い屈曲部から口縁端部までは10㎜であり，口唇部は９㎜幅で面取りする。口縁部外面には２条の凹線が巡る。1378は10㎜厚の頸部から器厚13㎜のやや低い口縁部肥厚帯をもつ。肥厚帯下位は外傾し，上位に８㎜幅の凹線が１条巡る。口縁部内面には段がみられ，口唇部は面取りしている。1379は外反する頸部から内側に屈曲した口縁部に至り口唇部を面取りする。口縁部外面は11㎜幅の文様帯があり２条の浅い凹線が巡る。口縁部内面に沈線等はみられない。内外面とも丁寧なナデである。1380は外見上1381と同様であるが，外面肥厚部に６㎜幅の浅い凹線が巡ることと，内面の凹みが形骸化し口唇端部が鋭くない点が異なる。1381は７㎜ほどの器厚の頸部から外反して14㎜ほどの器厚の口縁部をもつ。口縁部外面の肥厚下部は親指でナデた様に外反し，肥厚部上部は３条の面をもつようにわずかな稜をもちながら丸く収めてある。肥厚部に凹線等はみられない。口縁内面は親指を押し当ててナデたように20㎜幅の凹線状となり，口唇部は親指と人差し指で挟むことによって鋭く尖ったのではないかと想定される。口縁部の作りは，外反した器形の内側に粘土を重ねて成形した状況が断面にみられる。1382は復元口径35cmの口縁部である。頸部上位で大きく外反し，内湾気味に立ち上がる口縁部に至る。口縁部内側は指で押さえながら成形したと考えられ，太い凹線状に見える。外面は２㎝幅の口縁部肥厚帯があり，２条の凹線を巡らす。口唇部から口縁部肥厚帯は一体化している。復元径や胎土，器面調整ともに1383と違和感はなく，同一個体の可能性がある。

1383～1387は深鉢形土器の胴上部の屈曲部である。1383は復元径32.4cmの胴部最大径部分である。内湾気味に開く胴部の端部を疑似口縁状におさめ，内面上部から粘土紐を重ねることによって内傾する頸部に至る。断面に接合痕が明瞭に残ることから，製作過程が復元できる。肩部境は丸みを帯び明瞭な段となる。口縁部から屈曲部は約10cmである と想定される。前述した様に1382と同一個体の可能性がある。1384は丸く内側に曲がる胴部から外反気味に内傾する頸部に至る。胴部最大径は13㎜の厚さがあり，３条の凹線が巡る。頸部境に沈線状の調整が入り，胴部と頸部の境が明瞭である。外面はミガキ様のナデで，内面は丁寧なナデである。1385は復元径26.2cmの胴部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲してから丸みのある胴部をもち，内側に粘土を重ねることによって屈曲部としている。胴部と頸部境の屈曲部には２条の凹線が巡り，外反気味の頸部に至る。内外面ともヘラミガキによる。1386は復元径33cmの胴部屈曲部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲して丸みのある胴部をもち，外反気味の頸部に至る。胴部と頸部の境には凹線を巡らす。外面はミガキ様のナデで，内面はナデである。頸部外面に煤が厚く付着する。1387は体部上位で内側に屈曲し，肩部となる部位に２条の凹線を巡らす。内面は屈曲部よりも上位に稜がみられる。

1388～1390は深鉢形土器の底部である。1388は復元径６cmの小さな平底である。縁辺は横方向のヘラミガキによって丸く仕上げ，胴下部への緩方向の丁寧なナデとの境にわずかな段がみられる。約50度の角度で開く胴部に至る。内面はケズリ様のナデである。軽石粒を多く含み，

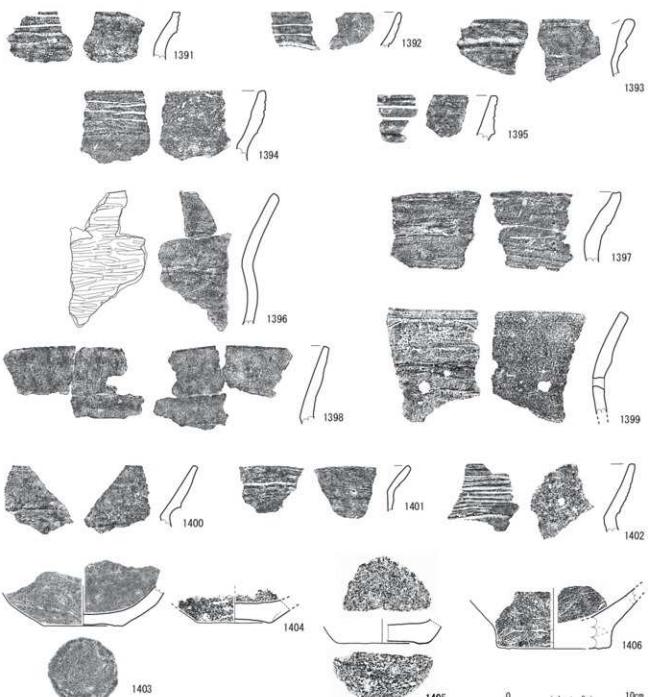


第２－107図　ＸⅡ類土器

外面の色調が中岳Ⅱ式に近い栗色（極暗赤褐色）を呈する。1389は復元径7.5cmで周縁に粘土を重ねて形成した上げ底である。接地面はごくわずかである。外面はミガキ様のナデである。わずかな立ち上がりがあり，内湾気味に開く。色調が中岳Ⅱ式に近い。1390は復元径4.6cmの小さな平底である。接地面からそのままやや内湾しながら開く。中岳Ⅱ式土器に該当する。

Ⅻ類土器　口縁部文様帯に沈線を巡らすものや無文のもの，あるいはそれに近い土器である。

1391～1395は口縁帯をもち，沈線を巡らす口縁部である。1391は外反する頸部から肥厚して立ち上がる15mm幅の口縁部に至る。口縁部内面はわずかに凹み状となり，口唇部は5mm幅で平らに面取りする。口縁肥厚帯下部は10mmの厚さであり，2mm幅の凹線様の沈線が2条巡る。胎土に金色雲母を多く含む。1392は肥厚した口縁部であ



第2－108図　XⅢ類土器

る。24㎜幅の口縁部文様帯に２本の沈線を巡らす。肥厚部下面に相当する内面には屈曲や沈線等はみられない。内外面ともミガキによる調整で，黒色処理している。入佐式土器の古段階に該当する。1393は外反する頸部から肥厚して外開きする口縁部に至る。肥厚帯の下位の接合部分は凹線が巡ったようにみえる。口唇部は丸く収め，一部に外側から左手親指を押し当てたような凹点が施され，内面も膨らむ。内面は緩い稜をもって屈曲している。1394は外反する頸部から内湾気味に外傾する33㎜幅の口縁部に至る。口唇部は丸く収め，口縁部外面にはつなぎ目がずれている３条の沈線が巡る。器面調整は丁寧なナデであり，入佐式土器に該当する。1395は肥厚した口縁部である。30㎜幅の口縁部文様帯に２条の太めの沈線はほっきり巡るが，４条巡る可能性もある。肥厚部下端は指で摘まみ出すように強調している。内外面ともミガキによる調整である。入佐式土器の古段階に該当する。

1396～1402は口縁部に幅広の肥厚帯をもつものの，文様のない口縁部である。1396は胴上部で内湾させ短めの肩部をもち，外傾する口縁部に至る。内面の口縁部境には稜がみられるが，外面は頸部と口縁部の境はみられない。胎土に金色雲母を含む。入佐式土器に該当する。1397は頸部で屈曲し，外傾する口縁部である。作りは粗いが，口縁部の肥厚は意識しているようである。器面調整は内外面とも粗いナデであり，胎土に金色雲母を多く含む。1398は内面に稜をもって外傾する口縁部である。外面は肩部と頸部境で外反し，わずかに肥厚する口縁部をもつ。口唇部は平らに面取りする。内外面とも丁寧なナデであり，口縁部に文様はみられない。胎土に金色雲母を多く含む。入佐式土器である。1399は内傾する頸部から外反する口縁部に至る。口縁部境に断面が低い二等辺三角形状の盛り上がりがあり，口縁部肥厚帯を形成する。口唇部は平らに面取りする。頸部外面は粗いナデで，口縁部外面から内面はヨコナデであり，口縁部肥厚帯は無文である。胎土に金色雲母を含む。外面から穿孔した補修孔がみられる。大型の深鉢と考えられ，ミガキはみられず，口縁部肥厚帯は40㎜と幅広く文様もみられないことから，入佐式土器古段階より新しい時期に位置づけられると考える。1400は頸部で強く外反し，内面に稜がみられる。口縁部は２㎜増して肥厚し，口唇部は面取りする。内外面ともミガキが施されるが，口縁部外面に沈線等はみられない。1401は内傾する肩部から屈曲して外傾する口縁部に至る。内面には緩い稜がみられる。口縁部はわずかに肥厚するが，沈線等の文様はみられない。基本的な形状は入佐式土器に該当するものの，古墳時代前半の土師器の可能性も否めない。1402は内傾気味の頸部から外側に屈曲し，内湾気味に開く口縁部であり，口唇部は平らに面取りする。頸部と口縁部の境は低い段があり40㎜幅の文様帯をもち，横方向の明瞭な条痕がみられる。外面頸部および内面は丁寧なナデである。口縁部文様帯はほとんど肥厚せず沈線等もないことから，入佐式土器の新段階に該当する。

1403～1406は皿類土器の底部と考えられる。1403は底径5.5㎝の上げ底である。接地面からそのまま内湾して開く。外面は摩耗しているが，ミガキ面がみられる。内面は丁寧なミガキにより平滑である。1404は復元径６㎝の上げ底である。外反するように成形した上から粘土を貼り付けて，接地面からそのまま開く。中岳Ⅱ式土器とするには底径が大きいと考えられる。1405は直径7.4㎝の浅い上げ底である。接地面から周縁にかけては丸みを帯びる。調整は内外面とも粗い。色調は赤褐色で，花崗岩質の胎土である。縄文時代後期末に位置づけられる。1406は復元径9.2㎝の平底である。底面の器厚は25㎜と厚く，大きく外湾して約40度の角度で開く。内外面ともミガキ様のナデである。金色雲母が目立ち，入佐式土器の可能性がある。

1407～1415は鉢類もしくは皿類に伴う浅鉢形土器と考えられる。1407はわずかに内湾気味に外開きする体部から，屈曲して13㎜ほど立ち上がる口縁部に至る。口唇部は丸みを帯びながら面取りする。口縁部内面には上位に，外面には中位に幅２㎜の沈線を１条巡らす。内外面ともミガキによる。このような器形や施文方法は，牧Ｂ遺跡（曽於市）でみられるような中岳Ⅱ式の新しい段階と共通するものであり，この時期に位置づけられると考えられる。

1408～1411は長めの頸部のある口縁部である。1408は頸部下位で大きく外反し，屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は凹みをもつように面取りする。口縁部外面は９㎜幅の肥厚帯をもち，１条の凹線様の沈線を巡らす。肥厚帯下位は接合痕がみられる。深鉢口縁部の類似性から，上加世田式土器の時期が考えられる。1409は復元口径23㎝を測る。内湾気味に開く体部上部で内側に強く屈曲し，10㎜幅の明瞭な肩部をもつ。肩部上端で内面に稜が残るほど屈曲させ，外反する50㎜を超す長い頸部をもつ。頸部端部の内側に粘土紐を重ね，断面楕円形の口縁部を形成する。接合部の外面は沈線状となり，内面は緩やかな段状となる。内外面ともミガキによる。1410は1409と同一個体の可能性もあるが，体部と肩部境の稜のシャープさや，内面の肩部に相当する部分の長さが少し異なることから掲載した。1411は体部上部で内側に強く屈曲し，６～７㎜幅の明瞭な肩部をもつ。わずかに外反気味に外開きする35㎜の頸部をもち，端部内側に粘土紐を重ね，断面楕円状の口縁部をつくる。口縁外面の接合面は明瞭な細い沈線となる。内面肩部は稜をもつ３㎜幅の段となり，内面の口縁部は凹線風の段となる。内外面ともヘラミガキによる。1412は緩く外反する頸部から内側に粘土を重ねた口縁部に至る。口唇部は尖り気味に

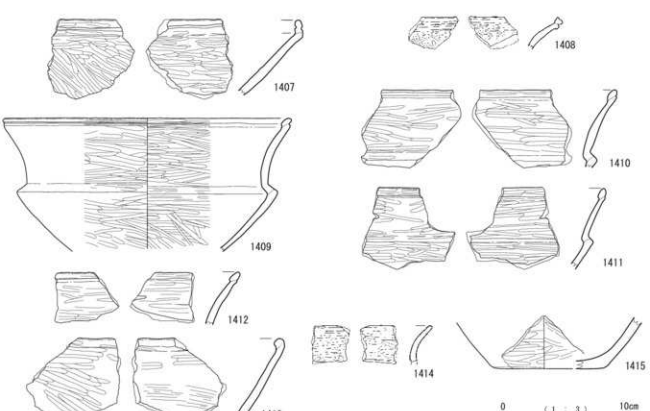
丸め，内面に10mm幅の肥厚帯をもつ。口縁部外面には接合痕部分にわずかな細い沈線がみられる。

1413はわずかに内湾気味に外開きする。口縁端部の内側に粘土を貼り付け，口唇部も一体化して玉縁状となる。口縁部内外面とも沈線などはみられない。外面はミガキで，内面はナデの痕跡がみられる。胎土に小礫を多く含む。1414は胴上部で内側に屈曲し，大きく外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収め，口縁端部に加飾等はみられない。確実な根拠はないが，上加世田式土器期に近いと思われる。1415は復元径９cmの平底である。約50°の角度で内湾気味に立ち上がる。色調が極暗赤褐色で中岳Ⅱ式に近いが，検討を要する。

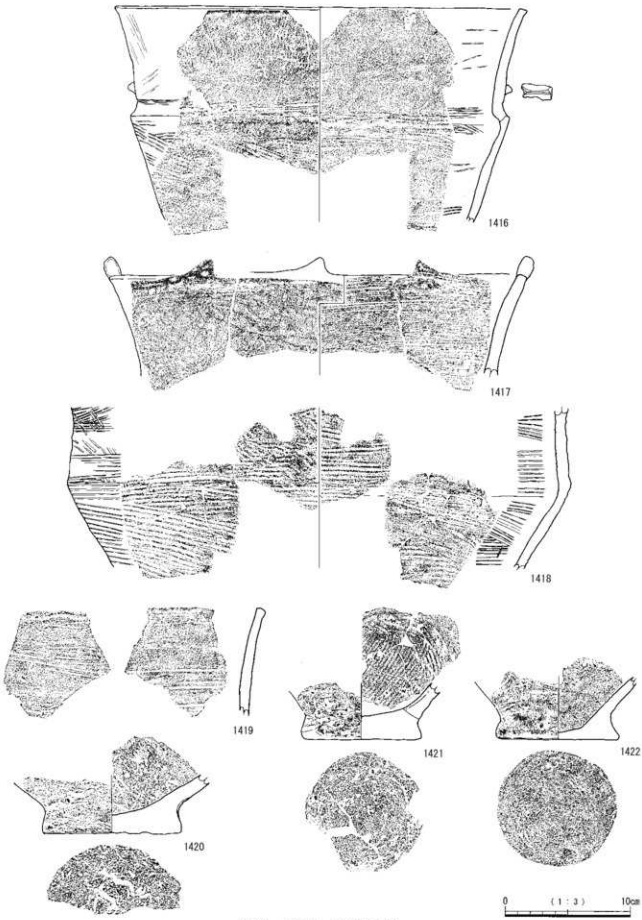
XⅣ類土器　深鉢形土器は，口縁部と頸部の境が不明瞭となり，肩部も痕跡程度のもので，器面調整にミガキがみられない土器である。

1416は胴部中位から口縁部にかけての破片である。復元口径は32.8cmで，胴部最大径は上位にあり復元径30cmを測る。わずかな凹凸はあるが，直線的に外開きする胴部をもち，上位で内側に屈曲し１cmほどの短い肩部をもつ。口縁部は外反気味に開き，口唇部は外端を強調する様に面とりしている。口縁部は75mmと長めであり，肥厚せず文様等もみられない。口縁部と肩部境を筋のある工具でナデることによって低い段をもち，横長の突起を貼り付ける。外面は丁寧なナデであり，沈線文などはみられない。胴部内面は横方向の貝殻条痕による。1417は復元口径33cmを測る。胴部近くは外反し，そこから上は直行する口縁部である。口唇部は面取りし，肥厚はしない。鰭状の突起をもち，この部分のみわずかに肥厚する。外面は丁寧なナデであり，内面は横方向の粗いナデである。1418は外傾する胴上部で内側に屈曲し，緩く外反気味に内傾する頸部である。胴部の復元径は40cmである。内外面とも貝殻条痕による器面調整であり，胎土は花崗岩質である。1419はわずかに外反しながら開く口縁部である。口唇部は丸みをもつ部分と平坦面をもつ部分があり，外端部がわずかに膨らむ。意識して肥厚させたのではなく，口唇部を仕上げる際，余分な粘土がはみ出したと思われる。内外面とも条痕による器面調整である。

1420～1422は深鉢形土器の底部である。1420は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約40度の角度で開く。外面は粗いナデで，内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1421は直径9.6cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約50度の角度で開く。外面は粗いナデ，内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。小礫を多く含む。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1422は直径9.8cmの安定した平底である。台形状の円盤形で，約50



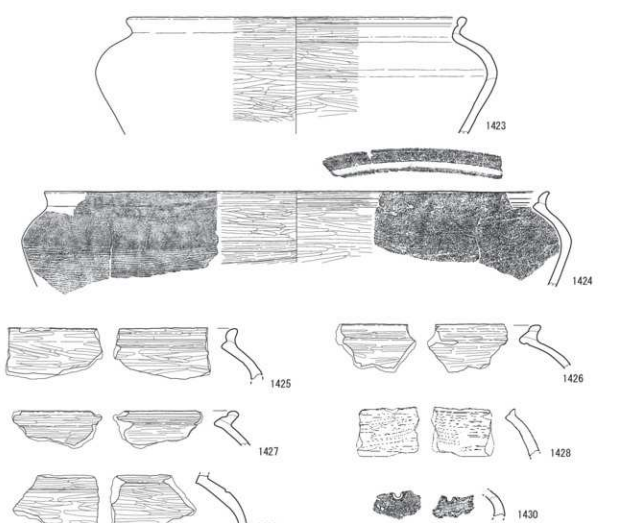
第２－109図　ⅩⅡ・ⅩⅢ類土器（浅鉢形土器）



第２－110図　XⅣ類土器

度の角度で胴部へ開く。外面は貝殻条痕で，内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは千河原段階の土器に該当すると考えられる。

1423～1430は宮頭土器に伴うと考えられる浅鉢形土器である。1423は復元口径27cm，復元胴部最大径32cmを測る。直行気味に外開きする体部から半球形状に内湾する胴部と肩部に至る，いわゆる胴張りのタイプである。肩部端に粘土紐を重ね，15mmほどの頸部から口縁部を形成する。外面は肩部境から口縁部まで一体化している。内面の肩部と頸部境は稜はなく丸みを帯びており，口縁部境は凹線風の緩い段状となる。内外面ともミガキである。1424は胴張りのタイプであり，復元口径40.2cm，復元胴部最大径43.6cmを測る。内湾する肩部端に粘土紐を縦長に１段重ねることによって口縁部を形成する。口唇部は尖り気味に収める。外面は親指の側面が当てはまるほどに頸部と口縁部が一体化している。内面の接合部は太い凹線状となる。体部外面は横方向の条痕状であり，肩部から上は内外面とも丁寧なミガキである。1425は1424と同一個体と考えられるが，口唇端部や内面屈曲部のシャープさが異なることから掲載した。1426は胴張りの肩部端部に粘土紐を２段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した10mm幅の口縁部となるが，内面は１条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1427は胴張りの肩部端部に粘土紐を２段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した11mm幅の口縁部となるが，内面は頸部と口縁部を合わせた長さが22mmとなる。内面の頸部と口縁部の境は１条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1428は内湾する肩部から口縁端部のみを上方外傾に短く成形するものである。親指と人差し指で軽く摘まみながらナデで成形していることが想定される。口縁部内面は10mm幅であり，１条の沈線を巡らす。1429は内湾する肩部であり，胴張りのタイプであると考えられる。肩部の途中に１条の沈線が巡る。沈線内の上の方は鋭く，下の方は緩くくぼむ。口縁部は欠けているが，肩部端部に粘土紐を重ねて形成する。内面の口縁部境は



第２－111図　ⅩⅣ類土器（浅鉢形土器）

下方に張り出す。内外面とも横方向のヘラミガキによる。内面は黒色で，外面は明赤褐色である。一般的に黒川式土器の胴張り浅鉢には沈線がみられないが，この類に含めた。千河原段階の浅鉢には下の方をケズリ出して段をつくるが，本資料は沈線の上下が同じ厚さの器面であり，千河原段階の初期段階を示すと考えられる。1430は胴張りの肩部で外面から穿孔した補修孔がみられる。

XV類土器　第2-112～114図は口縁端部が粘土を重ねて肥厚するもの，あるいは口縁端部のみ外反させて肥厚したようにみえるもの，また，それらに伴うと考えられる深鉢形土器や浅鉢形土器である。なお，一部の破片だけでは深鉢形土器であるのか組織痕土器を含む中葉鍋形の土器であるのか判別できないため，これらの土器についてもここで紹介する。

1431～1434は器形的に口径より器高の方が大きい点や，内面がミガキではなく平滑でないことから，深鉢形土器であると考えられる。1431は復元口径43cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。胴上部で逆「く」字状に屈曲し，外面に稜が入る。頸部から口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁部外面に幅16～22mmの肥厚帯が巡る。外面は粗いナデである。内面は横方向の丁寧なナデによる。1432は復元口径41.4cmでわずかに内湾しながら立ち上がる。口縁端部から85mmほど下にわずかに粘土を重ねて膨らんだ部分がみられ，胴部と肩部の境となる。口縁端部をわずかに外反させ，見かけ上肥厚しているようにみえる。口唇部は丸く収める。内面は丁寧なナデにより，外面は粗いナデによる器面調整である。1433は直径11.5cmの安定した張り出しのある円盤状底部である。底部の厚さ11mmよりも薄い高さ8mmで台形の円盤状となる。約45度の角度で内湾気味に開き体部に至る。外面は粗いナデで，内面はミガキ様のナデで滑らかである。1434は復元口径34cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。外傾する胴部から約15度内側に屈曲し，直行する口縁部をもつ。内面の屈曲部は丸く内湾し，外面の屈曲部に緩い稜が入る。口唇部は少し面取りし，口縁外端部は玉縁状に肥厚する。外面は条痕をナデ消し，内面はナデによる器面調整である。胎土に金色の雲母を含む。

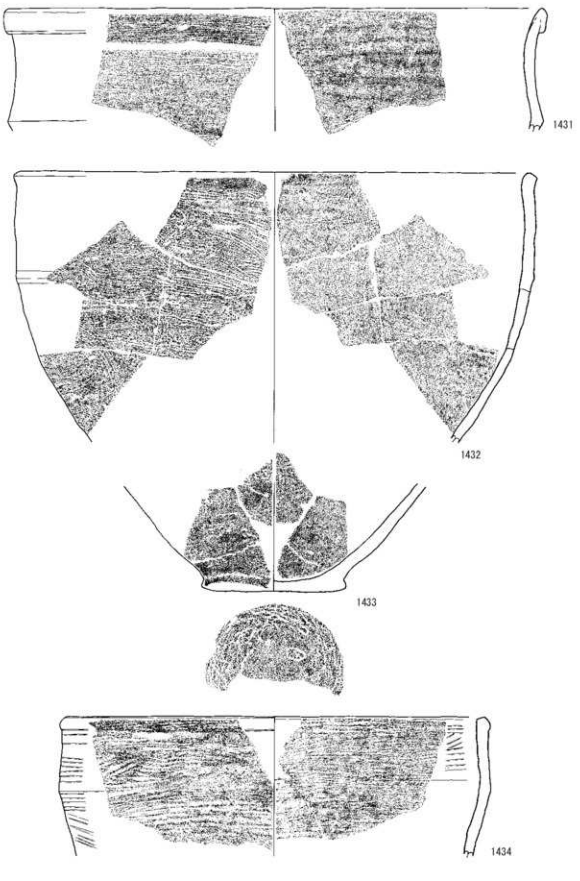
1435～1442，1446～1449は深鉢形土器なのか中葉鍋形土器なのかはっきりしないものや，寸胴鍋形の土器である。1435は復元口径34.6cmである。内湾気味に外傾する体上部から約20度で内側に屈曲し，内傾気味に直行する口縁部に至る。口唇部は丸く収め，肥厚しない。体部と口縁部境は器壁が厚い。口縁部外面には細めの条痕が明瞭に残る。内面がミガキ様で滑らかであることと体部の器厚に厚薄がみられることから，中葉鍋形土器の可能性もある。1436は復元口径46.6cmを測る。外開きする胴上部で，外側のみ内側に屈曲し，直行する口縁部に至る。屈曲部のみわずかに肥厚する。口唇部は丸く収め，肥厚しない。中央に山形の突起，両側に片蛤状の突起をもつ。突起部分の口唇部は平らに面取りし，山形の頂部のみ凹点状にくぼめる。突起部分は面取りするため，蛤状部分は両側に，他は外面のみ肥厚する。外面胴部は粗いナデであり，口縁部外面は横方向の条痕である。内面は条痕の後ミガキ様のナデであり，口唇部には条痕がみられる。外面口縁部付近に煤が多く，内面には焦げがみられる。

1437は復元口径34.8cmを測る。丸みをもちながら胴上部から口縁部に至り，口縁部端部のみわずかに直口する。蛤状突起の部分は肥厚するが，一般の部分は肥厚しない。内外面ともケズリ様のナデである。器形と内面の調整から深鉢の可能性もあるが，1490の様に組織痕を施す例もあり，機能的な面を含めて検討を要する。

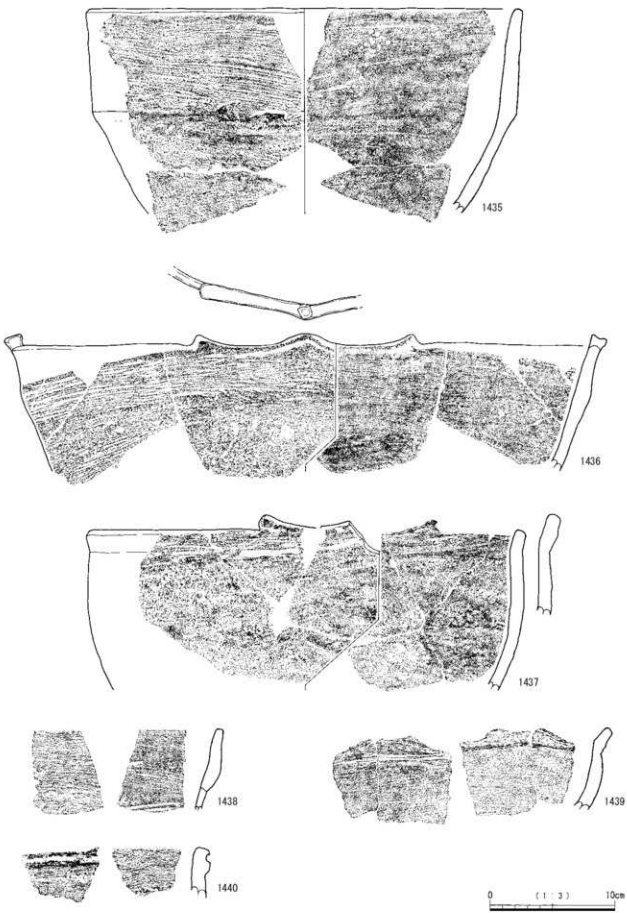
1438は50mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。肥厚帯の下部がより厚くなり，最も膨らむ部分の内面は緩く凹んでいる。内外面とも器面調整は粗いナデである。1439は内湾する胴上部から外側に屈曲して短めの口縁部に至る。胴部最大径部分で直径38cm前後と思われる。口縁部は欠けているが，山形の突起をもつと想定される。頸部境の口縁部外面は段状となり，山形突起部分は肥厚している。内面の屈曲部分は浅い凹み状となっている。外面は横方向のミガキであり，古相の観がある。類例に乏しいが，千河原段階に位置づけておきたい。1440は直行する口縁で，外面が20mm幅で肥厚し，1条の凹線が巡る。口唇部を丸く収める際，外端の粘土が凹線まではみ出している。器面調整は内外面とも粗いナデである。中岳Ⅱ式にみられる口縁肥厚帯に凹線を巡らすものとは異なり，千河原段階のものと考えられる。

1441は口径22cmである。内湾気味に開く胴上部から内側に丸く湾曲させ，内湾気味に内傾する口縁部に至る。最大径は胴上部にあり22.8cmを測る。湾曲部の一部は外側に粘土を重ねて口縁部を形成するため段がみられる箇所もある。口縁部端部の成形は丁寧ではなく，凹凸がみられる。内面は粗い条痕で，外面は細めの条痕による。口縁部外面に煤が多く付着し，外面に付着した煤を年代測定した結果，^{14}C年代が2700±20yrBP±1σ，2σ暦年代範囲が899－808calBC（95.45%）である。1442はほぼ直行する口縁部である。口縁端部から6cm下に無刻目の突帯をもつもので，口縁部にも12～18mm幅の肥厚帯を巡らす。口縁端部内面は口唇部とともに面取りする。千河原段階から刻目突帯文期に移行する頃のものと考えられる。

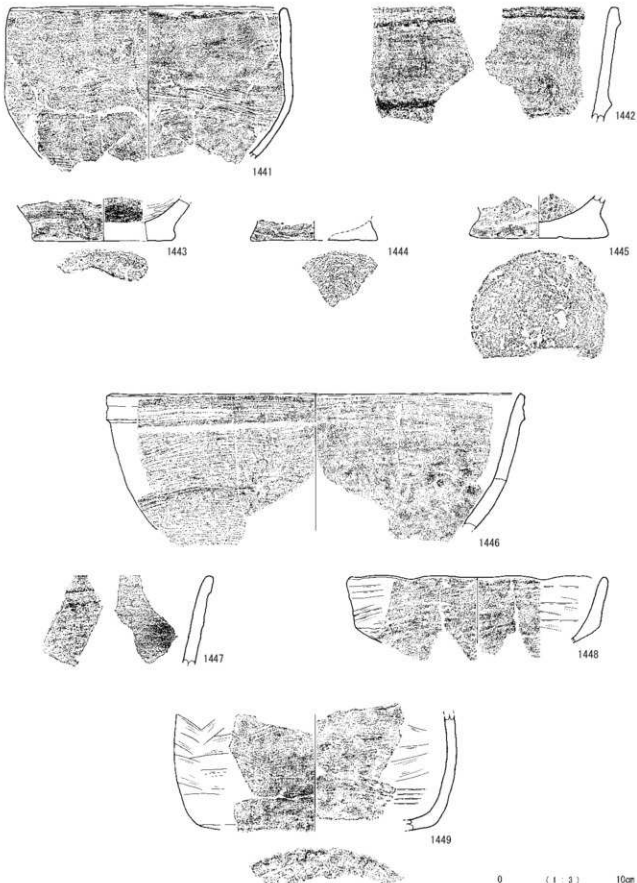
1443～1445はXV類土器の深鉢形土器の底部であると考えられる。1443は復元径11.4cmの平底で，厚さ15mmで円盤状である。外面はナデにより，内面はミガキで平滑である。底部器形と内面の器面調整との類例が少なく，浅鉢の可能性もある。黒川式～千河原段階と考えられる。



第２－112図　ＸＶ類土器（１）



第２－113図　ＸＶ類土器（２）



第２－114図　ＸＶ類土器（３）

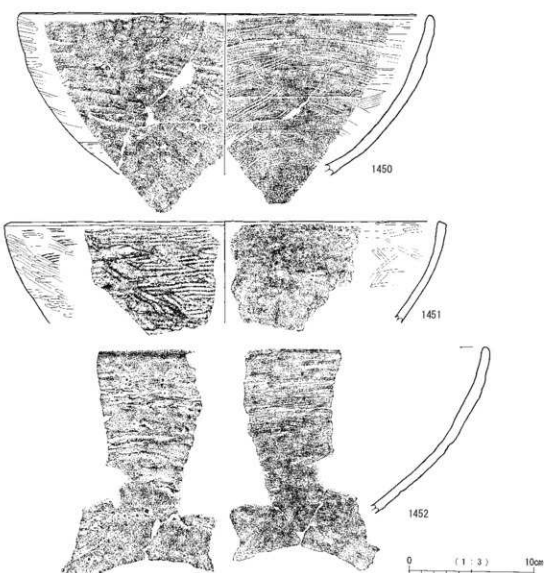
1444は復元径10.2cmの平底である。台形状の張り出しをもつ。深鉢なのか浅鉢なのか不明である。1445は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。黒川式土器もしくは千河原段階の土器に該当すると考えられる。

1446は復元口径34.5cmで，深鉢か中華鍋形か迷うものである。体上部でわずかに内側に屈曲し，外頸して口縁部に至る。口唇部は面取りし，外面に20mm幅の肥厚帯をもつ。肥厚帯に沈線状の部分がみられるが，器面調整の際偶然付いた可能性もある。外面は条痕で，内面はナデによる器面調整である。煤の付着はみられない。1447は12mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。内面は平滑である。

1448は復元口径20.6cmである。3mmの器厚で外開きする体部から，内側に屈曲して35mm幅で外傾する口縁部に至る。口縁部の器厚は8mmであり，口唇部は丸く収める。内面は粗いナデ調整の後，ミガいている。

1449は復元径22.4cmを測る底部付近から胴部下位である。緩い丸底から屈曲して内湾気味に立ち上がる胴部に至る。外面はナデで，内面は条痕の後ナデている。寸胴鍋形の鉢と考えられるが，類例が少なく検討を要する。

1450～1456は中華鍋形の形状で，内面がミガキ状で平滑であり，組織痕がみられないものの，機能的には組織痕土器と同様であると考えられるものである。1450はおおよその口径は33cm前後である。半球形で組織痕はみられない。口唇部を細くし，肥厚はみられない。外面はヘラナデするが，下地の粗いナデが目立つ。内面は粗いナデであるが，底に近いほど滑らかである。1451は内湾しながら立ち上がる復元口径35cm前後の口縁部で，口唇部は平らに面取りする。器壁は5mmと薄く，内面は平滑で外面に貝殻条痕が明瞭にみられる。中華鍋形土器の類に入れたが，器壁が薄い点は検討を要する。1452は内湾気味に開く。口唇部を丸く収め肥厚しない。外面はナデで，



第２－115図　中華鍋形土器（１）

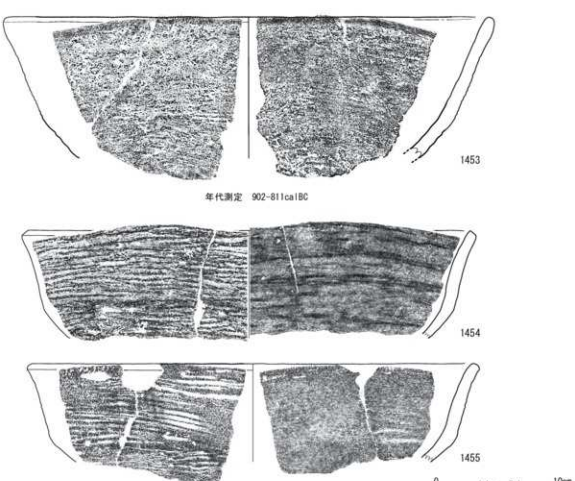
内面はミガキにより平滑である。組織痕はみられない。

1453は復元口径39cmを測る。内湾気味に開く体上部で約18度と緩く屈曲し，外傾する口縁部に至る。口縁部端近くのみわずかに外反し，口唇部は丸く収め肥厚部はみられない。外面は粗いナデであり組織痕もみられない。内面はナデで平滑である。口縁部に多く付着した煤を年代測定した結果，^{14}C年代が2710±20yrBP±１σ，２σ暦年代範囲が902－811calBC（95.45％）である。

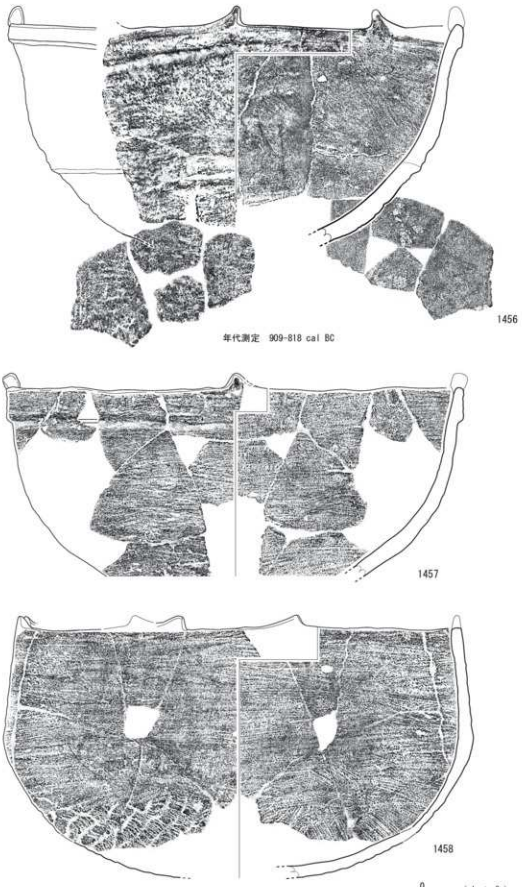
1454と1455は同一個体の可能性もあるが，出土地点が異なることから２点とも掲載した。復元口径36cmで，体部上位で逆「く」字状に内側に屈曲し，外反気味に開く口縁部に至る。口縁端部に肥厚はみられない。内面下位は平滑で焦げが著しい。器形と内面の特徴から中華鍋形と考えられる。

1456は復元口径36cmでやや深めの土器である。半球形に近い底部と体部の境に段があり，膨らみのある体部から少しくびれてわずかに外反する口縁部に至る。口縁部外面には15mm幅の肥厚部があり，口唇部を丸く収める。鰭状の突起部分は内面も肥厚する。体部から口縁部の外面は横方向の粗いナデで，内面は丁寧なナデで平滑である。外面底部に明瞭な組織痕を観察することはできないが，部分的に横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。付着した煤を年代測定した結果（試料１），^{14}C年代が2725±20yrBP±１σ，２σ暦年代範囲が909－818calBC（95.45％）である。肥厚口縁帯をもつことから干河原段階の中華鍋形土器であり，実年代の一事例となった。

1457～1494は編布あるいは網目の圧痕をもつものであり，組織痕土器あるいは中華鍋形の土器としてまとめられるものである。中には，時期的に前後するものもあると考えられるが，文中で紹介したい。組織痕をもつ土器片は，掲載資料以外に54点出土しており全て編布によるものである。1457は復元口径36cmで底部付近から半球形状に立ち上がり，口縁部は直行する。口唇部は丸く収め，口縁部外面に28mm幅の肥厚部があり，鰭状もしくはリボン状の突起を施す。内外面とも粗いナデである。12mm幅の縦糸と１cmあたり６～７本の横糸の編布である。胎土に軽石を多く含む。器形や胎土は1456と類似しており，1456にも編布圧痕があったことが類推できる。これまで組織痕土器については完形品に復元できるものが少なく，全体の形状を知ることができなかった。その中で，本資



第２－116図　中華鍋形土器（２）



第２－117図　中華鍋形土器（組織痕土器）（１）

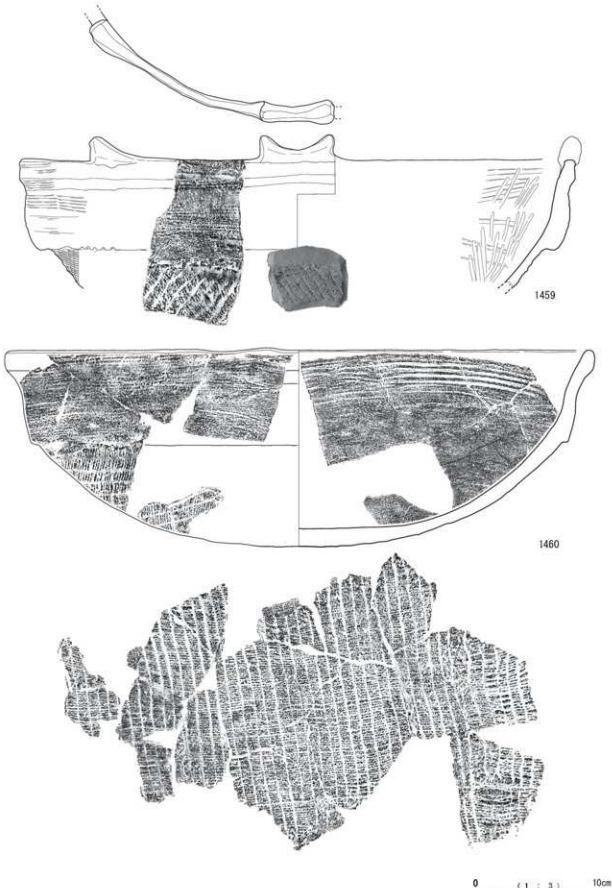
料では組織痕土器にリボン状あるいは鰭状の突起が付くことがわかり，新たな資料が得られた。1458は復元口径35.2cmである。半球形と想定される底部から大きく内湾し，内傾する口縁部に至る。体部の最大径は37.2cmである。口唇部は丸く収め，突起部分とともに肥厚しない。向かい合った片鰭状の突起の間にリボン状の突起が施されると想定される。口縁部の残りの状態から1か所だけに装飾されたと考えられる。底上部から最大径にかけては組織痕を消すような左から右へのケズリ状のナデであり，外面の口縁部にかけては右から左への横方向の粗いナデである。内面は粗い条痕であり滑らかさはないが，底面は条痕をナデ消している。編布はZ撚りの縦糸間12～13mm幅で1cmあたり8本の横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。口縁部の突起に着目すると，リボン状突起を挟んだ一対の片鰭状突起が付くと想定される。1456や1459と比較すると，1457の突起部分は肥厚せず立体感にも乏しい。口縁部に肥厚帯がなく，口縁部が内傾する点や内面底部付近が条痕のままの器面調整であることなどから，若干の時期差が考えられる。退化したのか，これから進化するのか，今後の検討を要する。

1459は復元口径44.2cmで，外傾気味に開く底部上位から内傾に緩く屈曲して口縁部に至る。ほぼ直行した口縁部であるが，屈曲部と口縁部外面を厚くし，横方向の粗い条痕で一体化しており，見た目では外反しているようにみえる。口唇部は丸く収め，口縁部外面に17～20mm幅の肥厚帯をもつ。口唇部の突起はリボン状突起を中心に両側に片鰭状の突起が線対称的に付くと想定される。突起部分は内外面とも肥厚する。リボン状突起中央から片鰭状突起までは18.5cmあり，全体を想定すると1個体の中で1か所のみの加飾と考えられる。同じような例は同時期の底部に沈線が巡る浅鉢にもみられ，共通した想いが込められていると考えられる。編布は縦糸間8～9mm幅で，1cmあたりの横糸は6本である。内面はミガキで平滑であるが，口縁部には条痕がみられる。完形品として復元されている1460と特徴が一致し，同一個体の可能性があるが，両者とも全周の6分の1ほどの破片であり，ゆがみも多いため復元した口径には若干の差がみられる。1460は口径47cm，器高15.6cmに復元されている。底部の接地面が狭い丸底であり，底部上位からの特徴は1459と同じである。編布の特徴も同じであり，少なくとも41.5cmの幅に47本の縦糸がみられ，縦方向へも18cmは残っている。この中に縫い合わせはみられず，これまで見つかっている編布圧痕では最も広い幅である可能性があり，当時の衣類の様相を復元するのに有効な資料である。

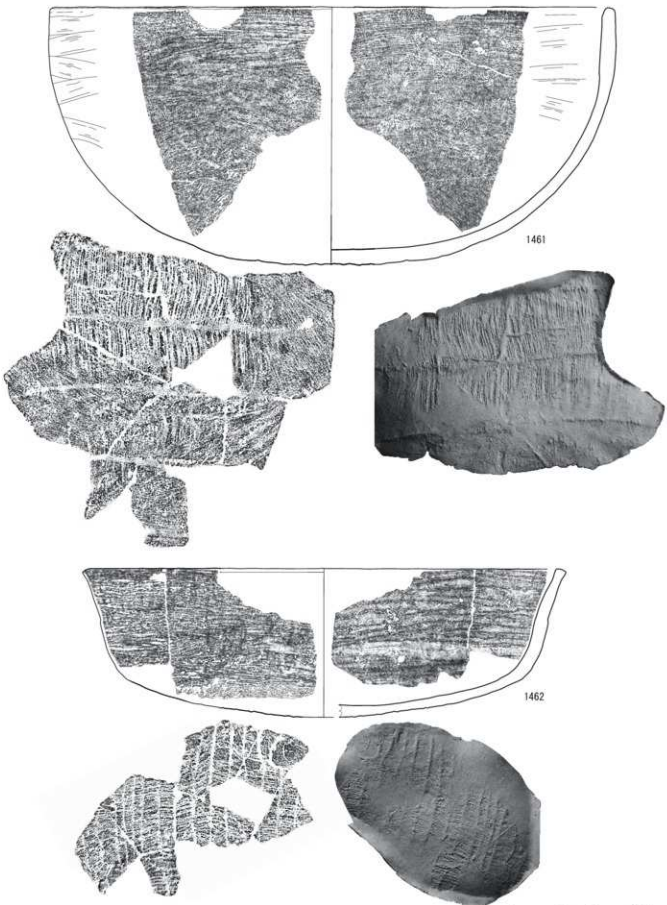
1461は接合点はなかったものの両者に編布圧痕があり，特徴が一致したことから図上復元したものである。復元口径45cm，復元器高20.4cmで半球形に立ち上がる器形である。口唇部は丸く収め，口縁端部に肥厚はみられず，外面の口縁端部下を指でひとナデする程度に浅く凹む。外面は粗いナデで，内面はナデにより底部付近は平滑である。縦糸間53mm幅の編布であり，1cmあたり6本の横糸である。周辺の編布はナデ消されている。内面は平滑である。胎土に軽石を多く含む。縦糸は幅が広い点を補うように2条1組で編まれたようにも見え，他に事例があるのか検討を要する。1462は復元口径38.4cm，復元器高約11.8cmで，わずかに内湾しながら開く浅い底部から胴部境で強く内湾し，わずかに外反気味に立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は軽く面取りし，肥厚部はみられない。底部と胴部の境にわずかな段があり，底面には編布の圧痕がみられる。編布は1cmあたり7～8本の横糸で縦糸は13～15mm幅と3条を単位とする7mm幅の部分がみられる。幅狭の3条単位が入るのは，少なくとも幅広10条の間隔を開けている。外面は粗いナデであり，内面は底に近いほど平滑になる。外面上部に煤がみられ，内面底部近くは黒く焦げている。

1463は復元口径41.4cmを測る。外傾する底部から粘土を重ねて屈曲部をつくる。内湾気味に立ち上がる口縁部から口唇部は丸く収める。口唇部下に刻目のない1条の三角突帯を巡らす。組織痕は5mm幅の縦糸に7～8本の横糸がみられる編布である。外反する型の緑と直交する様に編布を敷いている。無刻目突帯の時期に該当すると考えられる。1464は復元口径28.2cmであり，底部との境で内傾に屈曲し，内傾して立ち上がる口縁部である。口縁端部を外側に短く折り曲げ，口唇部は丸く収める。鰭状もしくはリボン状の突起を施す部分は内外面とも肥厚する。底部の器厚は3～5mmと同一でない。底部境は粘土を重ね8mmと厚くなる。内外面とも粗いナデである。編布は1cmあたり3～4本の縦糸と7～8本の横糸である。1465は接合はしないが同一個体と考えられる。口縁端部の折り曲げは刻目突帯文期の浅鉢に類似するものであり，組織痕土器でも新しい時期に位置づけられると考えられる。本遺跡の中では最も緩糸幅が狭い例である。

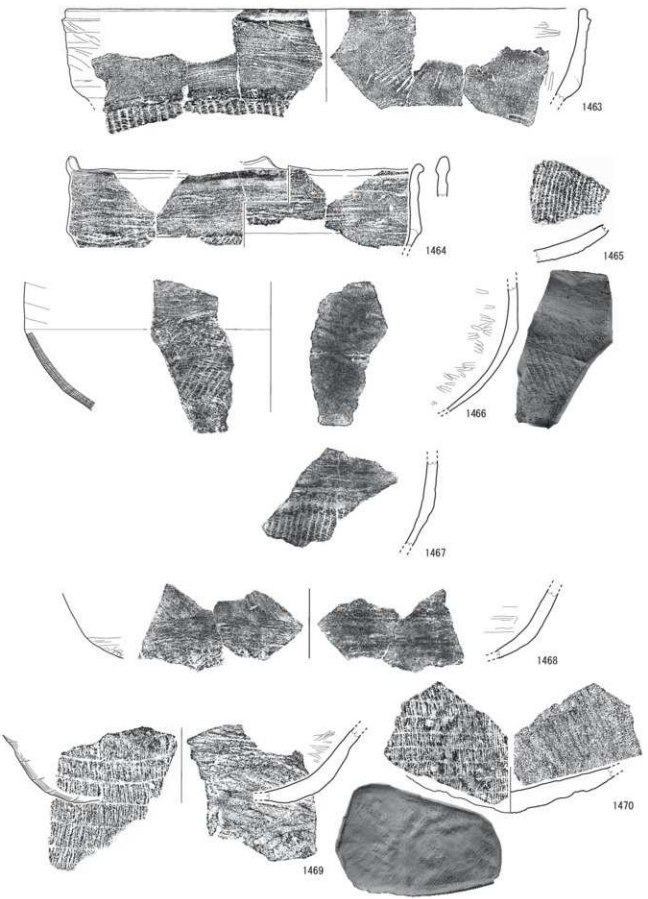
1466は丸く清曲する底部から外面のみわずかに屈曲して口縁部に至る。屈曲部の復元径は39cmである。編布は斜位に敷かれ，5mm幅の縦糸と1cmあたり7～8本の横糸である。1467は1466と同一個体と考えられ，底部境の屈曲部に対してほぼ直角に編布が敷かれており1cmあたり10本の横糸をもつ。1468は底部と体部境で内湾する様に屈曲する。屈曲部の復元径は36cmである。屈曲部は粗いナデで，口縁部近くは条痕をヨコナデしている。1cmあたり5本の横糸の編布である。1469は底部から体部へ緩く屈曲する部分である。底面の厚さは4～11mmと一定せず，屈曲部が最も厚く14mmを測る。編布は底部から体部まで連続して敷かれている。縦糸が18～20mm幅で，1cm当たり9本の横糸をもつ。屈曲部より上位に組織痕がみられる例はほとんどなく興味深い。内面はミガキによ



第２－118図　中華鍋形土器（組織痕土器）（２）



第２－119図　中華鍋形土器（組織痕土器）（３）

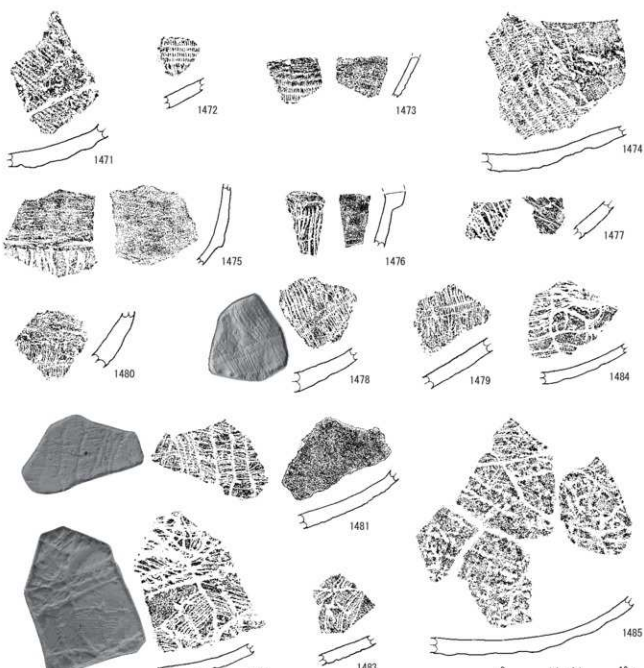


第２－120図　中華鍋形土器（組織痕土器）（４）

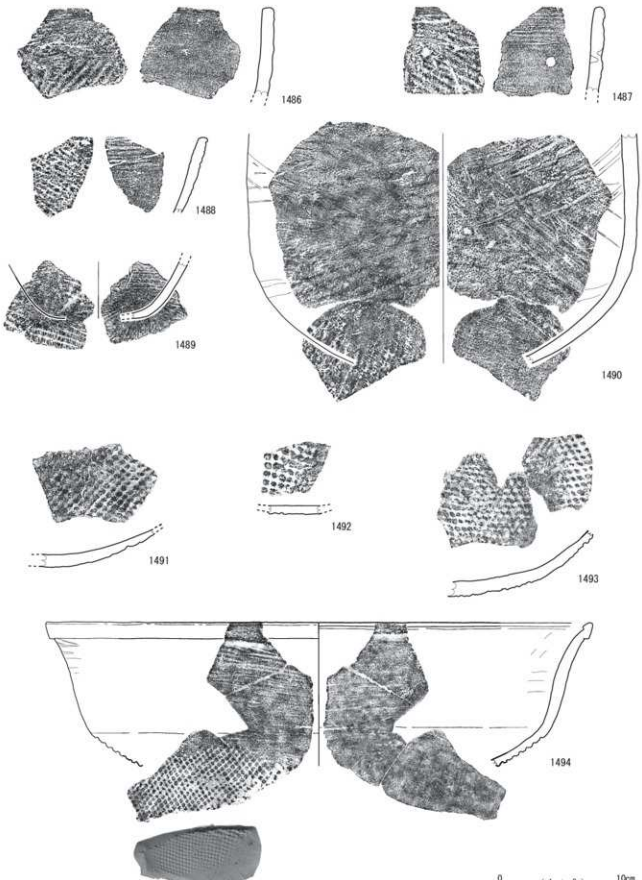
り平滑である。1470は10～12㎜幅の縦糸に１㎝あたり７本の横糸をもつ編布である。型には同心円状もしくは渦巻き状の凹凸が３条はみられる。このような手法で編まれた笊などを型として利用していたことが窺える。

1471～1485は編布圧痕のある土器片であり，小破片のため縦糸間の幅が複数みられるかどうかは不明である。1471は凹凸が著しい。１㎝あたり３本の縦糸と７～８本の横糸の編布である。1472は縦糸間３～４㎜幅で１㎝あたりの横糸は７本である。1473は５㎜幅の縦糸に７本の横糸がみられる。無文部分との境に厚みの違いなどはみられない。内面は粗いナデの調整である。金色雲母を多く含む。1474は７～８㎜幅の縦糸に１㎝あたり５本の横糸をもつ。また，編布が複雑に重なった部分もみられる。1475は底部と体部の境が段をもって明確である。縦糸間20㎜以上ある編布はほつれている。1476は幅25㎜以上はある縦糸と１㎝あたり５～６本の横糸である。体部境は屈曲せず段をもつ。底部の器厚が８㎜で，段の部分は16㎜である。1477は24㎜幅の縦糸に１㎝あたり５本のほつれた横糸である。

1478～1481は幅の狭い縦糸間の両側に幅広の縦糸間がみられるものである。1478は縦６㎜幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦16㎜幅と縦30㎜幅を超す編布がみられ，



第２－121図　中華鍋形土器（組織痕土器）（５）



第２－122図　中華鍋形土器（組織痕土器）（６）

横糸は1㎝あたり6～7本である。縦糸はZ撚りで編まれており，土器表面に付いた糸くずもZ撚りである。1479は縦6㎜幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦糸幅16㎜および25㎜を超す編布がみられ，横糸は1㎝あたり6～7本である。1480は縦糸が2～3㎜幅とその両側に10㎜以上の幅をもつ編布である。体部境でわずかに屈曲する。底部分が14㎜と厚く，体部は8㎜の器厚である。体部のナデ消した部分の下にも編布がみられる。これらは，デザイン性とともに縦糸の強度を高める1461と同じような縦糸の編み方が想定される。1481は14㎜幅に4本の縦糸で3単位の編布と12～15㎜幅および20㎜以上の幅のある編布を合わせもつ。横糸は1㎝あたり7本である。糸のつなぎ目もみられる。内面はミガキにより平滑である。

1482～1485は編布のほつれ具合や縦糸が太い点，内面がナデ調整で黒色化していない点など共通点が多い。1482は圧痕にいくつかの様相がみられる。20㎜幅の縦糸に1㎝あたり5～8本の横糸がみられ，編布がほつれた部分もみられる。点状に深くなった部分は結び目と考えられる。また，編布の緑もしくは縫い合わせたような部分，それに圧痕が空白の部分もみられる。1483と1484はほつれた編布であり，20㎜幅の縦糸に1㎝あたり4～7本の横糸がみられる。1485もほつれた編布で，10㎜幅と20㎜以上の幅の縦糸があり，横糸は1㎝当たり8本である。

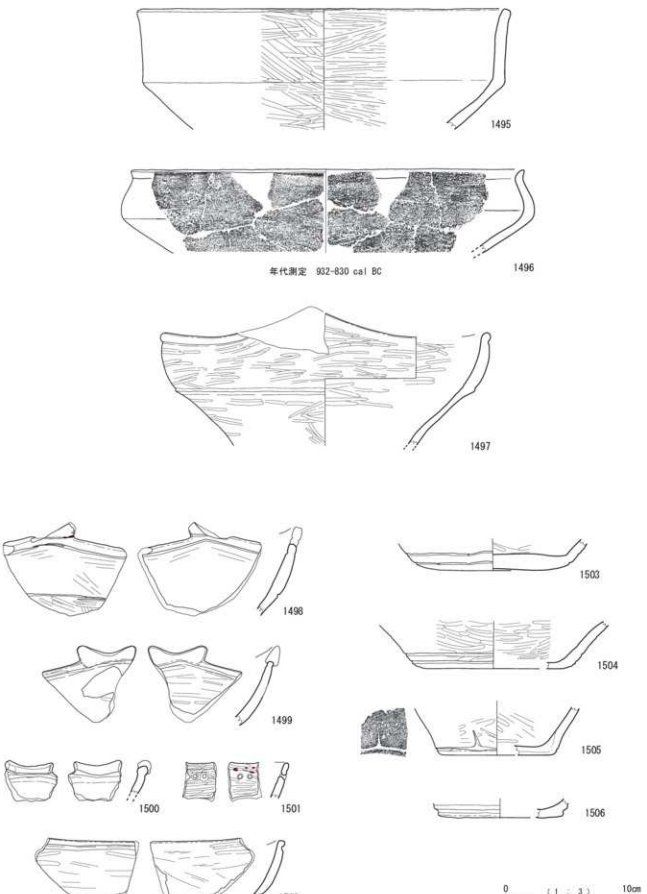
1486～1490は口縁部まで編布圧痕が付着するものや，組織痕土器としては中華鍋形ではなく類例の少ない器形のものである。1487はわずかに内湾気味に直行するものである。口縁部近くまで組織痕がみられ，口唇端部までの10㎜ほどの幅はヘラ状の工具でナデている。口縁端部外面から内面にかけては丁寧なナデであり口縁端部外面は肥厚しているようにみえる。内外面からの穿孔がみられるが貫通していない。組織痕は縦糸6㎜幅の編布であり，横糸は1㎝あたり8本みられる。1486も同一個体と思われる。1487が右下がりの編布であるのに対し，1486は左下がりの編布である。1486の編布圧痕は口唇部から40㎜ほどの間隔をおいている。口縁部端部近くまで組織痕がみられる例はこれまでなく，器形や製作方法の検討が必要となる。1488も口縁部付近まで編布圧痕がみられる。組織痕は縦糸5㎜幅の編布であり，横糸は1㎝あたり8本みられる。内面は条痕の後，丁寧にミガかれている。どのような器形になるかは不明である。1489は復元径8㎝の浅い丸底から緩く屈曲して開く体部に至る。体部はナデ調整であるが，一部の深い部分に編布が残る。内面は条痕調整のままで平滑ではないが，焦げは残る。5㎜幅の縦糸に1㎝あたり10本の横糸の編布がみられる。器形や内面調整，体部にも編布圧痕がみられることなど一般的な組織痕土器と異なる。1490は胴部の破片と接合し，胴部以下の形が明らかになった。丸底から直立する胴部に至る。復元胴部径は31㎝である。外面はケズリ様のナデの後，ミガキ様のナデを施す。内面はケズリ様のナデで，組織痕土器に一般的なミガキはみられない。底面は編布圧痕をヘラナデして消す様相がみられる。この部分は径約10㎝の円形に割れており，型作りの際，1個の粘土の塊を想像できる。厚さは9㎜であり，約70.65㎠の粘土を用いたと考えられる。口径に対し深くなる器形に編布圧痕がみられる例はほとんどなく，内面も平滑とはいえないことから，機能的な面も検討しなければならない資料である。

1491～1493は同一個体と考えられ，同じ6～7㎜幅の網目をもつ。1493はわずかに屈曲し，この部分の組織痕はナデ消されている。底面から体部にかけて連続して網が歪んでいたと考えられる。組織痕は6～7㎜幅の網目である。1494は復元口径41㎝前後であり，ゆるやかな丸底に近い底部から胴下部で内側にわずかに屈曲し，緩く外反する口縁部に至る。口縁部外面に14㎜幅の口縁部肥厚帯をもつ。口唇部は丸く収め，口唇部内面も段をもって肥厚させ，精製浅鉢にみられるような玉縁状に仕上げる。外面は横方向の粗いナデである。底部には網目の組織痕がみられる。網目の幅は3～4㎜と細かい。これまで県内で出土した網目でもっと細かいのが西原段Ⅰ遺跡（大隅町）の3㎜であり，最も大きな網目は計志加里遺跡（薩摩川内市）の37㎜である。串良川で小魚や水性昆虫などを獲っていた状況が想定される。内面は平滑であり，底部から胴下部まで焦げている。

第2-123～125図はⅩⅣ類土器に含まれると考えられる浅鉢類である。

1495は復元口径29.7㎝を測り，屈曲部とほぼ同じである。外開きする胴上部から，内側に屈曲して外反気味に直行する口縁部に至る。口唇部は丸く収め，肥厚しない。外面はミガキ様のナデであり，内面は横方向のナデによる。外面は被熱により赤化している。石鉢谷B遺跡（鹿屋市）の例では浅い丸底となっており，本資料も同様な器形が考えられる（外反口縁屈曲浅鉢）。石鉢谷B遺跡では干河原段階の中でも屈曲せずに2条の無刻目突帯をもつ時期で，刻目突帯文土器を全く含まない希少な例である。1496は口縁部復元径30.7㎝を測る。直線的に開く体部から胴張りの肩部に至り，屈曲して短く外傾する口縁部をもつ。口縁端部に肥厚はなく，内外面に凹線等はみられない。内外面とも摩耗しており器面調整は明確でない。外面に煤が付着しており年代測定した結果，^{14}C年代が2755±20yrBP±1σ，2σ暦年代範囲が932－830calBC（92.60%），970－956calBC（2.85%）である。

1497～1506は丸みを帯びた平底の接地面近くに沈線を巡らし，外反して開く体上部を変換点として内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ器形の浅鉢（波状口縁内湾浅鉢）である。1497は復元口径26.2㎝を測る。4か所の波



第２－123図　ＸＶ類土器（浅鉢形土器）（１）

頂部をもつと想定される。外反気味に開く体部上端の内側に粘土を重ね，内湾する口縁部に至る。体部と口縁部の境は断面半円状に肥厚する。口縁端部は外面のみ玉縁状に肥厚する。内外面ともヘラミガキし，黒色処理している。1498は波状口縁の土器である。わずかに外反する体上部から沈線を境に内湾しながら開く頸部に至る。口縁部の内外面に沈線を巡らし，膨らみのある端部をつくる。波頂部にリボン状の突起をもつ。突起の下位には内外面とも沈線がみられる。突起の沈線内にベンガラによる赤色顔料が施された痕跡がある。1499は内湾気味に開く波状の口縁部である。口縁端部の内外面を削り出し状にし，玉縁状となる。波頂部にリボン状の突起が付き，内外面とも粘土を重ねて肥厚する。1500は玉縁状の口唇部にリボン状の突起をもつものである。口唇部との接合面には内外面とも沈線を弧状に施す。1501は口縁端部をヘラミガキにより削り出したものである。内面にベンガラによる赤色顔料がみられる。補修孔が２つ並んでみられ，左側は両面から，右側は外面からの穿孔である。孔の直径は３㎜と同じであるが，片面穿孔の右側が大きくみえる。1502は内湾して開く口縁部である。体部境に沈線がみられ，口縁端部外面を削り出し気味に肥厚させる。口唇部は面取りする。

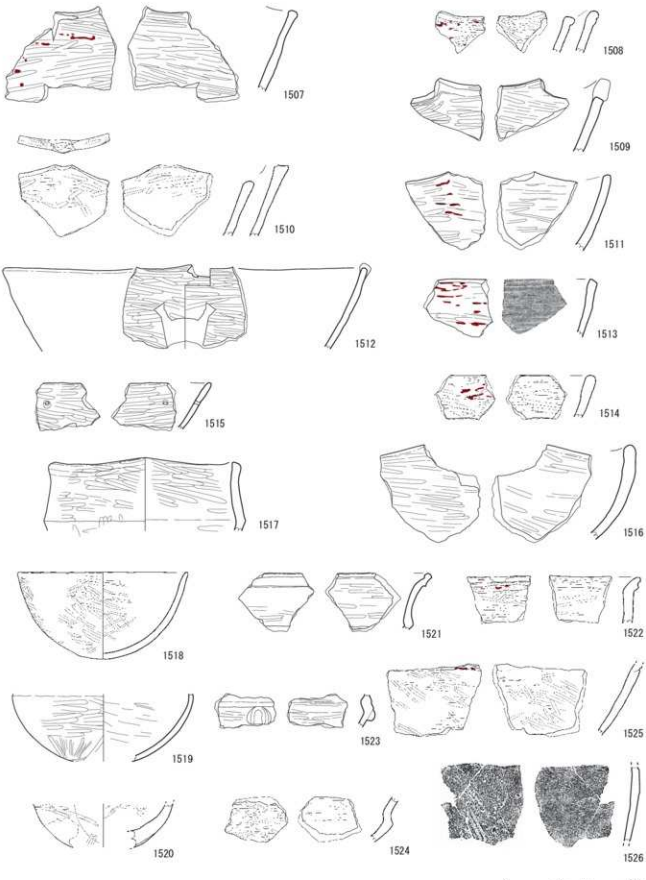
1503～1506は沈線を巡らす底部である。1503は復元径12㎝で周縁が丸みを帯びる大型の平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して２条の沈線を巡らす。沈線は丁寧な描き方ではなく乱れている。1504は復元径13㎝で周縁が丸みを帯びる平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して２条の沈線を巡らす。1505は復元径9.4㎝の底部である。やや丸みを帯びた底面から約55度の角度で外反気味に開く。底面に接して１条の沈線が巡り，一部に三叉文を施す。内外面とも丁寧なミガキである。1506は復元径10㎝で底面が丸みを帯びる平底である。底面に接して少なくても２条の太い沈線を巡らす。

1507～1516は外傾あるいは内湾しながら開く口縁部をもつ浅鉢であり，全体の器形は不明である。1507は内湾気味に開く波状の口縁部である。口唇部を平らに面取りし，外側を玉縁状に肥厚させる。内外面ともヘラミガキであり，外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残る。1508は山形の波頂部である。口唇部は面取りし，外面を肥厚させる。外面はヘラミガキで，内面はナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1509は内湾気味に開く波状の口縁部である。波頂部に鰐状の突起が付き，この部分のみ外面は粘土紐を重ねて肥厚する。1510は直行気味に開く波状の口縁部である。口唇部は面取りし，外端をわずかに丸く肥厚する。波頂部に楕円形の凹点を施す。1511は内湾気味に立ち上がる波状の口縁部である。口唇部を丸く収め肥厚はしない。内外面もヘラミガキであり，外面にベンガラによる赤色顔料を施す。1512は復元口径29㎝で内湾気味に体部から口縁部へ外開きする。口縁端部に変化はなく，そのまま口唇部を丸く収める。両端は欠けてはいるが膨らみのある鰐状の突起をもつ。内外面ともミガキによる。内外面とも黒色処理している。全体の器形はそのまま丸底となるのではないかと考えられる。1513は1514に近いもので，わずかに内湾する。口唇部は同じ器厚で緩く面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残っている。1514は特徴的な部分がなく器形は不明である。器面調整はミガキによるもので，外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1515はほぼ直線的に開く口縁部であり，口唇部は尖り気味に丸く収める。内外面ともミガキによる。外面は明赤褐色で，内面は黒色処理している。内面から穿孔した補修孔がみられる。1516は大きく内湾して直行気味に立ち上がる口縁部である。口唇部は丸く収め，波状口縁になると考えられる。口縁部下は２本の指で挟むように成形しており，内外面ともわずかに凹むが，肥厚しない。器壁は10㎜と厚い。内外面ともヘラミガキである。外面に煤が付着する。

1517は体部上部から口縁部にかけての破片であり，復元口径15.2㎝である。体上部屈曲部も口縁部と同じように波状になると考えられる。波頂部は直行し，波底部は口縁部を外反させ端部をわずかに肥厚させる。内外面ともヘラミガキによるが，内面は粗い。

1518～1520は半球形状の器形のものである。1518は口唇部の残りは５㎜ほどであるが，完形に復元できた。復元口径13.6㎝，器高6.9㎝を測る丸椀形の鉢である。ほぼ半球形で口縁部は外傾する。器壁は４～５㎜と薄く，口唇部は軽く面取りする。内外面ともミガキによる器面調整である。1519は底部付近から胴上位へ半球形状に開く破片である。胴上部ではより強く内湾する。復元径14.4㎝で器厚も４㎜弱と薄く，小型の茶家形（内湾口縁胴張浅鉢）の浅鉢と想定される。1520は丸底の底部で，一旦成形した表面に１㎜に満たない厚さの粘土を重ねて仕上げたものである。

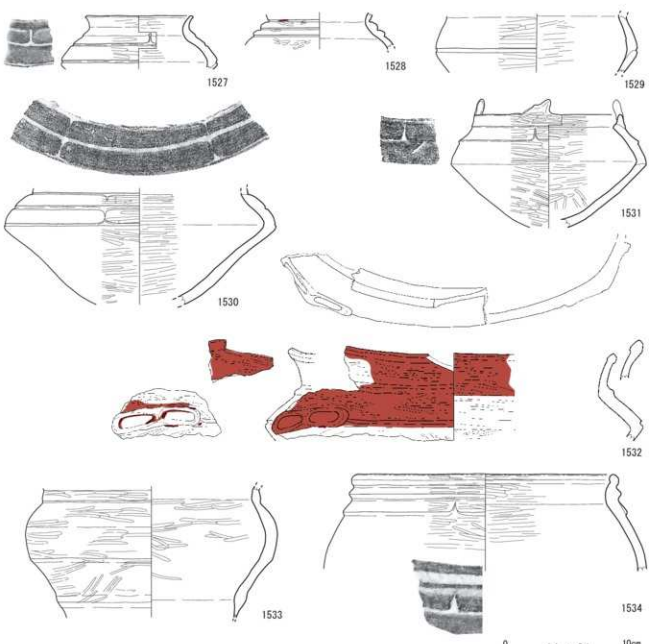
1521と1522は口縁部に文様帯のある浅鉢である。1521は内側に強く屈曲する体部境から大きく外反する頸部をもつ。口縁部の外面下位と内面端部に粘土を重ね肥厚する。内面は段をもって玉縁状にし，外面は浅く凹む10㎜幅の口縁部肥厚帯となる。内外面ともヘラミガキである。1522は内湾気味に立ち上がる肩部から短く屈曲して外開きする口縁部に至る。口縁部下に粘土紐を重ね口縁部と一体化させ，間を凹線風に仕上げている。口縁肥厚部にベンガラによる赤色顔料がわずかに残る。器種については検討を要する。



第２－124図　ＸＶ類土器（浅鉢形土器）（２）

1523～1526は体部の一部であり，全形は不明である。1523は肩部から口縁部付近の破片である。胴上部で内側に屈曲し10㎜弱の肩部をもち，さらに屈曲して口縁部に至ると考えられる。肩部の器厚は８㎜であるが，口縁部境は４㎜である。肩部に接した胴上部にリボン状の小突起をもつ。内外面ともミガキによる。1524は胴上部で内側に強く屈曲し，外反する頸部をもつ。口縁部が欠けており時期判定は難しい。厚さが７㎜と浅鉢の中では厚めであることは古相の観があり，出土区からは刻目突帯文土器が多く出土している。1525は内湾気味に開きながら立ち上がり，体上部で疑似口縁となる。この部分の外面に沈線がみられ，沈線内に赤色顔料が残るが，ベンガラと判断できるような分析結果は得られなかった。内外面ともミガキ様のナデである。全体の器形は不明であるが，深めの浅鉢が想定される。1526は1525に近い器形と考えられるが，体部は開かずに内湾気味に立ち上がる。径は1525よりも小さく，外面に沈線がみられる。外面はナデにより，内面は平滑なミガキによる器面調整である。縄文時代後期前半の可能性もある。

1527～1534は茶家（ちゃか）形あるいは算盤玉形の器形の浅鉢（内湾口縁胴張浅鉢）である。1527は復元口径8.5㎝の小型のものである。体部と肩部の境で内側に強く湾曲し，内湾気味の肩部をもつ。口縁部は短く外反させ，口唇部は丸く収める。口縁端部内面にわずかなくぼ



第２－125図　ⅩⅤ類土器（浅鉢形土器）（３）

みが巡る。体部と肩部境および肩部中央には沈線を巡らす。三叉文部分を除いて肩部上位に削り出し様の低く緩い段をもち、頸部には調整時のわずかな段がみられる。肩部中央の沈線から上方を削り出して三叉文を施す。1528は頸部での復元径８cmを測る。肩部に２本の沈線を巡らせ、下面を削り出すように磨くことによって突帯状に見える。屈曲して立ち上がる口縁部境にも沈線を施し、沈線内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。内外面ともミガキによるもので、黒色処理している。1529は胴部最大径16cmを測る。直行気味に開く体部から，丸く内湾する肩部に至る。さらに外反しながら開く口縁部に至ると考えられる。体部上端の内面に粘土を重ねて肩部をつくり，接合部分の胴部最大径には３mm幅の沈線を巡らす。

1530は胴部最大径21．6cmを測る。丸底と想定される底部から外反気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾し，直立もしくは外傾する口縁部に至ると思われる。肩部中央と口縁部境に沈線を巡らすが，沈線の下端は角を落とすようにミガいている。両沈線から下に向けて削り出し，三叉文を描く。また，同じ位置の体部屈曲部から上に向けて三叉文を施す。胴屈曲部の三叉文付近にも沈線が巡るが，一周はしない。三叉文は４か所に施されていたと想定される。沈線の下端の角を潰らかにすることによって，三叉文に囲まれた区画が浮き出したように見える。1531は丸底と想定される底部から内湾気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾気味に内傾し，段をもって立ち上がる短い口縁部に至る。体屈曲部の復元径は15．4cmで，復元口径は11．8cmである。推定される器高は9．2cm前後である。口縁部外面は内傾するが，内面は外側に屈曲し明瞭な稜をもち，口縁内面は浅い凹線状となる。口唇部は丸く収め，一部にリボン状の突起が付く。肩部中央は下位が強調された段状の盛り上がりがみられ，リボン状突起の位置で上方に削り出して三叉文を施している。内外面ともミガキによるもので，内外面とも黒色処理している。口縁部下と肩部中央の段状となる部分は削り出すようにミガいて浮かせたものであり，1530にみられる様な沈線下端の角を落とす手法と共通する。両者の手法が進化もしくは退化の前後関係を示すのか不明であるが，これらの肩部から口縁部にかけて装飾をもつこの種類の器形が，茶家形（内湾口縁胴張浅鉢）の祖型となる可能性がある。

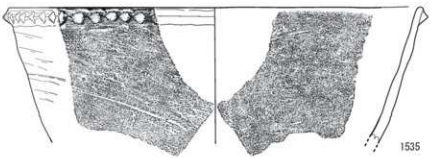
1532は体上部で内側へほぼ直角に強く屈曲し，内傾する40mm幅の肩部をもつ。さらに外側に約60度の角度で折り曲げ，外反気味に開く波状の口縁部に至る。体部と肩部の境には１条の凹線を施し，肩部と頸部の境には５mm幅の低い突帯を巡らす。口縁端部は肥厚し，内外面が緩い段状となる。口唇部は丸みを帯びた面取りを行う。口縁部の一部に片蝟状の突起をもつと考えられる。波頂部と想定される部分の体部と肩部の境には，眼鏡形の浮文を施す。浮文の中央下部は外側に張り出す。上面からみると浮文部分のカーブはきつく，一般的な部分より急である。このことから各辺は丸みを帯び，浮文部分すなわち波頂部分に角をもつ隅丸方形をした器形が復元できる。残った破片から想定復元すると，浮文の頂部間が約24cm，屈曲部での横幅が約30cmと想定される。復元口径は26cmである。内外面とも丁寧にミガいてあり，外面は煤を吸着させ黒色化し，ベンガラによる赤色顔料は外面肩部から頸部内面まで施している。口縁端部にみられる内外面の緩い段状の肥厚部は突起部分にはみられなくなり，突起自体が内面に段をもって肥厚する。突起の端に近い部分で欠けていると考えられる。レイアウト後，全ての破片が接合でき実測図と若干の差が生じた。

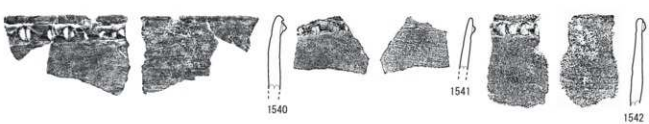
1533と1534はこれまで類例のない器形のものである。1533は接合しないものの，３点の破片を図上復元したもので，胴部最大径は19．8cmに復元される。外反して開く体部の一部が膨らみ，体上部の稜を境に胴張りの丸い肩部から屈曲して立ち上がる口縁部が付くと想定される。頸部には膨らみがあり，各部位の境は明瞭である。体上部と体下部の器厚が７mmと３mmで，底部に近い方が極端に薄い。内外面とも丁寧なヘラミガキによる器面調整で，外面に煤が付着しているが，製作時の炭化処理なのか使用時のものか不明である。今後類例が出てくれば，器形の変更が求められる。1534は復元口径21．2cm，胴部最大径25．7cm前後を測る。基本的には内湾する肩部から外反気味に26mmほど立ち上がる口縁部をもつもので，口縁端部が内外面とも玉縁状に膨らむものである。口縁端部の内面は凹線状の段をもつ。外面の頸部には口縁端部と同じ高さの突帯を巡らし，突帯の上下を丁寧にナデることによって２条の太い凹線を巡らしているようにもみえる。肩部上位は段をもって盛り上がり，一部を削り出して三叉文を施している。器形・施文方法とも県内では類例がなく，呼び方や機能，出自など検討を要する。

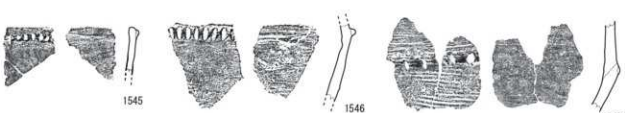
刻類土器

第２~126～129図は刻類としたもので，刻目突帯文土器とそれに伴う鉢類や壺類などを含む。本来は既に弥生時代に入っていると考えられ，弥生時代前期を扱った『小牧遺跡３』の掲載遺物と併せて閲覧していただきたい。本県における刻目突帯文期の土器を扱う場合，刻目突帯文土器を縄文時代晩期とし，壺形土器を弥生時代とした紹介している報告書もあるため注意を要する。

1535～1548は刻目突帯文を巡らす甕形土器であり，1535が一条甕，1536～1539が二条甕に該当するものである。1535は復元口径32．8cmである。内湾気味の胴部からほぼ直行して外傾する口縁部に至る。口唇部は丸く収め，口唇下３mmに刻目突帯文が巡る。刻目は爪痕のある指頭







第２－126図　ⅩⅥ類土器（１）

である。器面調整は外面が斜位の粗いナデで，内面は丁寧なナデである。口唇部下４cmの外面には爪痕がみられる。1536は復元口径27.4cmを測る。体上部で逆「く」字に屈曲し，内傾して口縁部に至る。口唇部は丸く収める。口唇部から３mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。刻目を入れた後，突帯をヨコナデした箇所もある。器面調整は外面がナデで内面は横方向の条痕である。

1537は口縁部と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。やや外傾する口縁部で端部近くのみわずかに外反する。口唇部は面取りする部分と丸く収める部分があり，口唇部下５mmに刻目突帯文を巡らす。屈曲部の突帯は上下の接合痕がはっきりしている。刻目は両方とも爪痕のある指頭で，口縁部は密に施す。1538は２条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾する口縁部である。口唇部は尖り気味に収める。屈曲部と口唇部下５mmに刻目のある突帯を巡らす。刻目の施文具は不明である。口縁部は突帯に刻目を入れた後，上下をナデている。1539は２条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾して口縁部のみわずかに外反する。屈曲部と口唇部に接した刻目のある突帯を巡らす。刻目は指頭と考えられる。口唇部は刻目を施した後面取りしている。内外面ともミガキ様のナデで，突帯のみヨコナデによる。調整や色調が高橋具塚（南さつま市）出土品に類似する。

1540～1547は一条甕か二条甕になるか判断がつかないものである。1540はわずかに外反する口縁部で，口唇部下５mmに刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭である。口唇部は丸く収めるが，余分な粘土が外端部にはみ出す。1541はほぼ外傾する口縁部で，口唇部は丸く収める。口唇部下５mmに貼付突帯が巡り，爪痕のある指頭で刻目を施す。内外面とも丁寧なナデである。1542はほぼ直行して開く口縁部で，口唇部は丸く収める。口唇下２mmに刻目突帯文が巡り，タテ筋のある施文具で刻目を施す。1543は内湾気味に内傾し口縁端部を外反させ，口唇部下５mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。内外面とも粗い条痕である。1544は外傾する口縁で端部をわずかに外反させ，口唇部下５mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。外面はナデで，内面は粗い条痕である。1545は外傾する口縁部で端部のみ内湾気味となる。口唇部にほぼ接して巡る細めの刻目突帯文である。刻目は棒状工具による。金色雲母を多く含む。1546は屈曲部に刻目突帯を巡らす。刻目は棒状工具による。1547は緩く屈曲する部分に太めの刻目のある突帯を巡らす。外面は横方向の条痕で，内面はミガキ様のナデである。

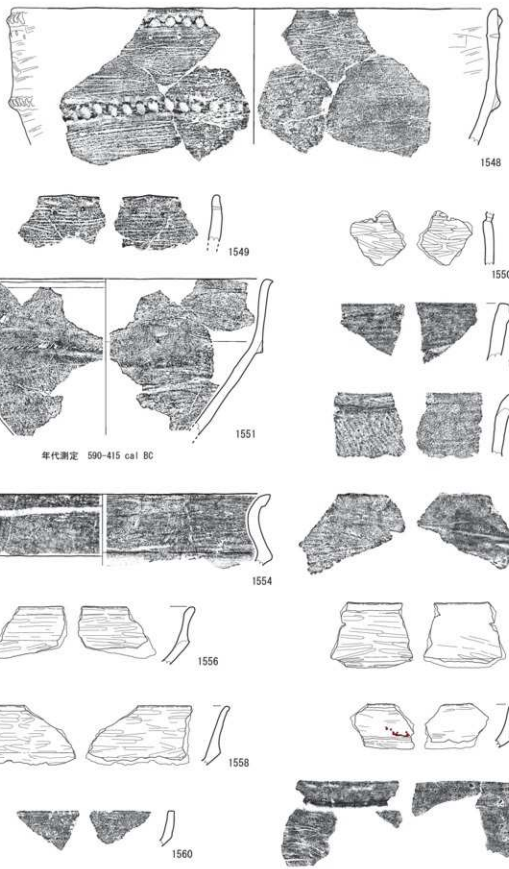
1548～1550は焼成前に穿孔するもので，孔列文土器である。1548は復元口径38.6cmである，体上部で約17度の角度で内傾に屈曲し，直行して口縁部に至る。口唇部は内面を丸く外端部を尖り気味に仕上げる。口唇部から５mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。器面調整は内外面とも横方向の条痕である。口唇部下21～23mmに外面から串状工具で18～25mmの間隔をおいて刺突するが，貫通していない。1548と同一個体と考えられる破片では，貫通した穿孔が３か所に観察できる。1549は内湾気味に直行する。内外面とも横方向の貝殻条痕である。焼成前の穿孔が３か所で確認できる。口唇部下10～15mmに外面から穿孔し，直径は２mmである。1550は内湾気味の胴上部から外傾する口縁部に至ると想定される。口縁部端の内面に凹線を施し，焼成前の穿孔がみられる。内外面ともヘラミガキによる。全形は不明であるが，鉢形土器の可能性もある。

1551は復元口径26.5cmを測る。ほぼ直行して開く体部から逆「く」字状に屈曲し，ほぼ直立した口縁端部のみわずかに外反させる。口唇部は平らに面取りするが，外端を強調し無刻目の突帯状となる。屈曲部外面には粘土を重ね断面三角形の突帯を巡らす。口唇外端および口縁下位の突帯は，親指と人差し指の先で挟み込んだ状態に近い。口縁下位の突帯にはヘラ状工具で鋭利な刻目を密に施す。内外面ともミガキによる器面調整で，外面に煤が付着する。付着した煤を年代測定した結果，^{14}C年代が2450±20yrBP±１σ，２σ暦年代範囲が590－415calBC（52.38％），750－684calBC（29.90％），667－635calBC（12.17％），620－613calBC（0.99％）である。この年代は，刻目突帯文土器を主体とする弥生時代前期に該当する。

1552は傾き不明のほぼ直行する口縁部である。口唇部は平らに面取りし，口縁端部下に上下幅部が不明瞭な低い突帯を巡らす。外面は条痕状の調整をナデており，内面は横方向のナデである。1553は傾きや波状口縁かどうかも把握できない資料である。直行する頸部から口縁部のみ緩く外反させる。口唇部はわずかに面取りしており，口縁端部下に上下幅部が不明瞭な突帯を巡らす。外面は貝殻条痕状の調整で，内面は丁寧なナデによる。胎土は金色雲母を多く含む花崗岩質である。

1554は復元口径26.4cmで，屈曲部の方が復元径26.8cmと大きい。体部上位で内傾に強く屈曲し，内傾する肩部から大きく外反する口縁部に至る。口縁部は９mm幅で肥厚し，口唇部は尖り気味に収める。外面はミガキによるものである。全体の器形は不明であるが，浅い丸底となる可能性もある。

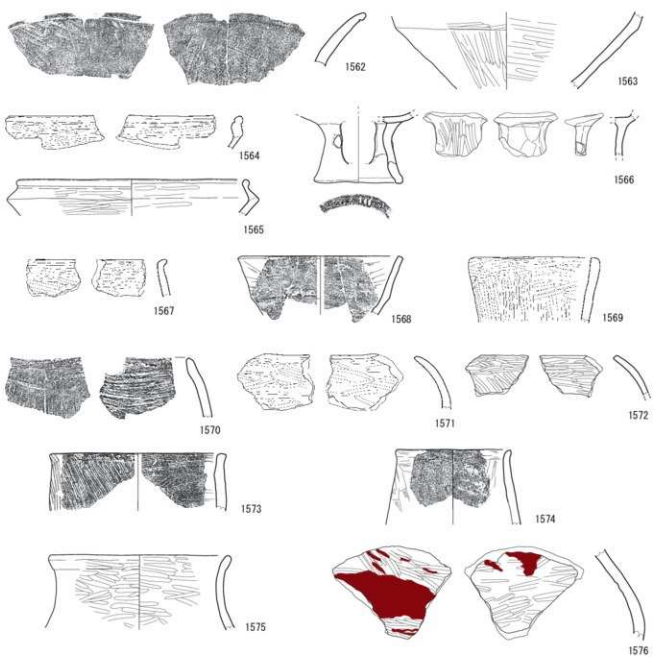
1555は傾きも器形も不明である。55mm幅でわずかに内湾気味の口縁部をもち，内側へ屈曲気味に曲がる体部に至る。口唇部は一部面取りしてある。内外面とも条痕調整をナデ消している。1556はやや外湾気味に開く体部から外面のみ内側に屈曲させ，外反する口縁部に至る。復元した口径は32cm前後とやや大きくなる。内面は内湾し



第２－127図　ⅩⅥ類土器（２）

口縁端部のみ稜をもって短く外傾させる。体部上端の内面に粘土を重ねて口縁部を形成することから，屈曲部のみ器壁が厚くなる。内外面ともミガキによる。刻目突帯文土器に伴う円盤状の底部をもつ浅鉢と考えられる。1557は体上部で内側に屈曲し，外反気味に開く50mm幅の口縁部に至る。屈曲部分および口縁外端部は指で摘まみだすようにナデることによって明瞭な稜がみられる。外面は横方向のミガキによる。1558は体部上位外面で内側に強く屈曲し，外反気味に立ち上がる口縁部に至る。口唇部はやや平らに面取りする。内面の屈曲部は外面屈曲部より下位にあり緩く屈曲する。1559は大きく外開きする体上部で内側に屈曲し外傾する口縁部である。屈曲部と口縁端部を肥厚させる。口唇部から口縁端部は玉縁状となり，屈曲部はシャープな突帯状となる。内外面とも丁寧なナデである。体部との境付近の外面にはベンガラによる赤色顔料の痕跡が確認できる。

1560は体部上位で内側に屈曲し，内湾気味に立ち上がる22mm幅の口縁部である。口唇部は平らに面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。1561は38cm前後の口径が想定される。内湾気味に外傾する口縁部で，口縁端部下に下がり気味の突帯を巡らす。突帯下部は接合痕がみられるが，突帯上部は指頭が当てはまるほ



第２－128図　ⅩⅥ類土器（３）

と口縁端部と一体化している。口唇部および突帯端は少し面取りしている。外面は条痕による器面調整で，内面は丁寧なナデによる。

1562～1573は類例が乏しく位置づけに苦慮する資料であるが，まとめて紹介する。1562は25cm前後の口径が想定され，外反気味に大きく開く口縁部である。口縁端部近くの外面に1条の沈線を巡らし，口唇部は丸く収める。器面調整は内外面とも丁寧なナデである。1563はほぼ直行し開く体部から外面のみやや緩く屈曲する。復元径は19.4cmであり，屈曲部には肥厚も沈線もみられない。内外面とも丁寧なミガキによる。どのような形の口縁部や底部が付くか不明である。1564は体部上位の内傾への強い屈曲部から口縁端部まで16mmしかない浅鉢である。口縁端部外側上部に粘土紐を重ね，内面は凹線状に，外面は段状に成形し，外見上は1565のような折り返し口縁の浅鉢に見える。口縁端部の作り方は入佐式土器にみられる手法と同じであり，新しい器形に古い手法を用いていると想定される。1565は復元口径18.6cmである。内湾気味に開く体上部で逆「く」字状に屈曲し，12mmほどの肩部をもつ。口縁部は短く玉縁状となる。内外面ともミガキによる。胎土に黒色鉱物が目立つ。

1566は高坏の脚部と考えられる。高さ5cm，復元径7cmの底部で器厚7mmの中空となる。坏部から弧状に広がる脚部であり，透かしをもつ。透かしは坏部との接点部分から空けてあり，縦に32mmを測る。それぞれの透かし両端の中程には11mm幅の粘土紐が橋状につながれていたことが想定される。接合しなかったが2点の破片があり，坏部との接点部分での透かし間の幅が48mmと43mmである。透かしが3か所とすれば透かしの幅は18mm前後となる可能性がある。坏部の器厚は4mmであり，内面は丁寧なミガキによる。脚部外面の器面調整はミガキであり，接地部分の一部には何らかの圧痕がみられる。

1567は内湾気味に内傾する頸部から，短く外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収める。1568は復元口径13.2cmであり，小型の粗製浅鉢になるのではないかと考えられる。体部は内湾気味であり，肥厚部分を境にした口縁部は外傾して開く。口唇部は平らに面取りする。内面はミガキ様のナデであり，外面はナデによる器面調整である。1569は復元口径10.4cmであり，外傾気味に立ち上がり，口縁部付近をわずかに内湾させる。口唇部は同じ器厚で面取りするが，外端は丸く，内端は稜をもつようにに成形する。内外面とも下位は縦方向に，口縁部付近は口唇部を含めて横方向のミガキがみられる。全体の器形は不明である。1570は12cm前後の口径が想定され，内湾気味の肩部から口縁端部のみ角度を変えて成形する。口縁端部の内外面は肥厚したようにみえるが，器厚は変わらない。口唇部は同じ器厚で丸く収める。内面の頸部は横方向の条痕であり，頸部外面はタテ方向のハケメ状の調整にミガキ様のナデを加えている。口縁部内外面はナデによる器面調整である。無頸の壺状になるのかどうかも含めて，全体の器形は不明である。

1571と1572は同一個体ではないが，ほぼ同じような形状をもつ。球形状に内湾したまま口縁部に至るものである。1571が胎土に金色雲母を含み，6mmで若干肉厚であるのに対し，1572は器厚が4mmで内外面とも丁寧なミガキである。器形の類例は少なく文様もみられないが，高橋貝塚（南さつま市）で出土している小型の鉢形土器に近いと考えられ，刻目突帯文土器期に該当すると考えられる。

1573は復元口径14cmで，内頬気味に立ち上がり，口縁部をわずかに外反させる。口唇部は器厚を変えずに平らに面取りする。外面はハケメ状の粗いナデであり，内面はハケメ状をナデ消す。全体の器形は不明である。

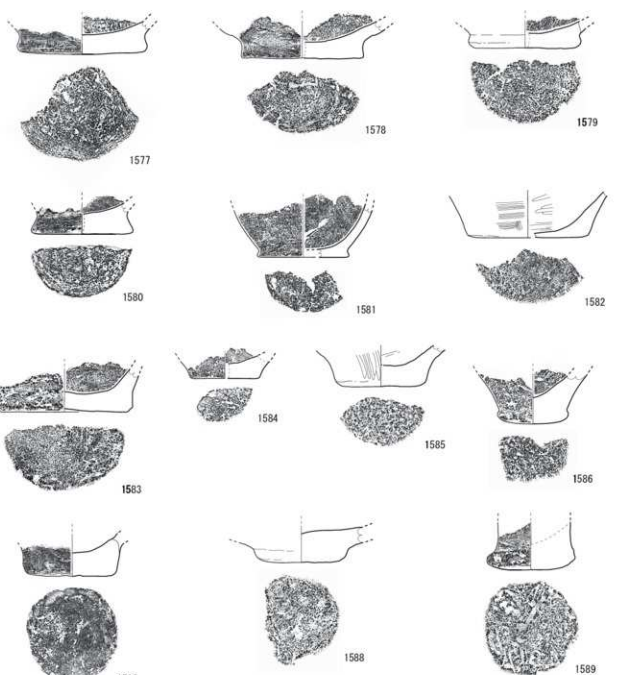
1574～1576は壺形土器である。1574は復元口径9.2cmの口縁部で，直行気味に内傾する頸部から口縁端部付近のみを外反させる。口唇部は尖り気味に収めている。外面は縦方向のミガキ様のナデであり，口縁部のみを横方向にナデる。胎土に4mm大の小礫を含むが，表面の粒子は細かい。1575は外反しながら内傾する頸部に，外開きする膨らみのある口縁部をもつ。復元口径は14.4cmを測る。器面調整は横方向のミガキ様のヘラナデである。1576は張りのある胴部からわずかに内湾する肩部をもち，外開に反る頸部へ至ると想定される。頸部境には段や沈線はみられない。外面は丁寧なミガキ，内面はナデである。外面にベンガラによる赤色顔料が施され，内面上部にも赤色顔料の痕跡がある。刻目突帯文土器に伴うと考えられる。

1577～1589は刻目突帯文土器期および弥生時代前期に該当すると考えられる底部である。1577は直径10.2cmの安定した平底の底部である。16mmの厚さで台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なミガキによる。花崗岩質の胎土で，浅鉢の可能性もある。1578は直径9.6cmの安定した平底の底部で，台形状の張り出しをもち，約30度の角度で開く。外面はナデで，内面は丁寧なナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性がある。1579は復元径9cmの平底で，台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なナデで，浅鉢の可能性もある。1580は直径8cmの平底で，台形状の張り出しをもつ円盤状である。内外面ともミガキ様の調整である。胎土に金色雲母を含む。底面は摩耗している。刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性がある。

1581は復元径7.2cmの平底である。厚さ4mmほどの張り出す立ち上がりから内湾気味の体部に至る。内外面ともミガキ様のナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期に位置づけられると思うが全体の器形は不明である。1582は復元径9.5cmの平底である。約50度の角度

をもって外反気味に開く。外面はナデで，内面はミガキ様のナデであり平滑である。器厚は3～4㎜と薄く，浅鉢の可能性もある。

1583は中心部がわずかに浮く直径10.8cmの平底である。10㎜幅の立ち上がりをもって胴部下半へ開く。1584は復元径6.1cmの平底である。外反しながら体部へ開く。金色雲母を含み，弥生時代前期の壺形土器の可能性もある。1585は復元径8cmを測る底部である。底面が摩耗しているため正確な形状は不明であるが，現状は平底である。厚い底面から外反して体部に至る。外面はタテ方向の細かなミガキによる。花崗岩質の胎土で，弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1586は直径6cmの丸みを帯びた平底である。接地面周縁がわずかに張り出す。弥生時代前期の甕形土器と考えられる。1587は直径7cmの平底である。厚さ20㎜前後で立ち上がり，開く体部に至ると想定される。弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1588は直径7cmの平底で，5㎜ほどの立ち上がりがあり大きく開く。弥生時代の壺形土器の可能性もある。1589は直径7cmの脚台状の底部で，弥生時代中期前半の甕形土器の可能性がある。



第2－129図　XVI類土器（4）

第２−16表　晩期包含層出土土器観察表１

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等		色　調		胎　土					取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石雲母	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他		
2-107	1375	深鉢	X Ⅱ	−	−	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい赤褐	黒	○	○				カクラン		92
	1376	深鉢	X Ⅱ	C-33	Ⅳb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	褐暗赤褐	にぶい褐	○	○	○			104552		92
	1377	深鉢	X Ⅱ	C-33	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ミガキ後のナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○			4984		92
	1378	深鉢	X Ⅱ	E-10	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ミガキ後のナデ	褐灰	褐灰	○	○	○			29282		92
	1379	深鉢	X Ⅱ	−	−	丁寧なナデ	丁寧なナデ	黒	にぶい褐	○	○	○			カクラン		−
	1380	深鉢	X Ⅱ	E-10	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○			29277		92
	1381	深鉢	X Ⅱ	D-34	Ⅳb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○			104639		92
	1382	深鉢	X Ⅱ	D-6	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○				赤色粒	31533	92
	1383	深鉢	X Ⅱ	D-6	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	橙	黒褐	○	○					30640	92
	1384	深鉢	X Ⅱ			ミガキ後のナデ	丁寧なナデ	明赤褐	にぶい黄橙	○	○					カクラン	92
	1385	深鉢	X Ⅱ	C-29	Ⅳb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明褐	黒褐	○	○					16792	92
	1386	深鉢	X Ⅱ	E-14	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ナデ	黒褐	灰黄褐	○	○					14619	92	煤付着
	1387	深鉢	X Ⅱ	D-5	Ⅳb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○		○				32408	−
	1388	深鉢	X Ⅱ	D-10	Ⅳa	ヘラミガキ　ケズリ様の丁寧なナデ	ケズリ様のナデ	褐暗赤褐	赤褐	○				○		23647	−
	1389	深鉢	X Ⅱ	C-7	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ナデ	褐暗赤褐	赤褐	○	○					29848	−
	1390	深鉢	X Ⅱ	E-9	Ⅳa	ケズリ後のナデ	丁寧なナデ	褐暗赤褐	灰黄褐	○	○			○		24266	92
	1391	深鉢	X Ⅱa	D-10	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ミガキ後のナデ	暗褐	明黄褐	○	○	○			赤色粒	47804	92
	1392	深鉢	X Ⅱa	D-36	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○		○			102604	92
	1393	深鉢	X Ⅱa	D-10	Ⅳa	丁寧なナデ	ミガキ後のナデ	黒褐	褐灰	○	○	○				23065	92
	1394	深鉢	X Ⅱa	D-35	Ⅳa	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	橙	○	○			○		101352	92
	1395	深鉢	X Ⅱa	C-15	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	赤褐	にぶい赤褐	○	○				赤色粒	1881	92
	1396	深鉢	X Ⅱa	B-11	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○				25178	92
	1397	深鉢	X Ⅱb	C-36	Ⅳb	粗いナデ	粗いナデ	黒	赤褐	○	○	○				13177	92
2-108	1398	深鉢	X Ⅱb	D-36-37	Ⅳa-Ⅳb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	赤褐	赤褐	○	○	○				103263焼	−
	1399	深鉢	X Ⅱb	D-35	Ⅳa	粗いナデ	横ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○				101115	補修孔	92
	1400	深鉢	X Ⅱb	D-36	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	○	○				赤色粒	101303	92
	1401	深鉢	X Ⅱb	D-36	Ⅳa	丁寧なナデ	ミガキ後のナデ	明赤褐	にぶい橙	○	○					101299	92
	1402	深鉢	X Ⅱb	−	−	丁寧なナデ	丁寧なナデ	明褐	明褐	○	○				赤色粒	オウテン	92
	1403	深鉢	X Ⅱa	D-10	Ⅳa	ミガキ	下ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	○	○			○		23658	−
	1404	深鉢	X Ⅱa	B-35	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○				104645	92
	1405	深鉢	X Ⅱa	D-34	Ⅳb	粗いナデ	粗いナデ	褐暗赤褐	灰黄褐	○	○	○				103623	−
	1406	深鉢	X Ⅱb	D-36	Ⅳa	ミガキ後のナデ	ミガキ後のナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○				102705焼	−
2-109	1407	浅鉢	X Ⅱa	D-5	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	○	○					25731	92
	1408	浅鉢	X Ⅱa	E-12	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	褐灰	灰黄褐	○	○					5387	92
	1409	浅鉢	X Ⅱa	D-7	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	黒	黒褐	○	○					47735	92
	1410	浅鉢	X Ⅱb	D-7	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	黒褐	○	○					21980	−
	1411	浅鉢	X Ⅱb	F-9	Ⅳa−堆a	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明褐	黒	○	○					23763焼	92
	1412	浅鉢	X Ⅱb			ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	○	○					51830	−
	1413	浅鉢	X Ⅱ	D-12	Ⅳa	ミガキ	ナデ	橙	黒褐	○				○	櫛, 赤色粒	36	92
	1414	浅鉢	X Ⅱ	C-8	Ⅳb	ミガキ	ナデ	黒褐	明赤褐	○	○					35366	92
	1415	浅鉢	X Ⅱa	C-11	Ⅳb	ミガキ	ナデ	褐暗赤褐	黒褐	○	○					海士	92
2-110	1416	深鉢	X Ⅳ	C-D-11	Ⅳa-Ⅳb	丁寧なナデ	貝殻条痕	黒	にぶい褐	○	○	○				5183焼	93
	1417	深鉢	X Ⅳ	E-10	Ⅳa	丁寧なナデ	粗いナデ	黒褐	黒褐	○	○					27830焼	93
	1418	深鉢	X Ⅳ	C-11	Ⅵ	貝殻条痕	貝殻条痕	暗褐	橙	○	○	○				−	H2510下	93
	1419	深鉢	X Ⅳ	C-12	−	条痕	条痕	明赤褐	にぶい赤褐	○	○			○	櫛	3T-040		93
	1420	深鉢	X Ⅳ	B-24	Ⅳb	粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐灰	○	○				櫛	36885		93
	1421	深鉢	X Ⅳ	E-9	Ⅳa	粗いナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				赤色粒	22178		93
	1422	深鉢	X Ⅳ	E-3	Ⅳb	貝殻条痕	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○				櫛, 赤色粒	31685		93
	1423	浅鉢	X Ⅳ	D-11	Ⅳb-Ⅴ	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				櫛, 赤色粒	23866焼		93
2-111	1424	浅鉢	X Ⅳ	C-10-11	Ⅳa-Ⅳb	下ミガキ	下ミガキ	黒	黒褐	○	○			○		5152焼		93
	1425	浅鉢	X Ⅳ	D-12	Ⅳa	下ミガキ	下ミガキ	赤褐	にぶい橙	○	○				赤色粒	5206		93
	1426	浅鉢	X Ⅳ	C-10	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○					27496		93
	1427	浅鉢	X Ⅳ	C-11	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○					15693		93
	1428	浅鉢	X Ⅳ	E-31	Ⅳb	ナデ	ナデ	褐灰	浅黄橙	○					櫛	104371		93
	1429	深鉢	X Ⅳ	C-12	−	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐	にぶい橙	○	○					3T-157	胴部に沈線	93
	1430	浅鉢	X Ⅳ	D-11	Ⅳb	ミガキ後のナデ	ミガキ後のナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○					21098	補修孔	93
2-112	1431	深鉢	X Ⅴ	E-10	Ⅳa	粗いナデ	丁寧なナデ	黒褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	27825		94
	1432	深鉢	X Ⅴ	D-10	Ⅳa	粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○				赤色粒	21227焼		94
	1433	深鉢	X Ⅴ	D-11	Ⅵ	粗いナデ	ミガキ後のナデ	明褐	橙	○	○					25213焼		94
	1434	深鉢	X Ⅴ	D-11-12	Ⅳa-Ⅳb	条痕→ナデ	ナデ	黒褐	黒	○	○	○			櫛	1832焼		94
	1435	深鉢	X Ⅴ	D-12	Ⅳa	条痕, ナデ	ミガキ後	にぶい橙	黒褐	○	○			○		5268		94
	1436	深鉢	X Ⅴ	D-E-9	Ⅳa-Ⅳb	粗いナデ	条痕→ミガキ後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				櫛	26259焼	煤付着	94
2-113	1437	深鉢	X Ⅴ	E-7	Ⅳb	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	灰褐	にぶい黄橙	○	○				櫛, 赤色粒	28861		94
	1438	深鉢	X Ⅴ	D-7	Ⅳa	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○				赤色粒	21981		94
	1439	深鉢	X Ⅴ	D-11	Ⅳa	ミガキ	丁寧なナデ	黒	にぶい橙	○	○					44077焼		94
	1440	深鉢	X Ⅴ	C-11	Ⅳb	粗いナデ	粗いナデ	浅黄	灰黄	○	○					21968		94
2-114	1441	深鉢	X Ⅴ	D-10	Ⅳa-Ⅳb	細めの条痕	粗い条痕	にぶい褐	にぶい褐	○	○					29125焼	炭素年代測定	95
	1442	深鉢	X Ⅴ	E-11	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○					22276		95
	1443	深鉢	X Ⅴ	B-11	Ⅳb	ナデ	ミガキ	にぶい橙	黒	○	○			○	赤色粒	5060		−
	1444	深鉢	X Ⅴ	E-7	Ⅳa	ナデ	−	にぶい橙	黒	○	○				赤色粒	22023		−
	1445	深鉢	X Ⅴ	B-6	Ⅳa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	23352		−
	1446	深鉢or半裁巨	X Ⅴ	D-16	Ⅳa-Ⅳb	条痕	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○			○		2799焼		95
	1447	深鉢or半裁巨	X Ⅴ	D-11	Ⅳb	ケズリ後のナデ	ミガキ	褐灰	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	18361		95

第２−17表　晩期包含層出土土器観察表２

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等		色調		胎土						取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
2-114	1448	深鉢or中華鍋形	XⅤ	B-11	Ⅳb	ナデ	粗いナデ→ミガキ	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○			○		5086他		95
	1449	寸胴鍋形？	XⅤ	D・E-10	Ⅳb	ナデ	条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	27440他		95
2-115	1450	中華鍋形	XⅣorXⅤ	E-16	Ⅳb	粗いナデ→ヘラナデ	粗いナデ、ミガキ	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			○	礫	5976		95
	1451	中華鍋形	XⅣorXⅤ	B-5	Ⅳb	貝殻条痕	ミガキ	黒	灰	○	○					30151他		95
	1452	中華鍋形	XⅣorXⅤ	B・C-10	Ⅳa-Ⅳb	ナデ	ミガキ	にぶい黄褐	黒褐	○				○		21518他		95
2-116	1453	中華鍋形	XⅣorXⅤ	C-10	Ⅳb	粗いナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○					29730	炭素年代測定	95
	1454	中華鍋形	XⅣorXⅤ	C・E-11	Ⅳb	条痕	ミガキ	明黄褐	にぶい黄橙	○					礫	18292他		95
	1455	中華鍋形	XⅣorXⅤ	F-9	Ⅳa-Ⅳb	条痕	ミガキ	にぶい褐	にぶい褐	○	○			○		23755他		95
2-117	1456	中華鍋形	XⅤ	B・C-9, E-10	Ⅳa・Ⅳb	複方向の粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	灰黄褐	○				◎	礫	21283他	炭素年代測定	96
	1457	中華鍋形	XⅤ	D・E-10～12	Ⅳa	粗いナデ	粗いナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			◎		2425他		96
	1458	中華鍋形	XⅤ	D・E-10～12	Ⅳa・Ⅳb・Ⅶb	複方向の粗いナデ	粗い条痕	にぶい橙	にぶい橙	○	○			◎		5214他	編布圧痕	96
2-118	1459	中華鍋形	XⅤ	E-12	−	複方向の粗い条痕	ミガキ	灰褐	灰黄褐	○	○			○		−	リボン状突起 編布圧痕 モデリング	96
	1460	中華鍋形	XⅤ	B～E-9～12	Ⅳa・Ⅳb	複方向の粗い条痕	ミガキ	にぶい黄褐	黒	○	○					5222他	編布圧痕	96
2-119	1461	中華鍋形	XⅣorXⅤ	D-8	Ⅳb	粗いナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			◎	礫	25962	図上復元による 編布圧痕 モデリング	96
	1462	中華鍋形	XⅣorXⅤ	C・D-9-11	Ⅳa	粗いナデ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			◎	礫	5572他	図上復元による 編布圧痕 煤付着	96
2-120	1463	中華鍋形	XⅤorXⅥ	D・E-10・11	Ⅳa-Ⅳb	粗いナデ	貝殻条痕→ミガキ	褐灰	黒褐	○	○					23319他	編布圧痕	97
	1464	中華鍋形	XⅤorXⅥ	F-10	Ⅳa	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰褐	○	○			○		23779他	編布圧痕	97
	1465	中華鍋形	XⅤorXⅥ	B-10	Ⅳa	−	丁寧なナデ	にぶい黄橙	黒褐	○	○			○	礫	21466	編布圧痕	97
	1466	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	B-16・21、C-19・20	Ⅳa・Ⅳb	粗いナデ	ミガキ	灰褐	褐灰	○	○					3326他	編布圧痕 モデリング	97
	1467	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	B-20	Ⅳb	粗いナデ	ミガキ	灰黄褐	にぶい褐	○	○					8636他	編布圧痕	97
	1468	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-9	Ⅳb	粗いナデ、条痕→横ナデ	丁寧なナデ	灰黄褐	にぶい橙	◎				○		27884	編布圧痕	97
	1469	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	F-9	Ⅳa	−	ミガキ	にぶい橙	褐灰	○	○					23758	編布圧痕	97
	1470	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-16	Ⅳb	−	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				礫	7468	編布圧痕 モデリング	97
2-121	1471	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	−	Ⅳa	ナデ	−	にぶい黄橙	灰白	○	○					攪土	編布圧痕	97
	1472	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	B-11	−	−	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	○	○					古墳SH8	編布圧痕	97
	1473	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	−	−	ナデ	粗いナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○		◎				−	編布圧痕	97
	1474	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	E-11	Ⅳb	−	ミガキ様のナデ	にぶい橙	灰褐	○	○					18272他	編布圧痕	97
	1475	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-16	Ⅳa	粗いナデ	ナデ	灰白	淡黄	◎	○				赤色粒	3161	編布圧痕	97
	1476	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	B-10	Ⅳb	ナデ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	○	○			○		28537	編布圧痕	97
	1477	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	E-31	Ⅳb	−	ミガキ	褐灰	褐灰	○						104353	編布圧痕	97
	1478	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-24	Ⅳb	−	ナデ	灰黄褐	暗灰黄	○	○				礫	36910	編布圧痕 モデリング	97
	1479	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	C-16	Ⅳb	−	丁寧なナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○				礫	9371	編布圧痕	97
	1480	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	C-9	Ⅳb	粗いナデ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			○	赤色粒	25785	編布圧痕	97
	1481	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	F-9	Ⅶb	−	ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	○	○			○		54953	編布圧痕 モデリング	97
	1482	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-10	Ⅳa	−	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○					21244	編布圧痕 モデリング	97
	1483	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	E-11	−	−	丁寧なナデ	黄灰	灰黄	○	○					古墳SH10	編布圧痕	−
	1484	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-10	Ⅳa	−	ナデ	にぶい黄橙	灰白	○	○					22767	編布圧痕	97
	1485	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	C-8, D-11	Ⅳa・Ⅳb	−	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○					12380他	編布圧痕	97
2-122	1486	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	C-9	Ⅳb	ケズリ	ミガキ	黒褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	29698	編布圧痕	97
	1487	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	D-10	Ⅳb	ヘラナデ	丁寧なナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	27466	編布圧痕	97
	1488	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	F-9	Ⅳb	粗いナデ	条痕→丁寧なミガキ	にぶい黄橙	明黄褐	○	○				赤色粒	47300	編布圧痕	97
	1489	中華鍋形	XⅣorXⅤorXⅥ	B-20	Ⅳb	ナデ	条痕	橙	にぶい橙	○	○					4943	編布圧痕	97
	1490	中華鍋形？	XⅣorXⅤorXⅥ	D-10	Ⅳa	ケズリ様のナデ→ミガキ様ナデ	ケズリ様のナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	22750	編布圧痕	97
	1491	中華鍋形	XⅣorXⅤ	D-7	Ⅴa	ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	灰黄褐	○					赤色粒	48491他	網目圧痕	−
	1492	中華鍋形	XⅣorXⅤ	B-6	Ⅳb	ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○					赤色粒	29443	網目圧痕	−
	1493	中華鍋形	XⅣorXⅤ	C-6	Ⅳa-Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○					礫、赤色粒	23461他	網目圧痕	−
	1494	中華鍋形	XⅣorXⅤ	C-16	Ⅳa	複方向の粗いナデ	ミガキ	明黄褐	浅黄	○	○					2861他	網目圧痕 モデリング	97
2-123	1495	浅鉢	XⅤ	E-10	Ⅳb	ミガキ様のナデ	横方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○					26198		98
	1496	浅鉢	XⅤ	D-12	Ⅳa	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○			○		5242他	炭素年代測定	98
	1497	浅鉢	XⅤ	D-11	Ⅳa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	灰褐	○						1720他		98
	1498	浅鉢	XⅤ	E-11	Ⅳb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	浅黄橙	浅黄橙				◎			14826	赤色顔料 リボン状突起	98
	1499	浅鉢	XⅤ	C-8	−	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	浅黄橙	浅黄橙	○			◎			14T092他	リボン状突起	−
	1500	浅鉢	XⅤ	C-36	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○					103379	リボン状突起	−
	1501	浅鉢	XⅤ	F-16	Ⅳa	ヘラミガキ	ミガキ	暗褐	褐	○				○		3700	赤色顔料、補修孔	98
	1502	浅鉢	XⅤ	D-11	Ⅳb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	灰黄褐				◎			18336		−
	1503	浅鉢	XⅤ	C-10	Ⅳa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	淡黄	淡黄	○	○					22954	三叉文、沈線文	−
	1504	浅鉢	XⅤ	D-12	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	灰黄				◎			15563	沈線文	−
	1505	浅鉢	XⅤ	D-10	Ⅳa	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	灰黄褐	灰黄褐	◎	○					21228	三叉文、沈線文	98
	1506	浅鉢	XⅤ	D-9	Ⅳb	ナデ	ナデ	橙	明褐	○	○					29384	沈線文	98
2-124	1507	浅鉢	XⅤ	E-10・11	Ⅳa-Ⅳb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	黒褐	○	○					18350他	赤色顔料	98
	1508	浅鉢	XⅤ	E-10	Ⅳa	ヘラミガキ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○					攪土	赤色顔料	−
	1509	浅鉢	XⅤ	E-11	Ⅳb	ミガキ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐	○	○					14815		−
	1510	浅鉢	XⅤ	D-12	Ⅳb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	明黄褐	にぶい黄褐	○	○			◎		12421		−
	1511	浅鉢	XⅤ	D-12	Ⅳa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	灰黄褐	黒褐	○	○			○		5220	赤色顔料	98
	1512	浅鉢	XⅤ	D-11, E-10	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	黒褐	にぶい黄褐	○	○			○		18333他		−
	1513	浅鉢	XⅤ	D-10	表土	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	黒褐	○	○					−	赤色顔料	−
	1514	浅鉢	XⅤ	D-10	Ⅳa	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	浅黄橙	○	○					22673	赤色顔料	98
	1515	浅鉢	XⅤ	C-10	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	明赤褐	黒	○	○					27504	補修孔	−
	1516	浅鉢	XⅤ	F-15	Ⅵ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○					17428	外面煤付着	−
	1517	浅鉢	XⅤ	E-6	Ⅳa	ヘラミガキ	粗いヘラミガキ	赤褐	赤褐	○	○					22075		−
	1518	マリ形	XⅤ	C-7	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	暗褐	暗褐	○	○					29794		98
	1519	マリ形？	XⅤ	E-11	Ⅳa	ミガキ	丁寧なナデ	暗褐	黒褐	○	○					5478		−
	1520	マリ形？	XⅤ	D-6	Ⅳa	ミガキ	ナデ	浅黄橙	灰白	○	○					22035		−

第２−18表　晩期包含層出土土器観察表３

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等 外面	文様・器面調整等 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英長石	胎土 角閃石輝石	胎土 金色雲母	胎土 火山ガラス	胎土 軽石	胎土 その他	取上番号	備考	写真図版
2-124	1521	浅鉢	XV	B-11	Ⅳb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	灰黄褐	◎	○					5092		98
	1522	浅鉢	XV	C-15	Ⅳb	ミガキ	ナデ	黒褐	にぶい黄褐	◎	○					1829	赤色顔料	98
	1523	浅鉢	XV	E-11	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	灰黄褐	○	○			○		14796	突起	-
	1524	浅鉢	XV	D-37	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	○	○			○		103262		-
	1525	浅鉢	XV	E-16	Ⅳa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい赤褐	黒	○	○			○		5904他	赤色顔料	-
	1526	浅鉢？	XV？	E-F-4	Ⅴ	ナデ	ミガキ	にぶい褐	黒	◎		○				-	縄文時代後期前半の可能性あり	-
2-125	1527	茶家形浅鉢	XV	D-12	Ⅳa	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	◎					5266	三叉文	98
	1528	茶家形浅鉢	XV	C-11	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒	◎	○					5581	赤色顔料	98
	1529	茶家形浅鉢	XV	C·D-10·11	Ⅳa·Ⅳb	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい黄	にぶい黄	◎	○					22956他		98
	1530	茶家形浅鉢	XV	E-10	Ⅳb	ミガキ	ナデ	明黄褐	褐灰	○	○			○		29017	三叉文	98
	1531	茶家形浅鉢	XV	E-11	Ⅳb·Ⅵ	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○			○		24548他	三叉文	98
	1532	茶家形浅鉢	XV	C·D-8·11	Ⅳb	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい橙	黄灰	◎	◎			○		18373他	平面方形　浮文 赤色顔料　煤付着	98
	1533	茶家形浅鉢	XV	E-9	Ⅳb	丁寧なヘラミガキ	丁寧なヘラミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			○		29330	図上復元による	98
	1534	茶家形浅鉢	XV	E-10	Ⅳa·Ⅳb	丁寧なナデ	条痕→丁寧なナデ	にぶい黄橙	浅黄	○	○			○		27838他	三叉文　煤付着	98
2-126	1535	甕	XⅥ	B-21	Ⅳa	粗いナデ	丁寧なナデ	褐灰	灰褐	○	○			○	赤色粒	7347他		99
	1536	甕	XⅥ	F-22-24	Ⅳb	ナデ	横方向の条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			○		20414他		99
	1537	甕	XⅥ	D-23	Ⅳb	粗いナデ	粗いナデ	褐灰	褐灰	◎	○					55486		-
	1538	甕	XⅥ	B-20	Ⅳb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	◎					4946		-
	1539	甕	XⅥ	E-23	Ⅳa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○			○		57101		-
	1540	甕	XⅥ	-	-	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○					攪土		-
	1541	甕	XⅥ	F-23	Ⅳb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰黄褐	暗灰黄	◎	○					20422		-
	1542	甕	XⅥ	D-38	Ⅳb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	◎	○				赤色砂粒	102024		-
	1543	甕	XⅥ	G-23	Ⅳa	粗い条痕	粗い条痕	暗灰黄	にぶい黄橙	◎	◎			○		40885		-
	1544	甕	XⅥ	G-24	-	ナデ	粗い条痕	黒褐	暗褐	◎	○					弥生SH4		-
	1545	甕	XⅥ	-	-	ナデ	粗いナデ	灰褐	灰褐	◎	○	◎				不鮮明		-
	1546	甕	XⅥ	C-18	Ⅳb	ケズリ→ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄褐	◎	○					8581		-
	1547	甕	XⅥ	-	-	横方向の条痕	ミガキ様のナデ	褐	暗褐	◎	○					ｵｳﾄﾝ		-
2-127	1548	甕	XⅥ	C-36	Ⅳa	横方向の条痕	横方向の条痕	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	◎			○		103279他	孔列文	99
	1549	甕	XⅥ	C-7	Ⅳa	横方向の貝殻条痕	横方向の貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			○		21869	孔列文	99
	1550	甕or鉢	XⅥ	E-15	Ⅳa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙	黒褐	◎	◎			○		261	孔列文？	99
	1551	甕or鉢	XⅥ	B-28	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	褐灰	にぶい橙	◎		○				44324他	炭素年代測定	99
	1552	甕or鉢	XⅥ	D-10	表土	条痕→ナデ	横方向のナデ	赤褐	橙	◎	○					-		-
	1553	甕or鉢	XⅥ	C-10	Ⅳb	貝殻条痕	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	◎		○				45970		99
	1554	甕or鉢	XⅥ	C·D-11	Ⅳb	ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○					15735他		99
	1555	不明	XⅥ	D-7	Ⅳa	条痕→ナデ	条痕→ナデ	黄橙	褐灰	◎	○					21930		99
	1556	浅鉢	XⅥ	D-9	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	浅黄橙	浅黄橙	◎	○					21170		-
	1557	浅鉢	XⅥ	B-20	Ⅳb	横方向のミガキ	ナデ	明赤褐	赤褐	◎	○					8899		-
	1558	浅鉢	XⅥ	B-21	Ⅳa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	橙	褐灰	◎	○					9250		99
	1559	浅鉢	XⅥ	C-37	Ⅳa	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	橙	◎	○					102965		99
	1560	浅鉢	XⅥ	D-35	Ⅳa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	橙	橙	◎		○				101332		99
	1561	甕or鉢	XⅥ	B-3	表土	条痕	丁寧なナデ	赤褐	明赤褐	◎	○					表土一括		99
2-128	1562	浅鉢	XⅥ	C-11	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	赤褐	橙	◎	○					古墳SH9		-
	1563	浅鉢	XⅥ	E-10	Ⅳa	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい橙	黒褐	◎	○					27783		-
	1564	浅鉢	XⅥ	E-11-12	Ⅳa·Ⅳb	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○			○		5479他		99
	1565	浅鉢	XⅥ	E-16	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	◎	◎				黒色鉱物が目立つ	5900		99
	1566	高坏	XⅥ	C-35	Ⅳa	ミガキ	丁寧なミガキ	橙	灰褐	○	○			○		103667	透かし入り	99
	1567	浅鉢	XⅥ	E-37	Ⅳb	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○					101457		-
	1568	浅鉢	XⅥ	C-11,E-10	Ⅳa	ナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○			○		44120他		-
	1569	不明	XⅥ	E-12	Ⅵ	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	黒褐	◎	○					25150		99
	1570	不明	XⅥ	C-10	Ⅳa	ハケメ状→ミガキ様のナデ	横方向の条痕・ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	○					28567		99
	1571	無頸丸鉢？	XⅥ	B-11	Ⅳa	ミガキ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○	◎				999		99
	1572	無頸丸鉢？	XⅥ	F-9	Ⅳb	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい赤褐	黒褐	◎	○					34901		-
	1573	不明	XⅥ	B-4	Ⅳb	ハケメ状の粗いナデ	ハケメ→ナデ	黒	黒	◎	○					46512		-
	1574	壺	XⅥ	D-8	Ⅳb	ミガキ様のナデ	丁寧なナデ	にぶい赤褐	橙	◎	○					45261		-
	1575	壺	XⅥ	D-16	Ⅳb	ミガキ様のヘラナデ	ナデ	灰褐	灰褐	◎	○					5690		-
	1576	壺	XⅥ	D-12	Ⅳa	丁寧なミガキ	ナデ	にぶい褐	浅黄橙	◎	○			○		5269	赤色顔料	99
2-129	1577	浅鉢	XⅥ	D-12	Ⅳa	丁寧なミガキ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○					5224		-
	1578	浅鉢	XⅥ	C-12	Ⅳb	ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	褐灰	○	○			○		11469		-
	1579	浅鉢	XⅥ	F-38	Ⅳb	−	丁寧なナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	◎	○					100054		-
	1580	浅鉢	XⅥ	E-9	Ⅳa	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	褐灰	◎	○	○				27930		-
	1581	鉢	XⅥ	B-24	Ⅳb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	黄灰	◎	○					36881他		-
	1582	浅鉢	XⅥ	D-10	Ⅳa	ナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○					22664		-
	1583	甕	XⅥ	D-11	Ⅳa	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○				5344		-
	1584	壺	XⅥ	C-35	Ⅳb	丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	○	◎				104064		-
	1585	壺	XⅥ	C-37	Ⅳa	細かなミガキ	ミガキの様ナデ	赤褐	黒褐	◎		○				102957		-
	1586	甕	XⅥ	C-40	Ⅳa	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	◎	○	○				100314		-
	1587	壺	XⅥ	D-25	Ⅳb	ミガキの様ナデ	丁寧なナデ	灰褐	にぶい橙	◎	○	○				40389		-
	1588	壺	XⅥ	E-23	Ⅳb	ナデ	丁寧なナデ	褐灰	にぶい橙	◎	○	◎				56101		-
	1589	甕	XⅥ	E-8	Ⅳa	ナデ	−	にぶい橙	剥がれ	○		○				22007		-

第Ⅷ章　縄文時代前期から弥生時代初頭の石器

概要

Ⅲ層～Ⅴ層の包含層から出土した石器・石製品等については，帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する。石器組成から土器との共伴関係を明確に示すことが難しい点もあるため，ここではこれらの資料を一括して報告する。出土層が明確でない石器類についても，残存状況が良いものについては一部掲載している。遺跡全体の出土土器の総量に占める割合が最も高く，出土区（1～20区）が重なる縄文時代後期前半の石器・石製品が主体をなす可能性も考えられる。

包含層や石器の帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する包含層以外の出土の石器・石製品等の総数は3,609点であり，622点を図化し掲載した。

器種別の内訳は，石鏃100点，石錐９点，石匙23点，スクレイパー25点，二次加工剥片11点，使用痕剥片17点，石核・原石11点，磨製石斧125点，打製石斧（扁平打製石斧）48点，礫器13点，磨石・敲石類118点，石皿34点，砥石17点，擦切石器８点，石錐45点，石製品６点，軽石加工品12点である。

なお，石器の出土状況（分布）については第２-130図～第２-133図，石材及び石器分類については凡例，石材や出土層，計測値等の詳細については，石器観察表（第２-19表～第２-28表）を参照いただきたい。

包含層出土石器の状況

石鏃（第２-134図～第２-138図　S229～S328）

S229～S328は，石鏃及び石鏃未製品の可能性があるものである。すべて凹基無茎鏃または平基無茎鏃に該当する。形状や部位の特徴，残存状況によってⅠ～Ⅴ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅳa層33点，Ⅳb層54点，Ⅴ・Ⅴa層４点，Ⅶ層１点である。

Ⅰ類　S229～S249は，形状が三角形で基部と側縁の長さの比が1.2倍以内に収まる。基部は平基または浅い抉りがある。身部の側縁が直線的なものと外湾するものがある。S229は，やや横長で基部に浅い抉りをもつ。S230は，正面左側縁から右側縁に長い剥離面が延びる。S231は，大きな剥離で成形後，正面の左側縁を微細な剥離で整形する。S232は，両面を大きな剥離で成形後，正面の両側縁を微細な剥離で調整する。S233は，先端を欠損する。正面の欠損部に剥離がみられ再加工されている。S234は両面を丁寧な剥離で成形後，微細な剥離で整形する。S235は，大きな剥離で整形され，先端を欠損する。S236は，両面を丁寧な剥離で整形する。S237は，裏面左側縁の剥離が疎であり，基部に半円形の浅い抉りを整形する。S239は，正面の周縁，裏面は全体を丁寧に剥離整形する。基部には緩やかな弧状の抉りを整形し，先端は欠損する。S240～S242・S244は，素材剥片の形状を残す。両面の側縁や基部を剥離によって整形し，主要剥離面が残存する。S240・S241は基部に弧状の浅い抉りを整形し両脚の先端が尖る。S242は半円状の浅い抉りをもつ。裏面左側縁に剥離がみられないため未製品の可能性が残る。S243は，裏面の右側縁から中心に剥離が延びる。基部に浅い半円形の抉りをもち，両脚は「U」字状となる。S244は，両面とも素材剥片の周縁を剥離整形し，主要剥離面が残存する。S245は，素材剥片を多方向から整形し，基部にごく浅い抉りがある。S246は，正面が丁寧な剥離，裏面は周縁のみ整形を施し，主要剥離面が残存する。基部にごく浅い抉りをもつ。S247は，両面の周縁を剥離成形し，主要剥離面が残存する。基部は平基で先端を欠損する。S248は，厚みのある剥片の両面を大きな剥離で整形する。基部にごく浅い抉りが入る。S249は，両面が大きな剥離で整形され先端部を欠損する。基部にごく浅い抉りをもつ。

S229・S249は黒曜石C類製，S230・S231・S235は黒曜石A類製，S234は黒曜石B類製，S233・S238は頁岩A類製，S240は頁岩B類製，S232・S236・S237・S239・S241・S245～S247の８点は安山岩A類製，S244・S248の２点がチャート製，S242・S243の２点は，玉髄製である。

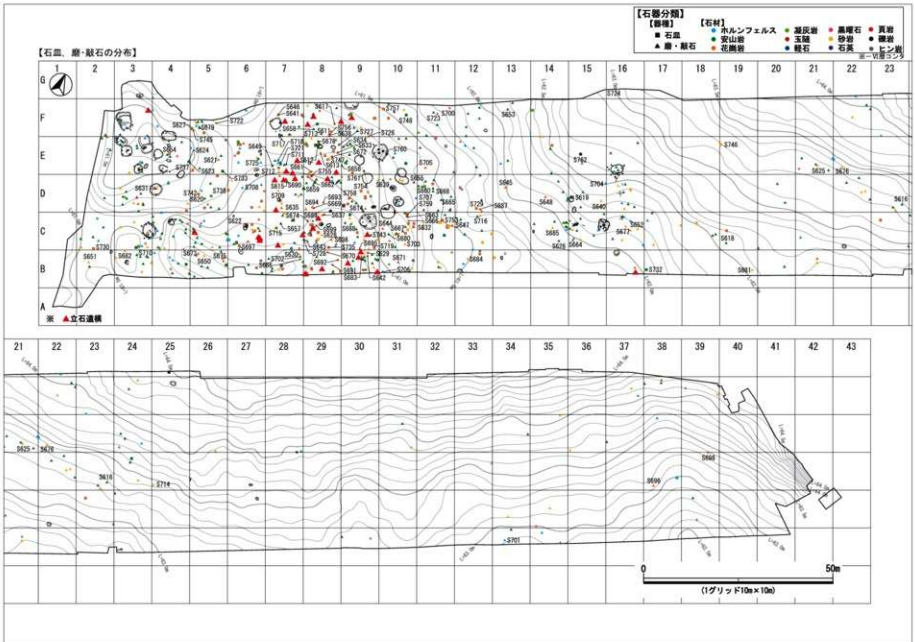
Ⅱ類　S250～S266は，形状が二等辺三角形でやや身部が長く，基部辺と側縁の辺の長さの比が1.2倍以上になる。基部は平基もしくは浅い半円形の抉りを整形する。部分磨製石鏃や磨製石鏃を含む。

S250・S251は，側縁の押圧剥離が細かく，S252～S256は大きい。S255・S256は，残存長が４cmを越える大型の石鏃である。一端の脚部を欠損するが，逆「U」字状の深い抉りをもつ。S257～S260は，両面とも両側縁のみ整形する。素材剥片の特徴を残し，主要剥離面が残存する。S258は，側縁が鋸歯状となる。

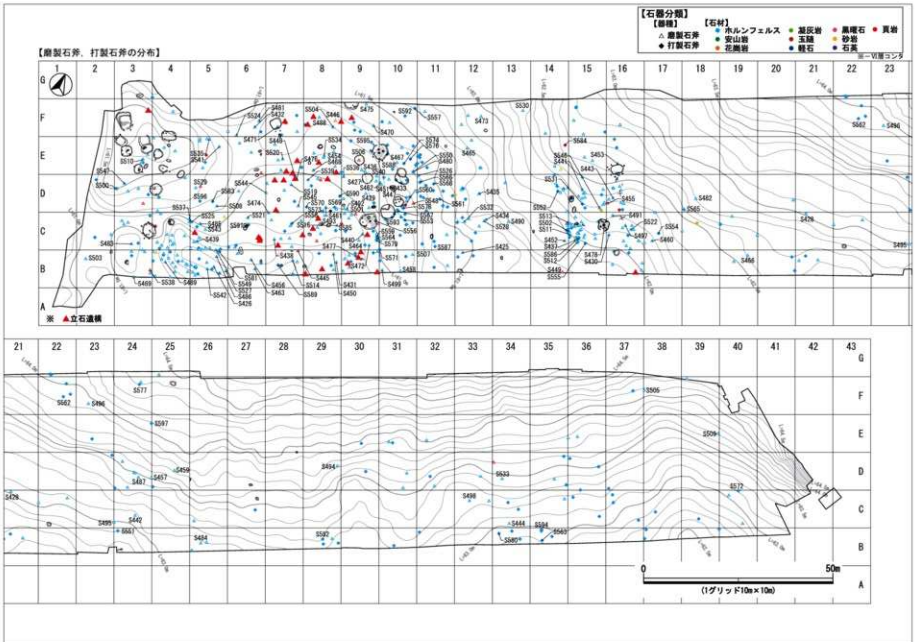
S261とS265は，基部に対して側縁の長さの比が約２倍近くある。

S262～S265は，部分的に研磨を施した部分磨製石鏃である。S262，S263は両面，S264は正面のみ研磨され，裏面は主要剥離面が残る。研磨後に剥離調整が行われる。S262～S265はいずれも最大厚の付近が研磨される。後期前半の可能性が高い。

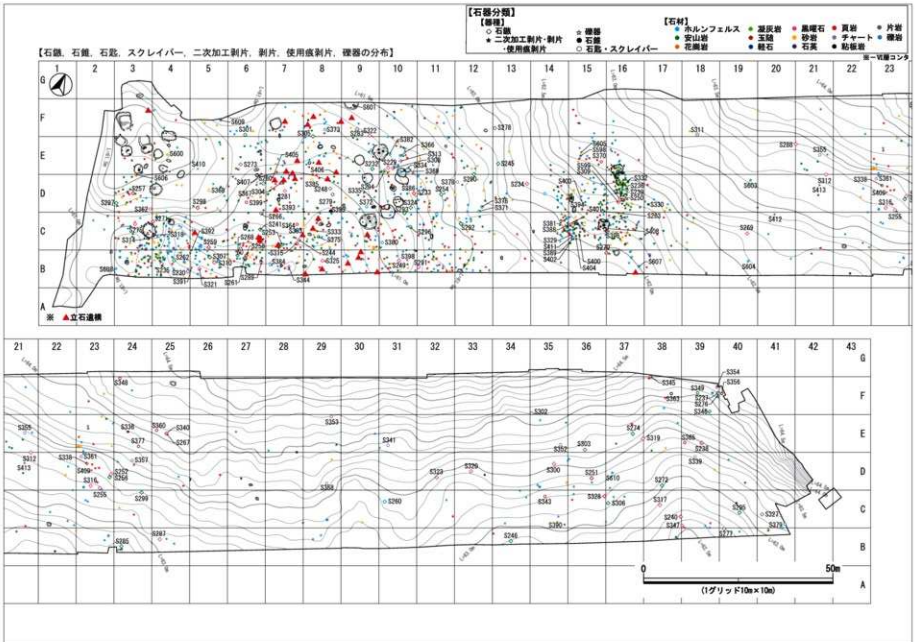
S266は，磨製石鏃である。全面に研磨痕が残る。S257・S258は平基，他は基部に浅い抉りをもつ。S255・S260・S261は先端を欠損する。S252・S254～S256・S259・S261・S266は基部を欠損する。



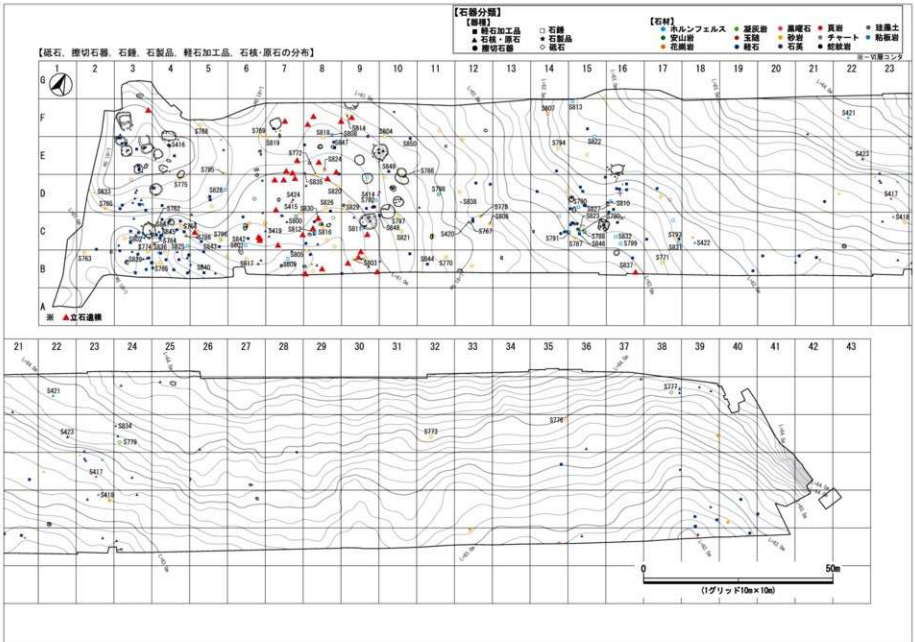
第２－130図　縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図（１）



第２－131図　縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図（２）



第２－132図　縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図（３）



第２－133図　縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図（４）

S250・S255の２点は黒曜石Ｃ類製，S252は黒曜石Ｂ類製，S257～S259・S265の４点は頁岩Ｂ類製，S253・S254・S256・S261～S264の７点が安山岩Ａ類製，S260はホルンフェルス製，S266はチャート製である。

Ⅲ類　S267～S289は，基部に深い抉りを整形する凹基鏃である。形状は，側縁が外湾し紡錘形となるもの，二等辺三角形となるものがある。基部の両脚が尖るもの，丸みのあるものがある。側縁が鋸歯状となるものも含む。

S267～S272は，側縁が外湾し，抉りが半円形または山形となる。S273～S278は，側縁がほぼ直線状またはわずかに外湾し，基部の抉りは半円状もしくは山形となる。

S285～S289は，剥離調整によって側縁が鋸歯状となる。S270・S274・S276・S279・S281・S286・S287・S288・S289は先端を欠損する。S275は，先端を欠損後，再加工した剥離痕がみられる。S267・S274・S276・S278・S280・S281・S283・S284・S285・S287・S288・S289は，基部を欠損する。

S267・S269・S287・S289の４点は黒曜石Ｃ類製，S275・S286の２点は黒曜石Ｄ類製，S288は黒曜石Ｅ類製，S281は黒曜石Ａ類製である。S268・S272・S274・S284・S285の５点が安山岩Ａ類製である。

Ⅳ類　S290～S307は，側縁が外湾する紡錘形のもの，側縁の途中に角（頂点）をもつ五角形鏃，側縁下部から基部が張り出すいわゆる「ロケット」状のもの，側縁がわずかに内湾するものを含む。

S290は，両側縁が外湾し基部付近が最大幅となる。S291～S299は，側縁に角をもつ五角形鏃である。S290～S294，S296～S298は，平基である。S295は，基部にごく浅い抉りをもつ。S299は，基部に山形の深い抉りをもつ凹基鏃である。S300～S305は，側縁下部が内湾し，基部の両脚が張り出す「ロケット」状のものである。S300・S302・S303・S305は，基部に半円形状の抉りがある。S306・S307は，側縁の中央がわずかに内湾し，基部に浅い抉りをもつ。

S291・S300・S304の３点は黒曜石Ｃ類製，S294・S302・S303の３点はチャート製，S290・S292・S293・S295～S297・S299・S301・S305～S307の11点が安山岩Ａ類製，S298は頁岩Ａ類製である。

Ⅴ類　S308～S328は，欠損のため分類することが難しいものや未製品の可能性があるものをまとめた。S308～S311は，基部を欠損する。S312は，基部の一端，S313～S320は，先端と基部を欠損する。S321～S328は，製作途中で欠損した未製品の可能性がある。S322は，下端をつまみとする石匙か，錐部とする石錐の未製品の可能性がある。S321は，正面右側縁を刃部とする掻器の未製品の可能性もある。S327は基部の整形，S328は両面とも剥離整形が進んでいない。

S308～S310・S312・S314・S318～S320・S322・S325の10点は黒曜石Ｃ類製，S313・S326の２点は黒曜石Ｄ類製，S316・S317・S321の３点が黒曜石Ａ類製である。

石錐（第２-139図　S329～S337）

S329～S337は，石錐である。素材剥片の一端に両面左右から丁寧な剥離を加え，小さく突起する錐部を作っている。錐部の断面形は，菱形や三角形に近い。

掲載した遺物のうち包含層のものはすべてⅣa・Ⅳb層から出土している。

S329・S330は，逆三角形状に成形される。S329は，微細な剥離によって整形され，正面の一部に自然面が残存する。S330は，両面の下端に微細剥離を施し，錐部を作り出す。S331～S333は，剥片の上端につまみ様の成形がなされる。S332・S333は，横長剥片を利用し，両面側縁に剥離を行い，刃部を整形する。菱形状で主要剥離面が残存する。S334は，錐部が長く，素材剥片の両側縁から横方向の剥離によって整形される。つまみ部と先端部を欠損する。S335は，素材剥片の形状をよく残し，上面は整形剥離によって平坦に仕上げられる。錐部は微細な剥離によって整形される。S336は，縦長剥片を利用し，正面は右側縁，裏面は両側縁からの剥離によって整形される。錐部には回転痕が顕著である。S337は，器面全体が大きめの剥離によって成形された後，つまみ様で丸みを帯びる上端と錐部が微細な剥離によって整形される。錐部に回転痕はみられないが形状から石錐と判断した。

S329は黒曜石Ａ類製，S330・S332・S334の３点は安山岩Ａ類製，S331・S336・S337の３点が玉髄製である。

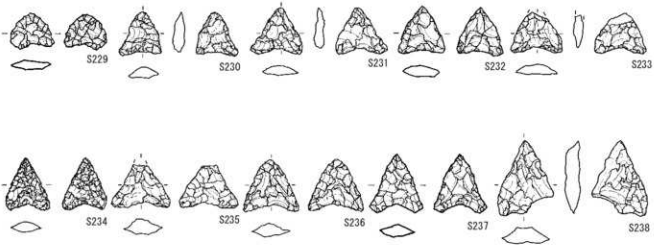
石匙（第２-140図～第２-143図　S338～S360）

S338～S360は，石匙である。素材剥片の上端につまみ部を整形し，剥片の下縁や側縁の両面に剥離調整を加え，刃部を作り出す。形状によって２類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅳa層３点，Ⅳb層16点である。

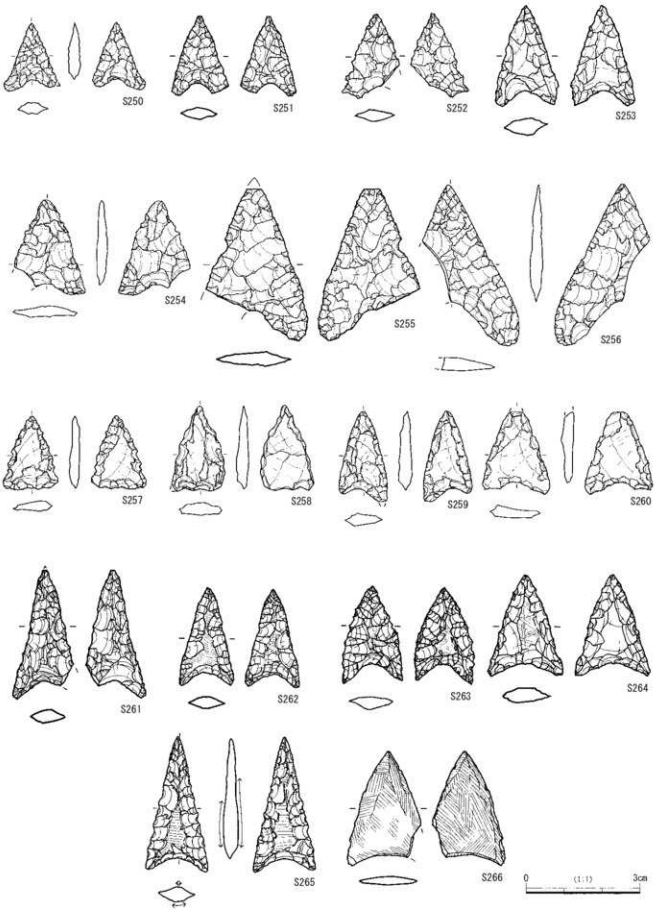
Ⅰ類　S338～S343は，縦型で，刃部が側縁に整形されるものである。S338は，素材剥片の厚みがある部分につまみ部を成形し，刃部は両面から丁寧な剥離によって仕上げられる。S339・S340は，両面ともにつまみ部と刃部の整形剥離が顕著で主要剥離面が残存する。

S341は，縦長剥片を利用し，剥片上端に両面からの剥離によって幅広のつまみ部が整形される。刃部は剥片の打点側，正面の右側縁にのみ整形される。S342は，縦長剥片の上端に両側縁からの剥離によってつまみ部を作り出し，刃部先端を欠損する。下縁に向かうにつれ中央部の刃部角は浅く鋭利となる。主要剥離面が残存する。つまみ部の幅は，S338・S339はやや小さく，S340～S342は幅広で大きく作られる。S343は，明瞭なつまみ部がみられない。石匙として分類したが，スクレイパーの可能性

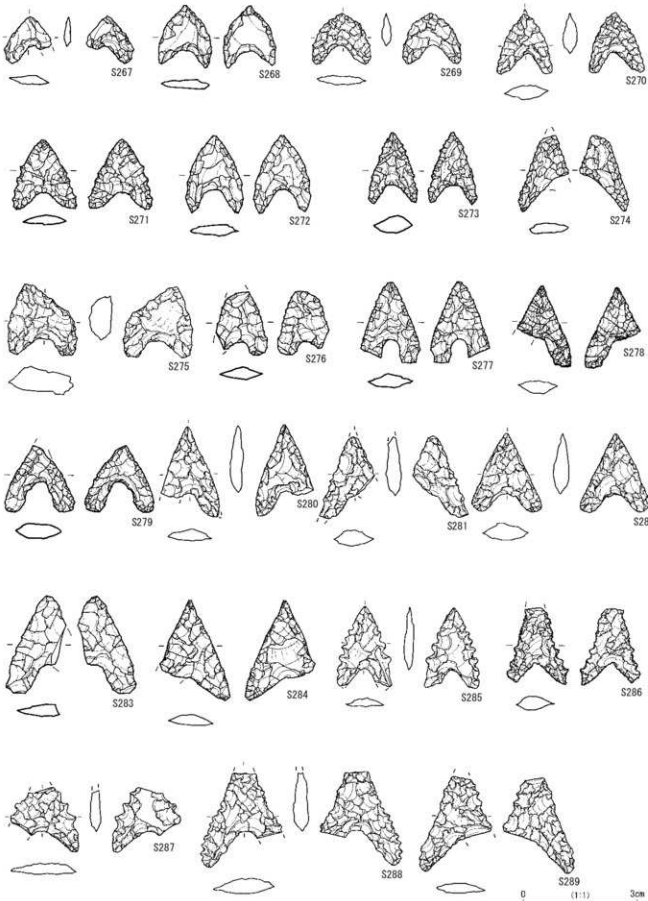

S229
S230
S231
S232
S233
S234
S235
S236
S237
S238
S239
S240
S241
S242
S243
S244
S245
S246
S247
S248
S249

0
(1:1)
3cm

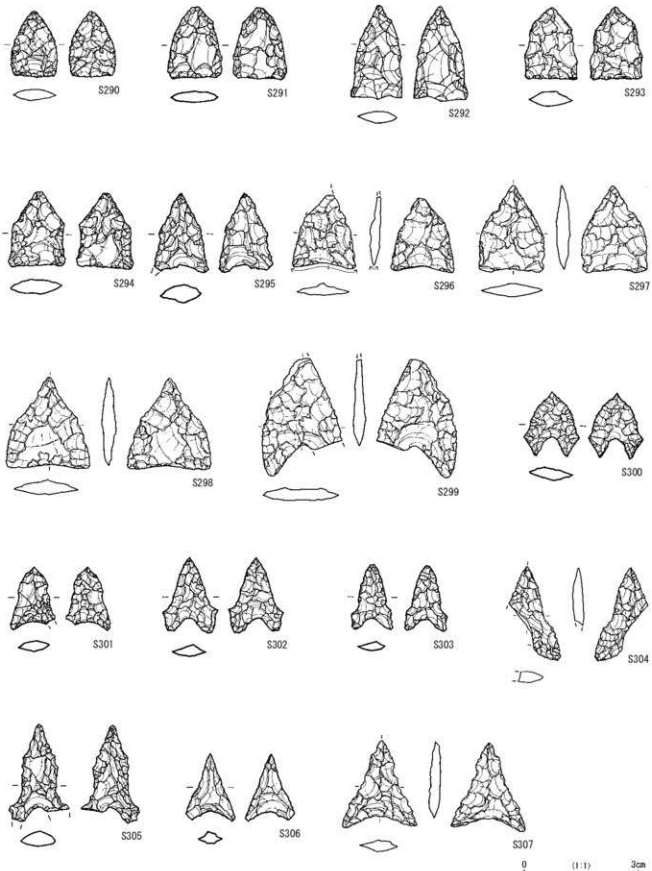
第２－134図　石鏃（１）


S250
S251
S252
S253
S254
S255
S256
S257
S258
S259
S260
S261
S262
S263
S264
S265
S266
0
(1:1)
3cm

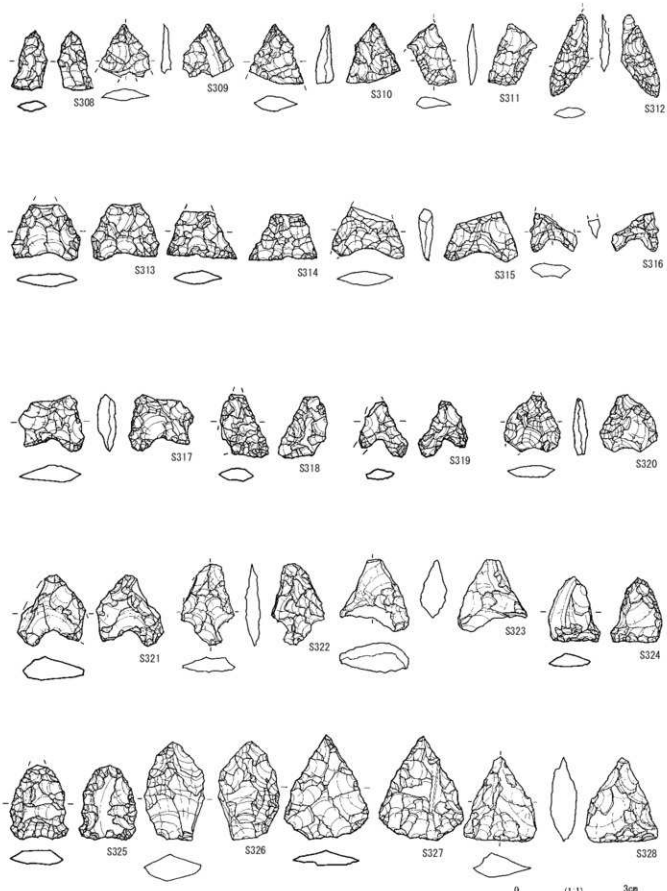
第２－135図　石鏃（２）


S267
S268
S269
S270
S271
S272
S273
S274
S275
S276
S277
S278
S279
S280
S281
S282
S283
S284
S285
S286
S287
S288
S289
0
(1:1)
3cm

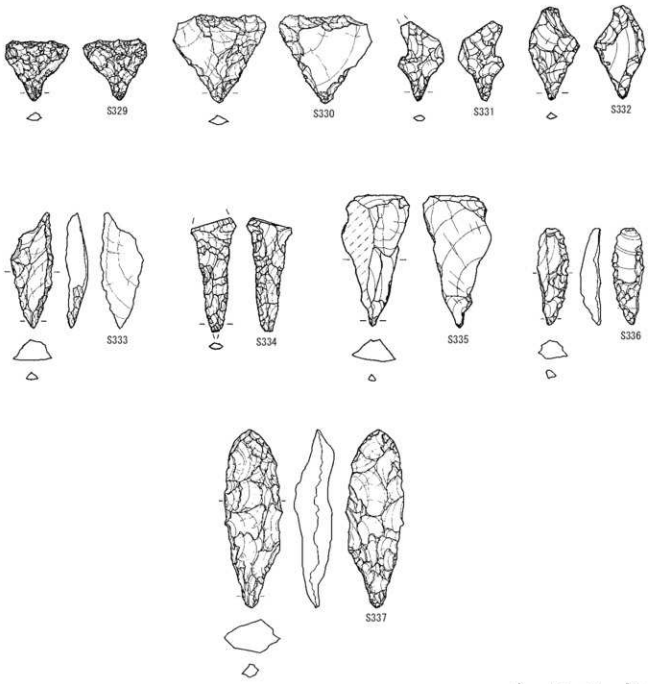
第２－136図　石鏃（３）


S290
S291
S292
S293
S294
S295
S296
S297
S298
S299
S300
S301
S302
S303
S304
S305
S306
S307
0
(1:1)
3cm

第２－137図　石鏃（４）


S308
S309
S310
S311
S312
S313
S314
S315
S316
S317
S318
S319
S320
S321
S322
S323
S324
S325
S326
S327
S328
0
(1:1)
3cm

第２－138図　石鏃（５）



第2－139図　石錐

が残る。

S338・S340・S343は玉髄製，S339・S341・S342はチャート製である。

Ⅱ類　S344～S360は，基本的に横型で刃部が下縁に整形されるものである。S344～S349は，刃部が直刃状となる。S344・S345は小型の石匙である。S344は，正面のつまみ部や刃部の整形剥離は密に施されるが，裏面は両側縁の一部にとどまり，主要剥離面が残存する。S345は，両面とも丁寧な剥離によって整形され，刃部が作り出される。刃部に対してつまみ部が大きく刃部には厚みがある。S346は，体部の平面形が三角形となる。S347は，厚みのある剥片を素材とし，刃部はやや幅広の剥離によって整形される。刃部に対してつまみ部が大きく，刃部角は鈍い。S348は，剥片の形状をよく残し，つまみ部と刃部の整形に伴う剥離が顕著である。正面のつまみ部上端には微細な剥離が集中し，主要剥離面が残存する。

S349は，剥片を幅広の剥離によって成形後，微細な剥離で仕上げている。素材の形状をよく残し，主要剥離面や自然面が一部残存する。S350～S356は，刃部が丸みを帯び弧状となる。S350は，つまみ部を欠損する。両面とも整形剥離が長く延び，厚みを減じつつ刃部を作出する。S351は，素材剥片の打点側につまみ部を作出したと考えられ，両面とも成形剥離が密である。刃部の剥離は疎であることから未製品の可能性も残る。S352は，つまみ部と正対して刃部は斜状となる。Ⅰ類とⅡ類の中間的な形状であるがⅡ類に含めた。剥片の両側縁から幅広の剥離によって整形後，つまみ部と刃部は微細剥離によって仕上げられる。S353は，小型の石匙である。大きさに対し厚みのある剥片が用いられ，刃部は両面からの丁寧な剥離によって整形される。S354～S356は，横長剥片を利用したと考えられ，素材剥片の打点側につまみ部を作り出す。刃部は両面からの剥離によって整形され，主要剥離面が残存する。S357～S359は，体部の平面形が角張り，四角形に近い形状のものである。いずれも主要剥離面を残し，刃部を微細剥離によって整形する未製品の可能性がある。S360は，刃部整形の剥離が両面から密に施される。つまみ部を欠損している可能性があることから石匙として分類した。S353は黒曜石B類製，S354は黒曜石A類製，S344は石英製，S345・S347・S350・S351・S356・S359・S360の7点は玉髄製，S346・S349の2点は安山岩C類製，S352・S355・S357・S358の4点がチャート製である。

スクレイパー（第2-144図～第2-146図　S361～S385）

S361～S385は，スクレイパーである。原石や石核等から剥出した剥片の縁辺に両面または片面から微細な剥離による調整を加え，刃部を作り出している。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層2点，Ⅳa層4点，Ⅳb層18点，Va層1点である。

S361～S375は，縦長で刃部が側縁から下縁に整形される。S361は，やや厚みのある小型の縦長剥片を用い，正面側の左側縁，右側縁下半，上端に微細剥離による調整が行われる。S362は，正面の左側縁の片面にのみ微細剥離がある。S363は，正面の右側縁，裏面は左側縁にほぼ同じ幅の剥離がみられる。裏面の右側縁は微細剥離が連続する。S364は，上端につまみがあった可能性がある。S365は，縦長剥片を利用し，正面の右側縁，裏面の左側縁に剥離がみられる。正面には自然面が残り，正面左側縁に微細剥離がある。使用に伴う擦痕が顕著である。

S366は，両面とも側縁から剥離調整が行われ，上部は両面から微細剥離によってつまみ部にみえる整形がなされる。S367は，縦長剥片を利用し，両面ともに側縁から微細剥離によって調整される。周縁に使用による擦痕がみられる。形状から縄文時代早期の可能性もある。S368は，厚みのある縦長剥片を利用し，正面は左側縁と下縁の一部，裏面は左側縁下部と右側縁上部に微細な剥離を施し，刃部を整形する。敲打痕がみられることから剥離後に刃潰しが行われた可能性がある。S369は，正面に風化面が残存し，裏面は左側縁を剥離によって成形する。厚みを減じるためと考えられる。刃部は成形部分に微細剥離によって仕上げられる。S370は，正面の右側縁，裏面の左側縁に剥離を施し，刃部を整形しており，使用痕もみられる。裏面の上縁に微細な剥離が連続する。S371は，正面の右側縁，裏面の左側縁を剥離整形によって刃部を作り出す。S372は，正面の右側縁に両側から交互に整形剥離を施し刃部とする。

S373は，両面ともに側縁部に微細な剥離がみられる。

S374は，正面の両側縁，裏面の左側縁に微細剥離があり，正面には自然面が残存する。S375は，正面左側縁と裏面の下縁に剥離がみられる。S369～S375は，打製石斧などの破片を再加工し，スクレイパーとして利用した可能性がある。

S376～S385は，基本的に横長で下縁に刃部が整形されるものである。S376・S377は，横長の剥片を利用し，下縁部の両面に剥離を行い，刃部を整形する。S376は，上面に自然面が残存し，S377は，上面に微細な剥離を施し厚みを減じている。S378は，両面ともに球心状の剥離がみられる。周縁に微細な剥離がみられることから楔形石器の可能性も残る。S379・S381は，自然面が残る横長の剥片を利用し，正面の剥片末端に連続する微細な剥離がみられるのに対し，裏面側の微細剥離は疎である。

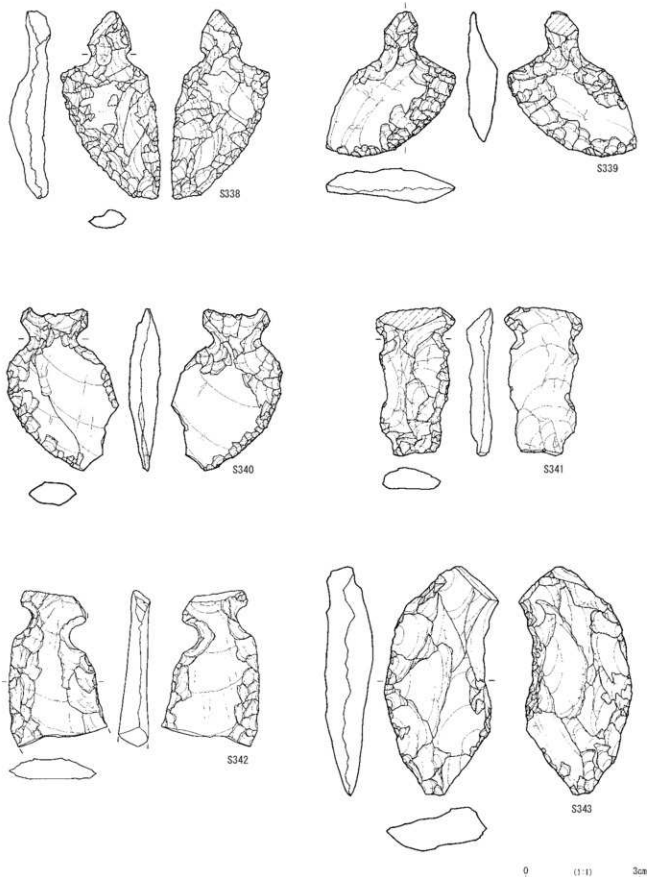
S380は，両側縁と下縁に微細な剥離によって刃部を作り出している。S382は，裏面の下縁が幅の広い剥離によって成形された後，微細な剥離が行われている。S384は，横長の剥片を利用し，下縁の両面に微細な剥離を行い刃部としている。S385は，横長の剥片下縁に片面に裏側から微細な剥離を施し，正面の一部に自然面が残る。

S361は，黒曜石D類製である。S362は，黒曜石E類製である。S363は頁岩A類製，S364・S365・S370・S374の4点は頁岩B類製，S367は頁岩C類製，S366・S369・S371～S373・S379～S382・S384の10点はホルンフェルス製，S375・S376の2点は安山岩C類製，S377は玉髄製，S378はチャート製，S368・S383・S385の3点は砂岩製である。

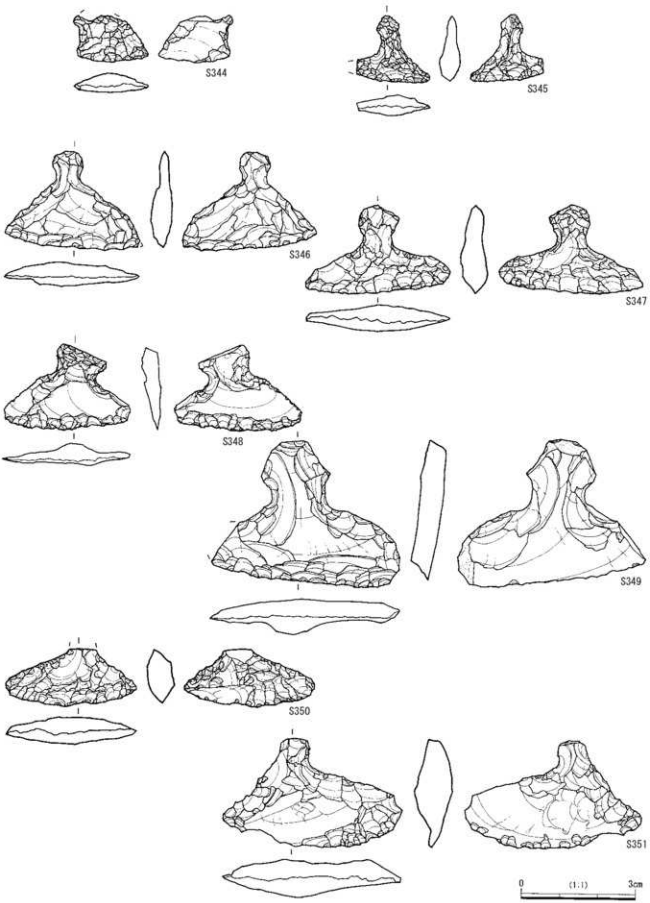
二次加工剥片（第2-147図　S386～S396）

S386～S392は，二次加工剥片である。素材剥片に対し二次加工とみられる剥離痕のあるものである。

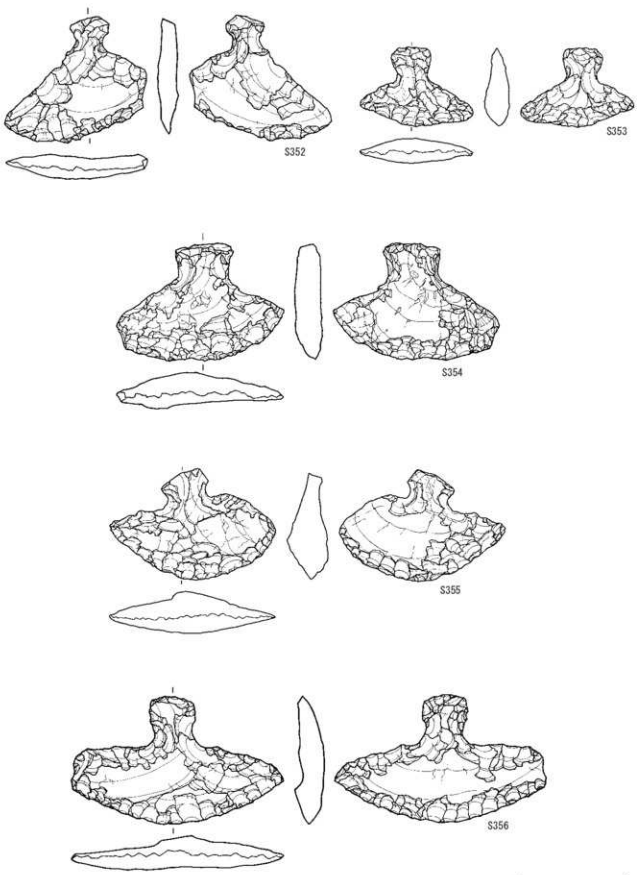
石器製作時に生じた副産物の可能性があるものを含んでいる。明瞭な微細剥離などの調整や使用痕はみられないが，包含層から安山岩や頁岩等の剥片が多く出土したことから掲載した。



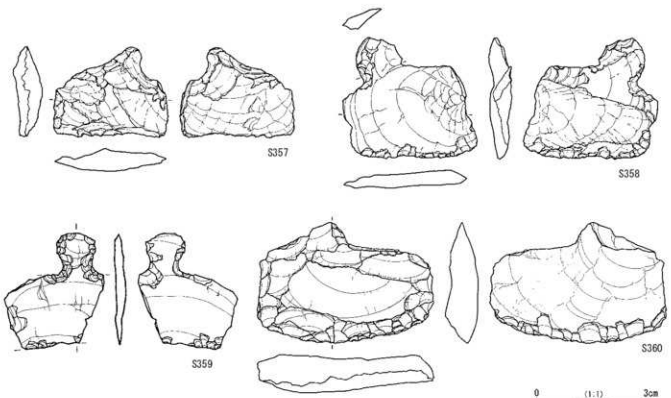
第２－140図　石匙（１）



第2－141図　石匙（2）



第２－142図　石匙（３）



第２－143図　石匙（４）

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層４点，Ⅳa層１点，Ⅳb層３点，Va層２点である。

S386は，両面から微細な剥離による調整を行っており，石錐の欠損品の可能性もある。S387は，正面の側縁の剥離はよく延びており中央に稜を形成する。裏面も同様の剥離調整が行われ，主要剥離面が残存する。石匙の欠損品の可能性もある。S388は，上端に二次加工がみられ，S389は，左上端と右側縁に二次加工がある。左上端に潰れがみられることから楔形石器の可能性もある。S390は，正面の左側縁と上端，裏面の下端に微細な剥離が集中する。S391は，両面の周縁から中心に向かって剥離が行われ，側縁の一部には敲打痕もみられる。正面には自然面が残る。石槍の未製品の可能性もある。S392は，正面の右側縁と裏面の左側縁に微細剥離が集中する。打製石斧の欠損品を転用した可能性がある。

S393・S394・S395は剥片である。S396は，剥片末端の両縁に微細な剥離がみられる。

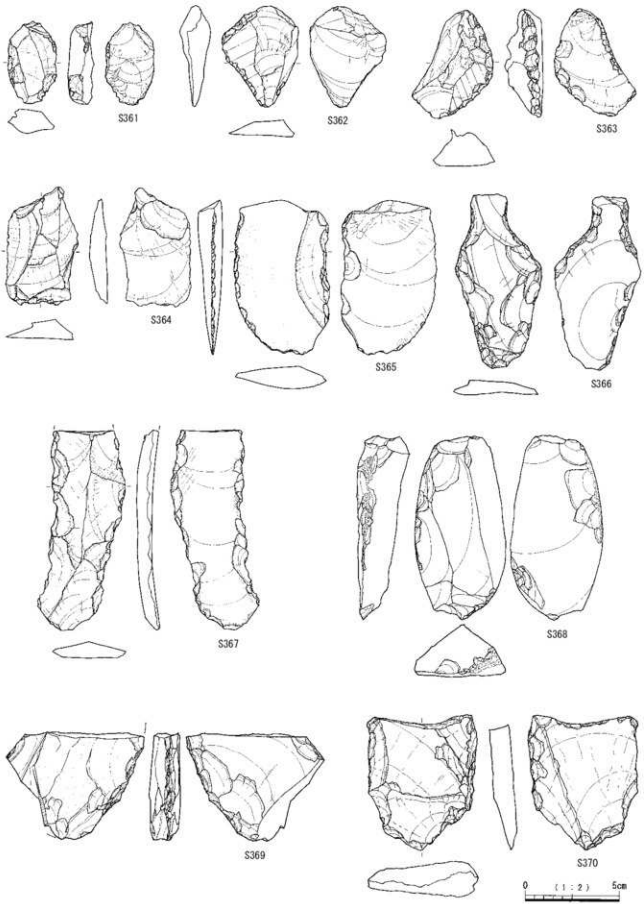
S387は，黒曜石D類製である。S388は，黒曜石B類製である。S389は，黒曜石A類製である。S390は鉄石英製である。S391・S392は，ホルンフェルス製である。S386・S393・S396は，安山岩C類製である。S394・S395は，頁岩B類製である。

使用痕剥片（第２-148図・第２-149図　S397～S413）

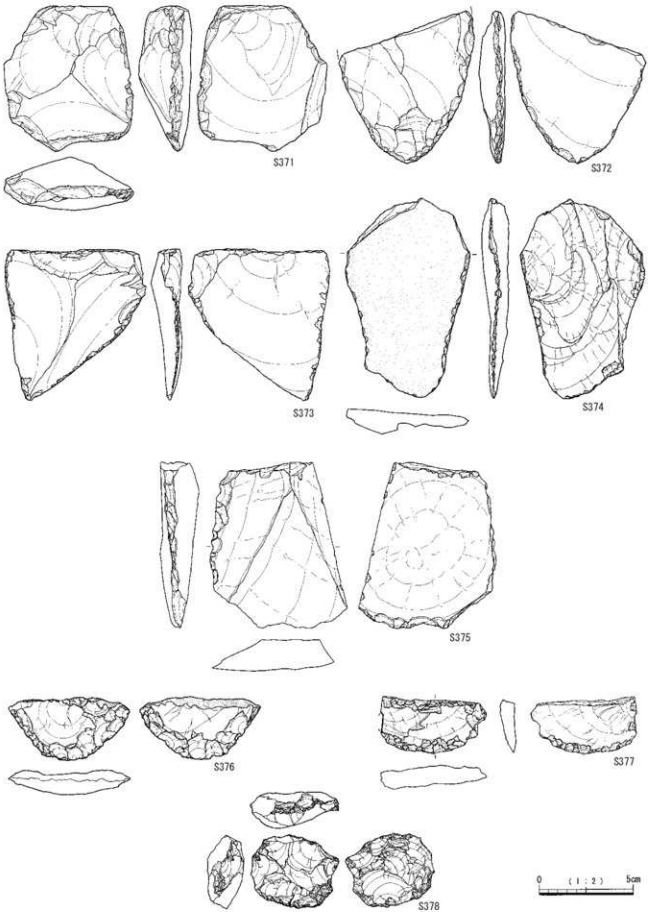
S397～S413は，素材剥片に微細な剥離など，刃こぼれ状の使用痕がみられるものである。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層６点，Ⅳa層１点，Ⅴ層２点，Va層７点である。

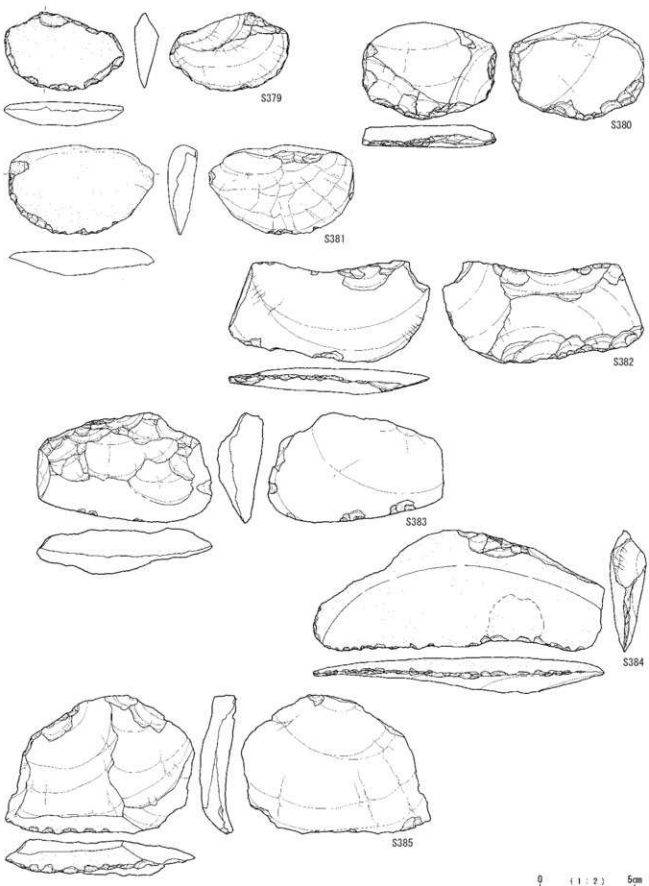
S397～S401は，側縁や下縁の一辺に使用痕がみられるものである。S397は，正面の右側縁に使用痕がみられる。正面に節理面と古い剥離面がある。S398は，やや縦長の剥片を用い，下縁に微細剥離がみられる。上縁と左側縁上部にも加工痕がある。S399は，台形状の剥片末端の最も薄い部分に使用痕がある。S400は，正面の側縁に使用痕があり，裏面には節理面がある。S401は，やや厚みのある剥片の左側縁に微細剥離がみられ，正面には自然面が残る。正面の稜線に摩滅痕，裏面の上端・稜線に線状痕と摩耗痕がみられる。S402は，厚みのある剥片の下端に使用痕がみられ，裏面の下縁には微細剥離がある。右側面は折断されたと考えられる。S403は，正面には複数の剥離があり，上面と正面の一部に自然面が残る。剥片の下縁に使用痕があり，両面とも微細剥離がみられる。S404は，両面の両側縁に微細な剥離がある。S405～S413は側縁と下縁，上縁と下縁，両側縁など，二辺または三辺に使用痕がみられる。S405は，剥片の打面側，厚みのある部分に使用痕がみられる。



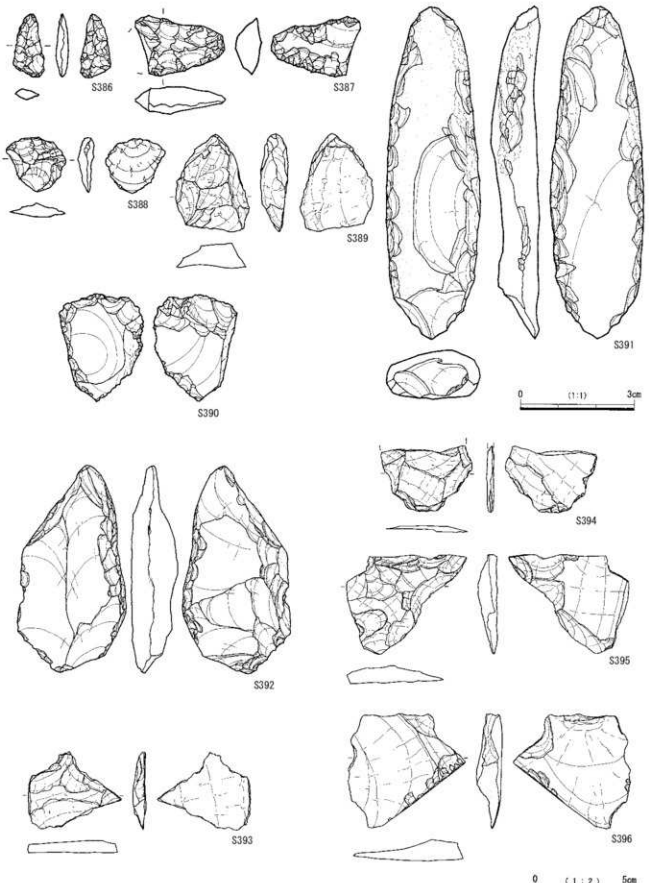
第２－144図　スクレイパー（１）



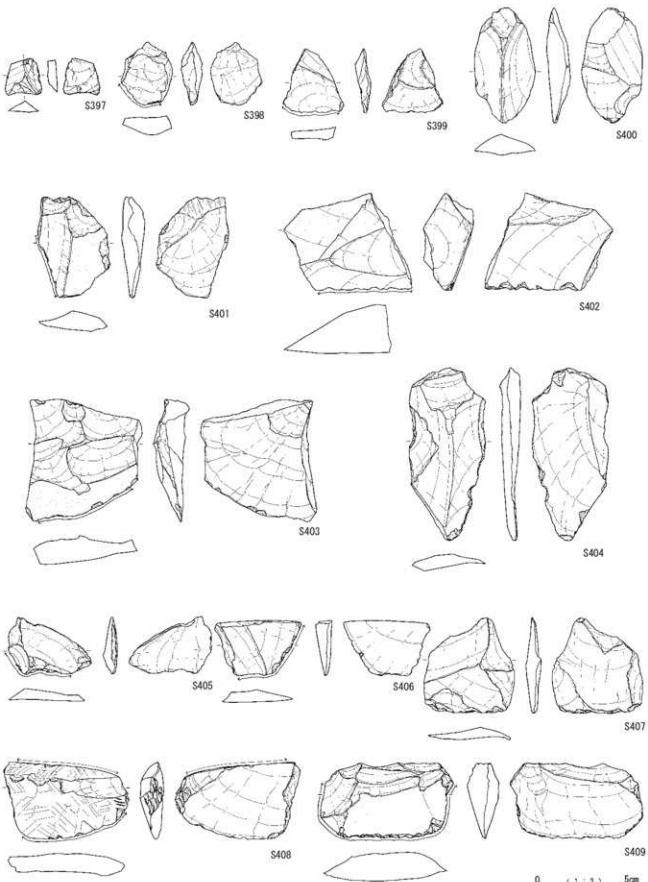
第２－145図　スクレイパー（２）



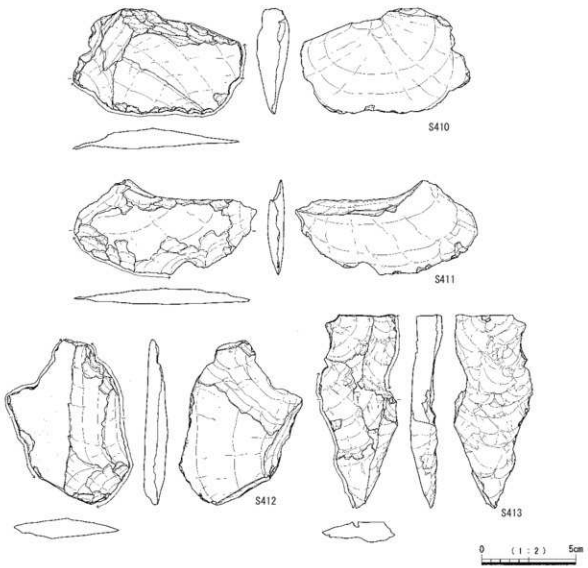
第２－146図　スクレイパー（３）



第２－147図　二次加工剥片



第２－148図　使用痕剥片（１）



第２－149図　使用痕剥片（２）

S406は，剥片末端の最も鋭利な部分に使用痕があり，正面の右側縁には微細な剥離がみられる。煤が付着している。S407は，剥片の下縁と側縁に使用痕，下端の両面に微細な剥離がある。S408は，剥片の厚みがある上面端と最も厚みの薄い末端に使用痕がみられる。裏面の左側縁には微細な剥離が集中する。形状から磨製石斧の破片が再利用されたと考えられる。S409は，正面の下縁に微細な剥離があり，左右側縁と下縁の稜線に摩耗痕がみられる。

S410・S411は，横長剥片の下端，最も厚みの薄い部分に使用痕がある。S410は両面，S411は裏面の下縁に微細な剥離がある。S412・S413は両側縁に使用痕がみられるものである。S412は，使用痕がみられる両側縁の断面が鋭角となる。S413は，縦長剥片を利用しており，正面の右側上部は階段状に大きく剥離しており，使用痕は剥離後の側縁にみられる。

S397はチャート製，S398・S413の２点は玉髄製，S399・S402・S406の３点は安山岩Ｃ類製，S400・S401・S404・S405・S407・S409・S412の７点は頁岩Ｂ類製，S403・S410・S411の３点はホルンフェルス製である。S408は，砂岩製である。

石核・原石（第２-150図，第２-151図　S414～S424）

S414～S424は，石核・原石である。礫及び分割礫を素材とし，小型の剥片が剥出されたものを石核，剥出されていない自然礫のものを原石とした。原石については，石器製作の原料として遺跡に持ち込まれた時点の大きさがわかるものを２点図化した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅳa層１点，Ⅳb層５点，Va層３点である。原石はⅤ・Va層２点である。

S414・S416～S418は，残核と考えられる。S414は，打面転移を繰り返し，上面は左右，正面は上下，裏面は上・右方向など多方向から剥離を行っている。S415は，不純物を多く含み，剥片剥離が円滑に進まなかった可能性がある。亜円礫を素材とし，打面・作業面以外に自然面が残存する。S416は，正面は上方向，裏面は上下左右に打面転移を繰り返し，多方向から剥離が行われたことが窺える。S417は，上面・正面・裏面ともに少なくとも２方向からの剥離痕がみられ，一部に自然面が残存する。S418は，正面には上方向から剥離痕があり，上端に微細な剥離が集中する。裏面は上下２方向からの剥離がみられる。上面の一部に自然面が残る。S419は，亜円礫を素材としており，礫の長軸端部に連続する剥離がみられるが，剥片剥離は進んでいない。

S420～S422は，礫面を打面として剥片の剥離が繰り返されている。S420は，正面に上下方向，裏面に下方向からの剥離がある。正面の剥離が行われた後，上面左側と下端部に微細な剥離が行われている。打面や作業面を調整した可能性があるが，礫器の可能性が残る。S422は，上面は左右２方向，正面から右側面にかけては上方向，右側面が上・左方向，裏面は下・右方向からの剥離がみられる。

S423・S424は，原石である。

S414は黒曜石C類製，S415～S417の３点は黒曜石A類製，S418はチャート製，S419・S423・S424の３点は石英製，S420～S422の３点はホルンフェルス製である。

磨製石斧（第２-152図～第２-173図　S425～S549）

S425～S549は，磨製石斧である。形状や大きさ，残存状態によってⅠ～Ⅵ類に分類した。なお，本遺跡出土の磨製石斧は，伐採具や加工具として使用された後，敲打具（敲石）や両極石器（楔形石器）として転用されたものが多い。欠損後に再加工し転用されたもの，欠損前に意図的に再加工し転用されたことが想定される。

本節では，本来の磨製石斧として使用された形態を基本として分類を行い，各類ごとに磨製石斧から敲打具や両極石器として転用された経過をたどれるように掲載している。掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層２点，Ⅳ層３点，Ⅳa層16点，Ⅳb層95点，Ⅳc層１点，Ⅴ・Va層５点である。

Ⅰ類　形状が撥形をなし，刃部の幅に対して基部の幅が細くなるものである。体部の断面は楕円形で厚みがあり，刃部付近が最大幅となる。いわゆる棒状石斧を含む。Ⅰ類には，完形となるものがない。

S425～S427は，基部から体部を残し体部途中から刃部を欠損する。S425は，研磨で整形され両面と側面の境は弱い稜をなす。下端の両面に刃部破断時の剥離面を残す。S426は，敲打整形後，研磨によって仕上げられ，刃部を欠損する。S427は，基部先端がやや幅広である。器面の一部に剥離整形痕が残り，全体に敲打整形痕がみられる。下面に敲打による潰れ，下端には剥離が残ることから，刃部を破断後，敲打具として転用されたと考えられる。

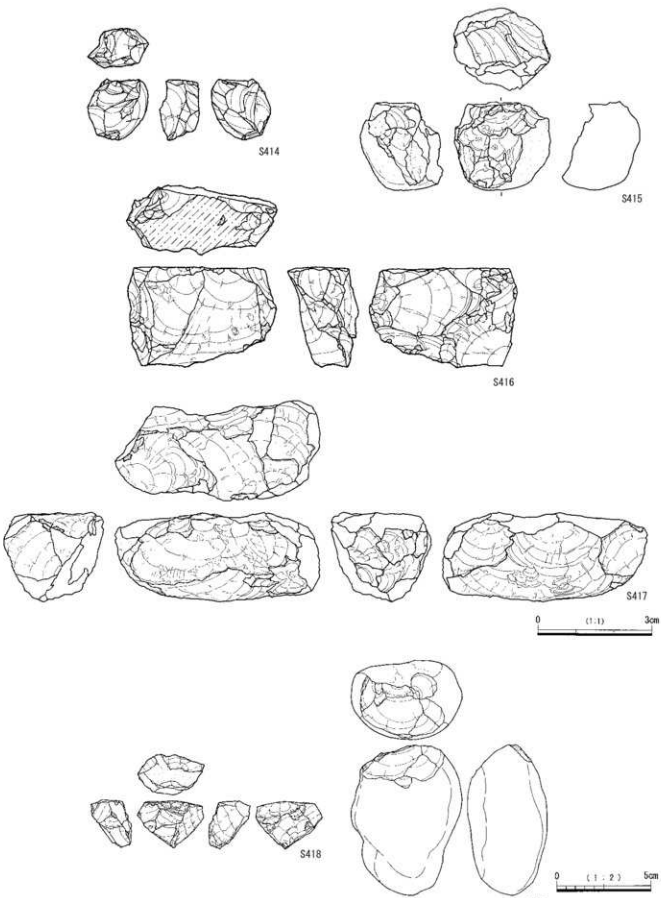
S428～S433は，刃部を欠損し，基部の先端に剥離がみられる。S428は，剥離整形後，敲打によって仕上げられる。基部の両面には小さな剥離が集中し，端部は敲打による潰れが確認できる。敲打具として転用されている。S429は，剥離成形後，敲打整形を行い研磨によって仕上げられ，裏面と側面の境は弱い稜をなす。基部の両面に剥離が集中し，上端は潰れているため敲打具として転用されている。S430は，器面の一部に敲打整形痕が残り，研磨によって仕上げられる。基部上端に剥離と敲打による刃潰れがみられ，敲打具に転用されたと考えられる。

S431は，器面の一部に剥離成形と敲打整形痕が残る。基部上端に剥離が集中する。S432は，一部に整形剥離痕を残す。研磨によって整形される。基部上端に剥離痕と敲打による潰れ，刃部側の下面には敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたと考えられる。S433は，剥離・敲打による整形痕をわずかに残し，研磨によって仕上げられる。刃部破断後の下端には剥離と敲打による潰れがみられる。敲石として転用された可能性がある。基部先端に赤色顔料が付着する。

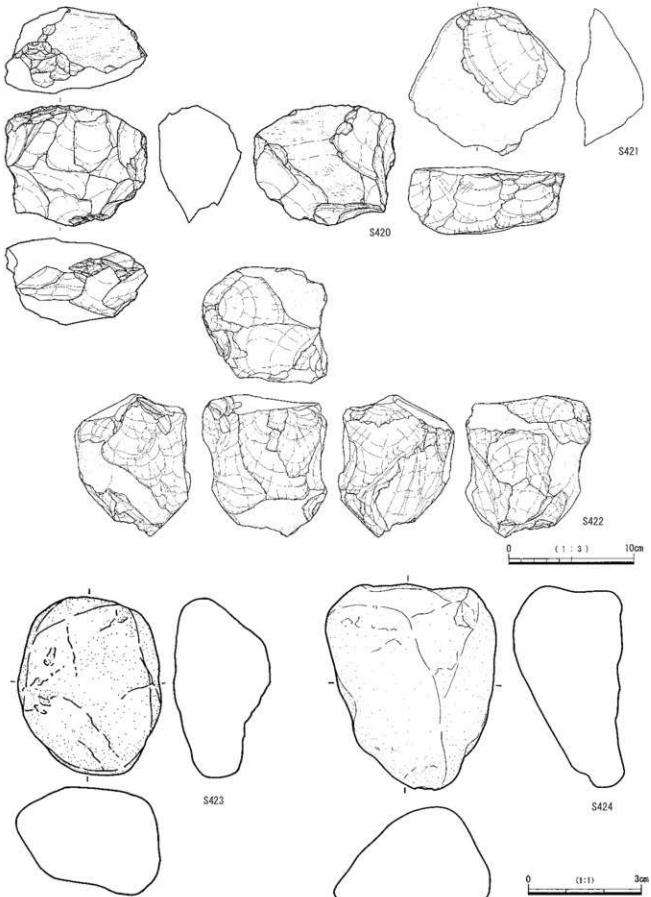
S434は，敲打と研磨によって整形され，敲打痕が顕著である。基部及び刃部を破断し，刃部側の破断面に敲打痕と潰れがみられることから敲石として転用されている。

S435～S439は，基部及び刃部の破断面に敲打痕や潰れがみられるため，楔形石器などの両極石器または敲石に転用されたと考えられる。S435は，敲打による整形後，研磨によって仕上げられ，基部・刃部の両端に複数の剥離面がみられる。

S436は，敲打整形と研磨によって仕上げられ，正面と側面の境が弱い稜をなす。基部・刃部の両端に複数の剥離面があり，下面には微細剥離と刃潰れがみられる。S437は，敲打整形と研磨によって整形され，基部と刃部の両端に複数の剥離面がある。剥離面には敲打痕がわずかに残る。基部の上端に潰れがみられることから敲打具として転用された可能性がある。S438は，両側辺からの剥離成形痕をよく残し，敲打によって整形される。基部・刃部の両端に微細剥離がみられ，刃部側には潰れがみら



第２－150図　石核・原石（１）



第2－151図　石核・原石（2）

れる。S439は，基部・刃部の両端に明瞭な敲打痕がみられ，敲石として利用された可能性がある。

S440は，敲打と研磨によって整形されている。基部の裏面と刃部の正面に剥離が集中する。刃部は敲打によって丸みを帯びるほど潰れており，敲石として転用されたと考えられる。

S441は，基部及び刃部を欠損する。基部は横方向，刃部は下方向からの加撃によって破断されており，刃部側には微細剥離もみられる。Ⅰ類の欠損品である。

Ⅰ類は，すべてホルンフェルス製である。

Ⅱ類　形状が撥形または台形をなし，刃部の幅に対し，基部の幅が細くなる。体部の断面は両面にやや丸みがあるが，両側面が研磨によって平滑に仕上げられるため，扁平な楕円形や方形状となる。刃部は両刃（蛤刃）である。いわゆる定角式磨製石斧を含む。

S442～S446は，完形である。S442は，正面の上部右側と裏面上部中央に成形剥離が残る。側面部を中心に敲打痕があり，全体を研磨によって整形する。両面と側面の境が稜をなし，刃部に刃こぼれがみられる。S443は，正面の両側と裏面の左側面に成形剥離が残る。敲打整形痕がわずかに残り，全体が研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は弱い稜をなし，基部に複数の剥離がみられる。S444は，正面の両側，裏面の左側面に成形剥離を残す。正面の中央，裏面の下部に敲打による整形痕がみられる。両面と側面の境は明瞭な稜をなす。

S442～S444はいわゆる定角式石斧である。

S445は，石材の性質上，両側面からの成形剥離痕をよく残す。敲打整形痕が両面・側面全体にみられ，研磨によって仕上げられる。刃部には使用痕がある。S446は，光沢をもつほど丁寧に磨きあげている。両面・側面の一部は敲打によって凹み，基部端にも敲打痕が集中する。敲打具として転用されたと考えられる。短身であり，刃部が作り直された可能性もある。S447は，基部もしくは基部に近い部分の破片の可能性がある。

S448～S452・S454は，刃部を欠損する。S448は，敲打整形後，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境に明瞭な稜をなし，厚みがある。両面の下端に複数の剥離，敲打痕が集中しているため，敲打具として転用されたと考えられる。S449は，敲打整形後，研磨によって仕上げられ，両面から側面の下端にかけて下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面に敲打痕がみられ，敲打具として転用されたと考えられる。

S450は，敲打整形後，研磨によって仕上げられ，裏正面と側面の境が稜をなす。基部の両面に複数の剥離があり端部は潰れている。両面から側面の下端に下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ，敲打具として転用されている。S451は，剥離成形後，敲打整形と研磨によって仕上げられ，基部の両面には複数の剥離がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられるため敲打具として利用されたと考えられる。S452は，右側面に剥離成形後，器面全体に敲打整形痕を残す。基部の両面に複数の剥離がみられ，端部は摩滅する。両面から側面の下端には下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ，敲打具として転用されたことが窺える。S453は，敲打整形と研磨によって仕上げられている。基部の両面に複数の剥離と敲打痕がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打が集中することから敲石として転用されたと考えられる。S454は，剥離成形後，敲打整形，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は稜をなす。基部・刃部ともに両面にわたって複数の剥離がある。剥離面に敲打痕がみられるため敲打具や両極石器として転用されたと考えられる。S455は，刃部片である。敲打成形後，研磨整形される。両面と側面の境は明瞭な稜をなし，基部側の正面は剥離が延び，剥離面に敲打痕がみられる。刃部の裏面にも複数の剥離があり，端部は潰れている。敲打具として利用されたことが窺える。

S456は，両面と側面の境が明瞭な稜をなす。基部端と刃部が両面剥離によって再加工され，剥離面には敲打痕が残存する。敲打具として再利用されたと考えられる。

S457～S477は体部～刃部片または刃部片である。

S457は，研磨整形され，両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部端に微細な刃こぼれがみられる。S459は，側面に敲打整形痕が残る。S460は，基部を欠損する。正面や側面の一部に敲打整形痕が残り，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなす。

S461は，正面が敲打整形と研磨によって仕上げられ，裏面は剥離面と敲打痕がみられ，刃部の研磨は剥離面に及ぶ。基部は両面から細かい剥離があり，刃部端には使用による刃こぼれがみられる。S462は，敲打整形痕がわずかに残り，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし，刃部端には両面とも刃こぼれ状の剥離がみられる。S463は，研磨によって整形される。両面と側面の境が稜をなす。基部の正面左側と裏面右側に複数の剥離があり端部は刃潰れしている。刃部は両面にわたる剥離があり，敲打による潰れが認められる。敲打具として利用されたと考えられる。

S464は，敲打整形後，研磨によって仕上げられる。正面と側面の境が稜をなす。基部側の両面に細かな剥離があり，基部の上面に敲打痕が密に残る。刃部端にも刃こぼれ状の剥離，敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたことが窺える。

S465～467は，両面に敲打整形後，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は稜をなす。基部の上面には複数の剥離と敲打痕，刃部の両面には細かい剥離が連続し，端部に敲打による潰れがみられる。

S468・S470～S473は，敲打整形痕が残り，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし，基部の両面に複数の剥離と敲打による潰れがある。刃部は両面に剥離があり端部は敲打によって潰れている。敲打具として利用された可能性がある。

S469は，正面に剥離成形痕を残し，研磨によって仕上げられる。側面に敲打痕がのこり，両面との境に稜をなす。刃部は両面に複数の剥離と敲打による潰れがみられる。

S474は，わずかに敲打整形痕を残し，研磨によって仕上げられる。上面・下面の剥離面に敲打による潰れがみられる。側面は全周にわたって敲打痕がみられることから敲石として転用されたと考えられる。S475は，両面とも刃部から体部に向かって大きな剥離が延びる。

S476は上端から体部に向かって大きな剥離が延びる。使用時の加撃あるいは再加工によって生じたと考えられる。敲石に転用されたことが窺え，刃部端は密な敲打によって丸みを帯びる。S477は，敲打整形後，研磨によって仕上げられる。両端に剥離がみられるため敲石に転用されたと考えられる。側面・裏面に敲打痕が残り，正面中央は凹石のように浅くくぼむ。

Ⅱ類は，S445・S449・S455が頁岩B類製，S446は花崗岩製，その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類　形状が撥形や台形をなし，体部の断面は楕円形や方形状となる。全長が15cm以下の中型のものでⅡ類よりも小さい。

S478～S483は，ほぼ完形である。S478は，正面に敲打整形痕，裏面の側面側に剥離成形・敲打整形痕を残す。研磨によって仕上げられ，両面と側面の境が弱い稜をなす。刃部端に刃こぼれがみられる。S479は，両面に剥離整形痕が明瞭に残り，敲打痕がわずかにみられる。研磨整形によって両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部端が刃こぼれしている。S480は，正面の刃部側に剥離成形痕が残り，敲打と研磨によって整形され，基部及び刃部の両面と側面の境が稜をなす。

S481は，正面が敲打・研磨によって整形され，刃部に研磨痕が顕著である。正面の左側縁に微細剥離がみられる。裏面は右側縁端の上部に敲打痕，下部に微細剥離，刃部端に刃こぼれ状の剥離が集中する。右側縁と刃部は二次加工された可能性がある。S482は，緻長の剥片を利用し，正面は剥離成形後，敲打整形と研磨に換って仕上げられる。裏面は両側縁からの剥離で整形される。刃部は両面とも研磨される。S483は，横長剥片を利用し，正面が敲打整形と研磨によって仕上げられる。裏面は敲打痕がみられず研磨されている。両側縁から剥離が施される。側縁には敲打痕がみられる。

S484は，正面・側面が敲打整形と研磨によって仕上げられ，裏面は剥離面のみで敲打・研磨痕はみられないが，両側縁に剥離がみられる。使用によって欠損した後，再加工された可能性がある。S485は，正面が研磨され敲打痕はみられない。裏面は剥離面のみ残存することから，使用によって破断したと考えられる。側面には敲打による整形痕が残る。基部両面に大きな剥離と微細剥離がみられる。

S486～S491は，刃部片である。S486は，研磨によって仕上げられ，裏面の左側縁に微細な剥離がみられる。両面と側面の境が稜をなす。S487は，敲打痕はわずかで研磨によって仕上げられている。側面に剥離痕がある。両面と側面の境が稜をなす。S488は，敲打整形痕はわずかで研磨されている。やや肉厚で，両面と側面の境が稜をなす。S489は，両面とも研磨痕のみ確認できる。基部上端には微細な剥離，刃部端に刃こぼれ状の剥離がみられる。S490は，研磨によって仕上げられ，両面と側面の境が明瞭な稜をなす。両面に刃面を２面もつ。S491は，正面が研磨され，裏面は剥離面を残す。刃部側の剥離は研磨によって摩滅していることから研ぎ直されたと考えられる。刃部端に刃こぼれがみられる。

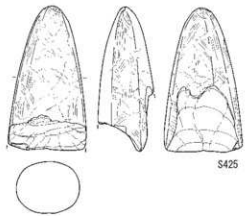
S492は，研磨によって整形される。両面と側面の境が稜をなす。両端に剥離痕がみられる。剥離痕を潰す敲打痕がみられることから，基部及び刃部を破断後，敲石として転用されたと考えられる。S493は，敲打と研磨によって整形される。基部端と刃部端に微細な剥離と敲打痕がみられることから，敲打具に転用されたと考えられる。

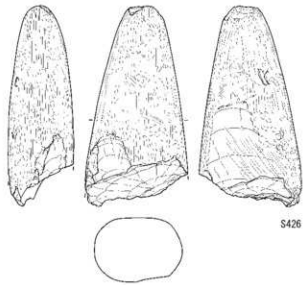
Ⅲ類は，すべてホルンフェルス製である。

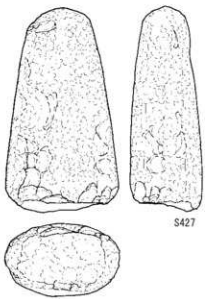
Ⅳ類　形状が撥形や台形，短冊形をなし，体部の断面形は楕円形や方形状となる。厚さが３cm以下で，Ⅲ類よりも薄いものである。

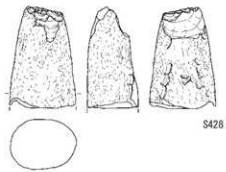
S494～S496は，完形もしくは完形に近いものである。S494は，基部と両側縁に剥離成形痕があり，研磨によって仕上げられる。S495は，両面の一部に剥離成形痕，敲打整形痕がみられ，研磨によって仕上げられる。刃部は直刃状で一部を欠損し，刃こぼれがみられる。S496は，剥離成形後，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなす。刃部に刃こぼれがみられる。磨製石斧Ｖ類－S508に類似している。

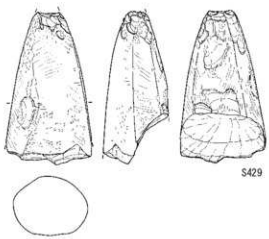
S497～501は刃部を欠損する。S497は，両面に剥離痕と敲打痕がわずかにあり，研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし，基部端には剥離がみられる。S498は，両面に敲打痕がみられ，研磨によって仕上げられる。やや短身である。正面の刃部剥離面が研磨されており，欠損後に研ぎ直されている。基部の側面と裏面の刃部に敲打痕がみられるため敲打具として転用された可能性がある。S499は，剥離成形後，敲打と研磨で整形される。両端に剥離と潰れがみられるため敲打具として転用されたと考えられる。

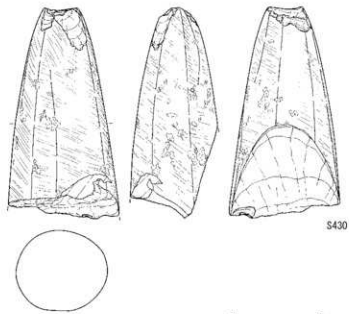


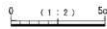




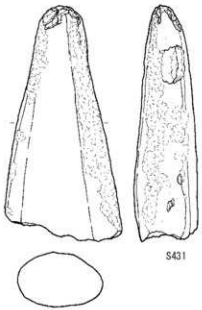


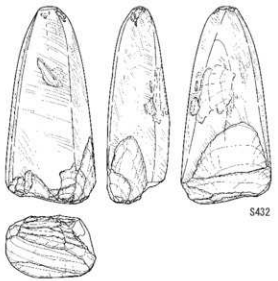


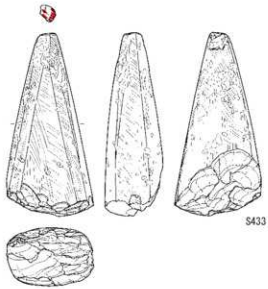


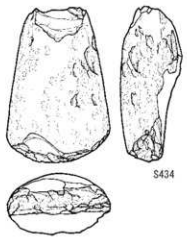


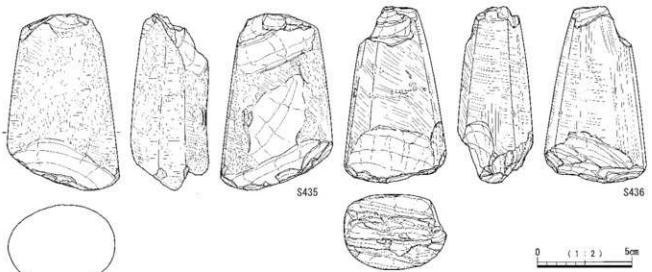
第２－152図　磨製石斧（１）



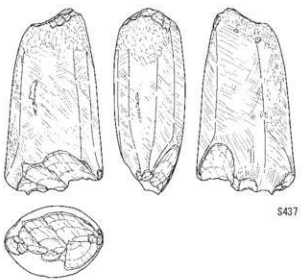


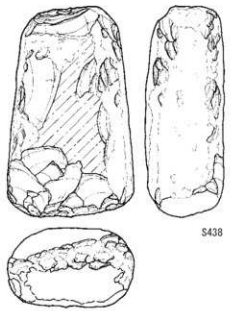


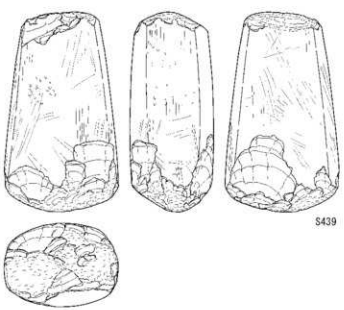


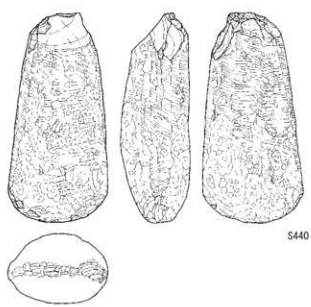


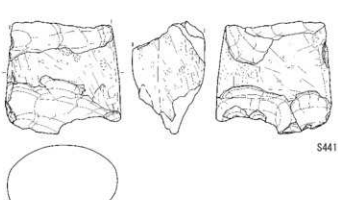
第２－153図　磨製石斧（２）



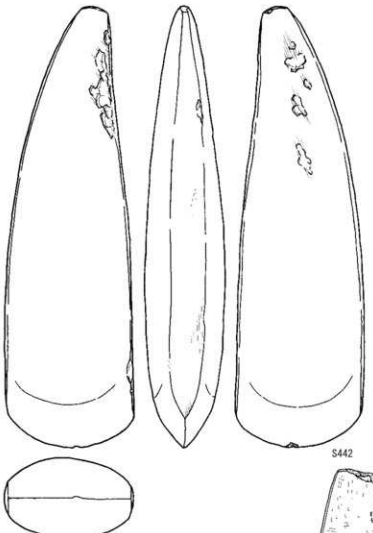


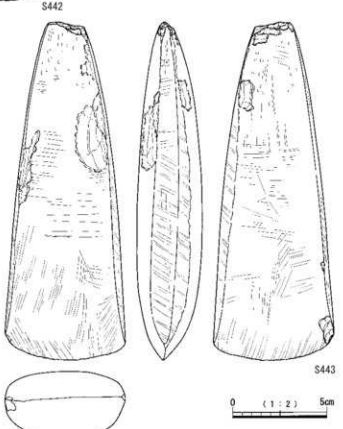




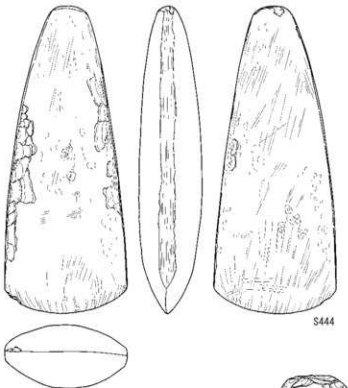


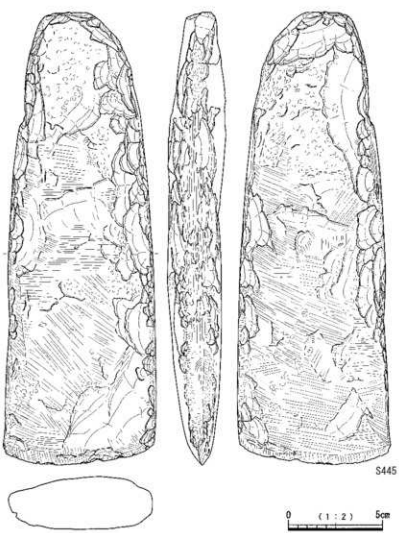
第２－154図　磨製石斧（３）



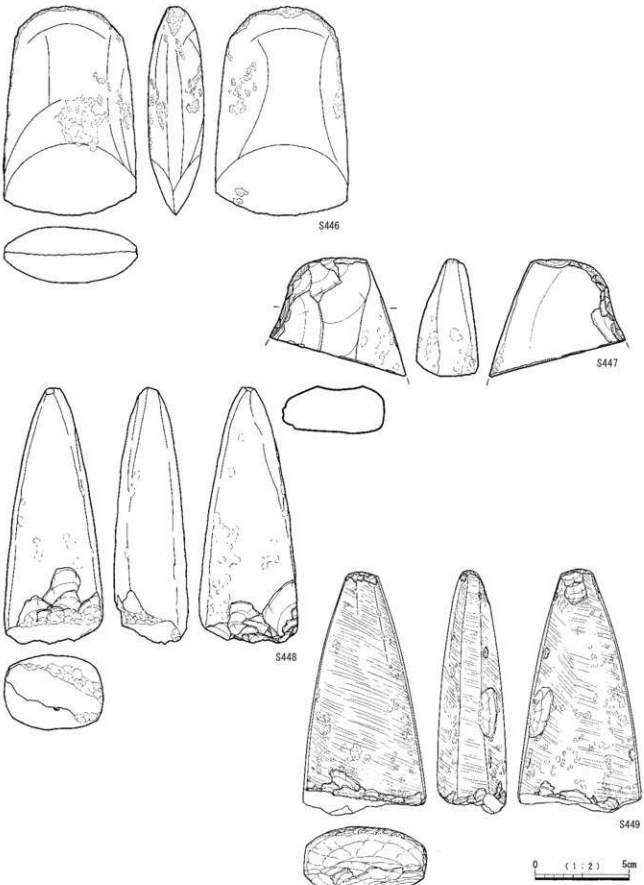


第２－155図　磨製石斧（４）

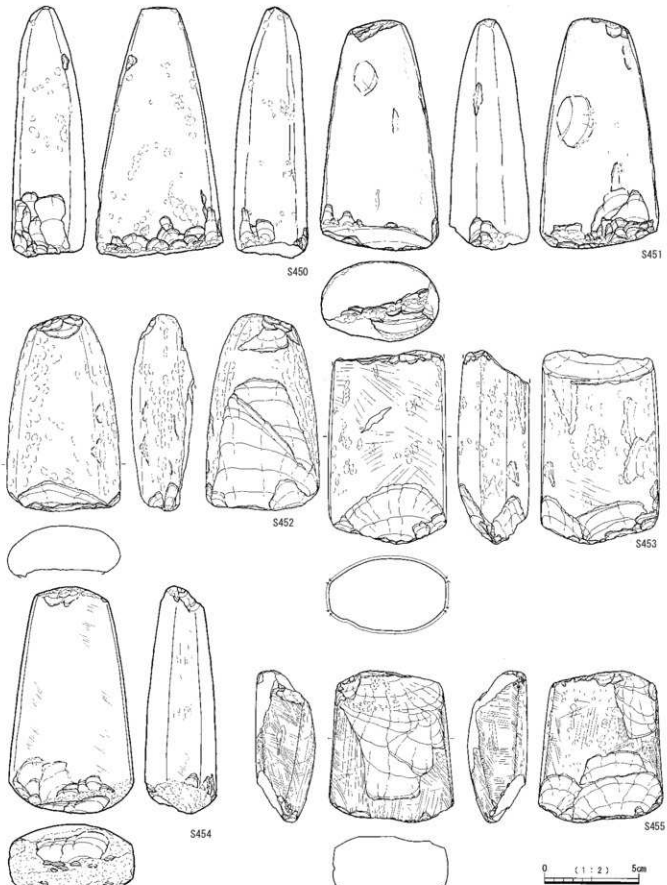




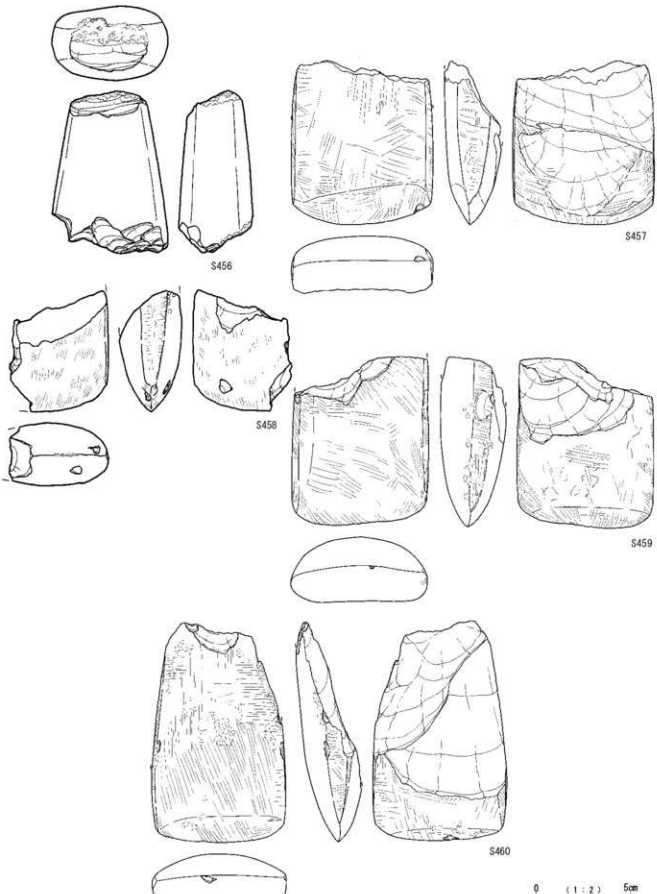
第２－156図　磨製石斧（５）



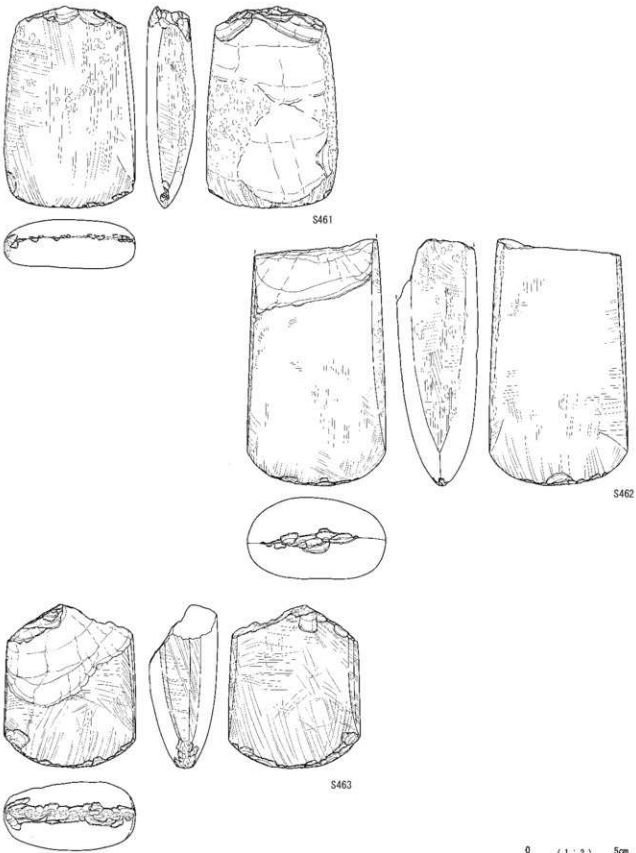
第２－157図　磨製石斧（６）



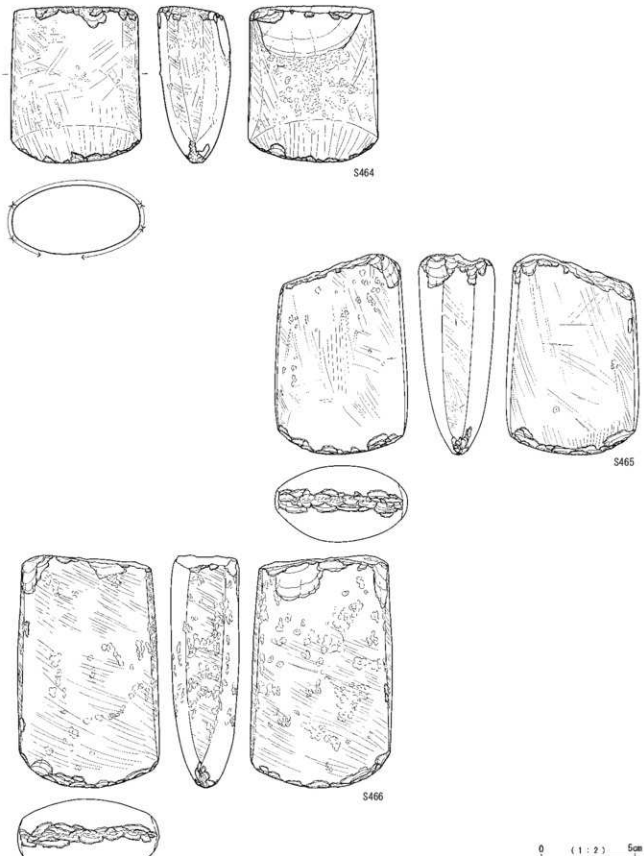
第２－158図　磨製石斧（７）



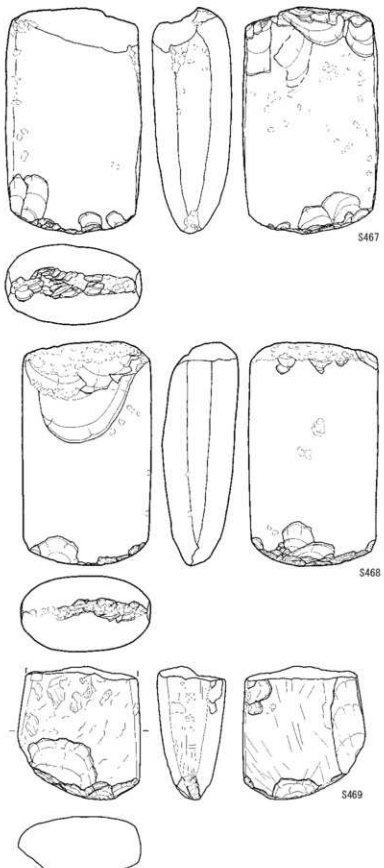
第２－159図　磨製石斧（８）



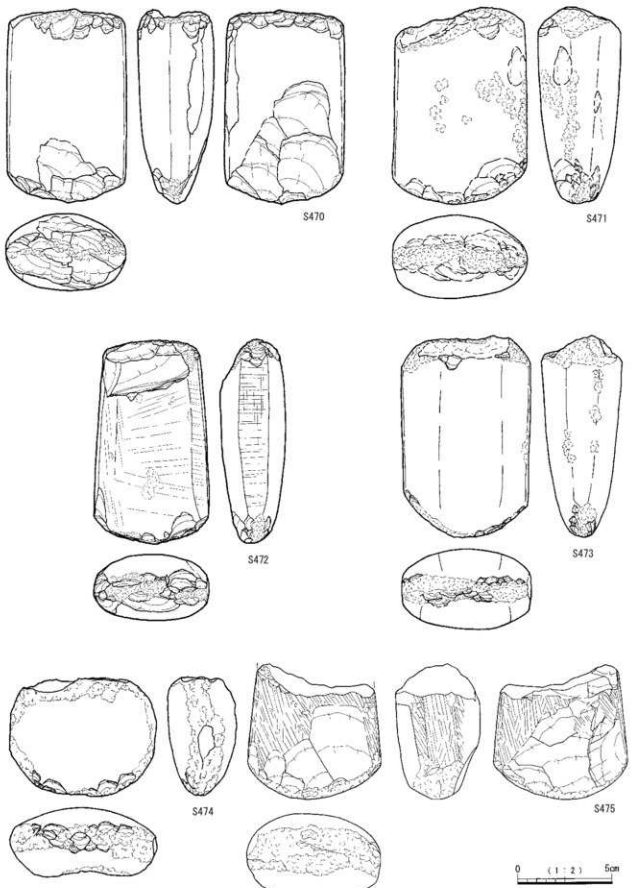
第2－160図　磨製石斧（9）



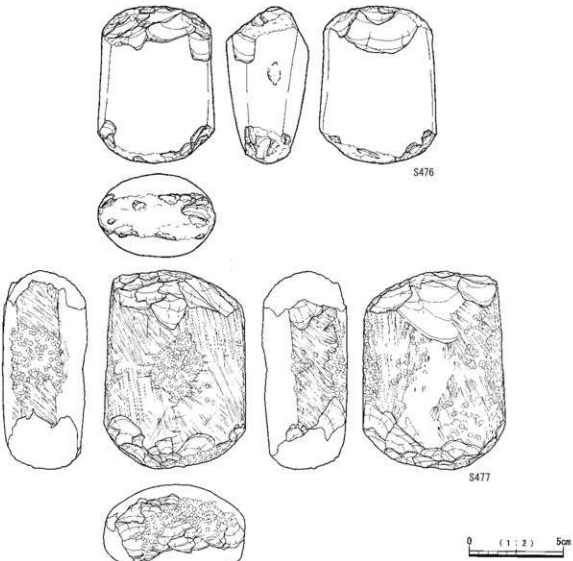
第２－161図　磨製石斧（10）



第２－162図　磨製石斧（11）



第２－163図　磨製石斧（12）



第２－164図　磨製石斧（13）

S500は，下半を欠損するが素材礫の形状をよく残す。正面下端に微細剥離と刃潰れがみられ，敲打具として転用されている。S501は，剥離成形されており研磨整形は目立たない。正面の右側面は研磨され両面の境が稜をなす。S502は，基部を欠損する。剥離成形後，研磨整形される。両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部は直刃状で，正面は体部に向けて刃こぼれ状の剥離が延びる。S503は，基部と刃部を欠損しており，研磨で整形される。

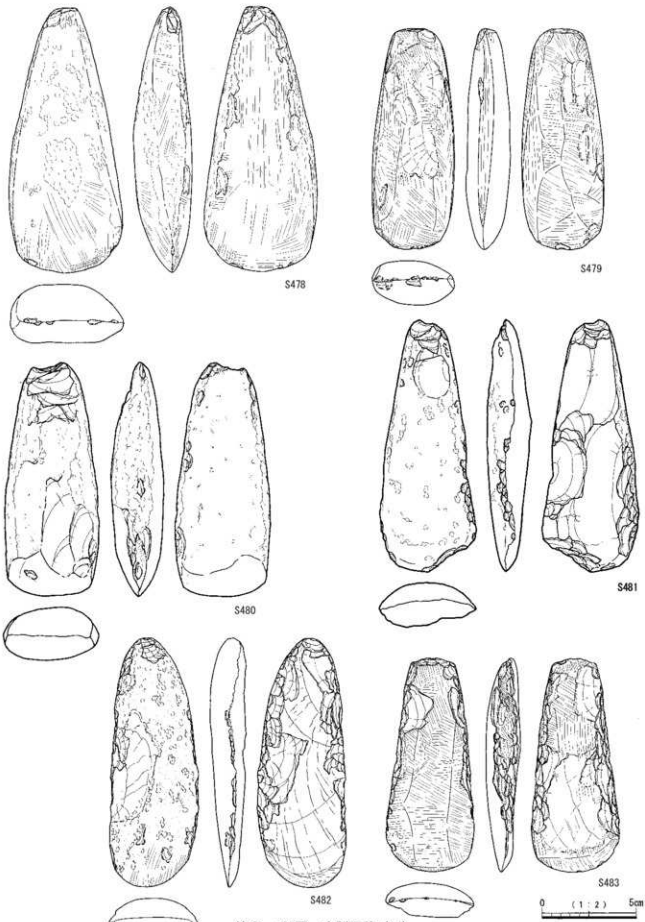
S504～S507は，刃部片である。S504～S506は，研磨整形され，S504・S506は刃部端に使用による刃こぼれがみられる。

Ⅳ類は，S501・S506が頁岩Ｂ類製で，その他はすべてホルンフェルス製である。

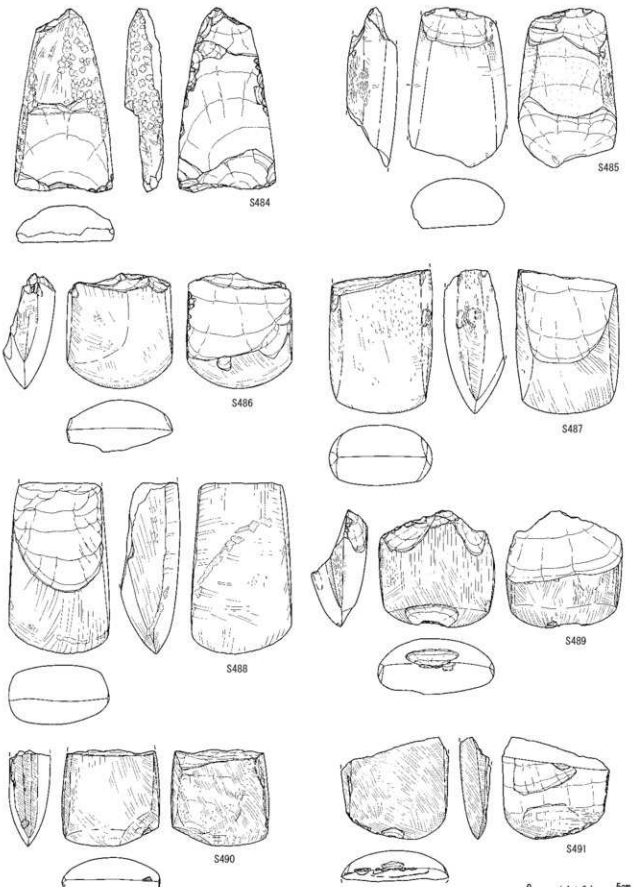
Ⅴ類　形状が楕円形や撥形，短冊形となり，断面は扁平な楕円形あるいは方形，円形となる。Ⅳ類より小型で加工具として使用された可能性のあるものである。いわゆる扁平片刃石斧や石鑿状のものを含む。

S508・S509は完形である。S508は，研磨整形され，刃部に微細な刃こぼれがある。磨製石斧Ⅳ類－S496に類似する。S509は，剥離成形後，敲打と研磨で整形される。

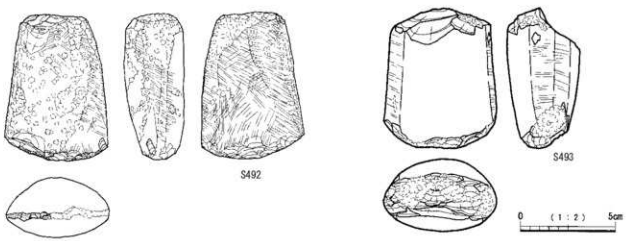
S510～S515は，基部を欠損する。S510は，剥離成形後，研磨整形され，両面と両側面の境が稜をなす。S511は，全面を研磨によって整形し，両面と両側面の境が明瞭な稜をなす。刃部は直刃状となる。S512は，剥離成形痕をよく残し，研磨整形される。正面と両側面の境が稜をなし，刃部には微細な刃こぼれがみられる。S513は，敲打整形痕がわずかにあり，刃部は直刃状で研磨整形が顕著である。



第２－165図　磨製石斧（14）



第２－166図　磨製石斧（15）



第２－167図　磨製石斧（16）

S514は，剥離成形後，研磨で仕上げられる。基部端と正面側の左側面に剥離がみられる。刃部の裏面を欠損し，刃部端に微細な刃こぼれがある。

S515は，敲打整形痕がわずかに残り研磨整形される。両面と両側面の境は明瞭な稜をなし，基部を欠損する。

S516は，刃部片である。両面に側縁からの剥離があり，刃部は直刃に研磨され微細な刃こぼれがみられる。

S517～527は，柱状のものである。S517～S520は，ほぼ完形である。S517は，敲打整形後，研磨で整形される。刃部は片刃である。S518は，剥離成形痕と敲打整形痕がわずかにあり，研磨で仕上げられる。両端に片刃の刃部が研ぎ出され，両端とも刃こぼれしている。S519は，剥離成形・敲打整形痕がわずかにあり研磨整形される。基部を欠損し，刃部は片刃である。S520は，剥離成形痕がわずかにあり，研磨整形される。両端に円刃で両刃となる刃部が研ぎ出され，両端とも刃こぼれしている。

S521は，刃部を欠損する。研磨整形され，基部端に微細剥離がみられる。S522は，基部から刃部に向けて幅が広くなる。研磨整形され，基部先端と刃部を欠損する。S523は，敲打整形痕がわずかにあり，研磨によって仕上げられる。刃部は両刃の円刃となる。基部を欠損する。S524は，研磨整形され，刃部は両刃の円刃に研ぎ出されている。S525は，剥離成形後，研磨整形される。基部を欠損するが，上部に微細剥離がみられる。刃部は両刃で円刃状となる。S526は，体部～刃部片である。剥離成形痕がわずかにあり，研磨整形される。刃部は両刃で円刃状に研ぎ出される。S527は，研磨整形される。基部から体部を欠損する。刃部は片刃で直刃となる。

S528は，刃部を欠損する。研磨整形され器厚がとても薄い。

S529は，横長剥片を利用し，剥離成形後，研磨整形される。刃部を欠損後，二次加工が施される。S530は，剥離成形後，周縁からの剥離と研磨で整形する。両側縁と刃部に敲打痕がある。S531は，剥離整形され，正面と両側縁の中央に敲打痕がみられる。S532は，剥離成形痕をわずかに残し，全面が研磨整形される。基部及び刃部両端に剥離痕と剥離面を潰す敲打痕がみられる。敲打具に転用された可能性がある。

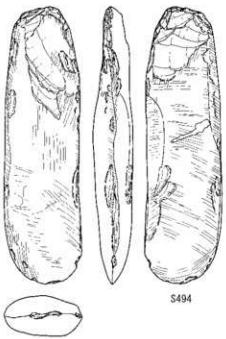
Ｖ類は，S529が頁岩Ｂ類製で，その他はすべてホルンフェルス製である。

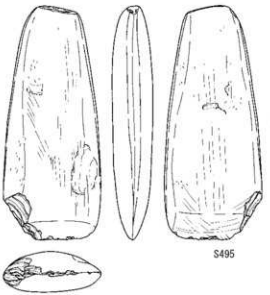
Ⅵ類　S533～S549は，磨製石斧の欠損品である。破損の際に生じた破片と，破片に剥離や敲打，研磨によって調整されたものがある。楔形石器や敲石へ転用された可能性があるが欠損品としてまとめた。

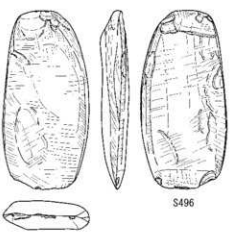
S533は，正面と側面に研磨整形痕があり，上端に剥離がみられる。S534・535は，両端の両極に剥離がみられる。S536は，両面の左側縁と下端に剥離痕がある。S537・S538は，両面の周縁に剥離があり下端に敲打痕がみられる。S540は，裏面の上端に研磨によって刃部を整形する。下端に敲打痕がある。

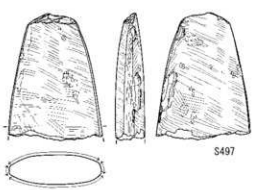
S541～S545は，磨製石斧から剥離した破片に微細な剥離がみられるものである。S548・S549は，磨製石斧の破片である。

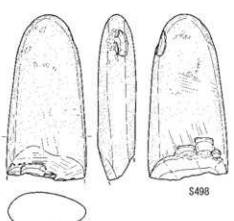
S538・S548は頁岩Ｂ類製，その他はすべてホルンフェルス製である。

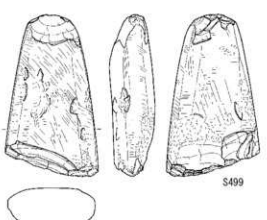


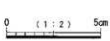




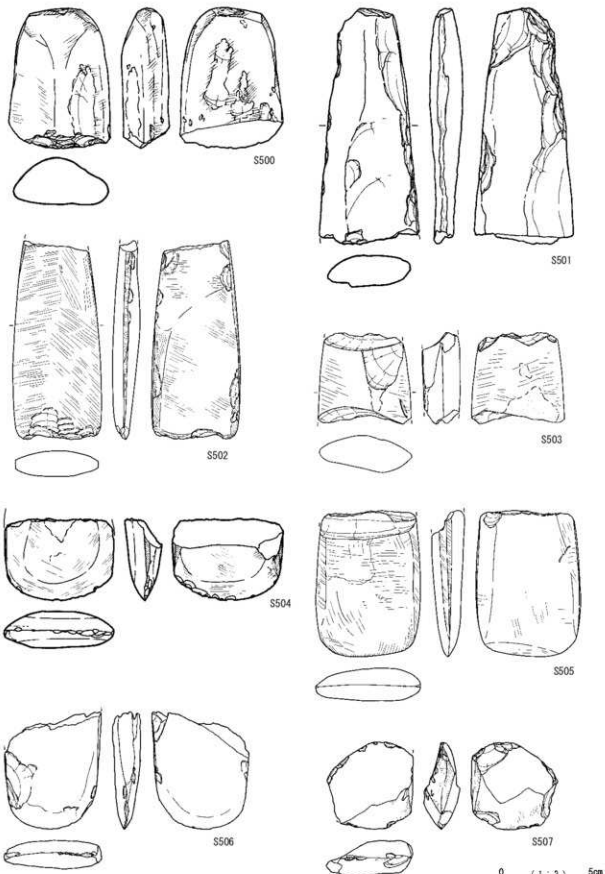




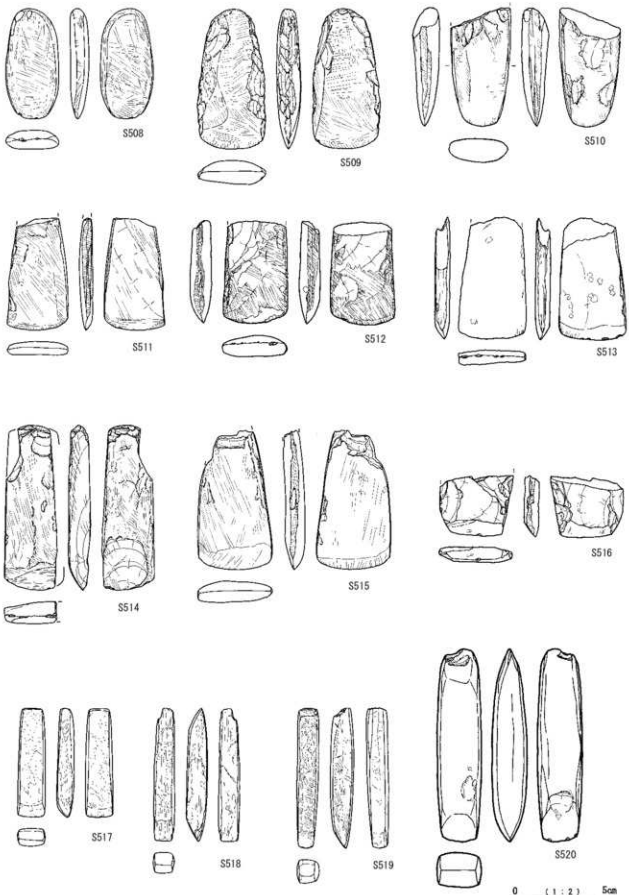




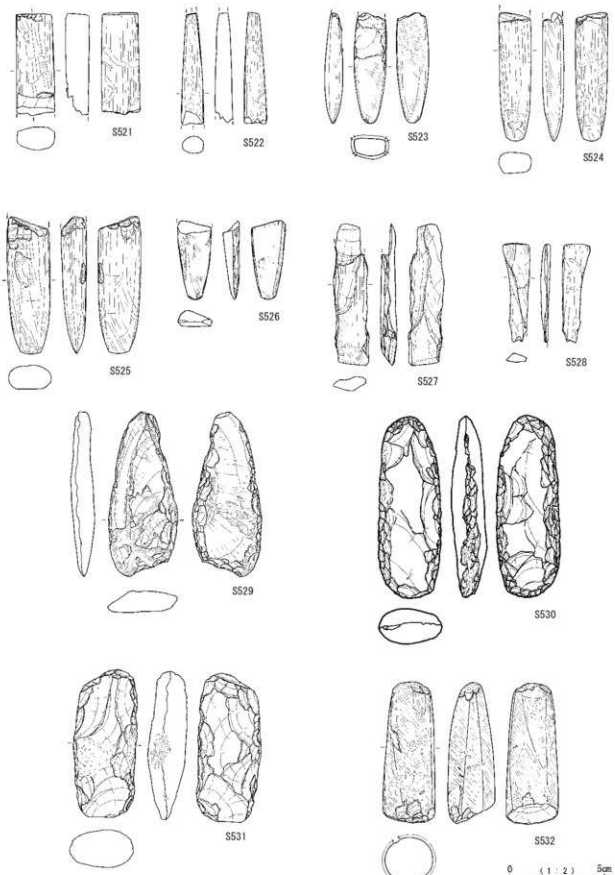
第２－168図　磨製石斧（17）



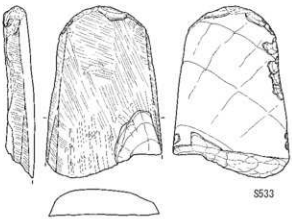
第２－169図　磨製石斧（18）

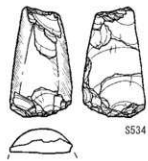


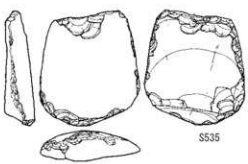
第２－170図　磨製石斧（19）

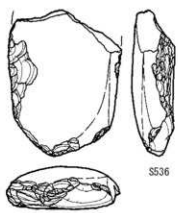


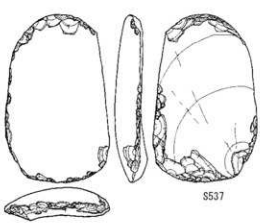
第２－171図　磨製石斧（20）

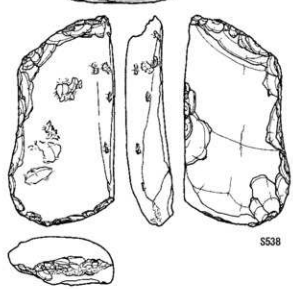


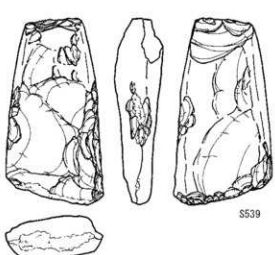


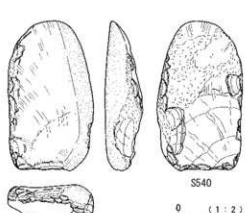




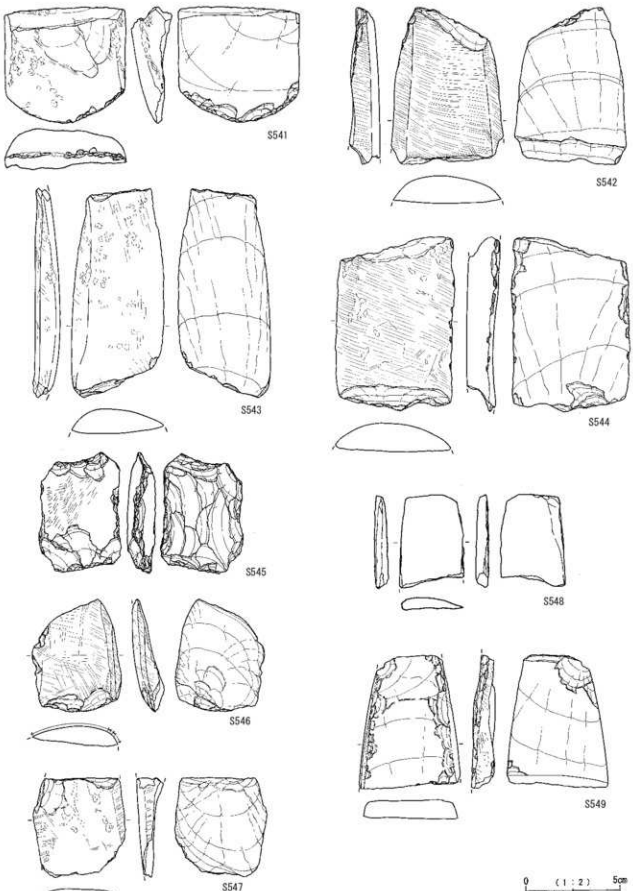








第２－172図　磨製石斧（21）



第２－173図　磨製石斧（22）

打製石斧（扁平打製石斧）

（第2-174図～第2-184図　S550～S597）

S550～S597は，打製石斧である。扁平な礫素材や剥片を利用し，周縁を剥離によって整形する。形状は，短冊形や撥形，いわゆる有肩石斧，ラケット形，杓文字状など多様である。形状によってⅠ類～Ⅳ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層2点，Ⅳa層15点，Ⅳb層30点である。

Ⅰ類　S550～S562は，基部の幅と刃部の幅に大きな差がなく，長方形に近い形状でいわゆる撥形や短冊形を呈する。刃部が研磨によって整形された局部磨製石斧の可能性があるものも含む。

S550～S554は，完形である。S550は，周縁からの剥離整形後，体部下半から刃部，側面が研磨によって整形される。側面の一部に磨面がみられる。S551は，周縁からの剥離整形後，体部から刃部が研磨によって整形される。側面にわずかに研磨痕が残る。敲打整形痕はみられない。S550・S551は，局部磨製石斧の可能性がある。

S552・S553は，横長剥片を素材とし，周縁から剥離整形される。S552は，正面に自然面，裏面に主要剥離面を残す。刃部には使用による擦痕がみられる。

S554は，横長剥片を素材とし，周縁から剥離整形される。刃部には使用による潰れがみられる。S555は，縦長剥片を素材とし，周縁から剥離整形される。刃部を欠損する。

S556～S558は，刃部を欠損する。S556は，周縁から丁寧に剥離整形される。S557は，横長の素材に対し周縁から剥離整形が行われ，正面の右側縁には刃潰しがみられる。S558は，やや厚みのある素材を剥離整形し，正面の左側縁と裏面の右側縁に丁寧な剥離が集中する。製作途中で欠損した可能性がある。

S559は，横長剥片を素材とし，側縁から剥離整形される。左側縁の2か所，右側縁の1か所に刃潰し状の敲打痕がみられ，基部を欠損する。S560は，横長剥片を素材とし，側縁から剥離整形後，両側縁のやや括れた部分に刃潰しが施される。基部及び刃部を欠損する。

S561は，縦長剥片を素材とし，側縁から剥離整形後，両側縁のほぼ中央に刃潰し状の加工が施される。

S562は，横長の素材を利用し，側縁から剥離整形される。正面の左側縁には刃潰し状の加工がみられ，基部を欠損する。

Ⅰ類は，S560が頁岩B類製で，その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅱa類　S563～S570は，基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く，基部から体部にかけて両側縁がわずかに括れるものである。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S563～S569は完形である。S563は，両側縁から丁寧に剥離整形される。刃部は剥離調整が疎かであるが研磨によって仕上げられ，刃こぼれ状の剥離がみられる。両側縁の浅い括れ部には敲打加工がみられ，基部を欠損する。S564は，横長剥片を利用し，周縁から剥離整形される。両側縁に浅い括れ部があり，敲打による刃潰しが施される。S565は，扁平な素材を利用したと考えられ，両面の一部に自然面が残存する。正面は両側縁のみ剥離整形され，裏面は大きな剥離によって自然面を除去した後，剥離整形が行われる。両側縁の浅い括れ部には敲打による刃潰しがみられる。S566は，周縁から全体を剥離によって整形後，両側縁に浅い括れ部がある。括れ部は敲打による刃潰し状の加工が顕著である。S563～S566は基部の左右両端が丸みをもつように整形される。

S567は，素材の厚みを減じるため大きな剥離によって成形後，周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の形状は対称ではないが，刃部先端に擦痕がみられることから使用されている。側縁の浅い括れ部には刃潰し状の加工が施される。S568は，横長剥片を利用し，周縁から全体が剥離整形される。両側縁の浅い括れ部にはわずかに刃潰し状の加工が行われる。

S569は，大きな剥離によって成形後，周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の浅い括れ部には刃部付近まで刃潰し状の加工が施される。刃部は研磨で整形され直刃状となる。S567～S569は，基部の左右両端が角をもつように整形される。S570は，刃部が欠損したと考えられるものである。

Ⅱa類は，すべてホルンフェルス製である。

Ⅱb類　S571～S577は，基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く，基部から体部にかけての両側縁が深く抉れるものである。いわゆる有肩石斧である。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S573～S576は，刃部に刃こぼれや欠損による剥離がみられるがほぼ完形である。S571・S572は，横長剥片を利用し，周縁を剥離整形する。両側縁の深い括れ部には，敲打によって刃潰し状の加工が施される。基部の左右両端が丸みをもつように整形される。S573は，周縁全体を丁寧に剥離整形し，両側縁にやや深い括れ部をもつ。括れ部には敲打による刃潰し状の加工がみられる。S574は，両面とも成形剥離がよく延び，周縁から剥離整形する。両側縁のやや深い括れ部には敲打による刃潰し状の加工が施される。刃部には刃こぼれの剥離がみられる。S575は，両面とも成形剥離がみられ，周縁から剥離整形する。正面の一部に自然面が残存する。両側縁の括れ部には敲打による刃潰しが施され，刃部を欠損する。側縁下部に使用に伴う擦痕がみられる。S576は，横長剥片を利用し，周縁を剥離によって整形する。基部端と両側縁の括れ部に敲打による刃潰し状の加工が行われる。S577は，両面

に成形剥離痕がみられ，正面に自然面が残存する。成形後，周縁を剥離によって整形する。両側縁の括れ部から刃部にかけて敲打による刃潰し状の加工がみられる。

Ⅱb類は，すべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類　S578～S584は，幅の狭い基部に対し刃部の幅が広く，形状がいわゆるラケット形や杏文字状となるものである。先端の刃部から基部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S578～S580は，ラケット状のものである。S578は，横長剥片を利用し，基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁に敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損するが，両面とも丁こぼれの剥離がみられる。S579は，横長の素材を利用し，両面の周縁を剥離整形する。基部の両側縁には敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損後，剥離調整を行い刃部を再加工する。靴形にみえるが，本来はラケット形であったと考えられる。刃部の両面に使用による擦痕がみられる。S580は，横長剥片を利用し，基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しがみられる。刃部を欠損する。

S581～S584は，杏文字状のものである。S581は，完形である。横長剥片を利用し，正面の左側縁と裏面の両縁から大きな剥離によって成形後，周縁を丁寧に剥離整形する。S582は，基部を正裏両側縁から剥離整形し，側縁部には刃潰しがみられる。基部の裏面にやや光沢があり装着痕の可能性がある。刃部には使用による擦痕がみられる。S583は，横長剥片を利用し，周縁から大きな剥離で成形後，丁寧に剥離整形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しが行われる。S584の刃部は使用によって短くなったと考えられ，直刃状で両面全体に擦れがみられる。基部を欠損する。

Ⅲ類は，584が頁岩Ｂ類製で，そのほかはすべてホルンフェルス製である。

Ⅳ類　S585～S597は，Ⅰ～Ⅲ類の基部や刃部片，不明な欠損品，他器種に転用されたと考えられるものや打製石斧の未製品である。

S585～S588は，基部片である。S585・S587はⅢ類，S586はⅡb類，S588はⅡa類に該当する。S589・S590は刃部片でⅡb類またはⅢ類に該当する。S591は，正面に自然面，裏面に主要剥離面が残存する。未製品の可能性がある。

S592～S594は，他の石器に転用された可能性のあるものである。S592は，基部を欠損し，全長が短いが刃部を丁寧な研磨によって整形しており，中央部に抉りがあることから局部磨製石斧の可能性がある。抉り部を利用して石錘に転用された可能性も残る。S594は，刃部を欠損後，剥離調整行い刃部を再形成している。S596は，剥離成形後，両側縁を剥離によって整形し刃部としている。側縁端には敲打による刃潰しがみられる。横刃型石器へ転用された可能性もある。S595・S597は，打製石斧の未製品である。Ⅳ類は，S585は頁岩Ｂ類製で，その他はすべてホルンフェルス製である。

礫器（第２-185図・第２-186図　S598～S610）

S598～S610は礫器である。基本的に扁平で角の取れた礫の一端に剥離調整を行い，両刃もしくは片刃の刃部を成形するものである。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層２点，Ⅳ層１点，Ⅳb層７点，Ⅴ層２点である。

S598は，磨製石斧の刃部片を利用したと考えられる。剥離調整を行い，両刃の刃部を再加工している。使用痕がみられる。S599は，両面と上面に磨痕がみられる。断面形は逆三角形を呈し，刃部側を上に天地逆で握えた場合，石冠のような形状となるが，砥石から転用したものと考えられる。刃部に敲打痕がみられる。

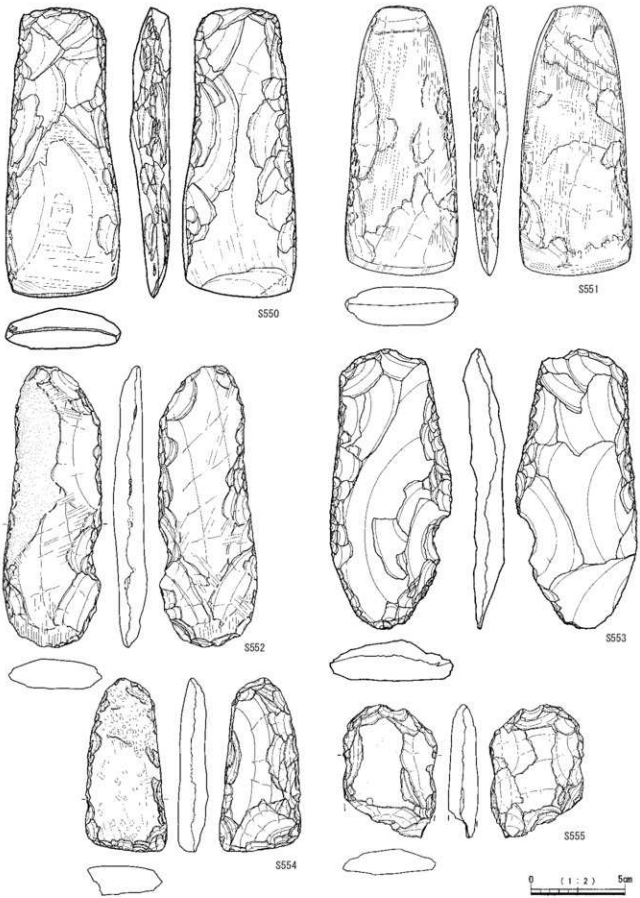
S600～S604は，片面にのみ剥離調整を行い，刃部を成形する片刃のものである。

S600は，刃部が小さい剥離によって整形され，側面は両面とも横方向からの剥離で成形される。

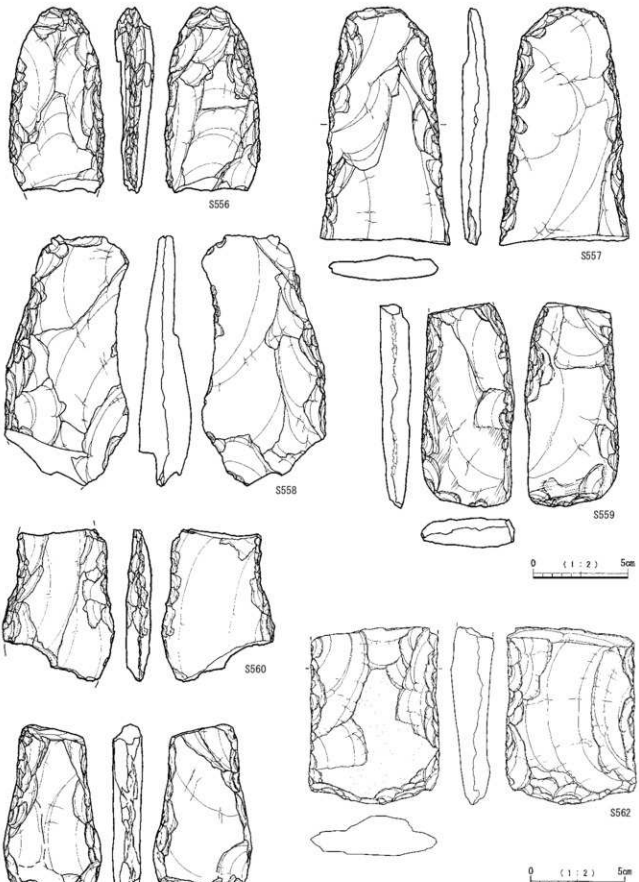
S601は，正面下端から右側面が刃部となる。正面下端は大きな剥離による成形後，細かい剥離が施される。正面の右側面から裏面の左側面にかけて敲打痕がみられ，両面には擦痕がある。S602は，裏面下端を大きな剥離で成形後，幅が狭く連続する細かい剥離によって整形される。S603は，裏面下端を幅の広い剥離によって刃部を整形する。S604は，素材となる礫の長軸の一端に剥離加工を施し，片刃の刃部としており，刃部端に微細な剥離がみられる。

S605～S610は，両面に剥離調整を行い，両刃となる。S605は，分割礫を素材とし，両面の下端に剥離調整によって刃部を整形する。刃部には敲打痕がある。S606は，礫から剥出した剥片を素材とする。正面は右側縁と下縁に大きな剥離，下縁に微細な剥離がみられる。裏面は右側縁から下縁にかけて微細剥離がみられる。S607は，正面と裏面の一部を大きな剥離で成形後，微細な剥離で刃部を整形する。S608は，刃部整形の剥離調整が正面下端は幅広の剥離が連続するのに対し裏面は部分的である。S609は，両面の下端に剥離調整によって刃部が整形され，刃部には敲打痕がみられる。S610は，正面の刃部が幅広の剥離と微細な剥離で整形される。裏面は下縁と左側縁が剥離調整によって整形される。左側縁の上半は大きな剥離によって厚みを減じている。

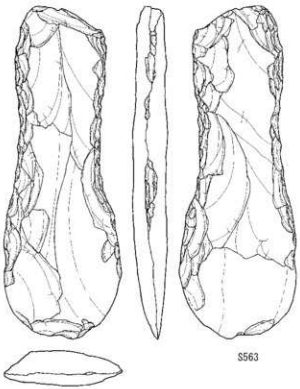
S598・S601～S604，S607～S610の９点はホルンフェルス製，S599・S600・S605・S606の４点は砂岩製である。

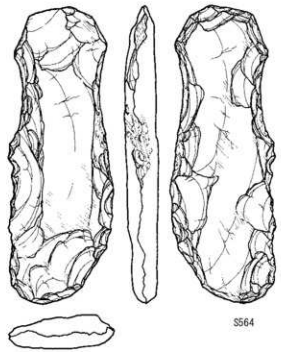


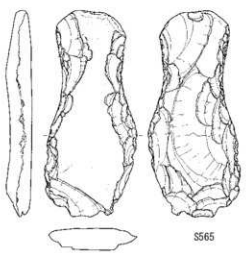
第２－174図　打製石斧（１）

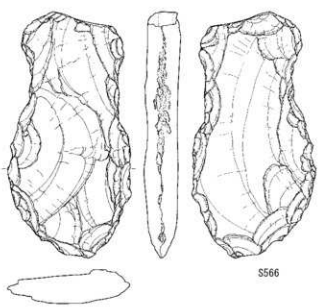


第２－175図　打製石斧（２）

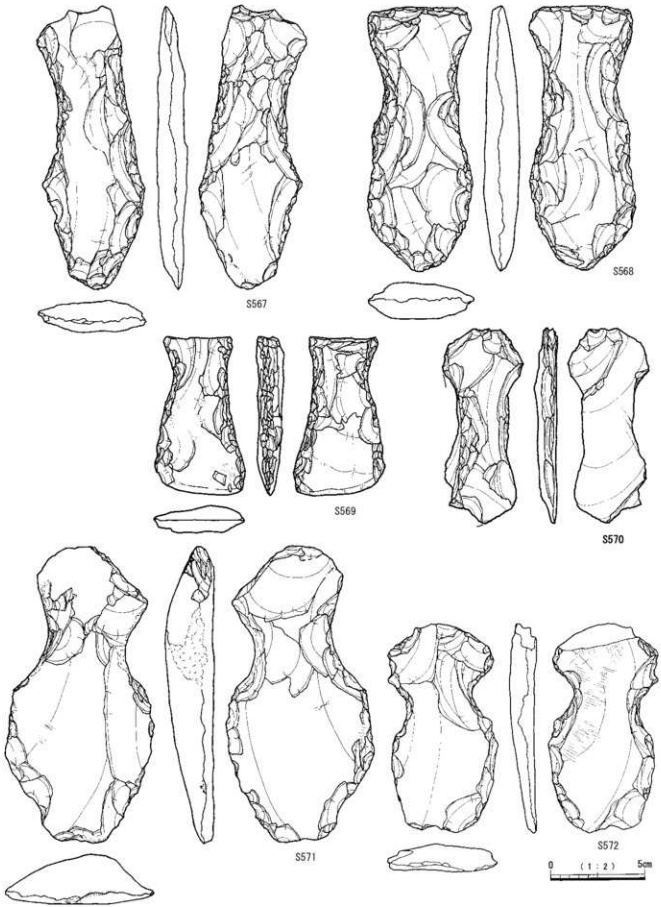




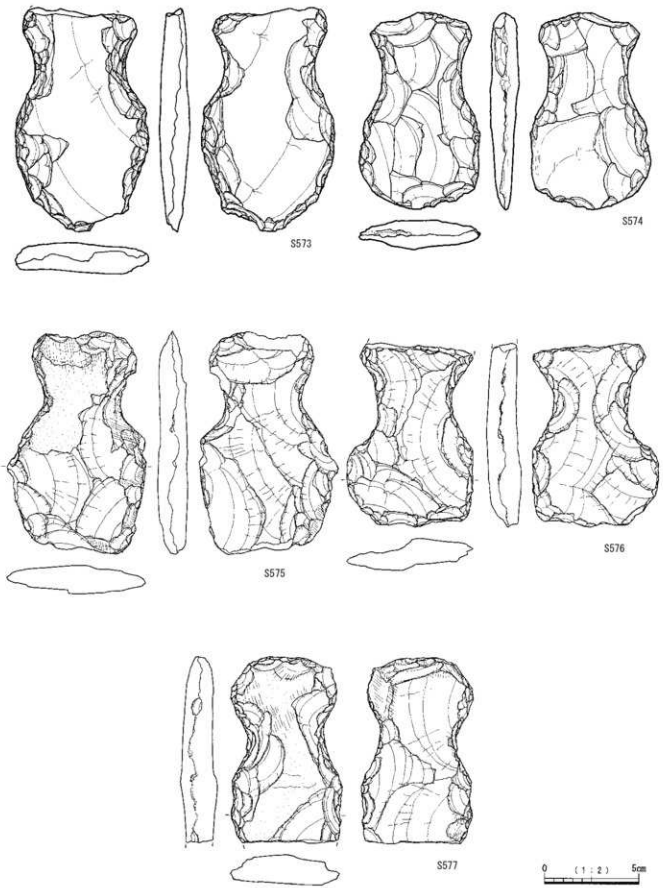




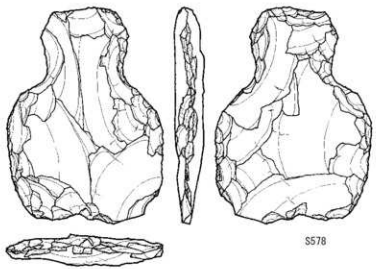
第２－176図　打製石斧（３）

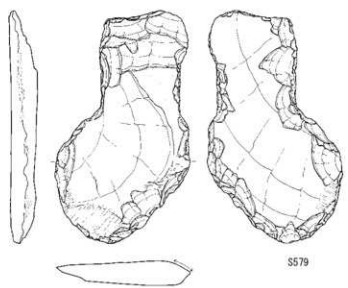


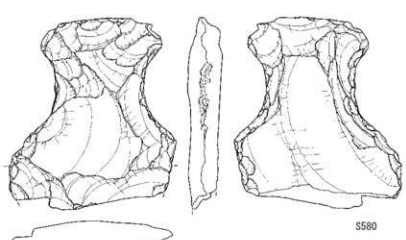
第２－177図　打製石斧（４）



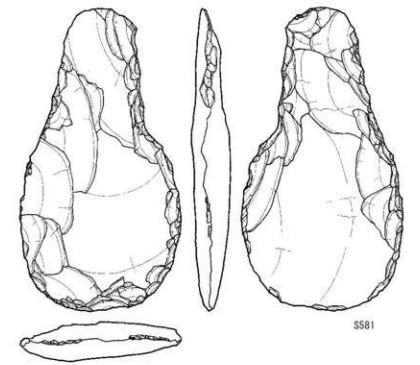
第２－178図　打製石斧（５）



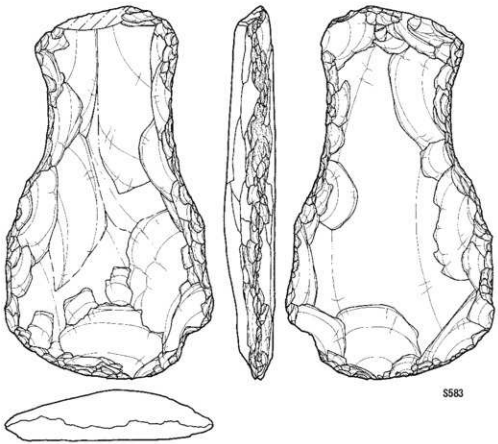




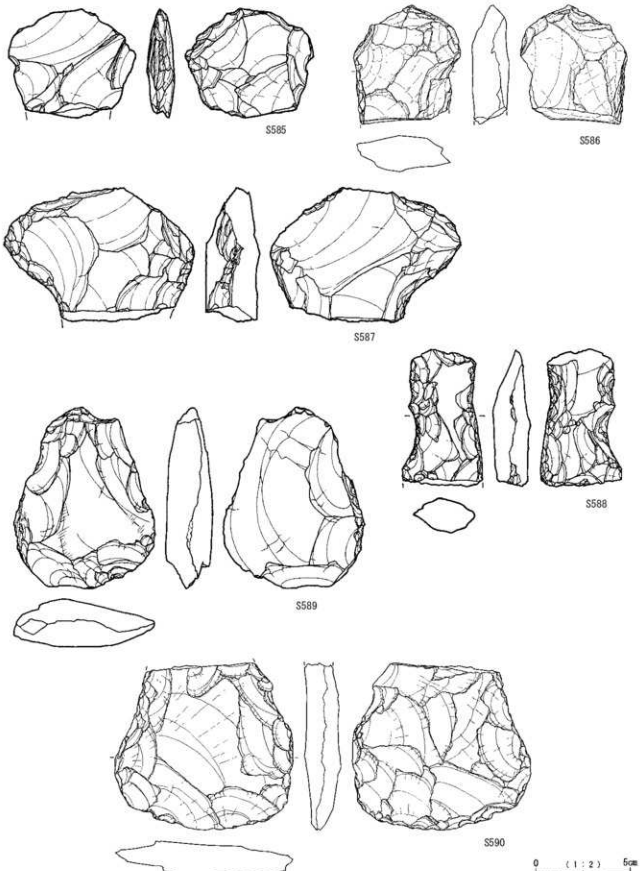
第2－179図　打製石斧（6）



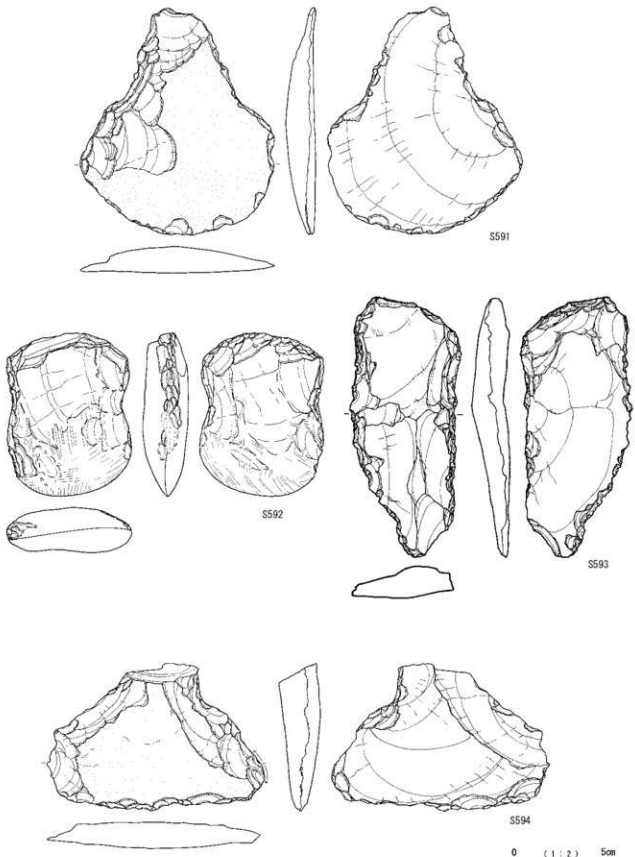
第２－180図　打製石斧（７）



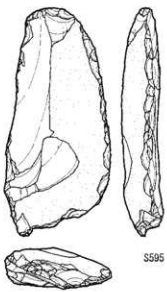
第２－181図　打製石斧（８）

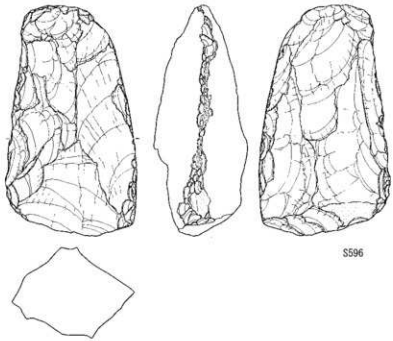


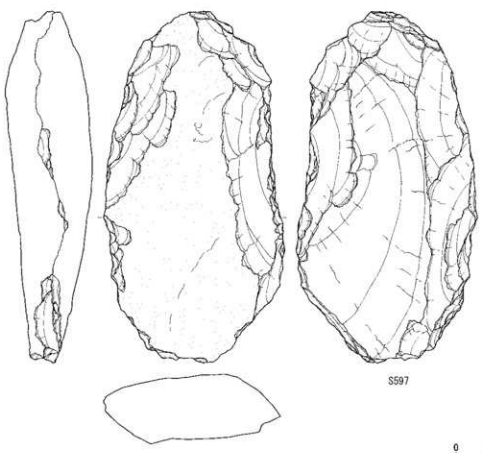
第２－182図　打製石斧（９）



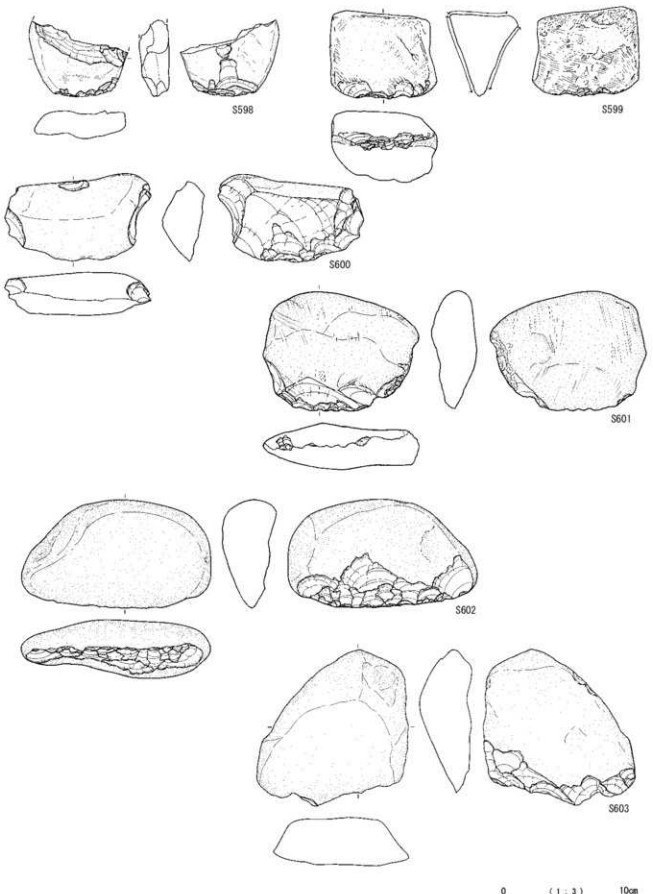
第２－183図　打製石斧（10）



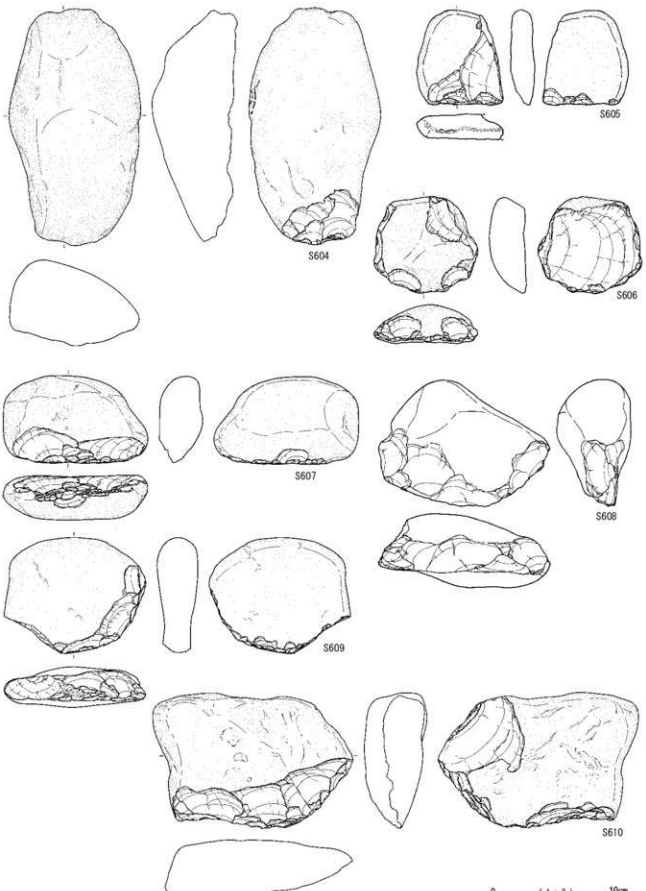




第２－184図　打製石斧（11）



第２－185図　礫器（１）



第2－186図　礫器（2）

磨・敲石類（第２-187図～第２-200図　S611～S728）

S611～S728は，磨・敲石類である。使用面数，使用部位によって１類～Ⅵ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層２点，Ⅳa層25点，Ⅳb層80点，Ⅴ・Ⅴa層９点，Ⅵ層１点である。

Ⅰ類　S611～S628は，形状や断面形が不定形で素材礫の形状を残すものである。ほぼすべてに敲打痕や磨面を確認できる。

S612は，両面の一部に敲打痕，側面に敲打痕が巡る。S613は，正面の上半に磨面，下端に敲打痕がみられる。S614は，長軸方向の両端に敲打痕が集中する。S615は，正面に磨面と敲打痕，裏面下端に敲打痕がみられる。正面に光沢があり煤が付着する。S616は，両面に磨面，下端に敲打痕があり，被熱している。S617は，正面に磨面，下部に敲打痕が集中する。S618は，全面に敲打痕があるが摩滅している。赤色顔料が付着する。S619は，長軸方向下端部に敲打による剥離が生じている。剥離後も使用され微細な潰れがみられる。S620は，両面の磨面形成が弱く，下端から側縁にかけて敲打痕が顕著である。赤色顔料が付着する。S618・S620の付着物を蛍光X線で分析した結果，鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性がある（第Ⅸ章　科学分析を参照）。S622・S628はの下端は敲打による剥離が生じた後もよく使用されており敲打痕が集中する。

S612・S614～S616・S618～S620・S623・S624・S626・S627の11点は，安山岩Ｂ類製，S611・S617・S621の３点は花崗岩製，S613・S625・S628の３点は砂岩製，S622は石英製である。

Ⅱa類　S629～S656は，形状が円形・楕円形で基本的に両面の２面に磨面，側面に敲打痕がみられるものである。敲打痕のあり方に差異があり，側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが，S629・S631・S653～S656は部分的に留まる。S653～S656は，形状が亜円形で他と比べ少し薄手である。S654・S656は煤が付着する。S637は下端を欠損するが，欠損部で敲打を行っている。S633・S634・S641・S642は，風化が著しい。

S629・S633～S636・S641～S648の13点は花崗岩製，S632・S637～S640，S650～S652の８点は砂岩製，S630・S631・S649・S653・S654・S656の６点は安山岩Ｂ類製，S655は凝灰岩製である。

Ⅱb類　S657～S668は，形状が楕円形で，基本的に両面の２面に磨面，側面に敲打痕がみられるものである。側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが，S657・S658・S664は部分的な敲打痕に留まる。S658は，上・下端を断面が尖るほどよく敲打に使用している。磨・敲石類Ⅱ類のように多面的に磨面をもつものに近づきつつある。S665・S666は，裏面は磨りにより平坦であるが，正面の磨りはみられるものの素材礫の形状を残している。S667・S668は，他と比べて少し薄手である。

S657～S660・S665・S667・S668の７点は安山岩Ｂ類製，S661・S666の２点は砂岩製，S663・S664の２点はホルンフェルス製，S662は花崗岩製である。

Ⅱc類　S669～S674は，形状が方形や長方形に近く，基本的に両面の２面に磨面があり，敲打痕は明瞭ではなく，風化による形状の変形や石製品の可能性が残るものも含む。

S669～S674はすべて花崗岩製である。

Ⅱd類　S675～S681は，形状が円形や楕円形で，正面や裏面または両面に凹みが確認できるものである。石錘や打製石斧などの石器を製作する際の敲打具や小さな台石として使われた可能性がある。凹みの深さの程度によってレイアウトしている。S676・S677は，溝状の敲打痕がみられ楔状の工具等による可能性がある。S676は，被熱しており，裏面には欠損があり，火はね（ポット・リッド）の可能性がある。

S676～S678・S681の４点は砂岩製，S675・S679・S680の３点は安山岩Ｂ類製である。

Ⅲ類　S682～S688は，形状が円形や楕円形で多面的に摩面のあるものである。小型の磨製石斧などを敲打成形する際に使用され多面となった可能性が考えられる。S683・S686は，被熱している。７点すべて砂岩製である。

Ⅳ類　S689～S700は，磨・敲石が分割されたもので形状がほぼ半円形（カマボコ状）となる。分割面の稜を敲打によって潰し，分断面を下面としスタンプ状の敲打面として使用したものである。

S689～S700の12点はすべて花崗岩製である。

Va類　S701～S708は，いわゆるハンマータイプで敲打痕が長軸方向の上・下端もしくは両端にあり，上・下面の太さが異なるものである。基本的にはハンマーとして使用しやすい棒状礫の形状を利用して使用したと考えられる。

S701～S705は，側面にも敲打痕がみられる。S706は，礫器の転用品の可能性もあるが敲打痕を優先した。S701は，煤が付着する。

S701・S702・S704・S706～S708の６点はホルンフェルス製，703は砂岩製，S705は花崗岩製である。

Vb類　S709～S717は，形状が楕円形，長方形，不定形ものがある。いわゆるハンマータイプで，敲打痕がほぼ長軸の両端にあり，上・下面の太さがほぼ同じとなるものである。S712・S714・S715は，側面にも敲打痕がある。S711・S712・S714は，摩面が多面的になりつつあるため，磨製石斧の外形を敲打によって成形するために使われた可能性が高い。S714・S715は，磨製石斧から転用した可能性がある。被熱しており，S714には煤も付着する。S717は，左側面が黒色化しており被熱の可能性がある。

S709・S710・S712～S716の７点は砂岩製，S711はホルンフェルス製，S717は安山岩Ｂ類製である。

Ⅴc類　S718は，ハンマータイプで敲打痕が側面にあるものである。打製石斧や石錘など，両極打法で成形する際に楔痕のように使用された可能性がある。S718は，ホルンフェルス製である。Va類・Vb類で側面に敲打痕があるものも，使用法はVc類と同様の可能性がある。

Ⅵ類　S719～S728は，欠損品である。S720は，敲打面に赤色顔料が付着している。蛍光Ｘ線分析の結果，鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性がある（第Ⅸ章　科学分析を参照）。

S721は，被熱が確認される。S724は断面は研磨はされていないが，真っ二つと表現できるほど綺麗な破断面で左側を欠損する。両面に鏡面状の光沢がみられるくらい使用されている。敲打面が上・下端にあり，磨・敲石として使用されていた使用痕である。煤が付着する。

S719は，Ⅰ類の欠損品の可能性がある。S720～S724は，Ⅱ類の欠損品の可能性がある。S725～S728は，Ⅴ類の欠損品の可能性がある。S725は，磨製石斧のⅤ類(蟇状)の欠損品の可能性もある。

S719・S722・S724・S726の４点は砂岩製，S725・S727・S728の３点はホルンフェルス製，S720・S721・S723の３点は安山岩Ｂ類製である。

石皿（第２-201図～第２-207図　S729～S762）

S729～S762は，石皿である。形状や使用痕，石皿で粉砕された対象物を取り出したと考えられる掻き出し口の有無等によってⅠ～Ⅵ類に分類した。凹みの深さについては，観察表の備考欄に記載した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層１点，Ⅳ・Ⅳa層４点，Ⅳb層20点，Ⅴ・Va層２点，Ⅵ層３点である。

Ⅰa類　S729～S731は，平面形が楕円形で，図上の平面の上部から下部にかけて，摩耗面である凹みや平滑面があり，一方向に掻き出し口をもつものである。

S729は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面には使用による擦痕がみられ，下部中央の右寄りに掻き出し口がある。

S730は，摩耗面の縦・横断面ともに浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面の下部中央の右寄りに掻き出し口がある。摩耗面全体に擦痕，中央に敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留）物の把握を目的として，科学分析（デンプン粒分析）を実施した結果，作業面の凹みから残存デンプン粒の原形の識別が困難ではあったものの，デンプンの成分が検出されている（第Ⅸ章　科学分析を参照）。

S731は，図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面はやや深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面は摩耗面中央に向かって器厚が薄くなる。摩耗面の下部中央に掻き出し口をもつ。

S729～S731は，３点とも花崗岩製である。

Ⅰb類　S732～S736は，平面形が楕円形で，図上の平面の上部から下部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があり，下部と左の２方向に掻き出し口をもつものである。

S732は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面中央に小単位の敲打痕を内包する大きな敲打痕，中央右と上部に小さい敲打痕がある。摩耗面の下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。

S733は，平面形が楕円形で，やや厚手の礫を利用している。摩耗面は横断面ともに使用による磨り窪みが浅い。摩耗面の下部中央と摩耗上部から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。

S734は，図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面が深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面も中央部がやや磨り窪む。摩耗面下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕，摩耗面と左の掻き出し口に擦痕がみられる。

S735は，図上の上部と右側の一部を欠損している。全体が被熱しており，被熱によって破砕した可能性がある。摩耗面の横断面は浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面全体に敲打痕，摩耗面と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口に擦痕がみられる。

S736は，右半分程度を欠損しており，原形は略方形に近いと考えられる。摩耗面の横断面は浅い「U」字状に磨り窪んでおりよく使用されている。縦断面は摩耗面中央より上部の窪みが深くなる。摩耗面中央下部と摩耗面下部から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕がみられる。

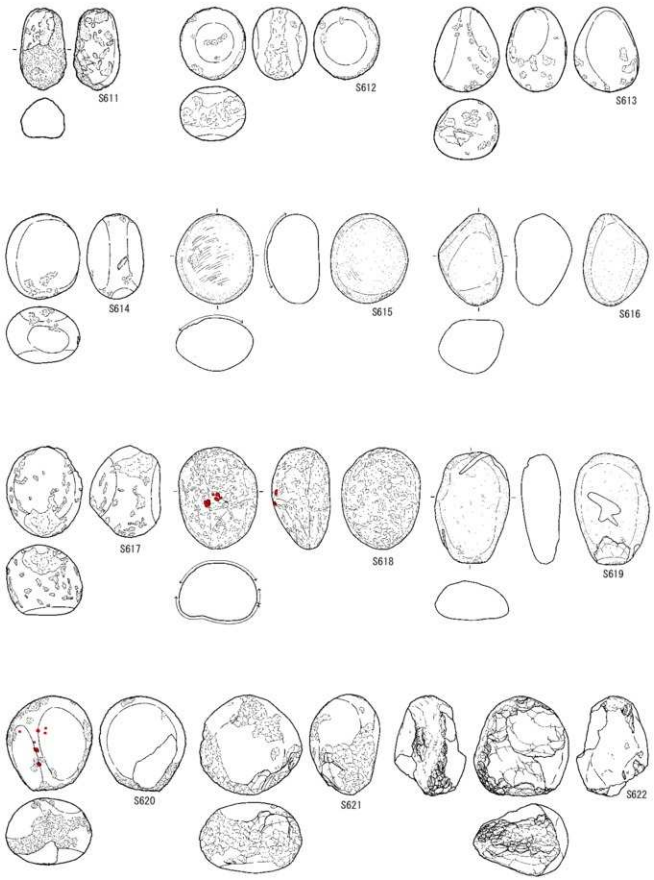
S734～S736の３点は花崗岩製，S732・S733は，安山岩Ｂ類製である。

Ⅱ類　平面形は楕円形で，図上の中央上部から下部の全体にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるが，掻き出し口が一定の幅をもって形成されず不明瞭なものである。

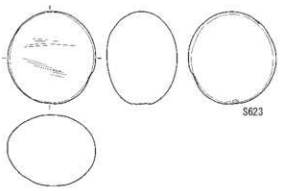
S737は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。横断面は摩耗面中央の上部が深く磨り窪んでおり，S730・S735に類似する。摩耗面の中央から下部にかけて平滑面と擦痕がみられる。花崗岩製である。

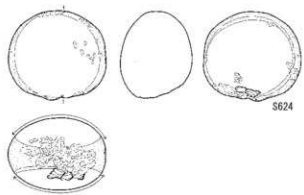
Ⅲ類　平面形は方形で，図上の中央やや上部から中央部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるものである。Ⅲ類は，遺構内からのみ出土し，包含層からは出土していない。遺構出土資料は，集石56号のS168他である（第Ⅳ章　第３節を参照）。

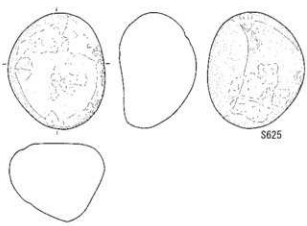
Ⅳ類　S738～S747は，平面形は様々な形状のものがある。板状のものが多く，厚さや裏面の形状によらず摩耗

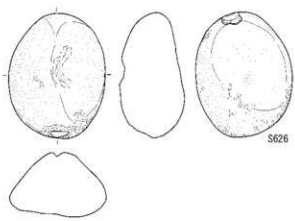

S611
S612
S613
S614
S615
S616
S617
S618
S619
S620
S621
S622
0 (1:3) 10cm

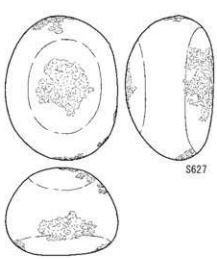
第２－187図　磨・敲石（１）

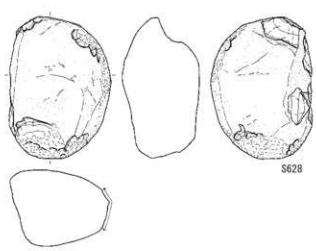






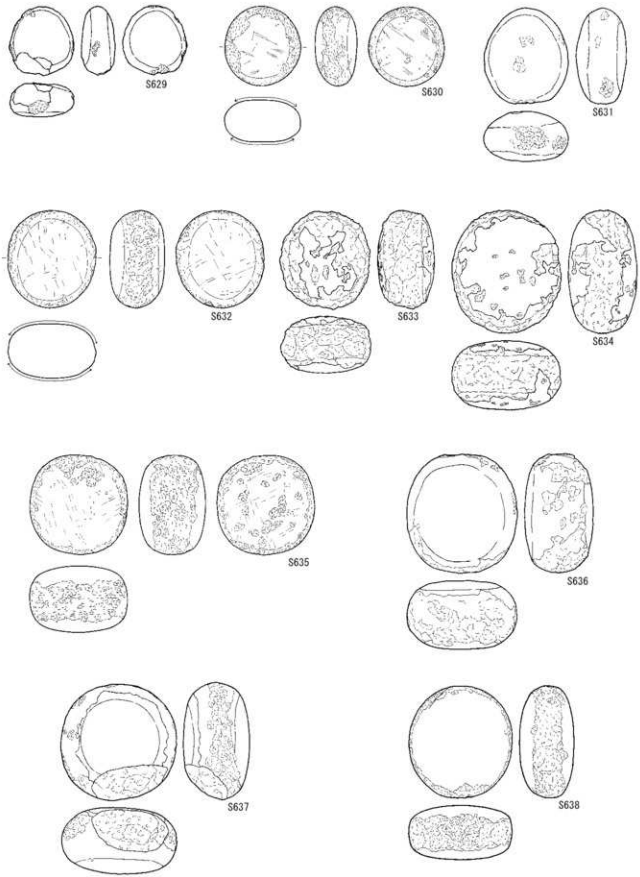




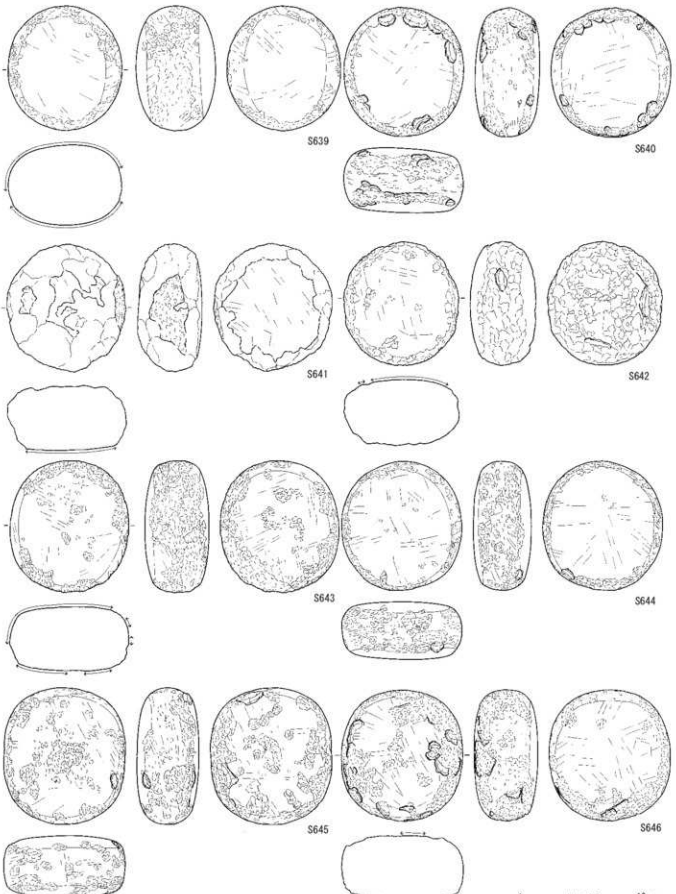


0 (1:3) 10cm

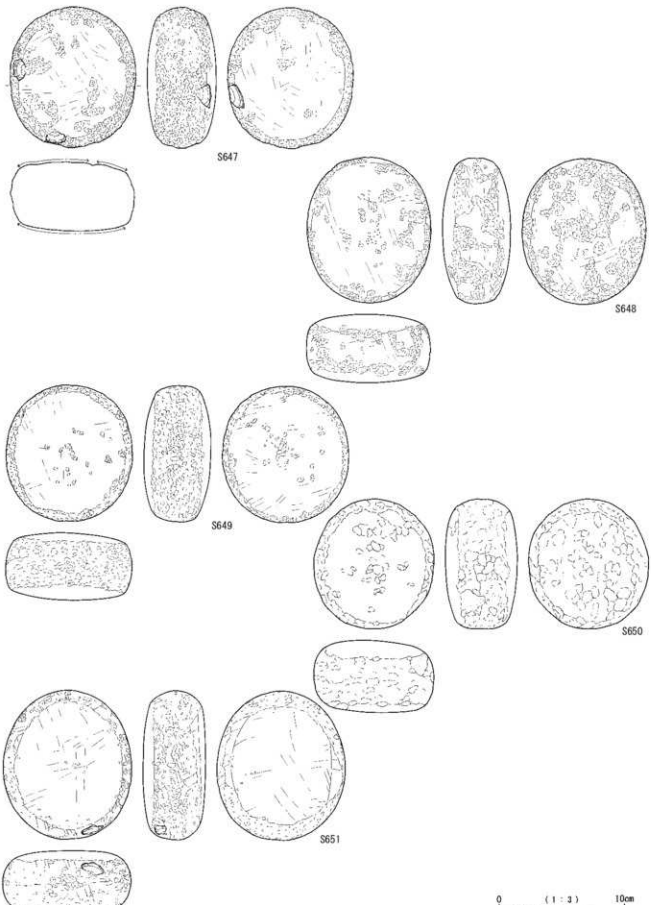
第2－188図　磨・敲石（2）



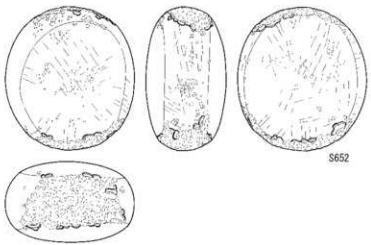
第２－189図　磨・敲石（３）

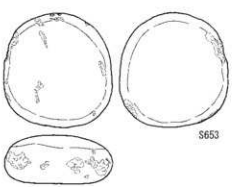


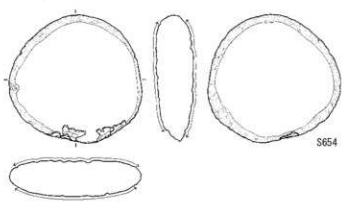
第２－190図　磨・敲石（４）

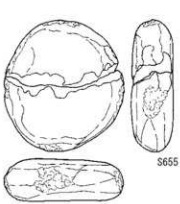


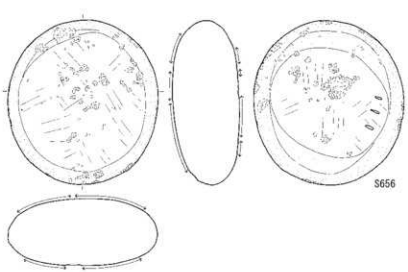
第２－191図　磨・敲石（５）

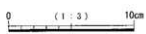




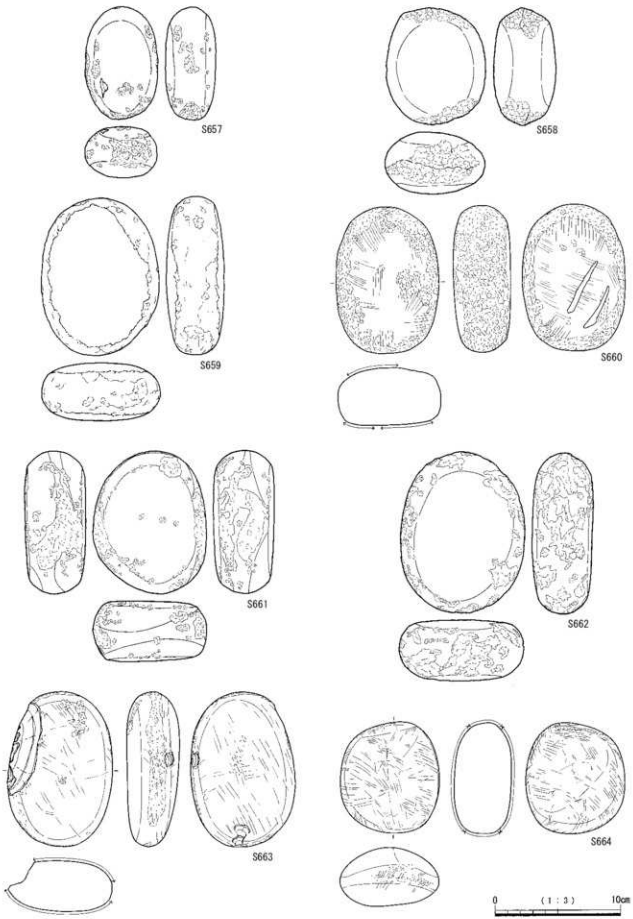




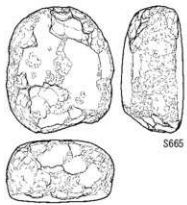


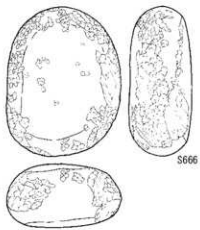


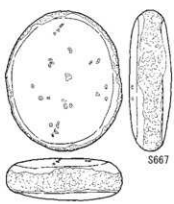
第２－192図　磨・敲石（６）

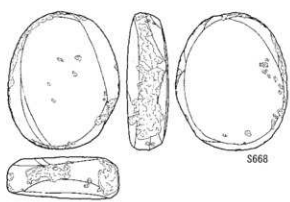


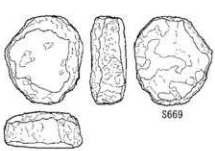
第２－193図　磨・敲石（７）

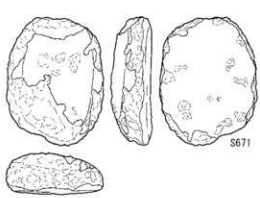


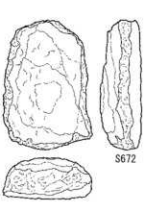


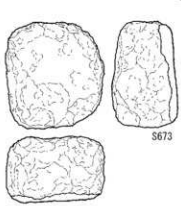


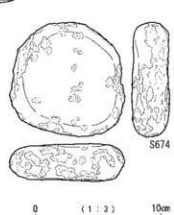






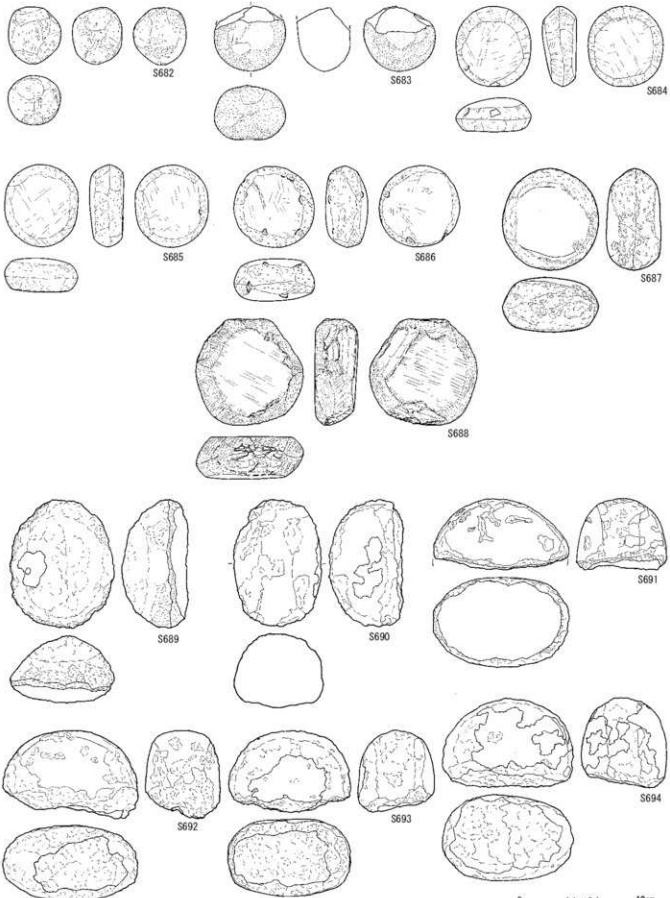




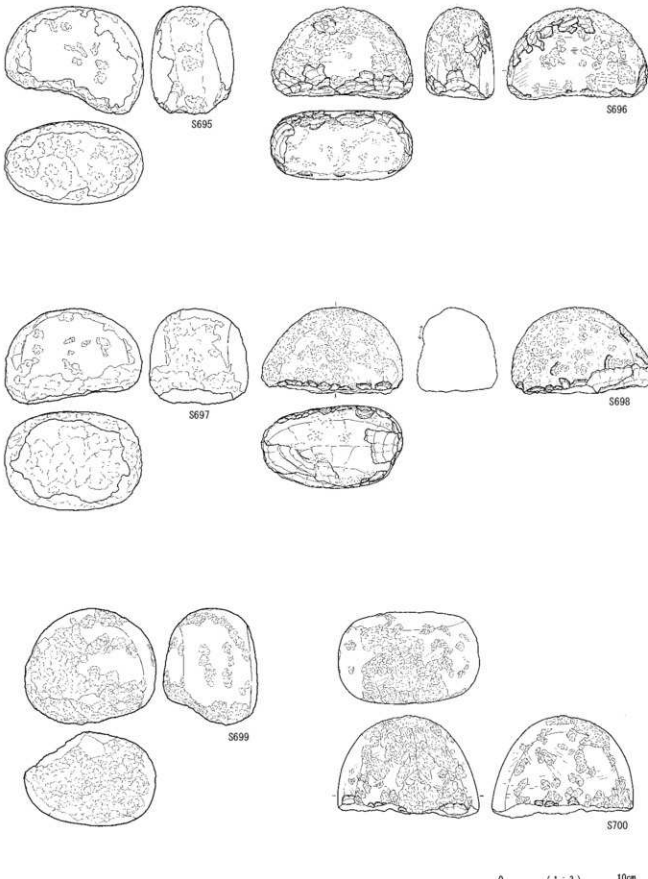


第２－194図　磨・敲石（８）

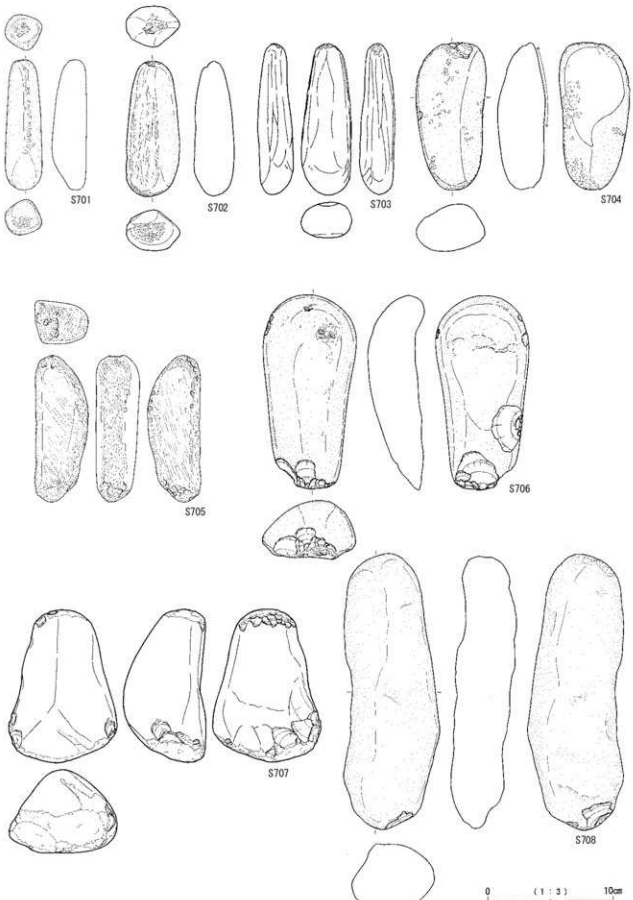
第２－195図　磨・敲石（９）



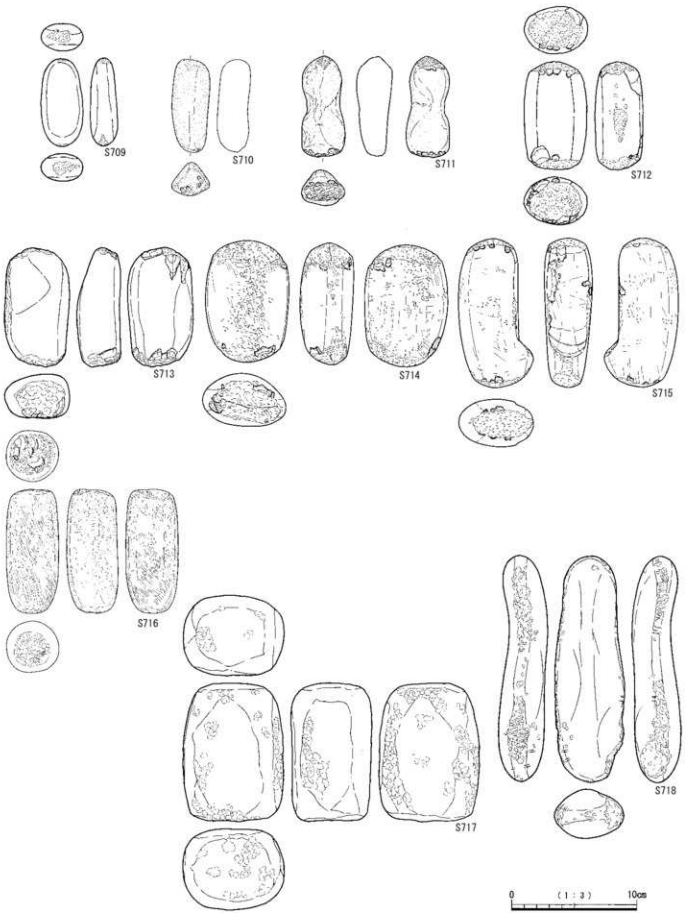
第２－196図　磨・敲石（10）



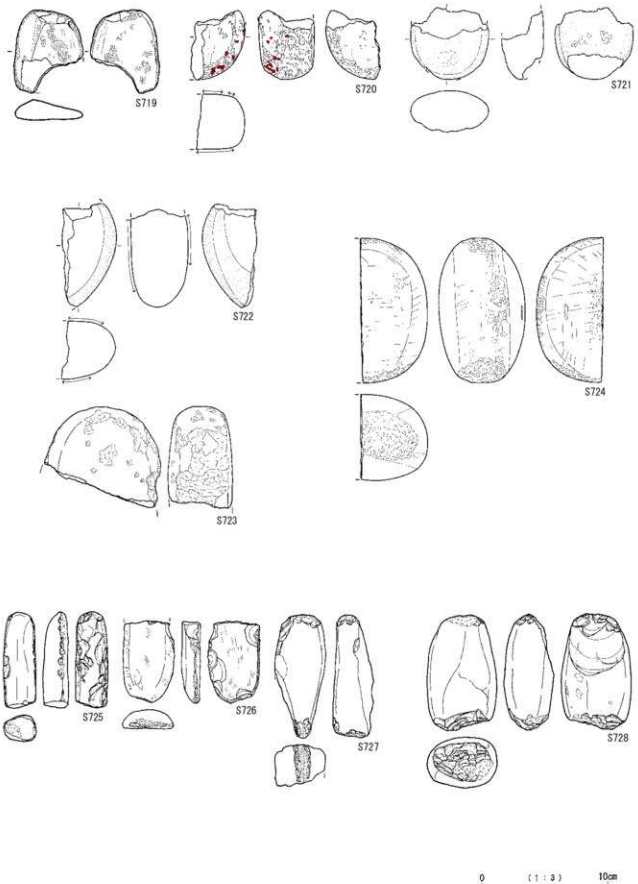
第２－197図　磨・敲石（11）



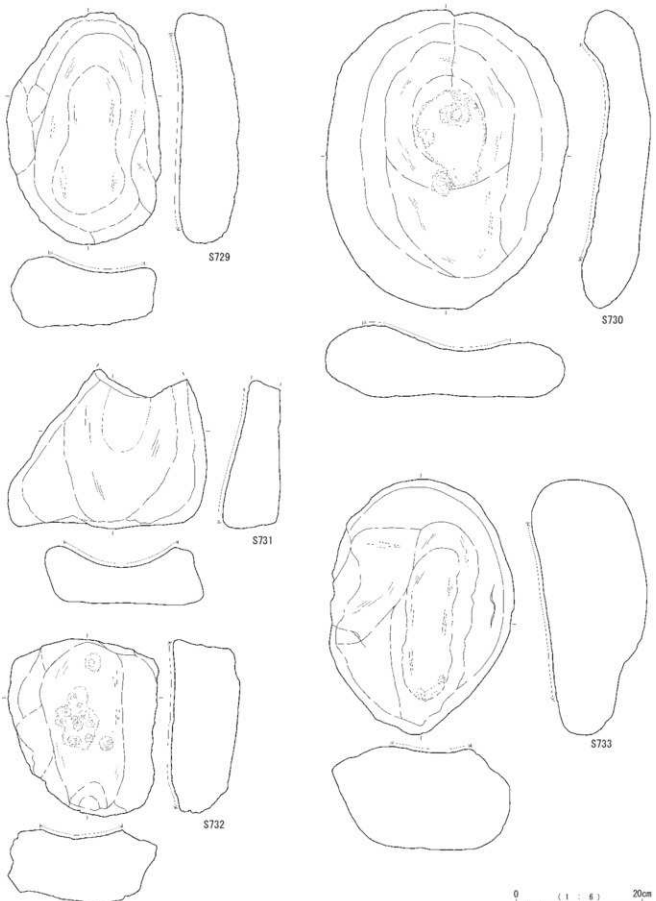
第２－198図　磨・敲石（12）



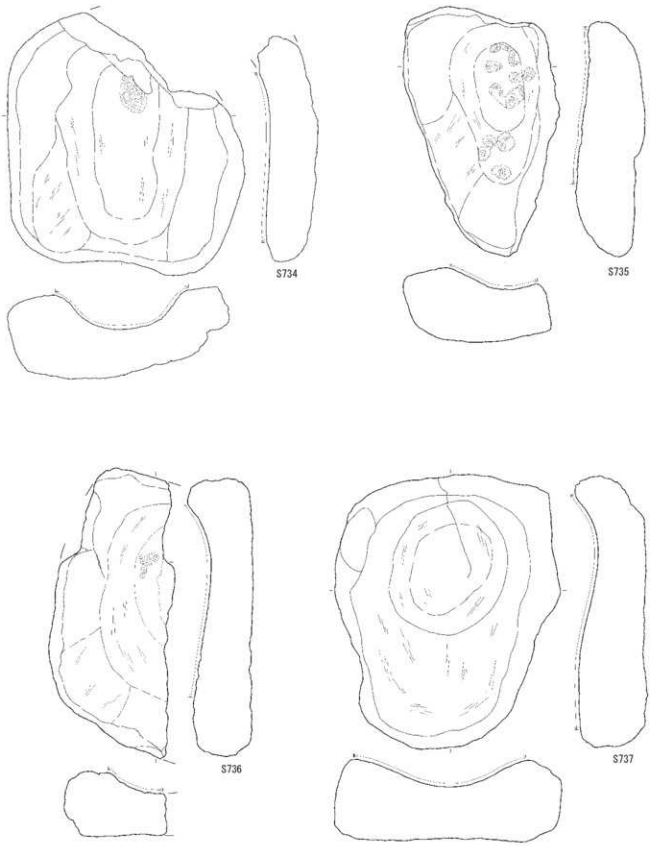
第２－199図　磨・敲石（13）



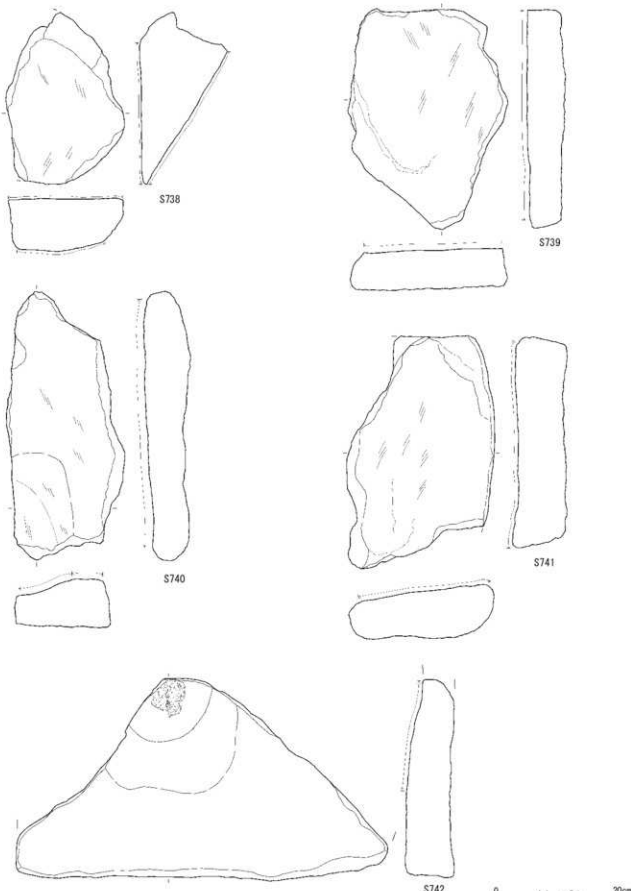
第２－200図　磨・敲石（14）



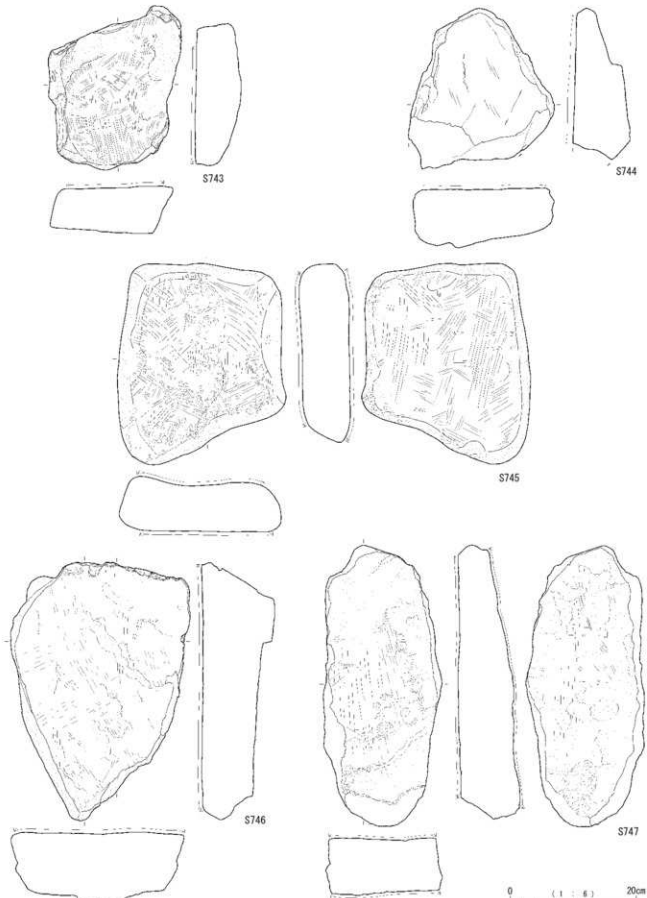
第２－201図　石皿（１）



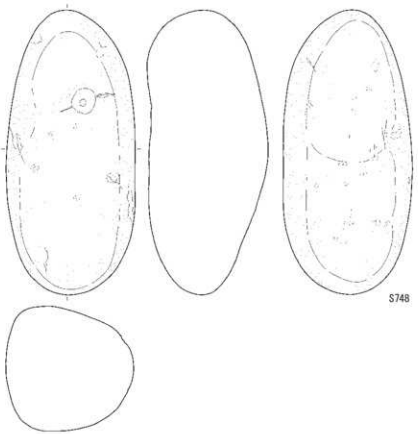
第２－202図　石皿（２）



第２－203図　石皿（３）



第２－204図　石皿（４）



第２－205図　石皿（５）

面がほぼ平坦な石皿（台石）である。

S738は，両面に摩耗面があり，縦断面は三角形状となる。

S739～743は，片面に摩耗面がある。S740は摩耗面の横断面が浅く磨り窪んでいる。S742は，平面形は三角形状であるが図上の上部を欠損している。摩耗面中央上部に浅い磨り窪みと敲打痕がみられる。S743は，側面にも複数の剥離痕がみられる。

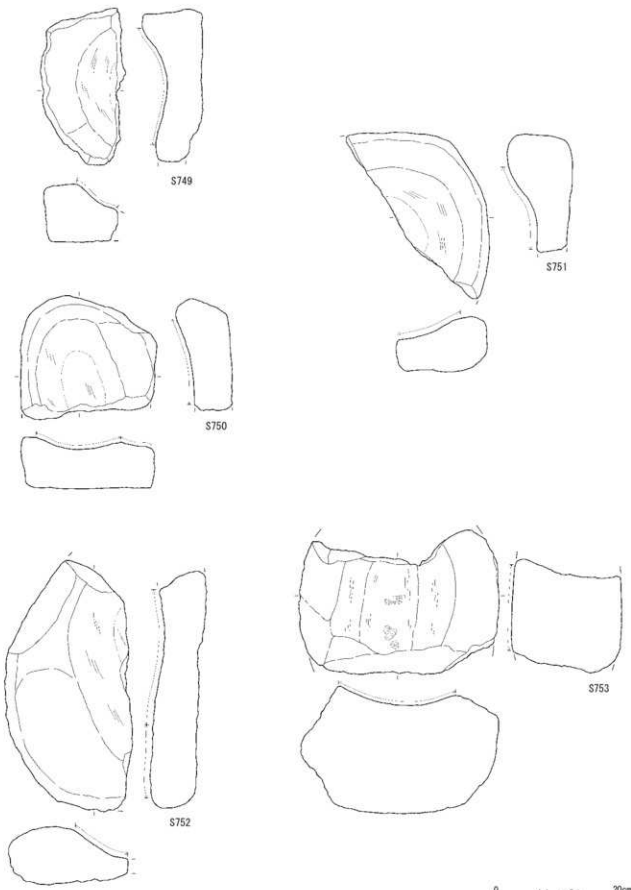
S744は，図上の下部を欠損する。S745は，正面に浅い皿状，裏面には平坦な摩耗面をもつ。正面には磨面よりも古い多数の敲打痕が観察されることから，敲打整形された可能性もある。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留）物の把握を目的として，科学分析（残存デンプン粒分析）を実施した結果，摩耗面と摩耗面ではない部分の２か所から，原形が円形や半楕円形の残存デンプン粒が検出され，コナラ属や堅果類のデンプンである可能性が指摘されている（第Ⅸ章　科学分析を参照）。

S746は，正面の平坦な摩耗面が鏡面のような光沢をもつ。S747は，両面に摩耗面があり，磨面や敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留）物の把握を目的として，科学分析（残存デンプン粒分析）を実施した結果，摩耗面から原形が五角形の残存デンプン粒が検出され，クルミ属のものである可能性が指摘されている（第Ⅸ章　科学分析を参照）。

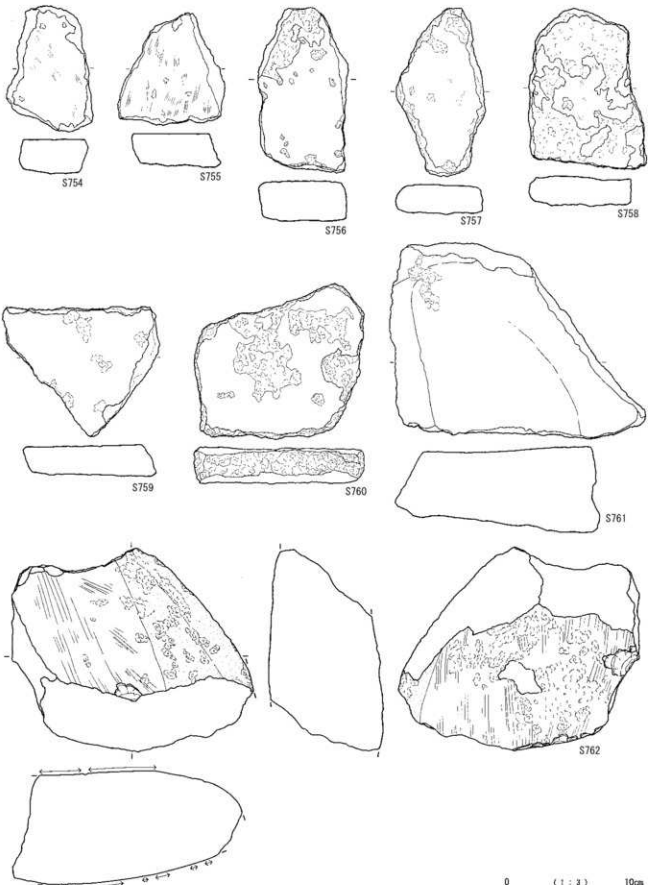
S738～S742の５点は花崗岩製，S743～S747の５点は砂岩製である。

Ⅴ類　S748は，縦長の楕円礫で部分的に擦痕がみられる。台石の可能性があり掲載したが，摩耗面の使用痕は顕著ではない。安山岩Ｂ類製である。

Ⅵ類　S749～S762は，石皿の欠損品または小型の石皿である。S749～S753は，摩耗面の縦・横断面が深い「Ｕ」字となるほどよく磨り窪んでおり，Ⅰ～Ⅲ類の破片である可能性が高い。S753は，厚手で摩耗面中央に敲打痕がみられる。S754～S762は，Ⅳ類の欠損品または小型の石皿（台石）である。S754・S755は，片面のみが作業面で摩耗面がある。S756～S759は，摩耗面に敲打痕がある。S760は，摩耗面である正面と側面に敲打痕が巡る。S761は，正面に磨面と敲打痕，裏面に磨面がある。S762は，作業面に磨面と敲石痕があり被熱が認められる。



第２－206図　石皿（６）



第2－207図　石皿（7）

砥石（第２-208図～第２-209図　S763～S779）

S763～S779は，砥石である。素材礫の形状が磨・敲石と類似するものもあるが，厚みから砥石として分類した。

S763・S765は扁平な剥片を利用し，両面ともに作業面（砥面）がある。S764は，一部を欠損する。正面から右側面にかけて擦痕がみられる。裏面はわずかに敲打痕と剥離面が残存する。

S766～S770は，据え置き型の平砥石の可能性があるものである。S766は，右側面に敲打痕がみられる。S767は，残存部正面のほぼ全体に作業面（砥面）がある。S768は，正面から向かって右側の欠損部の断面の角を面取りするように研磨されている。S769は，右側面に敲打痕がある。S770は，正面に明瞭な作業面（砥面）があり，よく使用された結果，断面が凹んでいる。

S771～S775は，扁平な楕円礫などを利用した砥石である。いずれも小型で，携帯用砥石の可能性がある。

S771は，両面ともに作業面（砥面）がある。S772は，正面に擦痕，側面の一部に敲打痕がみられる。S773は，両面に擦痕，右側面に敲打痕，剥離痕が残存する。

S774は，両面とも使用される。S775は，正面のみが使用され，右側面には敲打痕がみられる。S766・S774は，欠損後に敲打を行った可能性がある。

S776・S777は，正面に「Ｕ」字状となる深い凹みがある有溝砥石である。S776は玉砥石，S777は磨製石斧のＶ類（鑿型）用砥石の可能性がある。S778は，正面に５面の作業面があり，断面も作業面として利用している。作業面の形状から磨製石斧を研磨した可能性がある。

S779は，「Ｕ」字や「Ｖ」字状の凹みが正面に13条，裏に12条ほど認められる。石器を研磨するには砥石の粒度が粗いことから，骨角器を製作するための砥石，あるいは筋砥石の可能性がある。S765・S769・S770は被熱の跡が確認でき，S769には煤が付着する。

S777・S779の２点のみ凝灰岩で，その他の15点は砂岩製である。

擦切石器（第２-210図　S780～S787）

S780～S787は，擦切石器である。扁平な剥片の上面と左右両側辺を剥離成形し，剥片の一辺あるいは二辺を研磨によって刃部に仕上げたものである。

使用の度合いにより違いがあるものの，刃部の断面は基本的に三角形となる。鑿状の磨製石斧（磨製石斧Ｖ類）などを製作する際，石英製の砂などを研磨剤として用い，研ぎ続けることによって原石から石斧の素材を分割するための石器である。

掲載遺物における出土層は，すべてⅣb層である。

S780～S783は，下辺に刃部があり，ほぼ全体に研磨痕がみられる。S784は，両面ともに研磨痕があり，刃部の断面は四角形に近く，使用による結果と考えられる。S785は，下辺に刃部があり正面上部に剥離痕が残存する。S786は，下辺に刃部があり，裏面に整形前の素材としての剥離面を残す。S787は，下辺及び左側辺の二辺に刃部がある。裏面に剥離面が残存する。

S780～S787の８点はすべてキラキラした雲母質を含む砂岩製である。

石錘（第２-211図～第２-213図　S788～S832）

S788～S832は，石錘である。扁平な円礫・楕円礫・方形礫の長軸の両端あるいは短軸の両端を打ち欠き製作された，いわゆる打ち欠き石錘である。

打ち欠き部の数によってⅠ・Ⅱ類に大別し，さらにⅠ類については，形状や残存状況によって細分した。

打ち欠き部を成形する両極剥離を行った後，剥離面を潰すための敲打痕が確認されるもの，紐を掛け使用した紐ずれの痕が確認できるものがある。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層１点，Ⅳ層１点，Ⅳa層９点，Ⅳb層32点，Ⅴ層１点である。

Ⅰa類　S788～S805は，扁平な円礫・亜円礫の長軸の両端を打ち欠いて整形される。S795・S797・S803・S804は，打ち欠き部に剥離面を潰すための敲打痕がみられる。打ち欠け部に掛けた紐が痛むことを防ぐためと考えられる。S791～S793・S796・S797・S805には，両面に紐ずれ痕と考えられる摩耗がみられる。S805は，被熱した礫を使用している。

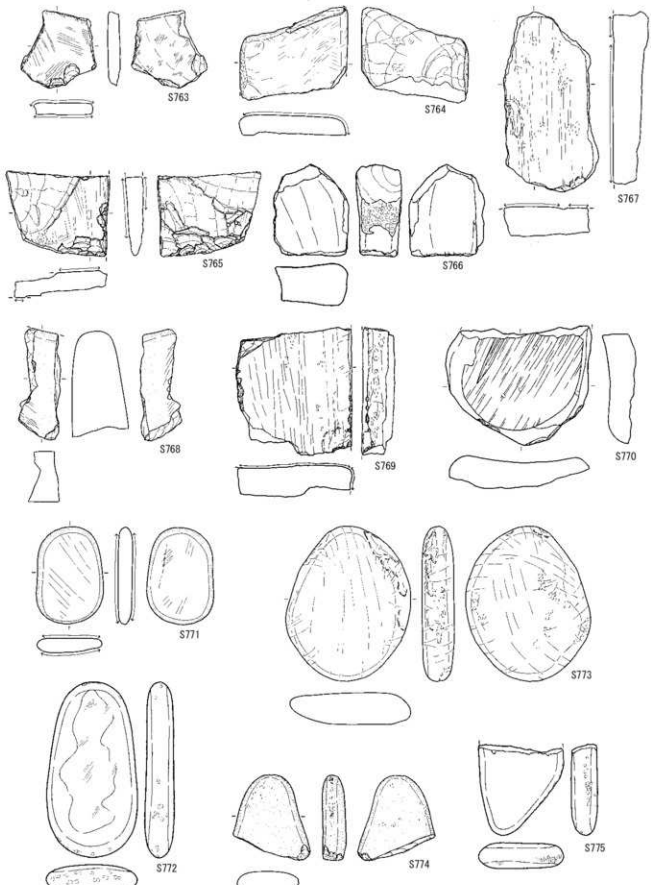
S793～S797・S803～S805の８点は，砂岩製である。S789・S790・S792・S799・S801・S802の６点は，ホルンフェルス製である。S788・S791・S798・S800の４点は，安山岩Ｂ類製である。

Ⅰb類　S806～S817は，扁平な方形礫の長軸の両端を打ち欠いて製作されたものである。S806は，側面に敲打痕がみられる。S807・S808は，側面のほぼ全周にわたり敲打痕がある。S814は正面に敲打痕がある。S816は，両極の打ち欠き部に敲打痕が集中しており，剥離面を潰すために入念に加工している。S817は，打ち欠き部の剥離面を潰すための敲打を含め，側面のほぼ全周に敲打痕がみられる。

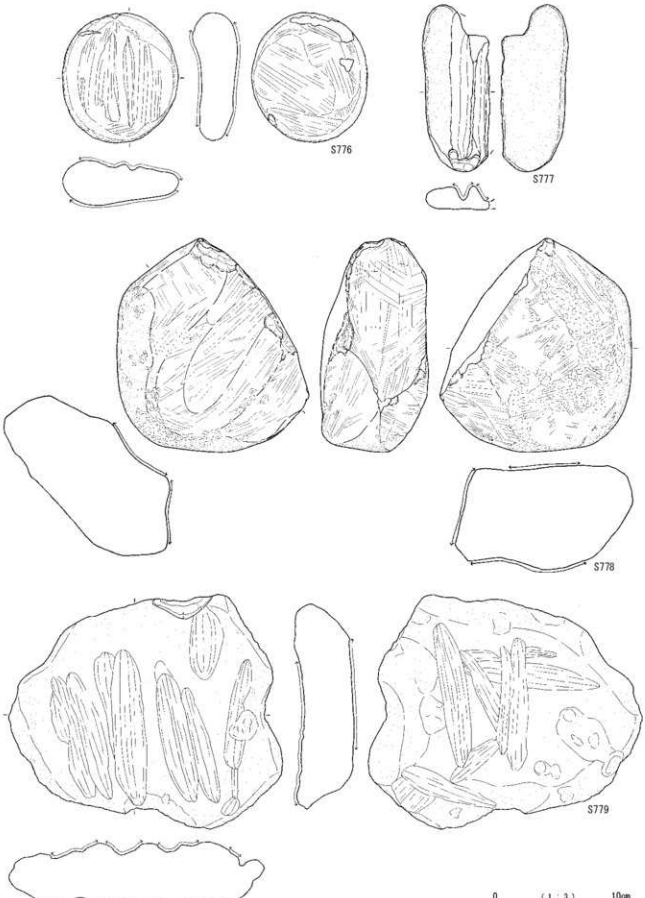
S808～S813の６点は，ホルンフェルス製である。S806・S814～S817の５点は，砂岩製である。S807は，花崗岩製である。

Ⅰc類　S818～S821は，扁平で角のとれた三角形状の礫の長軸両端を打ち欠いたものである。素材となる礫の尖った部分と対極する部分を打ち欠いている。

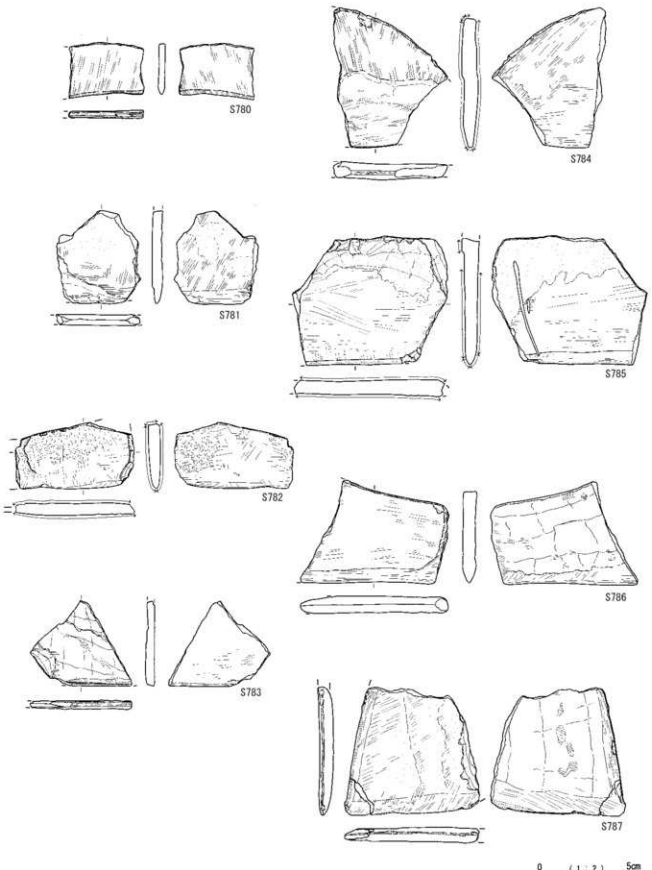
S818は，打ち欠き部に刃潰しのための敲打痕がみられる。S819は，正面の左側面に打ち欠きがないことから，素材礫の形状を利用したものと考えられる。S821は，正面の右側面に敲打痕が集中しており，石錘から敲石に転用，または敲石から石錘に転用された可能性がある。


S763
S764
S765
S766
S767
S768
S769
S770
S771
S772
S773
S774
S775
0 (1:3) 10cm

第２－208図　砥石（１）



第２－209図　砥石（２）



第２－210図　掻切石器

4点ともすべて砂岩製である。

Ⅰd類　S822～S826は，扁平な楕円礫・不定形な礫の両極を打ち欠いたものである。打ち欠き部を中心に一部を欠損するもの，製作途上の可能性があるものである。

S822は，裏面の打ち欠き部から大きな剥離が延び，製作途中で破棄された可能性がある。S823・S824は，正面から正対し左側を欠損する。S825は，両極の打ち欠き部が明瞭に作出されていないため製作途上の可能性がある。S826は，正面の打ち欠き部から左側の一部を欠損する。打ち欠き部は凹状に整形されており特徴的である。打ち欠き部も含め，側面の全周に敲打痕がみられる。

S822・S823・S825の3点はホルンフェルス製である。S824は，花崗岩製である。S826は，砂岩製である。

Ⅱ類　S827～S832は，扁平ではほ方形の礫を素材とする。紐を十字に掛けて結束したと考えられ，長軸，短軸の両端を合わせ，計3～4か所の打ち欠き部をもつ。打ち欠き部を整形せず素材礫の形状を利用したと考えられるものを含む。

S827は，裏面の短軸下縁にのみ打ち欠き部の剥離がみられる。S828は，短軸方向下縁に打ち欠きがみられず，素材礫の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。S829は，短軸両極の剥離が延びていないため，素材礫の形状を利用したものと考えられる。S830は，正面上端に複数の剥離面がみられる。両面とも短軸方向の下端には剥離がみられないことから，素材礫の形状を利用したと考えられる。S831は，長軸，短軸双方の両端に打ち欠き部の剥離がみられる。S832は，両面とも長軸に打ち欠き部整形のための剥離がある。短軸は正面の上端にのみ剥離がみられ，素材礫の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。

S828・S831・S832の3点は，ホルンフェルス製である。S829・S830は，砂岩製である。S827は，花崗岩製である。

石製品（第2-214図・第2-215図　S833～S838）

S833～S838は，石製品である。装飾品や用途不明の石製品を含む。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅳa層1点，Ⅳb層5点である。

S833は，砂岩製である。上部中央が穿孔されている。断面形状から両面穿孔と考えられる。完形で右側縁には2本を1単位とする刻みが4か所，計8本施される。垂飾品の可能性がある。S834は，蛇紋岩製の珠状耳飾りである。右半分と左側の下端部を欠損している。左半分は欠損後，破断面が研磨されている。珠部の上位に両面穿孔を施し，垂飾品に転用されたと考えられる。S835は，長楕円形を呈する有孔石製品である。穿孔は，器面に残る剥離の前に行われている。正面の側縁両端と裏面右側縁の下端に大きな剥離面が残存するほか，両面ともに整形時のものと考えられる敲打痕がある。いわゆる「鰹節形大珠」の可能性がある。頁岩B製である。S836は，ホルンフェルス製の石製品である。半分程度を欠損する。両面とも剥離痕が残存する。中央部に孔があり，左側面の全体には刻み状の痕跡が連続してみられるが，いずれも自然面である可能性を残す。S837は，砂岩製の石製品である。下部を欠損しているが，残存部の形状は隅丸長方形状である。断面は長方形であったと考えられる。側面には研磨によって細い刻み状の加工が連続して施される。刻み状の加工は，右側面では裏面側に上部にのみ残り，下部は研磨が施されており対照的である。刻み状の加工は鋭利な工具で施されたと考えられるが，その後の敲打によって一部が消滅している。用途は不明である。

S838は，やや厚みのあるホルンフェルス製の楕円形礫で，全面に光沢がみられるためペットストーンの可能性がある。S834が縄文時代前期末に，S835が縄文時代後期前半に該当すると考えられる。

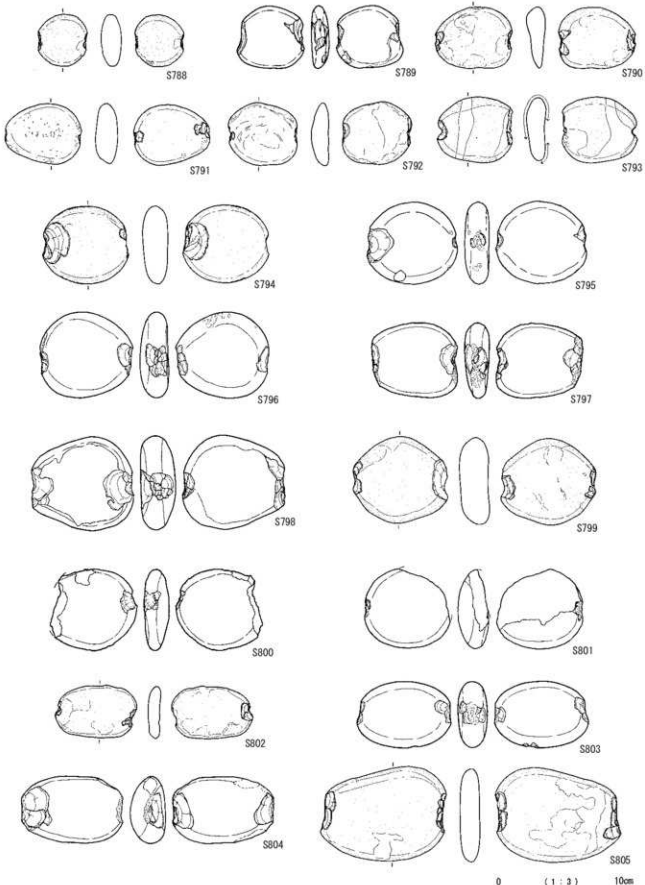
軽石加工品（第2-216図・第2-217図　S839～S850）

S839～S850は，軽石加工品である。人為的な穿孔や溝状の凹み，磨面があるものなど，使用痕跡がみられるものを含めて軽石加工品とした。

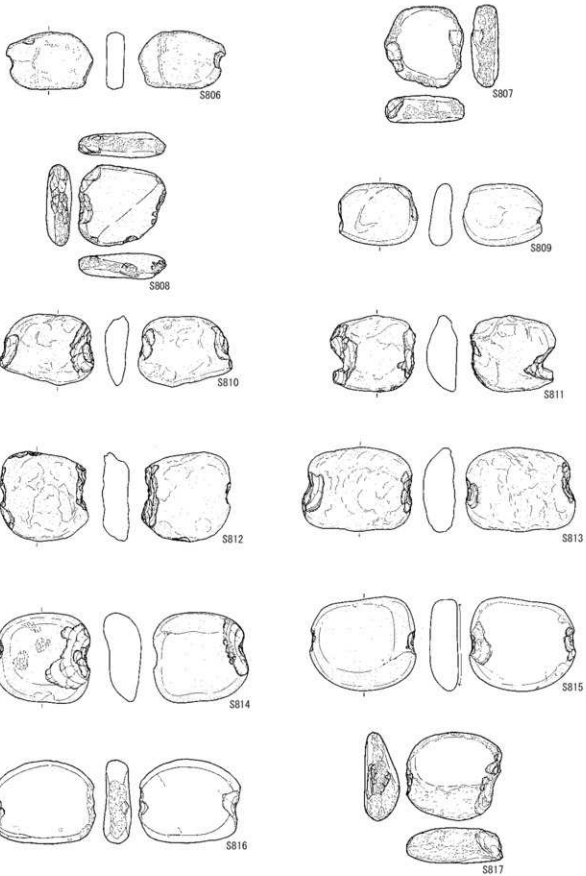
軽石加工品は，総点で124点出土している。判別が難しいものや原石は数量に含んでいない。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅳa層3点，Ⅳb層8点，Ⅵ層1点である。

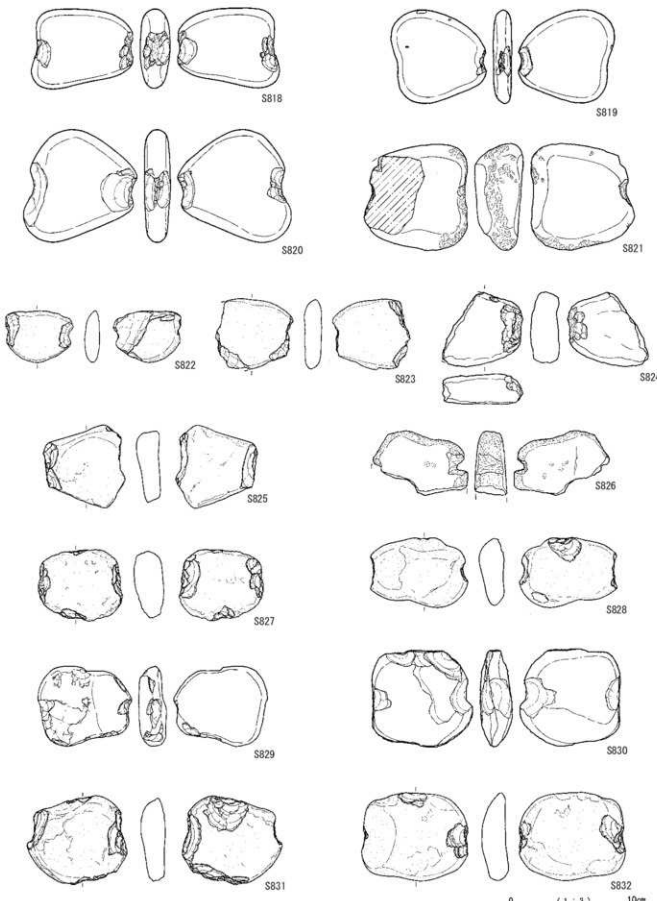
S839は，両面，側面ともに面取りされ，中央部やや上位に孔径6～9㎜の貫通孔が2か所ある。下位の貫通孔は一部を欠損する。断面形状から両面穿孔と考えられる。垂飾品の可能性がある。S840は，ほぼ円形を呈し，厚みがあり断面形は楕円形となる。ほぼ中央部に両面穿孔による貫通孔がある。垂飾の可能性がある。S841は，上部端を巡るような凹みがみられることから浮子の可能性がある。S842は，正面上端の左側縁が逆「L」字状に抉る加工が施されており，貫通孔の一部が再加工された可能性がある。S843～S845は，正面に「U」字状となる溝状の凹みと平坦面がある。下面も面取りされており，沈線状の擦痕がみられる。S844は，正面に「U」字状の凹み，右側面に3か所，沈線状の凹み痕がある。左上の側面は明瞭に面取りされる。S845は裏面と右側面の2か所に磨面がみられる。S846は，両面が研磨によって面取りされ，「V」字状となる溝状の加工が施される。裏面の溝状の加工痕を挟み，中央部に赤色顔料の可能性がある付着物がみられる。S847は両面，S848は正面の2面，裏面が1面，面取りされる。S849は，裏面全体が研磨によって面取りされ，断面は凹状に窪んでいる。S850は，正面全体に擦痕が確認できることから石皿の可能性がある。


S788
S789
S790
S791
S792
S793
S794
S795
S796
S797
S798
S799
S800
S801
S802
S803
S804
S805
0 (1:3) 10cm

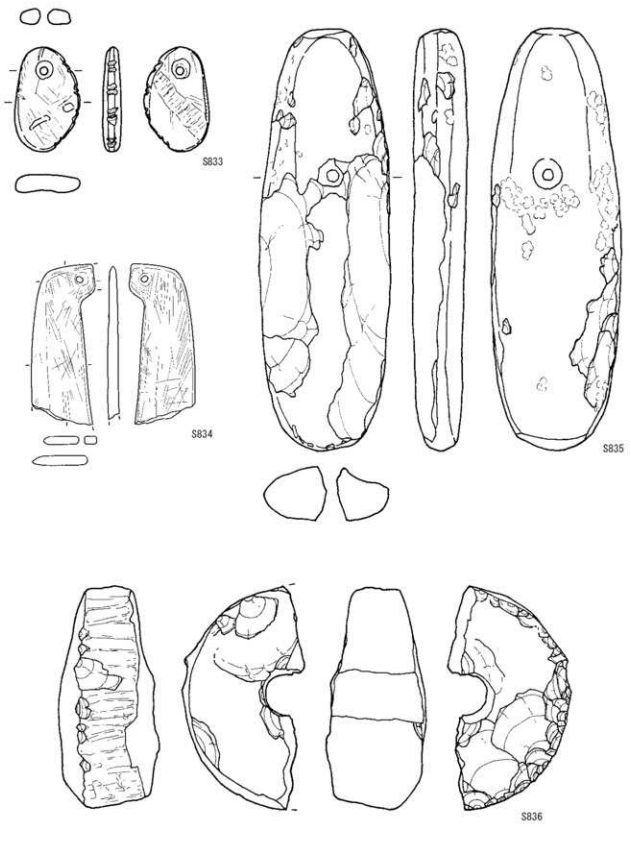
第２－211図　石錘（１）


S806
S807
S808
S809
S810
S811
S812
S813
S814
S815
S816
S817
0 (1:3) 10cm

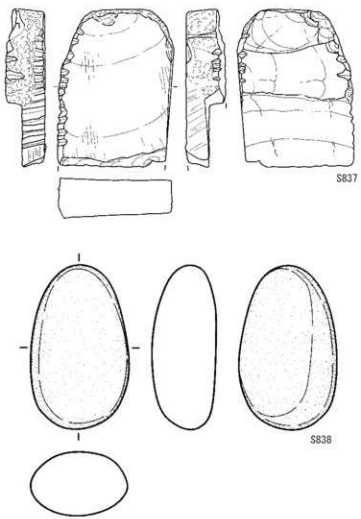
第２－212図　石錘（２）


S818
S819
S820
S821
S822
S823
S824
S825
S826
S827
S828
S829
S830
S831
S832
0
(1:3)
10cm

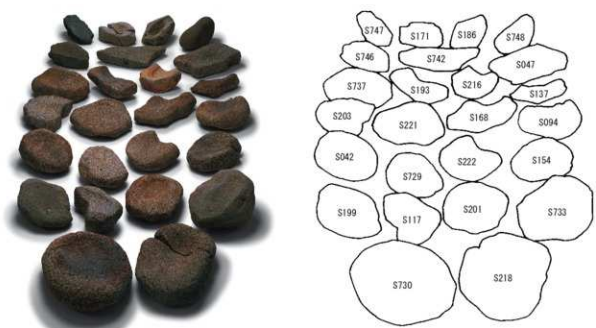
第2－213図　石錘（3）



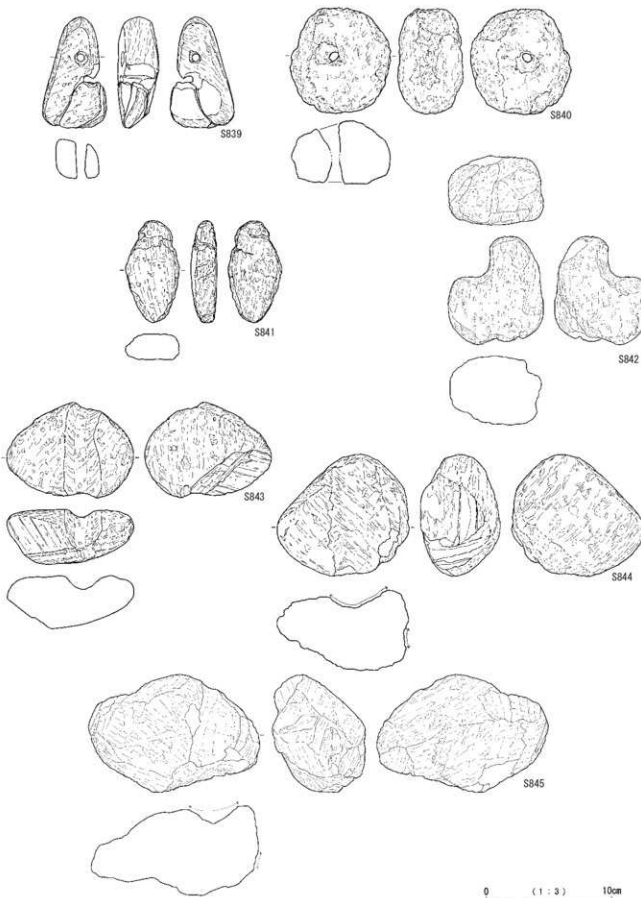
第２－214図　石製品（１）



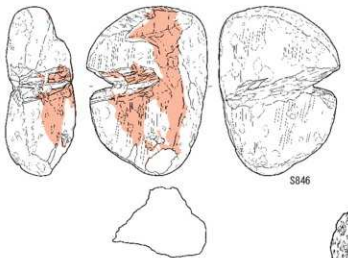
石製品（2）

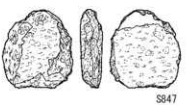


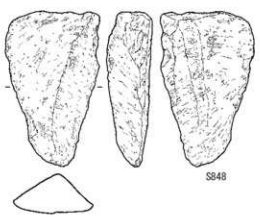
石皿集合写真（巻頭4）

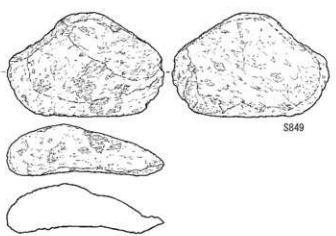


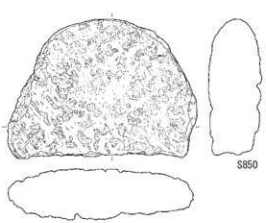
第２－216図　軽石加工品（1）











第２－217図　軽石加工品（２）

第２－19表　包含層石器観察表１

掲図番号	図載番号	出土区	層	器種	分類	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重量（g）	石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
	S229	E-10	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	0.90	1.10	0.29	0.19	黒曜石	黒曜石C	27569	－	100
	S230	B-4	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	1.15	1.11	0.30	0.29	黒曜石	黒曜石A	31290	－	100
	S231	D-15	－	石鏃	Ⅰ	1.22	1.36	0.25	0.29	黒曜石	黒曜石A	カクラン	完形品	100
	S232	E-9	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	1.25	1.24	0.30	0.36	安山岩	安山岩A	28352	－	100
	S233	D-10	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.06	1.34	0.25	0.28	頁岩	頁岩A	21217	一部欠損	100
	S234	D-13	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	1.40	1.20	0.30	0.38	黒曜石	黒曜石B	15442	－	100
	S235	B-4	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	(1.13)	1.55	0.40	0.46	黒曜石	黒曜石A	31197	一部欠損	100
	S236	D-16	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.37	1.46	0.30	0.48	安山岩	安山岩A	3372	－	100
	S237	F-39	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	1.52	1.38	0.40	0.50	安山岩	安山岩A	100017	－	100
	S238	E-39	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.98	1.46	0.40	0.90	頁岩	頁岩A	104855	一部欠損	100
2-134	S239	D-16	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	(1.47)	1.27	0.20	0.30	安山岩	安山岩A	2837	－	100
	S240	C-38	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.83	1.59	0.27	0.64	頁岩	頁岩B	103140	－	100
	S241	C-6	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	2.08	1.82	0.35	1.01	安山岩	安山岩A	21713	－	100
	S242	－	－	石鏃	Ⅰ	1.42	1.48	0.25	0.32	玉髄	－	剥土	－	100
	S243	－	－	石鏃	Ⅰ	1.75	1.50	0.30	0.57	玉髄	－	剥土	－	100
	S244	C-7	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.84	1.63	0.40	0.89	チャート	－	23681	－	100
	S245	E-13	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	1.95	1.82	0.25	0.67	安山岩	安山岩A	13518	－	100
	S246	B-34	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	1.93	1.93	0.38	0.79	安山岩	安山岩A	104513	－	100
	S247	C-39	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	2.40	1.99	0.36	1.18	安山岩	安山岩A	カクラン一括	－	100
	S248	D-8	Ⅳa	石鏃	Ⅰ	2.45	2.31	0.74	2.90	チャート	－	21256	－	100
	S249	B-10	Ⅳb	石鏃	Ⅰ	2.61	2.47	0.36	1.88	黒曜石	黒曜石C	29575	－	100
	S250	D-16	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	1.78	(1.40)	0.30	0.46	黒曜石	黒曜石C	7818	完形品	100
	S251	D-36	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	2.06	1.47	0.35	0.63	玉髄	－	104760	－	100
	S252	D-23	Ⅳa	石鏃	Ⅱ	2.17	1.50	0.30	0.65	黒曜石	黒曜石B	55813	－	100
	S253	C-7	Ⅳa	石鏃	Ⅱ	2.60	1.65	0.46	1.55	安山岩	安山岩A	21733	－	100
	S254	D-11	Ⅳa	石鏃	Ⅱ	2.49	(1.87)	0.30	1.05	安山岩	安山岩A	972	－	100
	S255	D-23	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	3.98	2.65	0.40	2.61	黒曜石	黒曜石C	55940	－	100
	S256	D-23	Va	石鏃	Ⅱ	4.24	(2.51)	(0.40)	2.19	安山岩	安山岩A	56238	－	100
	S257	D-3	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	1.93	1.44	0.25	0.71	頁岩	頁岩B	44487	完形品	100
2-135	S258	B-6	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	2.24	1.41	0.25	1.01	頁岩	頁岩B	42792	完形品	100
	S259	C-5	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	(2.38)	1.28	0.40	0.93	頁岩	頁岩B	34623	完形品	100
	S260	C-31	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	(2.21)	1.81	0.35	1.21	ホルンフェルス	－	104610	完形品	100
	S261	B-6	Ⅳa	石鏃	Ⅱ	3.36	1.59	0.48	1.38	安山岩	安山岩A	23370	－	100
	S262	B-4	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	2.53	1.40	0.35	0.83	安山岩	安山岩A	27279	－	100
	S263	D-15	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	2.50	1.60	0.30	1.14	安山岩	安山岩A	12992	－	100
	S264	C-5	－	石鏃	Ⅱ	2.63	1.98	0.40	1.57	安山岩	安山岩A	カクラン一括	－	100
	S265	C-D-3	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	3.55	1.63	0.40	1.46	頁岩	頁岩B	12T-489	完形品	100
	S266	C-6	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	2.99	1.93	0.23	1.40	チャート	－	28851	－	100
	S267	E-25	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	1.25	1.25	0.30	0.26	黒曜石	黒曜石C	42181	一部欠損	101
	S268	B-6	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	1.63	1.40	0.26	0.44	安山岩	安山岩A	26810	－	101
	S269	C-19	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.54	1.34	0.25	0.38	黒曜石	黒曜石C	3324	完形品	101
	S270	B-16	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	(1.58)	1.45	0.40	0.50	頁岩	頁岩B	4776	完形品	101
	S271	C-4	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.80	1.65	0.22	0.49	頁岩	頁岩B	26357	－	101
	S272	D-38	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	2.01	1.49	0.30	0.65	安山岩	安山岩A	103032	－	101
	S273	E-6	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.87	1.29	0.46	0.60	チャート	－	25840	－	101
	S274	E-37	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	2.00	1.30	0.28	0.50	安山岩	安山岩A	101456	－	101
	S275	C-3	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.86	1.83	0.60	1.87	黒曜石	黒曜石D	42395	一部欠損	101
	S276	F-39	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.62	1.31	0.40	0.64	チャート	－	100025	－	101
	S277	B-40	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	2.10	1.52	0.36	0.88	チャート	－	101180	－	101
2-136	S278	F-13	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	2.15	1.00	0.30	0.61	チャート	－	14309	－	101
	S279	D-8	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	1.74	1.81	0.42	0.74	チャート	－	21255	－	101
	S280	D-6	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	2.38	(1.52)	0.30	0.79	チャート	－	36625	一部欠損	101
	S281	D-7	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	2.15	1.45	0.40	0.68	黒曜石	黒曜石A	21973	一部欠損	101
	S282	F-7	Ⅵ	石鏃	Ⅲ	2.07	1.84	0.40	1.00	チャート	－	－	完形品	101
	S283	F-9	Ⅳa	石鏃	Ⅲ	2.51	1.54	0.32	0.90	チャート	－	26718	－	101
	S284	－	－	石鏃	Ⅲ	2.60	1.85	0.30	0.93	安山岩	安山岩A	剥土	－	101
	S285	B-24	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	(2.11)	1.44	0.25	0.57	安山岩	安山岩A	36878	完形品	101
	S286	D-17	－	石鏃	Ⅲ	2.05	1.60	0.37	0.70	黒曜石	黒曜石D	19947	－	101
	S287	B-25	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	1.70	1.79	0.30	0.68	黒曜石	黒曜石C	40403	一部欠損	101
	S288	E-21	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	2.48	2.15	0.40	1.28	黒曜石	黒曜石E	7654	一部欠損	101
	S289	B-6	Ⅳb	石鏃	Ⅲ	(2.51)	(1.88)	0.35	0.90	黒曜石	黒曜石C	45604	一部欠損	101
	S290	E-12	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	1.75	1.20	0.30	0.62	安山岩	安山岩A	13504	－	101
2-137	S291	B-11	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	1.90	1.40	0.36	0.91	黒曜石	黒曜石C	25899	－	101
	S292	C-12	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.40	1.40	0.30	1.39	安山岩	安山岩A	10828	－	101
	S293	C-10	Ⅳa	石鏃	Ⅳ	1.89	1.40	0.45	0.98	安山岩	安山岩A	23124	－	101

第２－20表　包含層石器観察表２

掲図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-137	S294	E-10	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.00	1.50	0.43	1.11	チャート	－	25902	－	101
	S295	C-40	Ⅳa	石鏃	Ⅳ	2.02	1.40	0.45	0.97	安山岩	安山岩A	101660	－	101
	S296	C-10	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	1.93	1.67	0.35	0.84	安山岩	安山岩A	43069	完形品	101
	S297	D-3	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.28	1.72	0.35	1.24	安山岩	安山岩A	41904	完形品	101
	S298	D-5	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.40	2.21	0.40	1.69	貫岩	貫岩A	33129	完形品	101
	S299	C-24	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	3.10	2.09	0.30	1.63	安山岩	安山岩A	42124	一部欠損	101
	S300	D-35	Ⅳa	石鏃	Ⅳ	1.67	1.39	0.32	0.46	黒曜石	黒曜石C	101353	－	101
	S301	F-6	Ⅳa	石鏃	Ⅳ	1.66	1.17	0.36	0.41	安山岩	安山岩A	27295	－	101
	S302	F-35	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	1.95	1.40	0.33	0.55	チャート	－	101912	－	101
	S303	E-36	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	1.70	1.09	0.28	0.33	チャート	－	102903	－	101
	S304	D-7	Va	石鏃	Ⅳ	(2.47)	(1.38)	(0.40)	0.68	黒曜石	黒曜石C	48506	－	101
	S305	F-8	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.52	1.57	0.46	0.91	安山岩	安山岩A	25918	－	101
	S306	C-37	Ⅳa	石鏃	Ⅳ	1.70	1.27	0.32	0.41	安山岩	安山岩A	100439	－	101
	S307	B-5	Ⅳb	石鏃	Ⅳ	2.32	1.95	0.03	0.83	安山岩	安山岩A	31118	完形品	101
2-138	S308	E-10	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.52	0.90	0.27	0.30	黒曜石	黒曜石C	27293	－	102
	S309	D-16	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	1.39	1.34	0.30	0.40	黒曜石	黒曜石C	3438	－	102
	S310	B-5	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.60	1.45	0.45	0.67	黒曜石	黒曜石C	33718	一部欠損	102
	S311	F-18	Ⅴ	石鏃	Ⅴ	(1.62)	(1.28)	(0.30)	0.53	チャート	－	16072	－	102
	S312	D-21	Ⅴ	石鏃	Ⅴ	(2.16)	(1.02)	(0.30)	0.42	黒曜石	黒曜石C	16162	－	102
	S313	E-10	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	1.48	1.79	0.35	0.84	黒曜石	黒曜石D	27565	－	102
	S314	C-3	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.20	1.80	0.35	0.61	黒曜石	黒曜石C	27270	－	102
	S315	C-7	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.22	1.95	0.40	0.68	貫岩	貫岩A	29777	一部欠損	102
	S316	D-23	Va	石鏃	Ⅴ	(1.03)	1.24	0.40	0.32	黒曜石	黒曜石A	56202	－	102
	S317	C-38	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	1.50	1.72	0.48	0.93	黒曜石	黒曜石A	100217	一部欠損	102
	S318	C-4	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.65	1.25	0.40	0.55	黒曜石	黒曜石C	26353	－	102
	S319	E-37	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.43	1.27	0.33	0.36	黒曜石	黒曜石C	102075	－	102
	S320	D-33	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.50	1.48	0.38	0.65	黒曜石	黒曜石C	104629	一部欠損	102
	S321	B-5	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.85	1.76	0.63	1.25	黒曜石	黒曜石A	30168	－	102
	S322	F-9	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	2.15	1.39	0.40	0.97	黒曜石	黒曜石C	25906	－	102
	S323	D-32	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	1.90	1.80	0.79	1.90	黒曜石	黒曜石B	104632	－	102
	S324	D-10	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	1.71	1.35	0.46	0.81	安山岩	安山岩A	21212	－	102
	S325	B-8	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	1.95	1.53	0.42	1.05	黒曜石	黒曜石C	22386	－	102
	S326	－	－	石鏃	Ⅴ	2.60	1.60	0.70	2.74	黒曜石	黒曜石D	表土	－	102
	S327	C-41	Ⅳa	石鏃	Ⅴ	2.70	2.18	0.47	2.10	チャート	－	101636	－	102
	S328	C-36	Ⅳb	石鏃	Ⅴ	2.24	1.91	0.65	2.33	貫岩	貫岩A	103450	－	102
2-139	S329	C-15	Ⅳb	石錐	－	1.65	1.70	0.55	0.97	黒曜石	黒曜石A	12106	－	102
	S330	D-17	Ⅳb	石錐	－	2.35	2.40	0.40	1.84	安山岩	安山岩A	14288	－	102
	S331	－	－	石錐	－	2.10	1.20	0.20	0.53	玉髄	－	表土	－	102
	S332	D-16	Ⅳb	石錐	－	2.50	1.35	0.50	1.32	安山岩	安山岩A	7225	－	102
	S333	C-8	Ⅳb	石錐	－	3.05	1.15	0.60	1.66	珪岩		68270	－	102
	S334	E-10	Ⅳb	石錐	－	2.98	1.17	0.45	1.12	安山岩	安山岩A	29220	－	102
	S335	D-10	Ⅳb	石錐	－	3.45	1.80	0.60	3.38	貫岩	貫岩B	48379	－	102
	S336	E-24	Ⅳb	石錐	－	2.55	0.84	0.54	1.01	玉髄	－	39271	－	102
	S337	C-11	Ⅳa	石錐	－	4.70	1.50	1.10	5.70	玉髄	－	6T-198	－	102
2-140	S338	D-23	Ⅳb	石匙	Ⅰ	4.93	2.60	0.97	8.38	玉髄	－	55873	－	103
	S339	D-39	Ⅳb	石匙	Ⅰ	3.80	3.37	0.90	7.78	チャート	－	101808	－	103
	S340	E-25	Ⅳb	石匙	Ⅰ	4.25	2.90	0.80	7.23	玉髄	－	41000	－	103
	S341	E-31	Ⅳb	石匙	Ⅰ	3.86	2.08	0.64	4.89	チャート	－	104634	－	103
	S342	B-C-10	Ⅳb	石匙	Ⅰ	(4.11)	2.57	0.84	7.59	チャート	－	一括	－	103
	S343	C-35	Ⅳb	石匙	Ⅰ	3.01	6.02	1.27	18.53	玉髄	－	103948	－	103
2-141	S344	B-7	Ⅳa	石匙	Ⅱ	1.19	1.94	0.48	1.14	石英	－	25630	－	103
	S345	G-38	Ⅳb	石匙	Ⅱ	1.72	1.95	0.56	1.12	玉髄		101485	－	103
	S346	F-39	Ⅳb	石匙	Ⅱ	2.59	3.51	0.62	3.51	安山岩	安山岩C	101690	－	103
	S347	C-39	Ⅳa	石匙	Ⅱ	2.31	3.79	0.70	3.56	玉髄		103145	－	103
	S348	F-24	－	石匙	Ⅱ	2.30	3.35	0.00	2.27	貫岩	貫岩B	43299	－	103
	S349	F-39	Ⅳb	石匙	Ⅱ	3.87	4.95	0.55	9.85	安山岩	安山岩C	101033	－	103
	S350	D-35	－	石匙	Ⅱ	1.50	3.40	0.72	3.13	玉髄	－	カクラン一括	－	103
	S351	C-34	－	石匙	Ⅱ	2.88	4.70	1.05	8.15	玉髄	－	カクラン一括	－	103
2-142	S352	E-35	Ⅳa	石匙	Ⅱ	3.29	3.71	0.67	5.54	チャート	－	103382	－	103
	S353	E-29	Ⅳb	石匙	Ⅱ	2.10	2.96	0.66	2.42	黒曜石	黒曜石B	45721	－	103
	S354	F-39	Ⅳb	石匙	Ⅱ	3.08	4.40	0.90	9.11	黒曜石	黒曜石A	100019	－	103
	S355	E-21	Ⅳb	石匙	Ⅱ	2.95	4.36	1.10	8.12	チャート	－	7652	－	103
	S356	F-40	Ⅳb	石匙	Ⅱ	3.37	5.10	0.89	9.72	玉髄	－	100050	－	103
2-143	S357	D-24	Ⅳb	石匙	Ⅱ	2.38	3.01	0.77	4.21	チャート	－	42141	－	103
	S358	D-29	Ⅳb	石匙	Ⅱ	3.19	3.53	0.61	5.29	チャート	－	45415	－	103

第２－21表　包含層石器観察表３

掲図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
2-143	S359	F-38	-	石鏃	Ⅱ	3.02	2.60	0.32	1.95	玉髄	-	カクラン一括	-	103
	S360	E-25	Ⅳb	石鏃	Ⅱ	3.18	4.65	1.01	14.70	玉髄	-	43060	-	103
2-144	S361	D-23	Ⅳb	スクレイパー	-	4.35	2.59	1.36	14.50	黒曜石	黒曜石D	55862	-	104
	S362	D-3	Ⅳb	スクレイパー	-	5.34	4.04	1.62	22.74	黒曜石	黒曜石E	40155	-	104
	S363	F-38	Ⅳb	スクレイパー	-	5.72	4.31	2.02	24.50	頁岩	頁岩A	100078	-	104
	S364	C-7	Ⅳb	スクレイパー	-	6.27	3.83	1.10	24.80	頁岩	頁岩B	26330	-	104
	S365	E-39	Ⅳb	スクレイパー	-	8.17	5.05	1.30	55.70	頁岩	頁岩B	101817	-	104
	S366	E-10	Ⅳb	スクレイパー	-	9.13	4.49	0.92	30.68	ホルンフェルス	-	29274	-	104
	S367	D-6	Ⅳb	スクレイパー	-	10.56	4.65	1.18	44.90	頁岩	頁岩C	31523	-	104
	S368	D-5	Ⅳb	スクレイパー	-	9.67	4.80	2.70	109.90	砂岩	-	26496	-	104
	S369	E-10	Ⅳb	スクレイパー	-	5.65	7.25	1.68	70.98	ホルンフェルス	-	28073	-	104
	S370	E-15	Ⅲ	スクレイパー	-	5.84	7.16	1.88	80.80	頁岩	頁岩B	269	-	104
2-145	S371	D-12	Ⅳb	スクレイパー	-	7.65	6.82	2.80	156.64	ホルンフェルス	-	23267	-	104
	S372	D-9	Ⅳa	スクレイパー	-	7.99	7.10	1.39	62.28	ホルンフェルス	-	28374	-	104
	S373	F-8	Ⅳb	スクレイパー	-	7.96	7.45	1.63	75.92	ホルンフェルス	-	28410	-	104
	S374	D-16	Ⅳa	スクレイパー	-	10.52	6.54	1.44	74.80	頁岩	頁岩B	一括	-	104
	S375	C-8	Va	スクレイパー	-	8.76	7.29	2.05	119.80	安山岩	安山岩C	48658	-	104
	S376	D-12	Ⅳb	スクレイパー	-	3.35	6.40	1.30	20.96	安山岩	安山岩C	15531	-	104
	S377	E-24	Ⅳb	スクレイパー	-	5.62	3.05	1.26	16.80	玉髄	-	36942	-	104
	S378	D-12	Ⅳb	スクレイパー	-	3.90	4.65	1.90	31.09	チャート	-	13558	-	104
2-146	S379	C-41	Ⅳb	スクレイパー	-	6.30	4.10	1.25	34.00	ホルンフェルス	-	103199	-	104
	S380	C-10	Ⅳb	スクレイパー	-	7.05	5.10	1.20	54.40	ホルンフェルス	-	27510	-	104
	S381	C-14	Ⅲ	スクレイパー	-	4.71	7.67	1.58	59.50	ホルンフェルス	-	258	-	104
	S382	E-10	Ⅳb	スクレイパー	-	10.60	5.37	1.40	81.38	ホルンフェルス	-	28111	-	104
	S383	C-8	Ⅳa	スクレイパー	-	5.75	9.25	2.30	114.30	砂岩	-	23654	-	104
	S384	B-7	Ⅳa	スクレイパー	-	6.40	15.30	1.93	152.66	ホルンフェルス	-	25637	-	104
	S385	D-8	Ⅳb	スクレイパー	-	7.29	9.98	1.91	108.20	砂岩	-	30448	-	104
2-147	S386	D-10	Ⅳa	二次加工剥片	-	1.65	0.82	0.34	0.37	安山岩	安山岩C	23138	-	105
	S387	F-39	-	二次加工剥片	-	1.57	2.33	0.70	2.11	黒曜石	黒曜石D	カクラン一括	-	105
	S388	C-15	Ⅲ	二次加工剥片	-	1.43	1.57	0.43	0.67	黒曜石	黒曜石B	404	-	105
	S389	C-15	Ⅲ	二次加工剥片	-	2.58	1.93	0.73	3.13	黒曜石	黒曜石A	169	-	105
	S390	C-35	Ⅳb	二次加工剥片	-	2.76	2.19	0.67	3.47	鉱石英	-	103579	-	105
	S391	B-5	Ⅳb	二次加工剥片	-	8.72	2.42	1.30	33.41	ホルンフェルス	-	30096	-	105
	S392	B-5	Ⅳb	二次加工剥片	-	10.93	5.22	2.43	134.58	ホルンフェルス	-	30117	-	105
	S393	D-7	Va	二次加工剥片	-	4.10	4.92	0.71	11.36	安山岩	安山岩C	48641	-	105
	S394	D-15	Ⅲ	二次加工剥片	-	3.51	4.82	0.41	6.20	頁岩	頁岩B	192	-	105
	S395	D-8	Va	二次加工剥片	-	5.26	6.35	1.03	25.50	頁岩	頁岩B	48688	-	105
	S396	C-16	Ⅲ	二次加工剥片	-	6.07	6.20	1.35	32.40	安山岩	安山岩C	48	-	105
2-148	S397	C-11	Ⅳb	使用痕剥片	-	1.90	1.90	1.80	1.90	チャート	-	-	-	105
	S398	B-10	Va	使用痕剥片	-	3.34	2.72	1.12	8.50	玉髄	-	48718	-	105
	S399	D-6	Va	使用痕剥片	-	3.40	3.21	0.82	5.84	安山岩	安山岩C	48511	-	105
	S400	C-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	6.08	3.21	1.25	17.60	頁岩	頁岩B	122	-	105
	S401	D-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	5.34	3.83	1.23	20.50	頁岩	頁岩B	1066	-	105
	S402	C-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	5.14	6.79	2.66	75.40	安山岩	安山岩C	171	-	105
	S403	D-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	6.46	6.16	1.91	55.30	ホルンフェルス	-	185	-	105
	S404	C-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	9.16	4.03	1.13	29.20	頁岩	頁岩B	164	-	105
	S405	D-7	Va	使用痕剥片	-	3.02	4.39	0.77	7.40	頁岩	頁岩B	48502	-	105
	S406	E-8	Va	使用痕剥片	-	2.92	4.59	0.87	9.90	安山岩	安山岩C	48463	-	105
	S407	E-6	Va	使用痕剥片	-	5.06	4.78	0.80	15.10	頁岩	頁岩B	48525	-	105
	S408	C-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	4.08	6.61	1.25	36.00	砂岩	-	82	-	105
	S409	D-23	Va	使用痕剥片	-	3.99	7.03	1.66	48.80	頁岩	頁岩B	56211	-	105
2-149	S410	E-5	Va	使用痕剥片	-	5.56	8.99	1.73	67.60	ホルンフェルス	-	51623	-	105
	S411	C-15	Ⅲ	使用痕剥片	-	4.99	9.66	0.87	38.10	ホルンフェルス	-	387	-	105
	S412	C-20	Ⅴ	使用痕剥片	-	8.74	6.49	1.25	53.10	頁岩	頁岩B	16823	-	105
	S413	D-21	Ⅴ	使用痕剥片	-	10.25	4.17	1.71	49.80	玉髄	-	9331	-	105
2-150	S414	D-9	Ⅳb	石核	-	1.58	1.57	1.05	2.67	黒曜石	黒曜石C	29368	-	106
	S415	D-7	Va	石核	-	2.34	2.53	2.17	12.60	黒曜石	黒曜石A	48469	-	106
	S416	E-4	Ⅳb	石核	-	2.60	3.90	1.85	17.56	黒曜石	黒曜石A	25835	-	106
	S417	D-23	Va	石核	-	2.35	5.39	2.60	36.80	黒曜石	黒曜石A	55892	-	106
	S418	D-23	Va	石核	-	2.49	3.50	2.14	15.50	チャート	-	55958	-	106
	S419	C-6	Ⅳa	石核	-	7.90	5.90	4.20	254.52	石英	-	23456	-	106
2-151	S420	C-12	Ⅳb	石核	-	9.42	11.12	6.78	743.00	ホルンフェルス	-	15950	-	106
	S421	F-22	Ⅳb	石核	-	11.70	12.29	5.36	781.00	ホルンフェルス	-	20677	-	106
	S422	C-18	Ⅳb	石核	-	11.18	9.86	9.16	1245.00	ホルンフェルス	-	8300	-	106
	S423	E-22	Ⅴ	原石	Cd	4.70	3.78	3.00	58.10	石英	-	16099	-	106

第２－22表　包含層石器観察表４

掲図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-151	S424	D-7	Ⅴa	原石	Cc	5.44	4.52	3.00	89.50	石英	－	48472	－	106
2-152	S425	B-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	(7.59)	(4.14)	(2.92)	106.00	ホルンフェルス	－	10690	－	－
	S426	B-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	(10.60)	(5.41)	(3.46)	227.00	ホルンフェルス	－	31103	－	107
	S427	D-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	10.71	6.01	3.79	355.87	ホルンフェルス	－	27907	－	107
	S428	C-21	Ⅴ	磨製石斧	Ⅰ	(5.38)	(3.50)	(2.71)	71.00	ホルンフェルス	－	16813	－	－
	S429	D-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	(8.07)	(4.51)	(3.47)	135.00	ホルンフェルス	－	34837	－	－
	S430	C-16	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	(11.17)	(5.85)	(4.62)	349.00	ホルンフェルス	－	11805	－	107
2-153	S431	B-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	12.38	6.22	3.40	307.08	ホルンフェルス	－	28285	－	－
	S432	F-6	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	10.44	4.74	3.32	239.00	ホルンフェルス	－	30030	－	－
	S433	D-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	9.72	4.59	3.08	148.00	ホルンフェルス	－	43020	赤色顔料付着	107
	S434	C-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	8.12	5.40	3.22	174.79	ホルンフェルス	－	24470	－	－
	S435	D-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	9.30	5.95	4.16	307.00	ホルンフェルス	－	21115	－	－
	S436	E-9	Ⅳa	磨製石斧	Ⅰ	9.35	5.39	3.98	262.00	ホルンフェルス	－	27968	－	－
2-154	S437	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	9.81	5.21	3.78	268.00	ホルンフェルス	－	4286	－	107
	S438	C-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	11.10	6.71	4.14	505.03	ホルンフェルス	－	29811	－	－
	S439	C-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	10.57	6.03	4.42	460.00	ホルンフェルス	－	32944	－	107
	S440	F-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅰ	11.30	5.30	3.70	310.00	ホルンフェルス	－	43004	－	107
	S441	D-15	Ⅲ	磨製石斧	Ⅰ	(5.95)	(6.13)	(3.85)	168.10	ホルンフェルス	－	203	－	－
2-155	S442	C-24	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	23.20	6.73	4.19	933.00	ホルンフェルス	－	36900	－	107
	S443	D-16	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	17.91	6.36	3.45	547.00	ホルンフェルス	－	6999	－	107
2-156	S444	C-34	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	16.29	6.48	3.35	468.50	ホルンフェルス	－	104124	－	107
	S445	B-7	Ⅴa	磨製石斧	Ⅱ	23.92	8.13	3.10	896.00	頁岩	頁岩B	47501	－	107
2-157	S446	F-8	Ⅳa	磨製石斧	Ⅱ	10.99	7.00	2.93	360.00	珪質岩	－	23146	－	108
	S447	D-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	6.12	7.10	3.22	146.57	ホルンフェルス	－	29128	－	－
	S448	D-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	13.50	5.22	3.95	362.41	ホルンフェルス	－	28882	－	－
	S449	B-14	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	12.85	6.53	3.67	390.00	頁岩	頁岩B	15444	－	108
2-158	S450	B-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	13.30	6.80	3.90	513.77	ホルンフェルス	－	28312	－	－
	S451	D-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	12.25	6.29	4.29	444.00	ホルンフェルス	－	29141	－	－
	S452	C-14	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(10.37)	6.00	(3.33)	290.50	ホルンフェルス	－	10380	－	－
	S453	E-16	Ⅳa	磨製石斧	Ⅱ	(10.23)	6.27	3.79	395.00	ホルンフェルス	－	5878	－	－
	S454	E-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	12.13	6.63	3.80	471.50	ホルンフェルス	－	28459	－	108
	S455	D-16	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	8.02	6.60	3.16	246.00	頁岩	頁岩B	6997	－	－
2-159	S456	B-6	Ⅳa	磨製石斧	Ⅱ	8.50	6.07	3.88	278.90	ホルンフェルス	－	25484	－	－
	S457	D-24	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(8.63)	7.51	(3.01)	257.00	ホルンフェルス	－	39294	－	108
	S458	B-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	6.36	5.20	3.29	129.52	ホルンフェルス	－	29581	－	－
	S459	D-25	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(8.93)	(7.23)	(3.47)	320.00	ホルンフェルス	－	40393	－	－
	S460	C-17	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(11.58)	(7.09)	(2.79)	266.00	ホルンフェルス	－	9431	－	108
2-160	S461	D-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(10.75)	7.01	2.61	325.00	ホルンフェルス	－	29020	－	－
	S462	D-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	(13.15)	7.41	4.36	664.50	ホルンフェルス	－	34938	－	－
	S463	B-6	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	8.71	7.05	3.65	282.00	ホルンフェルス	－	46268	－	－
2-161	S464	C-9	Ⅴa	磨製石斧	Ⅱ	8.25	6.84	3.80	349.90	ホルンフェルス	－	48780	－	－
	S465	E-12	Ⅳa	磨製石斧	Ⅱ	10.64	7.07	4.05	470.00	ホルンフェルス	－	4408	－	108
	S466	B-19	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	12.34	7.55	3.64	607.00	ホルンフェルス	－	4926	－	－
2-162	S467	E-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	11.89	7.15	4.20	605.17	ホルンフェルス	－	29238	－	－
	S468	E-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	11.75	6.80	4.00	510.77	ホルンフェルス	－	30466	－	－
	S469	B-5	Ⅴa	磨製石斧	Ⅱ	(7.02)	(6.45)	(3.60)	241.10	ホルンフェルス	－	52710	－	－
2-163	S470	F-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	10.15	6.30	4.00	421.00	ホルンフェルス	－	26093	－	－
	S471	F-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	10.30	7.10	4.30	512.51	ホルンフェルス	－	23484	－	－
	S472	C-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	10.62	6.04	3.46	378.55	ホルンフェルス	－	28740	－	－
	S473	F-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	10.60	6.80	4.19	472.00	ホルンフェルス	－	23216	－	108
	S474	C-7	Ⅳa	磨製石斧	Ⅱ	6.24	7.77	3.62	259.90	ホルンフェルス	－	23724	－	－
	S475	F-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	7.16	7.00	4.45	300.50	ホルンフェルス	－	48911	－	－
2-164	S476	D-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	8.22	6.13	4.35	335.63	ホルンフェルス	－	28881	－	－
	S477	B-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅱ	10.55	7.50	4.50	617.00	ホルンフェルス	－	46650	－	108
2-165	S478	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	14.03	5.99	3.09	340.00	ホルンフェルス	－	10000	－	108
	S479	14T	Ⅳ	磨製石斧	Ⅲ	11.67	4.34	2.35	174.00	ホルンフェルス	－	14T-194	－	108
	S480	E-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	12.31	5.00	2.80	240.92	ホルンフェルス	－	29225	－	108
	S481	F-6	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	13.24	5.65	2.33	167.10	ホルンフェルス	－	30014	－	－
	S482	D-18	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	13.19	4.70	1.90	140.10	ホルンフェルス	－	5703	－	－
	S483	C-3	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	11.31	4.65	1.82	120.80	ホルンフェルス	－	31565	－	－
2-166	S484	C-13	Ⅳa	磨製石斧	Ⅲ	9.72	5.20	2.00	116.93	ホルンフェルス	－	13252	－	－
	S485	C-5	－	磨製石斧	Ⅲ	(8.43)	(5.20)	(2.66)	145.00	ホルンフェルス	－	33642	－	－
	S486	B-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(6.12)	(5.59)	(2.75)	102.50	ホルンフェルス	－	31112	－	－
	S487	D-24	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(7.64)	(5.43)	(3.22)	197.00	ホルンフェルス	－	39290	－	108
	S488	F-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(9.05)	5.32	3.14	239.00	ホルンフェルス	－	30764	－	－

第２－23表　包含層石器観察表５

掲図番号	図番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-166	S489	B-4	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(6.20)	(6.13)	(2.95)	113.80	ホルンフェルス	－	34065	－	－
	S490	C-13	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(3.10)	(5.17)	(2.17)	89.90	ホルンフェルス	－	18560	－	－
	S491	C-16	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	(5.40)	(5.66)	(1.64)	55.50	ホルンフェルス	－	13123	－	－
2-167	S492	D-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	7.80	5.45	3.15	199.90	ホルンフェルス	－	47230	－	－
	S493	C-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅲ	7.32	5.90	3.80	232.93	ホルンフェルス	－	28236	－	108
2-168	S494	D-29	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	14.62	4.11	2.13	176.00	ホルンフェルス	－	45697	－	109
	S495	C-23	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	12.41	5.16	2.15	204.00	ホルンフェルス	－	55342	－	109
	S496	F-23	Ⅳc	磨製石斧	Ⅳ	9.45	4.55	1.52	94.96	ホルンフェルス	－	104811	－	109
	S497	C-16	Ⅳa	磨製石斧	Ⅳ	(6.73)	(4.97)	(1.36)	80.44	ホルンフェルス	－	3517	－	109
	S498	C-33	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	(8.79)	4.21	2.04	111.61	ホルンフェルス	－	104564	－	109
	S499	B-10	Ⅳa	磨製石斧	Ⅳ	8.58	4.93	2.41	134.10	ホルンフェルス	－	54487	－	－
2-169	S500	D-3	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	7.36	5.33	2.51	146.80	ホルンフェルス	－	26874	－	－
	S501	C-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	12.41	5.21	1.75	134.11	貢岩	貢岩Ｂ	28775	－	109
	S502	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	(10.47)	4.70	1.46	106.00	ホルンフェルス	－	4624	－	－
	S503	B-2	Va	磨製石斧	Ⅳ	(4.84)	(4.92)	(2.00)	65.30	ホルンフェルス	－	47885	－	－
	S504	F-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	4.22	5.78	1.93	60.00	ホルンフェルス	－	28414	－	109
	S505	F-38	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	(7.73)	(5.53)	(1.73)	104.62	ホルンフェルス	－	101573	－	109
	S506	E-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅳ	6.21	5.13	1.50	62.56	貢岩	貢岩Ｂ	29342	－	109
	S507	B-10	Ⅳa	磨製石斧	Ⅳ	4.61	4.56	1.93	37.99	ホルンフェルス	－	22870	－	－
2-170	S508	D-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	5.82	2.79	1.00	23.20	ホルンフェルス	－	46235	－	109
	S509	E-39	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	7.40	3.59	1.28	48.00	ホルンフェルス	－	101831	－	109
	S510	E-3	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	6.24	3.16	1.45	39.00	ホルンフェルス	－	39020	－	109
	S511	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(5.92)	3.20	0.71	22.10	ホルンフェルス	－	12107	－	109
	S512	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	5.50	3.45	1.15	33.61	ホルンフェルス	－	14140	－	109
	S513	C-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	6.50	3.55	0.80	29.54	ホルンフェルス	－	14428	－	109
	S514	B-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	8.73	2.76	1.17	45.47	ホルンフェルス	－	31923	－	109
	S515	14T	Ⅳ	磨製石斧	Ⅴ	(7.37)	3.94	1.14	50.00	ホルンフェルス	－	177	－	109
	S516	C-8	Ⅳa	磨製石斧	Ⅴ	3.20	3.87	0.80	13.88	ホルンフェルス	－	22356	－	－
	S517	C-6	－	磨製石斧	Ⅴ	5.74	1.46	0.93	14.99	ホルンフェルス	－	カクラシー括	－	109
	S518	12T	Ⅳ	磨製石斧	Ⅴ	7.04	1.11	1.11	15.36	ホルンフェルス	－	236	－	109
	S519	D-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	7.42	1.17	1.24	19.33	ホルンフェルス	－	47723	－	109
	S520	E-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	10.10	2.32	1.82	77.81	ホルンフェルス	－	30428	－	109
2-171	S521	C-6	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(5.38)	2.04	1.25	27.60	ホルンフェルス	－	44488	－	109
	S522	C-16	Ⅳa	磨製石斧	Ⅴ	(5.92)	(1.20)	0.90	9.80	ホルンフェルス	－	2569	－	109
	S523	C-13	－	磨製石斧	Ⅴ	5.83	1.71	0.96	14.76	ホルンフェルス	－	横転一括	－	109
	S524	F-6	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(6.80)	1.72	1.13	23.40	ホルンフェルス	－	35338	－	109
	S525	C-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(7.25)	2.27	1.36	36.54	ホルンフェルス	－	33607	－	109
	S526	D-11	Ⅳa	磨製石斧	Ⅴ	4.20	1.80	0.85	7.19	ホルンフェルス	－	44072	－	109
	S527	B-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(7.20)	(1.89)	0.67	14.90	ホルンフェルス	－	35724	－	109
	S528	C-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(5.22)	(1.71)	0.48	3.70	ホルンフェルス	－	15485	－	109
	S529	D-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	8.71	3.68	1.28	45.20	貢岩	貢岩Ｂ	33147	－	109
	S530	F-13	Ⅳa	磨製石斧	Ⅴ	9.50	3.26	1.86	75.40	ホルンフェルス	－	23980	－	109
	S531	D-15	Ⅲ	磨製石斧	Ⅴ	7.87	3.36	2.01	73.10	ホルンフェルス	－	188	－	109
	S532	C-12	Ⅳb	磨製石斧	Ⅴ	(7.45)	2.76	2.49	77.00	ホルンフェルス	－	18480	－	－
2-172	S533	D-34	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(9.07)	(6.11)	(1.64)	113.20	ホルンフェルス	－	104410	－	－
	S534	E-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	5.80	3.24	1.30	31.61	ホルンフェルス	－	28470	－	－
	S535	E-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	6.10	5.30	1.59	60.71	ホルンフェルス	－	26673	－	－
	S536	D-9	Ⅳa	磨製石斧	Ⅵ	7.63	5.95	2.25	140.50	ホルンフェルス	－	21179	－	－
	S537	C-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	8.89	5.50	1.75	100.55	ホルンフェルス	－	30295	－	－
	S538	B-3	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	11.05	5.52	2.52	181.30	貢岩	貢岩Ｂ	26530	－	－
	S539	D-8	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	9.80	5.10	2.58	154.26	ホルンフェルス	－	28896	－	－
	S540	D-9	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	7.92	4.52	1.99	91.00	ホルンフェルス	－	47793	－	－
2-173	S541	E-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	6.12	6.40	2.18	92.77	ホルンフェルス	－	26665	－	－
	S542	B-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(8.29)	(5.90)	(1.63)	100.00	ホルンフェルス	－	33705	－	－
	S543	C-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(11.02)	(4.91)	(1.44)	99.30	ホルンフェルス	－	32985	－	－
	S544	D-7	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(9.24)	(6.30)	(1.73)	136.00	ホルンフェルス	－	26338	－	－
	S545	D-7	Ⅳa	磨製石斧	Ⅵ	6.28	4.30	1.45	48.97	ホルンフェルス	－	21932	－	－
	S546	D-15	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(5.96)	(4.70)	(1.65)	37.00	ホルンフェルス	－	2326	－	－
	S547	D-3	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(5.27)	(4.87)	(1.40)	34.80	ホルンフェルス	－	39079	－	－
	S548	D-10	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	4.88	3.45	0.71	16.41	貢岩	貢岩Ｂ	29114	－	－
	S549	B-5	Ⅳb	磨製石斧	Ⅵ	(7.05)	(5.34)	(1.28)	62.60	ホルンフェルス	－	32776	－	－
2-174	S550	E-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	15.25	6.00	2.15	248.00	ホルンフェルス	－	28077	－	110
	S551	B-24	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	14.26	5.93	2.05	238.30	ホルンフェルス	－	36886	－	110
	S552	D-14	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	14.85	5.23	1.78	161.10	ホルンフェルス	－	3580	－	110
	S553	C-10	Ⅳa	打製石斧	Ⅰ	14.80	6.41	2.16	177.23	ホルンフェルス	－	28570	－	110

第２－24表　包含層石器観察表６

掲図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-174	S054	C-17	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	9.17	4.31	1.58	79.00	ホルンフェルス	－	13597	－	－
	S055	C-15	Ⅲ	打製石斧	Ⅰ	(7.07)	4.97	1.58	62.80	ホルンフェルス	－	115	－	－
2-175	S056	C-9	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	9.72	4.99	2.05	97.30	ホルンフェルス	－	25757	－	－
	S057	F-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	12.47	6.79	1.45	135.07	ホルンフェルス	－	26216	－	110
	S058	C-7	Ⅳa	打製石斧	Ⅰ	13.15	6.55	2.73	194.05	ホルンフェルス	－	22300	－	－
	S059	C-9	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	10.67	4.88	1.58	117.94	ホルンフェルス	－	28748	－	－
	S060	D-10	Ⅳa	打製石斧	Ⅰ	7.91	5.90	1.32	66.28	頁岩	頁岩B	21210	－	－
	S061	D-11	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	9.12	5.77	1.60	104.34	ホルンフェルス	－	24030	－	－
	S062	F-22	Ⅳb	打製石斧	Ⅰ	9.37	6.95	2.29	190.00	ホルンフェルス	－	20404	－	110
2-176	S063	B-35	Ⅳb	打製石斧	Ⅱa	17.63	6.20	1.87	243.28	ホルンフェルス	－	103700	－	110
	S064	C-9	Ⅳb	打製石斧	Ⅱa	15.65	5.59	1.77	202.12	ホルンフェルス	－	28747	－	110
	S065	D-18	Ⅳa	打製石斧	Ⅱa	10.91	4.88	1.40	92.00	ホルンフェルス	－	7301	－	110
	S066	D-11	Ⅳa	打製石斧	Ⅱa	13.03	6.58	1.95	202.80	ホルンフェルス	－	44078	－	110
2-177	S067	D-10	Ⅳa	打製石斧	Ⅱa	14.91	5.60	1.68	131.59	ホルンフェルス	－	23692	－	110
	S068	D-11	Ⅳb	打製石斧	Ⅱa	13.91	5.53	1.89	172.27	ホルンフェルス	－	22288	－	110
	S069	D-8	Ⅳb	打製石斧	Ⅱa	8.29	4.74	1.43	62.20	ホルンフェルス	－	28220	－	－
	S070	D-8	Ⅳa	打製石斧	Ⅱa	10.19	4.20	1.20	45.19	ホルンフェルス	－	22599	－	－
	S071	C-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅱb	15.62	7.85	2.60	307.30	ホルンフェルス	－	27336	－	111
	S072	C-40	Ⅳa	打製石斧	Ⅱb	11.05	5.81	1.48	94.64	ホルンフェルス	－	101834	－	111
2-178	S073	D-8	Ⅳa	打製石斧	Ⅱb	11.77	7.01	1.62	164.14	ホルンフェルス	－	21994	－	111
	S074	E-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅱb	13.56	6.02	1.52	112.34	ホルンフェルス	－	29235	－	－
	S075	4T-C-37	－	打製石斧	Ⅱb	11.76	7.38	1.59	155.50	ホルンフェルス	－	4T	－	111
	S076	E-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅱb	9.71	6.69	1.83	132.60	ホルンフェルス	－	35046	－	－
	S077	F-24	Ⅳb	打製石斧	Ⅱb	9.85	5.94	1.96	145.00	ホルンフェルス	－	39234	－	－
2-179	S078	D-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅲ	11.32	8.25	1.60	149.67	ホルンフェルス	－	25942	－	111
	S079	C-9	Ⅳb	打製石斧	Ⅲ	12.29	7.19	1.50	144.00	ホルンフェルス	－	43017	－	111
2-180	S080	B-34	Ⅳa	打製石斧	Ⅲ	10.13	8.88	1.86	166.80	ホルンフェルス	－	103476	－	－
	S081	B-5	Ⅳb	打製石斧	Ⅲ	15.90	8.49	2.09	255.90	ホルンフェルス	－	30238	－	111
	S082	B-29	Ⅳb	打製石斧	Ⅲ	15.00	9.13	2.02	228.30	ホルンフェルス	－	45685	－	111
2-181	S083	D-5	Ⅳa	打製石斧	Ⅲ	19.55	10.94	2.69	644.00	ホルンフェルス	－	25538	－	111
	S084	E-14	Ⅳa	打製石斧	Ⅲ	11.86	9.57	1.52	175.60	頁岩	頁岩B	923	－	－
2-182	S085	C-8	Ⅳa	打製石斧	Ⅳ	5.67	6.70	1.40	50.49	頁岩	頁岩B	21795	－	－
	S086	C-15	Ⅲ	打製石斧	Ⅳ	6.29	5.64	1.96	79.60	ホルンフェルス	－	160	－	－
	S087	C-11	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	7.00	10.04	2.88	199.56	ホルンフェルス	－	24091	－	－
	S088	E-10	Ⅳa	打製石斧	Ⅳ	7.20	4.20	1.97	60.73	ホルンフェルス	－	27795	－	－
	S089	B-7	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	9.49	7.38	2.49	176.55	ホルンフェルス	－	29975	－	－
	S090	D-8	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	9.06	9.39	1.95	187.00	ホルンフェルス	－	28031	－	111
2-183	S091	C-6	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	11.96	10.32	1.62	170.00	ホルンフェルス	－	46741	－	－
	S092	F-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	(9.44)	6.58	2.39	189.80	ホルンフェルス	－	35012	－	－
	S093	C-10	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	13.62	5.88	1.99	140.77	ホルンフェルス	－	27519	－	－
	S094	B-35	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	7.81	11.51	2.20	169.50	ホルンフェルス	－	103691	－	－
2-184	S095	E-9	Ⅳa	打製石斧	Ⅳ	12.00	5.60	2.12	147.21	ホルンフェルス	－	27946	－	－
	S096	D-5	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	12.21	6.94	4.95	422.00	ホルンフェルス	－	33140	－	－
	S097	E-24	Ⅳb	打製石斧	Ⅳ	18.63	9.57	4.61	875.50	ホルンフェルス	－	40907	－	－
2-185	S098	E-15	Ⅲ	礫器	－	(6.00)	(7.78)	(2.36)	109.80	ホルンフェルス	－	317	－	－
	S099	D-16	Ⅳb	礫器	－	6.94	8.39	5.65	369.50	砂岩	－	7837	－	112
	S600	E-4	Ⅳb	礫器	－	11.51	6.91	3.40	289.00	砂岩	－	45767	－	112
	S601	F-9	－	礫器	－	9.45	12.35	3.70	507.50	ホルンフェルス	－	45504	－	112
	S602	8T	Ⅳ	礫器	－	14.99	8.54	4.62	706.00	ホルンフェルス	－	10	－	112
	S603	D-19	Ⅴ	礫器	－	12.31	12.03	4.10	592.10	ホルンフェルス	－	16104	－	112
2-186	S604	B-19	Ⅴ	礫器	－	18.66	10.43	6.75	1515.10	ホルンフェルス	－	19736	－	112
	S605	E-15	Ⅲ	礫器	－	7.48	(6.80)	(1.98)	156.80	砂岩	－	311	－	－
	S606	D-3	Ⅳb	礫器	－	7.67	8.19	3.08	227.50	砂岩	－	39041	－	112
	S607	B-16	Ⅳb	礫器	－	6.92	11.44	3.55	400.00	ホルンフェルス	－	19245	－	112
	S608	B-3	Ⅳb	礫器	－	9.96	13.55	5.83	761.06	ホルンフェルス	－	26561	－	112
	S609	F-5	Ⅳb	礫器	－	9.13	11.19	3.21	414.00	ホルンフェルス	－	37300	－	112
	S610	D-37	Ⅳb	礫器	－	10.67	15.84	4.96	1042.70	ホルンフェルス	－	103437	－	112
2-187	S611	F-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	6.40	3.67	3.15	98.65	花崗岩	－	28412	－	－
	S612	E-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	5.60	5.13	4.23	150.91	安山岩	安山岩B	30537	－	113
	S613	E-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.27	5.09	4.26	200.64	砂岩	－	30524	－	113
	S614	D-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	6.72	5.80	4.42	244.71	安山岩	安山岩B	39397	－	113
	S615	D-7	Ⅴa	磨・敲石	Ⅰ	7.10	6.12	4.30	261.50	安山岩	安山岩B	54513	－	113
	S616	D-23	Ⅴa	磨・敲石	Ⅰ	7.28	5.13	4.50	197.70	安山岩	安山岩B	55953	－	－
	S617	F-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.18	6.02	5.58	302.50	花崗岩	－	28415	－	113
	S618	C-19	Ⅳa	磨・敲石	Ⅰ	8.04	6.21	4.60	285.50	安山岩	安山岩B	19747	赤色顔料付着	113

第２－25表　包含層石器観察表７

掲図番号	図載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-187	S619	D-14	Ⅲ	磨・敲石	Ⅰ	8.81	5.91	3.10	213.00	安山岩	安山岩B	209	－	－
	S620	D-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.45	6.78	5.24	302.95	安山岩	安山岩B	25735	赤色顔料付着	－
	S621	E-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.90	8.12	5.52	433.50	花崗岩	－	27371	－	113
	S622	C-6	Ⅳa	磨・敲石	Ⅰ	7.90	7.50	5.67	352.50	石英	－	26822	－	113
2-188	S623	E-4	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.28	6.94	5.56	402.20	安山岩	安山岩B	45951	－	－
	S624	E-4	Ⅳb	磨・敲石	Ⅰ	7.03	7.72	5.69	451.50	安山岩	安山岩B	45952	－	113
	S625	E-21	Ⅴ	磨・敲石	Ⅰ	9.18	7.68	6.10	564.00	砂岩	－	8682	－	－
	S626	C-14	Ⅲ	磨・敲石	Ⅰ	9.88	7.65	5.10	542.90	安山岩	安山岩B	354	－	－
	S627	F-5	Ⅳa	磨・敲石	Ⅰ	11.40	8.90	6.98	1072.50	安山岩	安山岩B	25659	－	－
	S628	C-8	Ⅴa	磨・敲石	Ⅰ	11.18	8.02	6.10	743.20	砂岩	－	53964	－	－
2-189	S629	B-9	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	5.40	5.08	2.69	81.39	花崗岩	－	25973	－	－
	S630	C-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	6.26	5.99	3.30	165.30	安山岩	安山岩B	35416	－	113
	S631	D-3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	7.50	6.68	3.95	265.74	安山岩	安山岩B	27622	－	－
	S632	C-11	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	7.68	6.95	4.31	340.00	砂岩	－	5568	－	113
	S633	E-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	7.73	7.19	4.44	353.50	花崗岩	－	28435	－	－
	S634	E-9	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	9.70	8.63	5.40	674.50	花崗岩	－	27926	－	－
	S635	D-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	7.87	7.70	5.25	509.80	花崗岩	－	46189	－	113
	S636	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.40	8.21	5.40	693.30	花崗岩	－	28936	－	113
	S637	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.16	9.10	5.20	611.00	砂岩	－	30562	－	－
	S638	F-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	8.82	8.18	4.27	461.00	砂岩	－	28403	－	113
2-190	S639	D-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.80	9.00	6.28	794.00	砂岩	－	43022	－	113
	S640	D-15	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.16	9.46	5.11	763.50	砂岩	－	11899	－	－
	S641	F-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.09	9.40	5.11	682.50	花崗岩	－	45834	－	－
	S642	B-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.77	9.08	5.18	673.00	花崗岩	－	48396	－	－
	S643	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.41	9.35	5.05	797.00	花崗岩	－	35385	－	113
	S644	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.21	9.46	4.56	740.00	花崗岩	－	47022	－	113
	S645	D-13	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.79	9.59	4.87	866.50	花崗岩	－	20935	－	－
	S646	F-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.36	9.58	5.03	830.50	花崗岩	－	45835	－	－
2-191	S647	C-11	Ⅵ	磨・敲石	Ⅱa	11.11	9.93	5.46	977.50	花崗岩	－	25255	－	－
	S648	D-14	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	11.48	9.82	5.39	973.00	花崗岩	－	1011	－	－
	S649	E-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.71	10.00	5.31	877.50	安山岩	安山岩B	47445	－	113
	S650	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.23	9.51	5.70	871.00	砂岩	－	31995	－	－
	S651	B-2	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	11.74	10.16	4.96	913.00	砂岩	－	44809	－	－
2-192	S652	C-16	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	11.29	10.22	6.35	1052.50	砂岩	－	13800	－	－
	S653	F-13	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	9.03	8.52	3.80	450.50	安山岩	安山岩B	23973	－	－
	S654	E-4	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.14	10.50	2.90	401.70	安山岩	安山岩B	45769	－	－
	S655	D-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.38	9.44	3.31	397.30	雑岩	－	27800	－	113
	S656	E-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	12.98	11.87	5.29	1297.30	安山岩	安山岩B	30989	－	－
2-193	S657	C-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	8.85	5.75	4.00	309.96	安山岩	安山岩B	29837	－	－
	S658	F-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	9.20	7.90	4.90	481.00	安山岩	安山岩B	24111	－	－
	S659	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.48	9.32	4.37	899.00	安山岩	安山岩B	27427	－	114
	S660	D-11	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	11.61	8.12	4.32	772.00	安山岩	安山岩B	960	－	－
	S661	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	11.12	8.99	4.74	761.00	砂岩	－	31007	－	114
	S662	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.65	9.80	4.75	940.00	花崗岩	－	30446	－	114
	S663	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.24	8.27	4.17	625.00	ホルンフェルス	－	25969	－	114
	S664	C-15	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	8.79	7.82	4.66	479.00	ホルンフェルス	－	13671	－	114
2-194	S665	D-11	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	9.95	8.50	4.90	696.00	安山岩	安山岩B	24057	－	－
	S666	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	11.80	9.10	5.00	846.50	砂岩	－	27524	－	－
	S667	C-10	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	11.00	9.15	3.30	467.00	安山岩	安山岩B	22957	－	114
	S668	D-11	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	10.80	8.80	3.30	545.50	安山岩	安山岩B	23325	－	－
	S669	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	6.98	6.12	2.88	181.68	花崗岩	－	26324	－	－
	S670	B-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.05	6.22	2.29	184.00	花崗岩	－	28314	－	114
	S671	B-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	10.10	6.69	3.23	350.53	花崗岩	－	29577	－	－
	S672	E-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱc	10.20	7.08	3.28	326.60	花崗岩	－	28447	－	－
	S673	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.40	7.80	5.20	526.00	花崗岩	－	30125	－	114
	S674	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.98	9.03	2.90	372.96	花崗岩	－	30578	－	－
2-195	S675	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	9.36	9.38	6.37	859.00	安山岩	安山岩B	33681	－	－
	S676	E-22	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	10.68	9.94	4.57	666.00	砂岩	－	7648	－	－
	S677	C-16	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	10.41	8.72	4.46	653.50	砂岩	－	6033	－	－
	S678	E-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	9.90	9.70	6.31	852.00	砂岩	－	30534	－	－
	S679	F-5	Ⅴa	磨・敲石	Ⅱd	(9.20)	(6.50)	3.80	322.00	安山岩	安山岩B	48547	－	114
	S680	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	8.50	7.59	5.29	539.73	安山岩	安山岩B	27367	－	－
	S681	B-19	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	12.21	10.80	5.53	1140.00	砂岩	－	3311	－	114
2-196	S682	B-3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅲ	4.51	4.15	3.91	100.40	砂岩	－	41532	－	－
	S683	B-9	Ⅴa	磨・敲石	Ⅲ	(5.15)	5.64	4.29	163.30	砂岩	－	49364	－	114

第２－26表　包含層石器観察表８

掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-196	S684	B-12	b	磨・敲石	Ⅲ	6.30	5.92	2.71	149.70	砂岩	－	462	－	114
	S685	C-14	a	磨・敲石	Ⅲ	6.50	5.78	2.69	164.50	砂岩	－	1948	－	－
	S686	B-7	b	磨・敲石	Ⅲ	6.41	6.34	3.33	206.70	砂岩	－	32689	－	－
	S687	D-12	b	磨・敲石	Ⅲ	8.00	7.59	4.33	390.08	砂岩	－	24074	－	－
	S688	C-9	b	磨・敲石	Ⅲ	8.40	8.47	3.42	384.00	砂岩	－	47198	－	114
	S689	C-8	b	磨・敲石	Ⅳ	10.15	8.30	5.30	528.86	花崗岩	－	27982	－	－
	S690	D-7	b	磨・敲石	Ⅳ	10.00	6.91	5.87	547.50	花崗岩	－	28883	－	－
	S691	B-8	b	磨・敲石	Ⅳ	5.60	10.79	7.10	552.50	花崗岩	－	28689	－	－
	S692	B-8	b	磨・敲石	Ⅳ	6.93	10.69	5.90	596.50	花崗岩	－	28622	－	115
	S693	D-8	b	磨・敲石	Ⅳ	6.40	9.67	6.00	539.00	花崗岩	－	28638	－	115
	S694	D-8	b	磨・敲石	Ⅳ	7.03	10.39	6.73	691.50	花崗岩	－	26326	－	－
2-197	S695	C-9	b	磨・敲石	Ⅳ	8.49	10.96	6.49	805.50	花崗岩	－	27366	－	－
	S696	D-38	a	磨・敲石	Ⅳ	7.28	11.19	5.46	650.70	花崗岩	－	103151	－	115
	S697	C-6	b	磨・敲石	Ⅳ	7.50	10.83	7.79	910.00	花崗岩	－	29880	－	－
	S698	D-39	a	磨・敲石	Ⅳ	11.20	6.86	6.54	696.60	花崗岩	－	101051	－	－
	S699	C-8	b	磨・敲石	Ⅳ	9.19	10.40	7.42	881.00	花崗岩	－	27993	－	－
	S700	F-11	a	磨・敲石	Ⅳ	(8.08)	(11.14)	(7.30)	942.50	花崗岩	－	23891	－	－
2-198	S701	B-34	a	磨・敲石	Va	10.13	2.87	2.76	122.00	ホルンフェルス	－	104510	－	115
	S702	B-7	b	磨・敲石	Va	10.70	4.22	3.21	201.50	ホルンフェルス	－	34709	－	115
	S703	C-10	a	磨・敲石	Va	11.78	4.00	2.88	188.47	砂岩	－	22500	－	－
	S704	D-15	b	磨・敲石	Va	11.68	5.55	3.90	359.60	ホルンフェルス	－	334	－	－
	S705	E-11	a	磨・敲石	Va	11.42	4.14	3.38	238.00	花崗岩	－	5460	－	115
	S706	B-10	a	磨・敲石	Va	15.37	7.36	4.65	614.20	ホルンフェルス	－	54488	－	115
	S707	E-7	b	磨・敲石	Va	12.04	8.49	6.52	771.00	ホルンフェルス	－	30828	－	115
	S708	D-6	a	磨・敲石	Va	21.81	7.59	6.65	1170.40	ホルンフェルス	－	48527	－	－
2-199	S709	D-7	b	磨・敲石	Vb	6.90	3.30	2.13	72.01	砂岩	－	26344	－	115
	S710	C-3	b	磨・敲石	Vb	7.29	2.96	2.59	74.80	砂岩	－	39800	－	－
	S711	E-7	b	磨・敲石	Vb	8.00	3.42	2.80	99.44	ホルンフェルス	－	47432	－	115
	S712	E-7	a	磨・敲石	Vb	8.53	4.97	3.74	258.96	砂岩	－	23021	－	115
	S713	E-8	b	磨・敲石	Vb	9.34	5.09	3.45	235.64	砂岩	－	30539	－	－
	S714	D-25	b	磨・敲石	Vb	9.62	6.57	4.16	366.00	砂岩	－	40376	－	115
	S715	C-7	b	磨・敲石	Vb	11.79	5.88	3.77	363.00	砂岩	－	45788	－	115
	S716	C-12	b	磨・敲石	Vb	9.66	4.07	3.99	241.00	砂岩	－	10750	－	115
	S717	E-7	a	磨・敲石	Vb	10.90	7.90	6.40	933.00	安山岩	安山岩B	23145	－	115
	S718	D-10	b	磨・敲石	Vc	17.89	5.48	3.89	489.50	ホルンフェルス	－	26071	－	115
2-200	S719	C-9	b	磨・敲石	Ⅵ	6.50	5.44	1.80	65.13	砂岩	－	28172	－	－
	S720	F-4	表土	磨・敲石	Ⅵ	(5.45)	(4.30)	(4.36)	133.00	安山岩	安山岩B	一括	赤色顔料付着	114
	S721	E-7	Va	磨・敲石	Ⅵ	(5.67)	6.19	3.20	114.80	安山岩	安山岩B	49824	－	－
	S722	F-5	Va	磨・敲石	Ⅵ	(8.16)	(4.30)	(4.60)	193.60	砂岩	－	48545	－	－
	S723	F-11	Va	磨・敲石	Ⅵ	7.99	9.20	5.10	517.91	安山岩	安山岩B	23875	－	－
	S724	G-15	b	磨・敲石	Ⅵ	11.44	(5.30)	6.82	609.00	砂岩	－	20399	－	114
	S725	E-6	b	磨・敲石	Ⅵ	7.53	2.51	1.99	60.51	ホルンフェルス	－	30866	－	－
	S726	F-9	b	磨・敲石	Ⅵ	6.40	4.00	1.49	60.07	砂岩	－	26151	－	－
	S727	E-8	b	磨・敲石	Ⅵ	9.70	4.00	3.21	144.42	ホルンフェルス	－	28451	－	－
	S728	C-7	b	磨・敲石	Ⅵ	9.06	5.48	3.96	273.58	ホルンフェルス	－	30606	－	－
2-201	S729	D-12	b	石皿	Ⅰa	36.60	24.30	11.20	13750.00	花崗岩	－	20029	①1.7②0.4	－
	S730	C-2	b	石皿	Ⅰa	47.20	38.30	11.40	27500.00	花崗岩	－	43236	①3.75②1.7	117
	S731	D-12	Wb	石皿	Ⅰa	25.30	31.40	9.10	10300.00	花崗岩	－	25301	－	－
	S732	B-17	b	石皿	Ⅰb	28.00	23.80	11.70	7800.00	安山岩	安山岩B	11612	－	－
	S733	E-5	b	石皿	Ⅰb	40.20	29.20	18.20	22300.00	安山岩	安山岩B	45455	①0.75	117
2-202	S734	表土一括	Ⅰ	石皿	Ⅰb	(41.40)	37.50	14.50	24000.00	花崗岩	－	一括	①5.95②1.7③0.7	－
	S735	C-8	b	石皿	Ⅰb	39.40	24.60	11.70	13700.00	花崗岩	－	46297	①(3.0)②0.8	－
	S736	D-6	a	石皿	Ⅰb	(45.90)	(19.90)	10.30	13600.00	花崗岩	－	25539	－	－
	S737	E-5	Va	石皿	Ⅱ	43.10	35.60	12.90	29200.00	花崗岩	－	49883	①4.8	117
2-203	S738	C-7	－	石皿	Ⅳ	27.40	18.70	13.90	6500.00	花崗岩	－	45099	－	－
	S739	C-7	b	石皿	Ⅳ	35.00	25.30	6.10	8200.00	花崗岩	－	47500	－	－
	S740	C-2	b	石皿	Ⅳ	42.50	18.70	7.70	8300.00	花崗岩	－	42959	－	－
	S741	B-4	b	石皿	Ⅳ	36.80	23.40	8.20	10700.00	花崗岩	－	43770	－	－
	S742	D-5	Ⅵ	石皿	Ⅳ	(31.40)	58.60	7.70	19600.00	花崗岩	－	52382	①(4.1)	117
2-204	S743	C-9	b	石皿	Ⅳ	25.81	21.07	7.40	5200.00	砂岩	－	45500	①0.5	－
	S744	D-27	b	石皿	Ⅳ	24.00	23.20	9.20	5700.00	砂岩	－	44335	－	－
	S745	F-5	a	石皿	Ⅳ	31.58	26.63	8.70	12500.00	砂岩	－	25658	－	－
	S746	E-19	Ⅴ	石皿	Ⅳ	40.79	28.39	11.60	16300.00	砂岩	－	16524	①0.25	－
	S747	E-8	Ⅵ	石皿	Ⅳ	44.41	18.77	9.80	11700.00	砂岩	－	43877	①0.4	117
2-205	S748	F-10	Ⅵ	石皿	Ⅴ	44.93	20.45	19.70	27000.00	安山岩	安山岩B	45484	－	117

第２－27表　包含層石器観察表９

掲図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）					
2-206	S749	F-4	Ⅳb	石皿	Ⅵ	24.90	13.50	9.20	4400.00	花崗岩	－	45898	－	－
	S750	C-7	－	石皿	Ⅵ	19.80	21.70	9.00	5300.00	花崗岩	－	45998	－	－
	S751	F-4	Ⅳb	石皿	Ⅵ	26.20	22.70	10.20	5800.00	花崗岩	－	25	－	－
	S752	3T	Ⅳ	石皿	Ⅵ	36.90	20.00	9.20	9200.00	花崗岩	－	170	－	－
	S753	C-11	Ⅳb	石皿	Ⅵ	(22.70)	31.70	20.00	19100.00	花崗岩	－	20960	－	－
2-207	S754	D-9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	9.85	6.80	2.80	277.82	花崗岩	－	27415	－	－
	S755	D-10	Ⅳb	石皿	Ⅵ	8.85	8.49	2.70	292.40	花崗岩	－	27425	－	－
	S756	F-8	Ⅳa	石皿	Ⅵ	13.12	7.16	3.20	457.25	花崗岩	－	28404	－	－
	S757	F-10	Ⅳb	石皿	Ⅵ	13.22	7.02	2.40	306.56	花崗岩	－	26212	－	－
	S758	D-9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	12.65	9.37	2.35	445.76	花崗岩	－	27477	－	－
	S759	C-10	Ⅳb	石皿	Ⅵ	10.25	12.40	2.70	447.25	花崗岩	－	27495	－	－
	S760	E-10	Ⅳb	石皿	Ⅵ	12.30	13.40	2.89	696.16	花崗岩	－	29312	－	－
	S761	E-9	Ⅳb	石皿	Ⅵ	15.45	20.22	7.10	2940.00	花崗岩	－	29359	－	－
	S762	E-15	Ⅲ	石皿	Ⅵ	(16.11)	(19.03)	(8.97)	2968.90	礫岩	－	312	－	－
2-208	S763	B-2	Va	磨石	－	6.14	5.95	1.00	48.80	砂岩	－	47884	－	119
	S764	C-4	Ⅳb	磨石	－	(7.44)	8.46	1.66	130.00	砂岩	－	36387	－	119
	S765	B-4	Ⅳb	磨石	－	(6.73)	(8.19)	(2.15)	112.80	砂岩	－	38507	－	119
	S766	D-10	Ⅳb	磨石	－	7.25	5.95	3.60	226.12	砂岩	－	29159	－	119
	S767	C-12	Ⅳb	磨石	－	(14.24)	(7.48)	(2.88)	392.00	砂岩	－	25928	－	119
	S768	F-5	Va	磨石	－	(8.83)	(3.31)	4.50	151.50	砂岩	－	48548	－	119
	S769	F-6	Ⅳb	磨石	－	(10.09)	(9.10)	(2.63)	345.50	砂岩	－	45152	－	119
	S770	B-11	Ⅳa	磨石	－	9.40	11.50	2.60	352.50	砂岩	－	5121	－	－
	S771	B-17	Ⅳb	磨石	－	7.68	5.30	1.25	75.10	砂岩	－	9412	－	119
	S772	D-8	Ⅳb	磨石	－	13.86	7.19	2.31	359.00	砂岩	－	30455	－	119
	S773	E-32	Ⅳb	磨石	－	12.28	9.86	2.55	433.50	砂岩	－	104681	－	119
	S774	B-3	Ⅳb	磨石	－	6.75	6.09	1.93	97.30	砂岩	－	39765	－	119
	S775	D-4	Ⅳb	磨石	－	7.10	6.70	2.08	143.52	砂岩	－	25985	－	－
2-209	S776	E-35	Ⅳb	磨石	－	6.84	6.15	2.40	123.10	砂岩	－	100523	－	119
	S777	F-38	Ⅳb	磨石	－	8.84	3.56	1.44	35.92	凝灰岩	－	100203	－	119
	S778	C-12	Ⅵ	磨石	－	16.87	15.12	8.52	2530.00	砂岩	－	24451	－	－
	S779	E-24	Ⅳb	磨石	－	18.54	21.60	6.28	1511.00	凝灰岩	－	41001	－	－
2-210	S780	C-15	Ⅳb	擦切石器	－	2.96	(3.95)	0.44	7.50	砂岩	－	17605	－	119
	S781	12T	－	擦切石器	－	(4.94)	(4.44)	(0.57)	19.20	砂岩	－	一括	－	119
	S782	C-4	Ⅳb	擦切石器	－	3.50	6.30	0.64	24.20	砂岩	－	39970	－	119
	S783	D-11	Ⅳb	擦切石器	－	4.52	5.35	0.50	11.80	砂岩	－	一括	－	119
	S784	C-4	Ⅳb	擦切石器	－	(7.41)	(6.02)	0.98	39.00	砂岩	－	37809	－	119
	S785	D-2	Ⅳb	擦切石器	－	(6.85)	(8.19)	0.95	78.33	砂岩	－	46539	－	119
	S786	C-4	Ⅳb	擦切石器	－	5.45	7.83	0.98	50.59	砂岩	－	36260	－	119
	S787	C-15	Ⅳb	擦切石器	－	6.79	7.11	0.95	49.09	砂岩	－	772	－	119
2-211	S788	C-15	Ⅳb	石錘	Ⅰa	3.88	4.09	1.72	36.36	安山岩	安山岩Ｂ	17600	－	118
	S789	C-9	Ⅳb	石錘	Ⅰa	5.25	4.90	1.40	52.99	ホルンフェルス	－	25777	－	118
	S790	D-15	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.11	4.83	1.65	56.64	ホルンフェルス	－	9079	－	118
	S791	C-4	表土	石錘	Ⅰa	6.04	4.78	1.80	69.10	安山岩	安山岩Ｂ	393	－	118
	S792	D-9	Ⅳa	石錘	Ⅰa	5.46	4.95	1.55	55.49	ホルンフェルス	－	24319	－	118
	S793	C-17	Ⅳb	石錘	Ⅰa	5.96	5.20	1.63	78.56	砂岩	－	8255	－	118
	S794	E-14	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.79	6.12	2.13	119.73	砂岩	－	15228	－	118
	S795	E-5	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.45	7.08	1.90	132.65	砂岩	－	26636	－	118
	S796	C-5	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.80	7.30	2.25	154.58	砂岩	－	30398	－	118
	S797	C-10	Ⅳa	石錘	Ⅰa	5.88	6.75	1.93	107.24	砂岩	－	28574	－	118
	S798	D-11	Ⅳb	石錘	Ⅰa	7.37	8.00	2.72	233.50	安山岩	安山岩Ｂ	24050	－	－
	S799	C-16	Ⅳb	石錘	Ⅰa	7.51	6.83	2.53	192.90	ホルンフェルス	－	9531	－	－
	S800	C-7	Ⅳa	石錘	Ⅰa	6.40	6.82	1.99	91.93	安山岩	安山岩Ｂ	22296	－	－
	S801	C-6	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.26	6.80	2.47	121.88	ホルンフェルス	－	29537	－	－
	S802	C-3	Ⅳb	石錘	Ⅰa	6.44	4.15	1.33	44.56	ホルンフェルス	－	40712	－	118
	S803	B-9	Ⅳb	石錘	Ⅰa	5.20	7.36	2.30	134.70	砂岩	－	30735	－	118
	S804	F-10	Ⅳa	石錘	Ⅰa	5.29	7.99	2.80	161.40	砂岩	－	21456	－	118
	S805	B-8	Ⅳb	石錘	Ⅰa	9.94	7.47	1.68	179.30	砂岩	－	31934	－	－
2-212	S806	C-12	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.86	6.54	1.70	79.47	砂岩	－	20917	－	118
	S807	F-14	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.40	6.20	2.17	21.60	花崗岩	－	24225	－	118
	S808	C-9	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.88	6.40	1.98	121.20	ホルンフェルス	－	25782	－	118
	S809	B-17	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.30	4.87	2.08	95.12	ホルンフェルス	－	31898	－	118
	S810	D-16	Ⅳb	石錘	Ⅰb	7.46	5.62	2.16	97.00	ホルンフェルス	－	11728	－	－
	S811	C-9	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.75	6.04	2.47	115.98	ホルンフェルス	－	47146	－	118
	S812	C-8	Ⅳb	石錘	Ⅰb	6.98	7.08	2.51	143.20	ホルンフェルス	－	35365	－	118
	S813	F-15	Ⅳb	石錘	Ⅰb	8.68	6.63	2.65	236.00	ホルンフェルス	－	20386	－	－

第２－28表　包含層石器観察表10

掃図番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
2-212	S814	F-9	Ⅳb	石錐	Ⅰb	7.50	7.11	3.17	218.00	砂岩	－	47227	－	118
	S815	14T	Ⅳ	石錐	Ⅰb	8.41	7.40	2.35	224.00	砂岩	－	201	－	－
	S816	C-8	Ⅳa	石錐	Ⅰb	8.09	6.56	2.20	166.70	砂岩	－	21788	－	118
	S817	B-6	Ⅳa	石錐	Ⅰb	7.50	6.96	2.77	192.20	砂岩	－	25490	－	－
2-213	S818	E-8	Ⅳa	石錐	Ⅰc	6.25	8.00	2.40	186.30	砂岩	－	28062	－	118
	S819	E-7	Ⅳa	石錐	Ⅰc	7.31	7.50	1.45	122.60	砂岩	－	23089	－	118
	S820	D-8	Ⅳb	石錐	Ⅰc	8.89	8.95	2.07	221.60	砂岩	－	30432	－	118
	S821	C-10	Ⅳb	石錐	Ⅰc	8.39	8.10	3.83	333.50	砂岩	－	29736	－	－
	S822	F-15	Ⅴ	石錐	Ⅰd	5.36	4.07	1.20	34.50	ホルンフェルス	－	16034	－	－
	S823	C-15	Ⅲ	石錐	Ⅰd	(6.13)	(5.57)	1.50	75.00	ホルンフェルス	－	125	－	－
	S824	E-8	Ⅳa	石錐	Ⅰd	6.30	5.83	2.38	114.76	花崗岩	－	24186	－	－
	S825	C-4	Ⅳb	石錐	Ⅰd	6.47	6.52	2.14	100.30	ホルンフェルス	－	31394	－	－
	S826	D-8	Ⅳb	石錐	Ⅰd	5.00	7.45	2.55	114.73	砂岩	－	28664	－	118
	S827	D-16	Ⅳb	石錐	Ⅱ	6.66	5.61	2.46	126.10	花崗岩	－	6999	－	118
	S828	D-5	Ⅳb	石錐	Ⅱ	7.71	5.48	2.19	126.80	ホルンフェルス	－	32347	－	118
	S829	D-9	Ⅳb	石錐	Ⅱ	6.30	7.39	2.15	123.60	砂岩	－	27479	－	－
	S830	C-8	Ⅳb	石錐	Ⅱ	7.61	7.95	2.57	218.80	砂岩	－	27988	－	118
	S831	C-17	Ⅳb	石錐	Ⅱ	7.90	6.99	2.19	152.60	ホルンフェルス	－	3285	－	118
	S832	C-16	Ⅳb	石錐	Ⅱ	8.40	6.93	2.44	187.70	ホルンフェルス	－	6040	－	－
2-214	S833	D-2	Ⅳb	石製品	－	2.77	1.72	0.69	2.60	砂岩	－	46903	－	120
	S834	E-24	Ⅳa	石製品	－	(4.22)	(1.71)	0.25	3.21	頁岩	－	57000	－	120
	S835	E-8	Ⅳb	石製品	－	11.17	3.45	1.48	72.97	頁岩	頁岩B	30087	－	120
	S836	B-4	Ⅳb	石製品	－	5.88	3.25	2.65	60.69	ホルンフェルス	－	31627	－	120
2-215	S837	B-16	Ⅳb	石製品	－	(4.16)	3.07	1.07	18.09	砂岩	－	12000	－	120
	S838	D-12	Ⅳb	石製品	－	4.35	2.60	1.72	28.97	ホルンフェルス	－	24063	－	120
2-216	S839	B-3	Ⅳb	軽石加工品	－	8.76	5.01	3.25	21.04	軽石	－	41068	－	120
	S840	B-5	Ⅳb	軽石加工品	－	8.30	7.95	5.20	79.77	軽石	－	31060	－	120
	S841	C-4	Ⅳb	軽石加工品	－	8.05	4.22	2.07	13.53	軽石	－	39947	－	120
	S842	C-6	Ⅳa	軽石加工品	－	8.53	7.51	5.47	123.50	軽石	－	23435	－	120
	S843	C-5	Ⅳb	軽石加工品	－	7.54	9.98	4.34	56.00	軽石	－	43932	－	120
	S844	B-11	Ⅳb	軽石加工品	－	9.57	10.44	6.31	112.00	軽石	－	9112	－	120
	S845	C-4	Ⅳb	軽石加工品	－	9.28	13.55	7.37	131.00	軽石	－	39988	－	－
2-217	S846	C-15	Ⅳb	軽石加工品	－	13.36	9.53	5.52	181.50	軽石	－	668	赤色顔料付着	120
	S847	E-8	Ⅳa	軽石加工品	－	6.10	5.59	1.73	21.06	軽石	－	28061	－	－
	S848	C-8	Ⅳa	軽石加工品	－	12.25	7.40	3.10	50.33	軽石	－	28978	－	－
	S849	E-10	Ⅳb	軽石加工品	－	8.25	12.45	4.05	92.38	軽石	－	26265	－	－
	S850	E-10	Ⅵ	軽石加工品	－	(22.00)	29.90	8.50	1793.00	軽石	－	45485	－	－

第２－29表　包含層石器掲載一覧表

	黒曜石A	黒曜石B	黒曜石C	黒曜石D	黒曜石E	頁岩A	頁岩B	頁岩C	安山岩A	安山岩B	安山岩C	砂岩	凝灰岩	ホルンフェルス	花崗岩	蛇紋岩	チャート	玉髄	鉄石英	石英	軽石	その他	計
石鏃	7	3	21	4	1	5	7		32					1			16	3					100
石錐	1						1		3			1						3					9
石匙	1	1					1				2						7	10		1			23
スクレイパー				1	1	1	4	1			2	3		10			1	1					25
二次加工剥片	1	1		1			2				3			2					1				11
使用痕剥片							7				3	1		3			1	2					17
石核・原石	3		1											3			1			3			11
磨製石斧							8							116	1								125
打製石斧							3							45									48
礫器												4		9									13
磨・敲石											31		36	1	13	36				1			118
石皿											3		5			25						1	34
砥石													15	2									17
擦切石器													8										8
石錘											4		20		18	3							45
石製品							1						2		2		1						6
軽石加工品																					12		12
合計	13	5	22	6	2	6	34	1	35	38	10	95	3	222	65	1	26	19	1	5	12	1	622

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（52）
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小牧遺跡４（縄文時代前期～弥生時代初頭編）
第２分冊（全３分冊）

発行年月　2023年３月

編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-70-0574　　FAX 0995-70-0576

印　　刷　株式会社　トライ社
〒892-0834　鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815　　FAX 099-225-7933

鹿児島県